

令和 7 年度 保育園サービス第三者評価事業 報告書

令和 8 年 3 月

杉並区

はじめに

保育園サービス第三者評価は、第三者からみた保育園サービスの評価結果を幅広く利用者や保育園に情報提供することにより、サービス内容を利用者に明らかにし、保育園におけるサービスの質の向上に向けた取り組みを促し、利用者本位のサービスシステムの構築を行う事を目的とするものである。

◎評価対象 杉並区立の次の8園を対象としている。

保育園名	世帯数	備考
1.大宮前保育園	57	1・延
2.四宮保育園	60	1・延
3.西荻北保育園	81	1・延
4.井草保育園	75	1・延
5.和田保育園	55	1・延
6.浜田山保育園	66	9・延
7.下井草保育園	81	9・延
8.堀ノ内東保育園	70	9・延
合計	545	

※世帯数は2025年5月1日時点

※備考欄 9…9か月以上の園、1…1歳以上の園、延…延長保育実施園

◎評価機関 株式会社にはほんの福祉ネット

(東京都福祉サービス第三者評価機関 認証番号：機構06-168)

◎評価者 担当した評価者の評価者養成講習修了番号は以下のとおりである。

H1901102、H2101111、H2201084、H2301066、H2301094

◎評価の流れ

1.関係者説明会	令和7年8月
2.利用者調査配布(利用者調査)	令和7年9月
3.経営層事故評価票作成(事業評価)	令和7年9月
4.職員自己評価票作成	令和7年9月
5.訪問調査利用者調査・事業評価結果報告	令和7年10月から12月
6.評価結果のフィードバック	令和8年1月から令和8年2月

目次

第1部 利用者調査

1.利用者調査の概要

- (1) 調査の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- (2) 調査の対象者・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- (3) 調査方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- (4) 調査期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- (5) 利用者調査票の配布・回収状況・・・・・・・・・・1
- (6) 備考・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

2.全体の調査結果

- (1) 回答者属性・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- (2) 総合的な満足度に関するクロス集計結果・・・・・・・・・・4
- (3) 自由記入の分類・整理・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
- (4) 利用者調査設問への回答集計・・・・・・・・・・・・・・・・8

3.満足度構造分析

- (1) 分析方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
- (2) 分析結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
- (3) 考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

4.各園の利用者調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

第2部 事業評価

1.評価の概要

- (1) 評価の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・65
- (2) 評点のつけ方・・・・・・・・・・・・・・・・・・65
- (3) 訪問調査とフィードバック・・・・・・・・・・・・・・・・66

2.各保育園の評価結果報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・67

巻末 付属資料

第 1 部 利用者調査

1. 利用者調査の概要

(1) 調査の目的

杉並区立保育園を利用されている保護者の方々が、日常の保育サービスに対して感じていること、また、意見や要望について把握することを目的とする。

(2) 調査の対象者

8 保育園の利用者（保護者）を対象とした。複数のお子さんを預けている場合は、一番年齢の低いお子さんのことについて回答していただいた。

(3) 調査方法

無記名のアンケート方式で実施した。園より保護者全員にオンラインを活用した WEB 入力方式のアンケートの案内を行った。

(4) 調査期間

令和 7 年 8 月 5 日から 10 月 3 日（オンライン入力）

(5) 利用者調査票の配布・回答状況

全世帯に案内し、8 園の回答率は 48.5%から 73.7%、平均回答率は 58.3%である。本調査はオンライン入力のため、参考までに園別の回答者平均年齢を試算した。結果として園別での平均年齢にあまり差がみられていない。

保育園名	利用者			予想平均年齢 (ご参考：歳)
	世帯数	回答数	回答率	
1.大宮前保育園	57	42	73.7%	39.0
2.四宮保育園	60	41	68.3%	39.1
3.西荻北保育園	81	41	50.6%	38.3
4.井草保育園	75	41	54.7%	38.5
5.和田保育園	55	31	56.4%	39.4
6.浜田山保育園	66	32	48.5%	38.8
7.下井草保育園	81	55	67.9%	37.0
8.堀ノ内東保育園	70	35	50.0%	37.7
合計	545	318	58.3%	38.4

※世帯数は 2025 年 8 月 5 日時点

※各園の予想平均年齢は、回答年齢幅の中間値を加重平均した。

（例：回答者の年齢が「30 から 35 歳未満」の場合、中間値の 32.5 歳とした）

(6) 備考

選択肢の回答比率は、小数点第2位を四捨五入して示した。したがって、すべての選択肢の比率を合計しても、必ずしも100.0%ちょうどにならない場合がある。

2. 全体の調査結果

(1) 回答者属性

調査票のオンラインでの回答者318名のうち77.4%が母親である。

回答者の年齢構成をみると、35～40歳未満が34.9%、30～35歳未満が21.7%と30歳代が合計56.6%と過半数を占めている。また40～45歳未満が33.0%であり、20歳代（25～30歳未満6.0%、20～25歳未満0.0%）は6.0%と少ない。

勤務形態では、父親の82.4%、母親の70.1%がフルタイム（常勤）である。なお、父親の8.5%は自営業、母親の11.6%はパート・アルバイトである。

調査の回答者属性

保護者属性（全回答者）	回答数	比率
父	28	8.8%
母	246	77.4%
父母一緒に	31	9.7%
その他	4	1.3%
無回答	9	2.8%
合計	318	100.0%

回答者の年齢

全回答者年齢	回答数	比率
20歳未満	1	0.3%
20～25歳未満	0	0.0%
25～30歳未満	19	6.0%
30～35歳未満	69	21.7%
35～40歳未満	111	34.9%
40～50歳未満	105	33.0%
50歳以上	3	0.9%
無回答	10	3.1%
合計	318	100.0%

保護者の勤務形態

保護者（父）	回答数	比率
常勤	262	82.4%
パート、アルバイト	4	1.3%
自営業	27	8.5%
その他	5	1.6%
無職	1	0.3%
無回答	19	6.0%
合計	318	100.0%

保護者（母）	回答数	比率
常勤	223	70.1%
パート、アルバイト	37	11.6%
自営業	18	5.7%
その他	19	6.0%
無職	5	1.6%
無回答	16	5.0%
合計	318	100.0%

保護者（その他）	回答数	比率
常勤	91	28.6%
パート、アルバイト	26	8.2%
自営業	14	4.4%
その他	12	3.8%
無職	19	6.0%
無回答	156	49.1%
合計	318	100.0%

(2) 総合的な満足度に関するクロス集計結果

総合的な満足度は、調査回答者別では「満足」「まあまあ満足」と回答した方々が、父親のみの場合は96.5%、母親のみの場合は96.7%で、保育サービス全般に関してはおおむね高い満足を得ている。一方で、「やや不満」「不満」と回答した方は、父親のみの場合は0.0%、母親のみの場合は1.6%みられる。

調査回答者の年齢別では、おおむね「満足」「まあまあ満足」と高い評価を得ている。20～25歳未満の回答者1名を除き、年齢別での満足度に明確な差異はみられない。勤務形態別でも、父親、母親、その他のお迎えに行く方を通して、おおむね「満足」「まあまあ満足」の高い評価を得ている。勤務形態別での満足度に明確な差異はみられない。

① 調査回答者属性別での保育園の総合満足度

		合計	満足	まあまあ満足	どちらともいえない	やや不満	不満	無回答
父	回答者数(人)	28	22	5	1	0	0	0
	回答率	100.0%	78.6%	17.9%	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%
母	回答者数(人)	246	189	49	4	4	0	0
	回答率	100.0%	76.8%	19.9%	1.6%	1.6%	0.0%	0.0%
父母一緒に	回答者数(人)	31	19	10	2	0	0	0
	回答率	100.0%	61.3%	32.3%	6.5%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	回答者数(人)	4	0	2	0	1	1	0
	回答率	100.0%	0.0%	50.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%
無回答	回答者数(人)	9	1	0	0	0	0	8
	回答率	100.0%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	88.9%
全体	回答者数(人)	318	231	66	7	5	1	8
	回答率	100.0%	72.6%	20.8%	2.2%	1.6%	0.3%	2.5%

② 調査回答者年齢別での保育園の総合満足度

		合計	満足	まあまあ満足	どちらともいえない	やや不満	不満	無回答
20～25歳未満	回答者数（人）	1	0	0	0	0	1	0
	回答率	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
25～30歳未満	回答者数（人）	19	14	4	0	1	0	0
	回答率	100.0%	73.7%	21.1%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%
30～35歳未満	回答者数（人）	69	51	18	0	0	0	0
	回答率	100.0%	73.9%	26.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
35～40歳未満	回答者数（人）	111	83	21	4	3	0	0
	回答率	100.0%	74.8%	18.9%	3.6%	2.7%	0.0%	0.0%
40～50歳未満	回答者数（人）	106	81	21	3	1	0	0
	回答率	100.0%	76.4%	19.8%	2.8%	0.9%	0.0%	0.0%
50歳以上	回答者数（人）	2	1	1	0	0	0	0
	回答率	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	回答者数（人）	10	1	1	0	0	0	8
	回答率	100.0%	10.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	80.0%
全体	回答者数（人）	318	231	66	7	5	1	8
	回答率	100.0%	72.6%	20.8%	2.2%	1.6%	0.3%	2.5%

③-1 勤務形態別（父）での保育園の総合満足度

		合計	満足	まあまあ満足	どちらともいえない	やや不満	不満	無回答
常勤	回答者数（人）	262	197	55	6	4	0	0
	回答率	100.0%	75.2%	21.0%	2.3%	1.5%	0.0%	0.0%
パート・アルバイト	回答者数（人）	4	2	1	1	0	0	0
	回答率	100.0%	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
自営業	回答者数（人）	27	21	5	0	1	0	0
	回答率	100.0%	77.8%	18.5%	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%
無職	回答者数（人）	1	1	0	0	0	0	0
	回答率	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	回答者数（人）	19	7	3	0	0	1	8
	回答率	100.0%	36.8%	15.8%	0.0%	0.0%	5.3%	42.1%
その他	回答者数（人）	5	3	2	0	0	0	0
	回答率	100.0%	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全体	回答者数（人）	318	231	66	7	5	1	8
	回答率	100.0%	72.6%	20.8%	2.2%	1.6%	0.3%	2.5%

③-2 勤務形態別（母）での保育園の総合満足度

		合計	満足	まあまあ満足	どちらともいえない	やや不満	不満	無回答
常勤	回答者数（人）	223	166	47	6	4	0	0
	回答率	100.0%	74.4%	21.1%	2.7%	1.8%	0.0%	0.0%
パート・アルバイト	回答者数（人）	37	27	9	1	0	0	0
	回答率	100.0%	73.0%	24.3%	2.7%	0.0%	0.0%	0.0%
自営業	回答者数（人）	18	14	3	0	1	0	0
	回答率	100.0%	77.8%	16.7%	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%
無職	回答者数（人）	5	4	1	0	0	0	0
	回答率	100.0%	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	回答者数（人）	16	6	1	0	0	1	8
	回答率	100.0%	37.5%	6.3%	0.0%	0.0%	6.3%	50.0%
その他	回答者数（人）	19	14	5	0	0	0	0
	回答率	100.0%	73.7%	26.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全体	回答者数（人）	318	231	66	7	5	1	8
	回答率	100.0%	72.6%	20.8%	2.2%	1.6%	0.3%	2.5%

③ -3 勤務形態別（その他）での保育園の総合満足度

		合計	満足	まあまあ満足	どちらともいえない	やや不満	不満	無回答
常勤	回答者数（人）	91	67	21	2	1	0	0
	回答率	100.0%	73.6%	23.1%	2.2%	1.1%	0.0%	0.0%
パート・アルバイト	回答者数（人）	26	16	8	1	1	0	0
	回答率	100.0%	61.5%	30.8%	3.8%	3.8%	0.0%	0.0%
自営業	回答者数（人）	14	12	1	0	1	0	0
	回答率	100.0%	85.7%	7.1%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%
無職	回答者数（人）	19	14	4	1	0	0	0
	回答率	100.0%	73.7%	21.1%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	回答者数（人）	156	113	29	3	2	1	8
	回答率	100.0%	72.4%	18.6%	1.9%	1.3%	0.6%	5.1%
その他	回答者数（人）	12	9	3	0	0	0	0
	回答率	100.0%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全体	回答者数（人）	318	231	66	7	5	1	8
	回答率	100.0%	72.6%	20.8%	2.2%	1.6%	0.3%	2.5%

(3) 自由記入の分類・整理

調査票の質問別記載欄に寄せられた意見を、内容によって分類すると、最も多く自由意見を頂いたのは、「Q4：自然や社会と関わる機会の確保」(40件)である。「はい」と回答した方から最も多くの自由意見(60件)を頂いたのは、「Q2：興味や関心を持って行える活動」である。また、「どちらともいえない」と回答した方から最も多くの自由意見(22件)を頂いたのは、「Q6：安全対策」である。そして、「いいえ」と回答した方から最も多くの自由意見(7件)を頂いたのは、「Q7：保護者に配慮した行事日程の設定」においてである。

	自由意見 記入件数	自由意見記入者の設問回答内訳			
		はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当
Q1:心身の発達に役立つ活動	32	27	4	1	0
Q2:興味や関心を持って行える活動	21	18	2	1	0
Q3:提供する食事・おやつの配慮	36	23	11	1	1
Q4:自然や社会と関わる機会の確保	40	18	16	5	1
Q5:利用時間の変更への柔軟な対応	20	9	2	1	8
Q6:安全対策	34	7	22	5	0
Q7:保護者に配慮した行事日程の設定	29	7	15	7	0
Q8:保護者と園との信頼関係	27	13	11	3	0
Q9:園内の清潔、整理整頓	20	8	11	1	0
Q10:職員の接遇・態度	15	6	8	1	0
Q11:保健・衛生(病気・けが・対応)	20	10	8	2	0
Q12:子ども同士のトラブル対応	19	8	6	0	5
Q13:子どもの気持ちの尊重	11	6	4	0	1
Q14:プライバシーの保護	12	2	5	1	4
Q15:保育内容の説明の判りやすさ	14	5	8	1	0
Q16:不満や要望への対応	19	4	7	4	4
Q17:外部の苦情相談窓口の周知	9	0	6	2	1

(4) 利用者調査設問への回答集計

今回の調査対象 8 園の回答数を合計し、全回答 318 件について、Q1~Q17 までの設問に対する回答の構成比率と、総合的な満足度への回答件数、構成比率を算出した。Q1~Q17 の回答では、「はい」の比率が最も高いのは、「Q1：園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っている」の 96.9%、「どちらともいえない」の比率が最も高いのは、「Q7：行事の日程は参加しやすいように十分な配慮がされている」の 22.0%であった。

「いいえ」の比率が最も高いのは、「Q17：困ったときに役所や第三者委員などにも相談できることを、職員はわかりやすく伝えてくれた」の 7.5%であった。次が「Q7：行事の日程は参加しやすいように十分な配慮がされている」の 4.1%であった。Q7 は「どちらともいえない」の回答欄においても Q17（17.3%）に次ぐ割合であった。

総合的な満足度では、「満足」が 72.6%、「まあまあ満足」が 20.8%の構成比率であった。

<サービスの提供>

設問NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q1	園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っている	96.9%	2.2%	0.9%	0.0%	0.0%
Q2	園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっている	93.4%	5.7%	0.6%	0.3%	0.0%
Q3	園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっている	90.3%	8.2%	0.9%	0.6%	0.0%
Q4	戸外遊びや行事などにより、お子さんが自然や社会と関わる機会は十分確保されている	81.4%	14.5%	3.5%	0.6%	0.0%
Q5	急な残業などであらかじめ取り決めた利用時間を変更する必要がある場合、柔軟に対応してくれている	73.6%	7.5%	1.3%	17.6%	0.0%
Q6	安全対策が十分取られている	78.6%	16.4%	2.2%	0.3%	2.5%
Q7	行事の日程は参加しやすいように十分な配慮がされている	68.9%	22.0%	4.1%	2.5%	2.5%
Q8	お子さんの気持ちや様子・子育てなどについて、職員と話したり相談することができるような信頼関係がある	82.4%	13.2%	1.6%	0.3%	2.5%

<安心・快適性>

設問NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q9	園内は清潔で整理された空間になっている	84.6%	11.9%	0.9%	0.0%	2.5%
Q10	職員の言葉遣いや態度、服装などは適切である	90.6%	6.0%	0.9%	0.0%	2.5%
Q11	お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの、 職員の対応は信頼できる	88.4%	6.3%	0.9%	1.9%	2.5%
Q12	子ども同士のいさかひやいじめ等があった場合の職員 の対応は信頼できる	73.6%	12.9%	0.6%	10.4%	2.5%

<利用者個人の尊重>

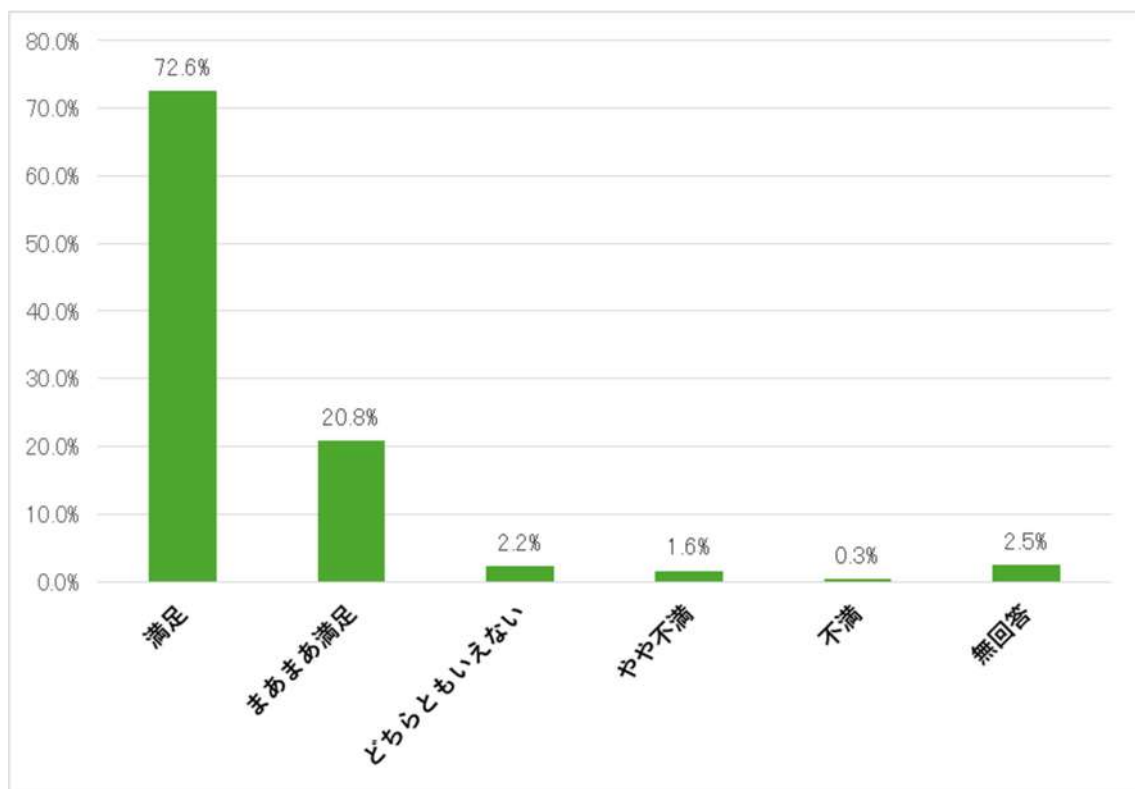
設問NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q13	職員はお子さんの気持ちを大切にしながら対応してく れている	91.5%	4.4%	0.3%	1.3%	2.5%
Q14	あなたやお子さんのプライバシー（他の人に見られた くない、聞かれたくない、知られたくないと思うこ と）を職員は守ってくれている	75.5%	8.8%	0.9%	12.3%	2.5%
Q15	お子さんの保育内容に関する説明は、わかりやすい	84.3%	11.6%	1.3%	0.3%	2.5%

<不満・要望への対応>

設問NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q16	不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員は、きち んと対応してくれている	73.3%	10.4%	1.9%	11.9%	2.5%
Q17	困ったときに役所や第三者委員などにも相談できるこ とを、職員はわかりやすく伝えてくれた（入園時の説 明など）	64.8%	17.3%	7.5%	7.9%	2.5%

<総合的な満足度>

	満足	まあまあ満足	どちらとも いえない	やや不満	不満	無回答	合計
回答数	231	66	7	5	1	8	318
回答率	72.6%	20.8%	2.2%	1.6%	0.3%	2.5%	100.0%



3. 満足度構造分析

(1) 分析方法

利用者調査項目の全17項目の中で、特に「総合的な感想（満足度）」に影響を与えている項目は何かを明らかにするために、重回帰分析の手法を使用して分析を行った。分析に当たっては以下のような手続きを行った。

目的変数（被説明変数）

目的変数は「総合的な感想（満足度）」である。総合的な感想では下記変数処理を行った。「満足」＝5、「まあまあ満足」＝4、「どちらともいえない」＝3、「やや不満」＝2、「不満」＝1。無記入は欠損値とした。

説明変数

説明変数はQ1～Q17の各設問である。Q1～Q17の各設問では、下記変数処理を行った。「はい」＝3、「どちらともいえない」＝2、「いいえ」＝1、それ以外の「非該当」や無記入は欠損値とした。

(2) 分析結果

設問		標準化係数	有意確率（p値）
Q1	園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っている	1.363	0.000
Q2	園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっている	1.175	0.000
Q3	園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっている	0.972	0.007
Q10	職員の言葉遣いや態度、服装などは適切である	0.800	0.117
Q13	職員はお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれている	0.753	0.118

(3) 考察

統計的に有意であった項目のうち、総合的な感想（満足度）に影響を与えている項目は、「Q1：園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っている」「Q2：園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっている」「Q3：園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっている」「Q10：職員の言葉遣いや態度、服装などは適切である」「Q13：職員はお子さんの気持ちを大切にしながら

対応してくれている」であった。

その中でも、総合的な満足度への影響が特に高い設問は Q1 であった。その後は、Q2、Q3、Q10、Q13 と続いた。

Q1 は全体的に「はい」と高く評価されていた項目であった。8 園中 3 園において、「はい」の比率が 100%、最も低い園においても 90.6%という結果だった。Q2 も同様に肯定的な回答が多くを占めた。7 園において「はい」の比率が 90%～100%、最も低い園においても 87.5%という結果だった。

「Q1：心身の発達に役立つ活動」「Q2：興味や関心を持って行える活動」「Q3：提供する食事・おやつの配慮」「Q10:職員の接遇・態度」「Q13:子どもの気持ちの尊重」、以上 5 つの項目が、総合的な感想（満足度）に特に影響を与えている点を踏まえると、日々の保育の積み重ねが保護者の満足度の維持・向上につながるとうかがえる。特に Q1、Q2、Q3 が上位を占めるという事実は、生活（養護）と学び（教育）を一体的に提供し、人間形成の土台を作る場としての保育園の本来的な役割を各園が果たしてきたこと、今後も果たしていく必要があることを、うかがわせる。

4. 各保育園の満足度構造分析

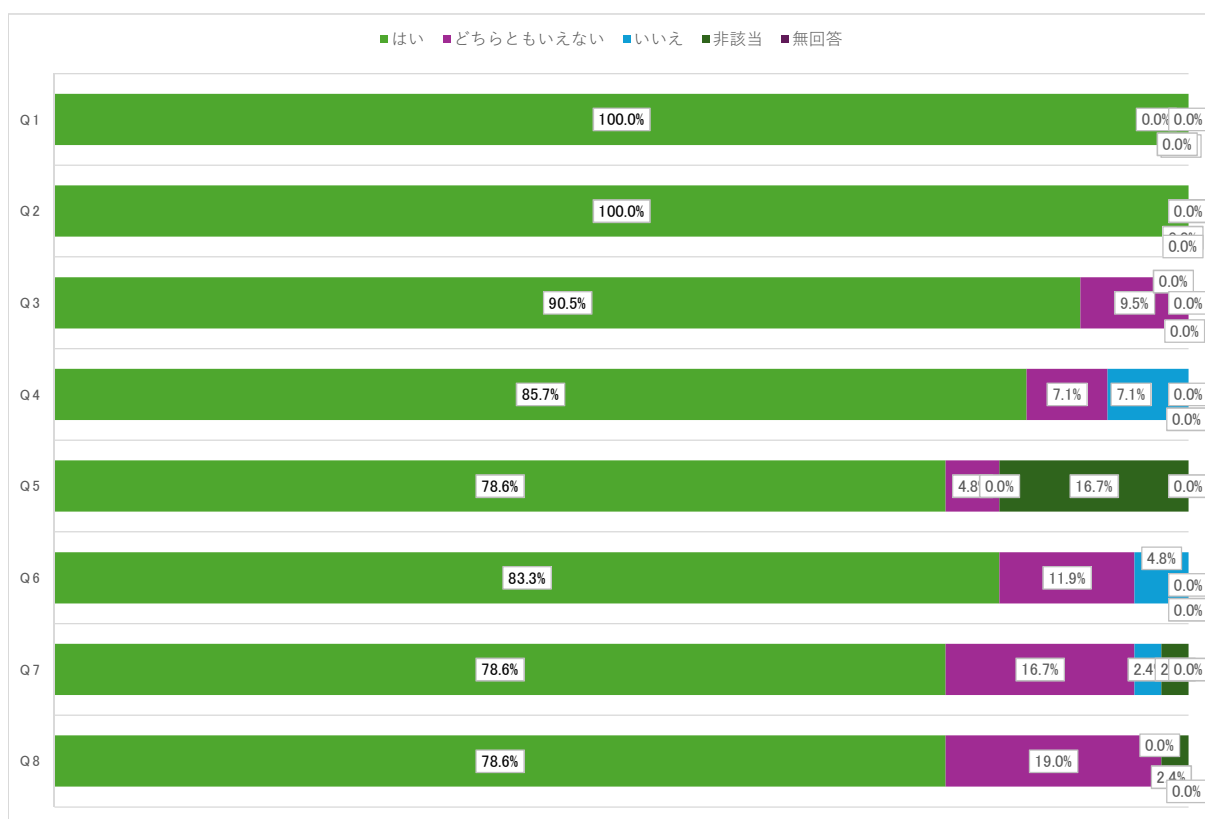
園ごとの利用者調査結果は、それぞれ次の通りである。

1. 大宮前保育園	15
2. 四宮保育園	21
3. 西荻北保育園	27
4. 井草保育園	33
5. 和田保育園	39
6. 浜田山保育園	45
7. 下井草保育園	51
8. 堀ノ内東保育園	57

1. 大宮前保育園

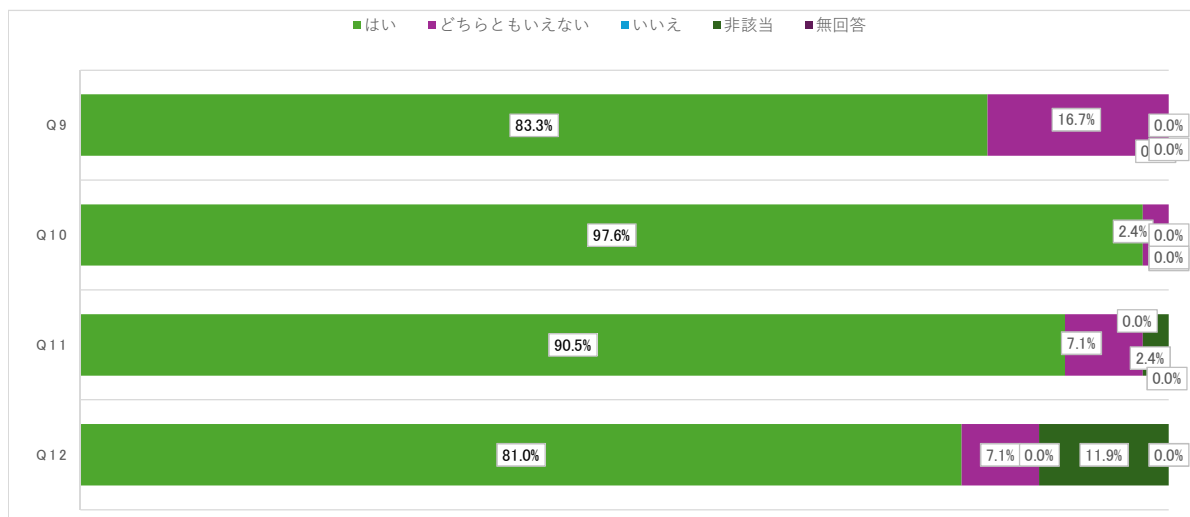
<サービスの提供>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q1	園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っている	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Q2	園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっている	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Q3	園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっている	90.5%	9.5%	0.0%	0.0%	0.0%
Q4	戸外遊びや行事などにより、お子さんが自然や社会と関わる機会は十分確保されている	85.7%	7.1%	7.1%	0.0%	0.0%
Q5	急な残業などであらかじめ取り決めた利用時間を変更する必要がある場合、柔軟に対応してくれている	78.6%	4.8%	0.0%	16.7%	0.0%
Q6	安全対策が十分取られている	83.3%	11.9%	4.8%	0.0%	0.0%
Q7	行事の日程は参加しやすいように十分な配慮がされている	78.6%	16.7%	2.4%	2.4%	0.0%
Q8	お子さんの気持ちや様子・子育てなどについて、職員と話したり相談することができるような信頼関係がある	78.6%	19.0%	0.0%	2.4%	0.0%



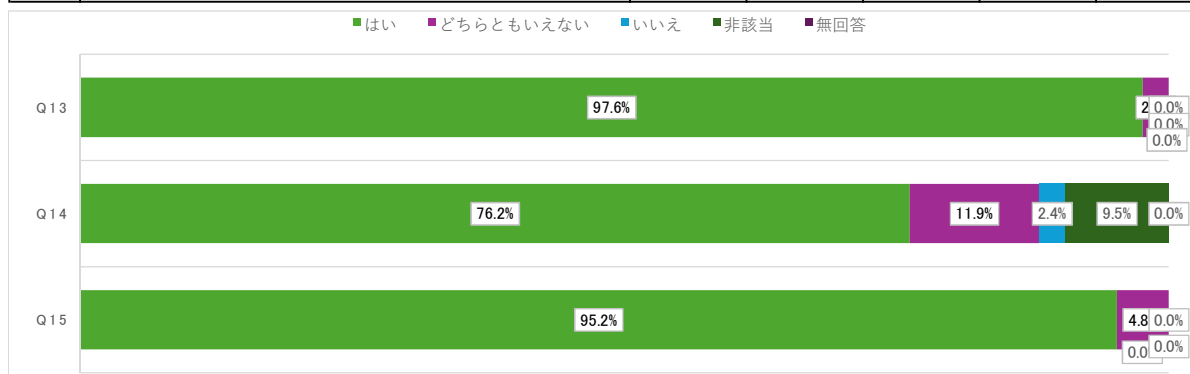
<安心・快適性>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q9	園内は清潔で整理された空間になっている	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%
Q10	職員の言葉遣いや態度、服装などは適切である	97.6%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%
Q11	お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの、 職員の対応は信頼できる	90.5%	7.1%	0.0%	2.4%	0.0%
Q12	子ども同士のいさかいやいじめ等があった場合の職員の 対応は信頼できる	81.0%	7.1%	0.0%	11.9%	0.0%



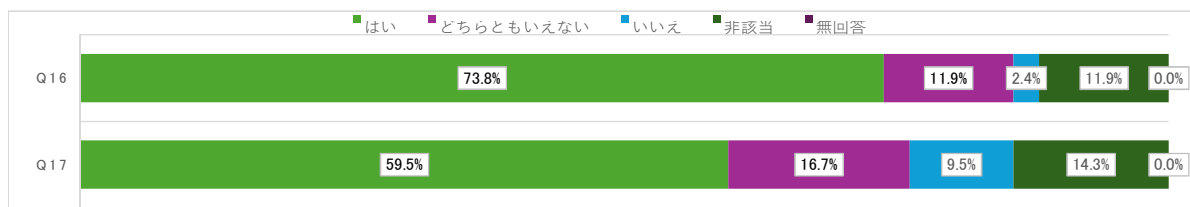
<利用者個人の尊重>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q13	職員はお子さんの気持ちを大切にしながら対応してく れている	97.6%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%
Q14	あなたやお子さんのプライバシー（他の人に見られ たくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこ と）を職員は守ってくれている	76.2%	11.9%	2.4%	9.5%	0.0%
Q15	お子さんの保育内容に関する説明は、わかりやすい	95.2%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%



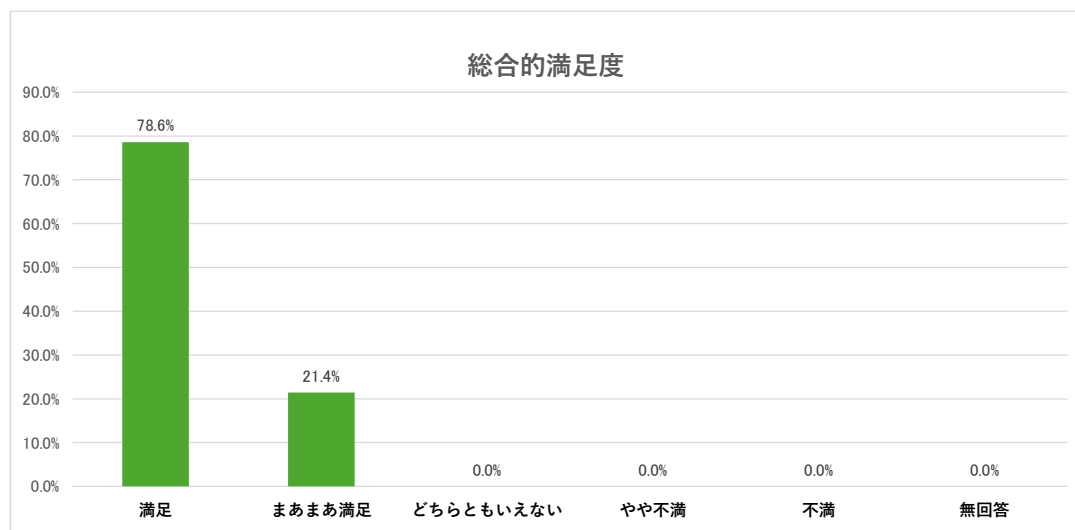
<不満・要望への対応>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q16	不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員は、きちんと対応してくれている	73.8%	11.9%	2.4%	11.9%	0.0%
Q17	困ったときに役所や第三者委員などにも相談できることを、職員はわかりやすく伝えてくれた（入園時の説明など）	59.5%	16.7%	9.5%	14.3%	0.0%



<当園を総合的にみて、どのように感じていらっしゃいますか（総合満足度）>

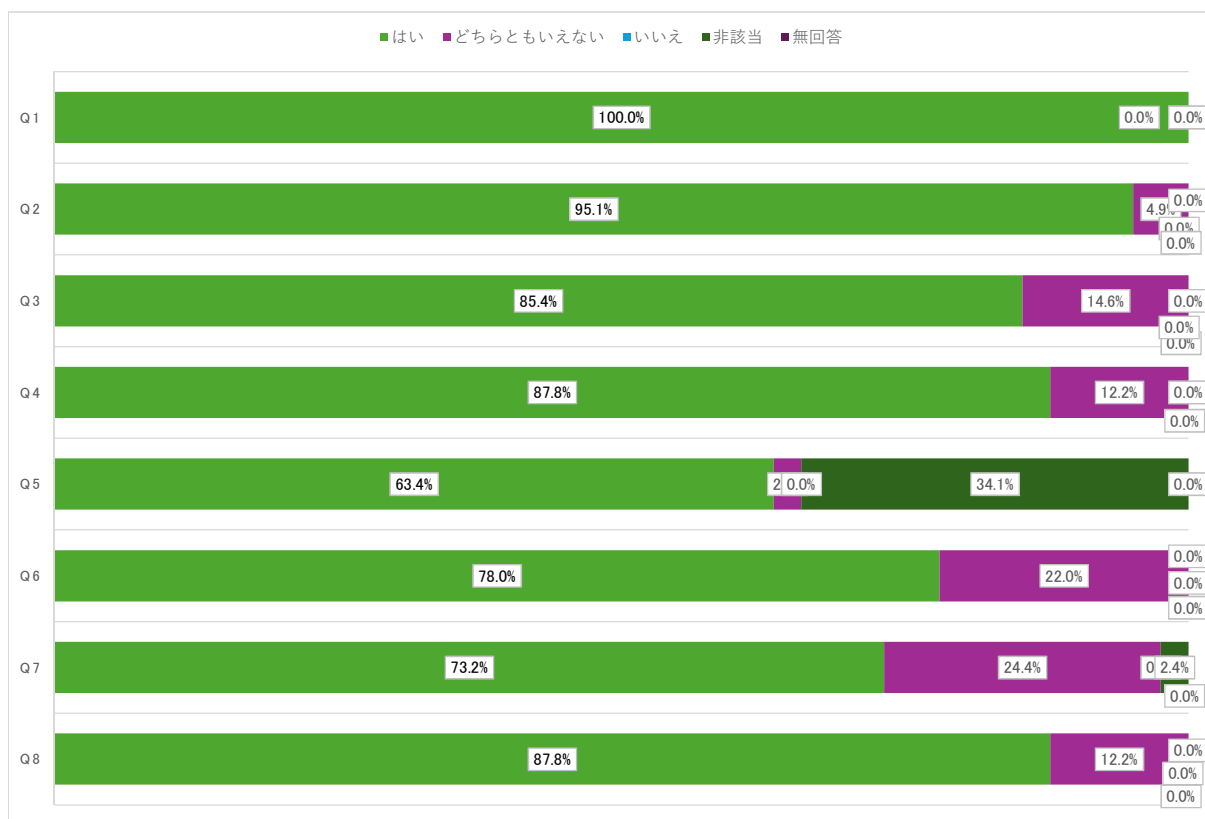
総合満足度	回答数	回答率
満足	33	78.6%
まあまあ満足	9	21.4%
どちらともいえない	0	0.0%
やや不満	0	0.0%
不満	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合 計	42	100.0%



2. 四宮保育園

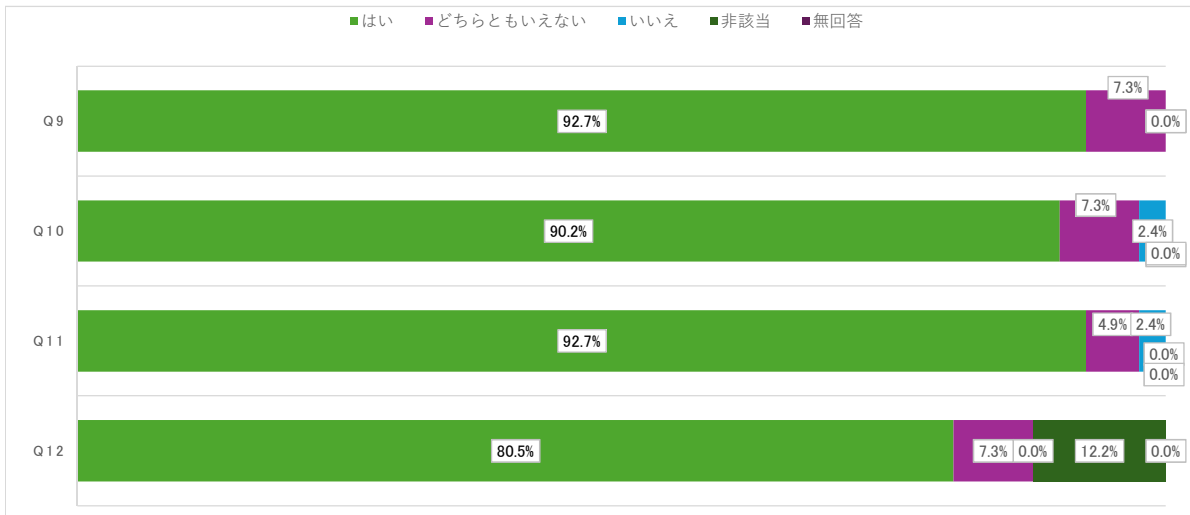
<サービスの提供>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q1	園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っている	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Q2	園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっている	95.1%	4.9%	0.0%	0.0%	0.0%
Q3	園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっている	85.4%	14.6%	0.0%	0.0%	0.0%
Q4	戸外遊びや行事などにより、お子さんが自然や社会と関わる機会は十分確保されている	87.8%	12.2%	0.0%	0.0%	0.0%
Q5	急な残業などであらかじめ取り決めた利用時間を変更する必要がある場合、柔軟に対応してくれている	63.4%	2.4%	0.0%	34.1%	0.0%
Q6	安全対策が十分取られている	78.0%	22.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Q7	行事の日程は参加しやすいように十分な配慮がされている	73.2%	24.4%	0.0%	2.4%	0.0%
Q8	お子さんの気持ちや様子・子育てなどについて、職員と話したり相談することができるような信頼関係がある	87.8%	12.2%	0.0%	0.0%	0.0%



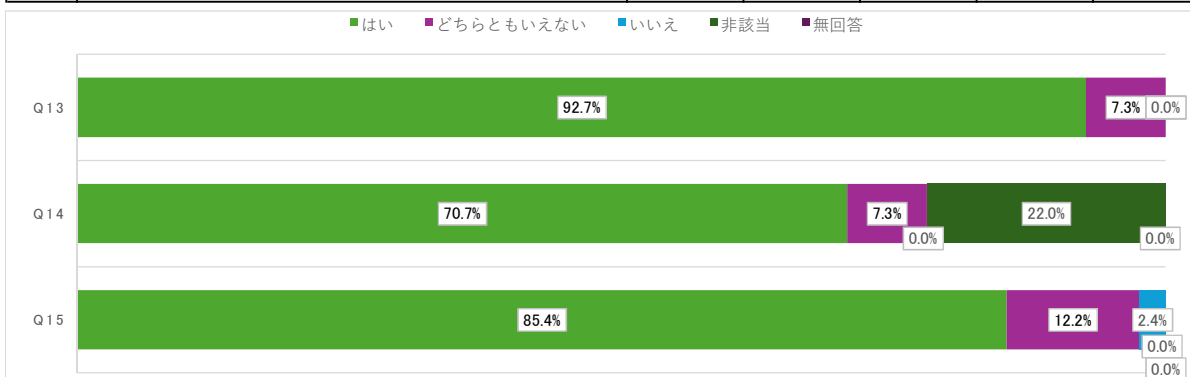
<安心・快適性>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q9	園内は清潔で整理された空間になっている	92.7%	7.3%	0.0%	0.0%	0.0%
Q10	職員の言葉遣いや態度、服装などは適切である	90.2%	7.3%	2.4%	0.0%	0.0%
Q11	お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの、 職員の対応は信頼できる	92.7%	4.9%	2.4%	0.0%	0.0%
Q12	子ども同士のいさかいやいじめ等があった場合の職員の 対応は信頼できる	80.5%	7.3%	0.0%	12.2%	0.0%



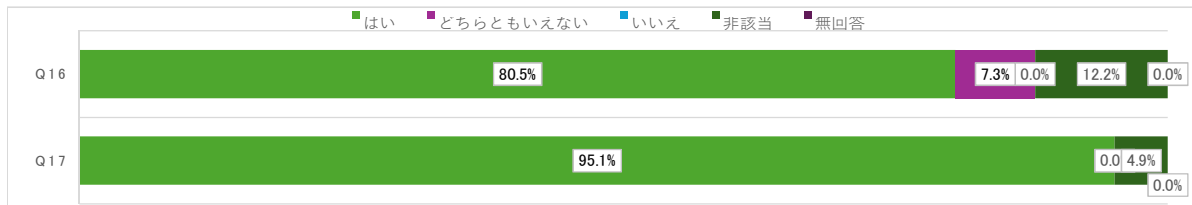
<利用者個人の尊重>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q13	職員はお子さんの気持ちを大切にしながら対応してく れている	92.7%	7.3%	0.0%	0.0%	0.0%
Q14	あなたやお子さんのプライバシー（他の人に見られ たくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこ と）を職員は守ってくれている	70.7%	7.3%	0.0%	22.0%	0.0%
Q15	お子さんの保育内容に関する説明は、わかりやすい	85.4%	12.2%	2.4%	0.0%	0.0%



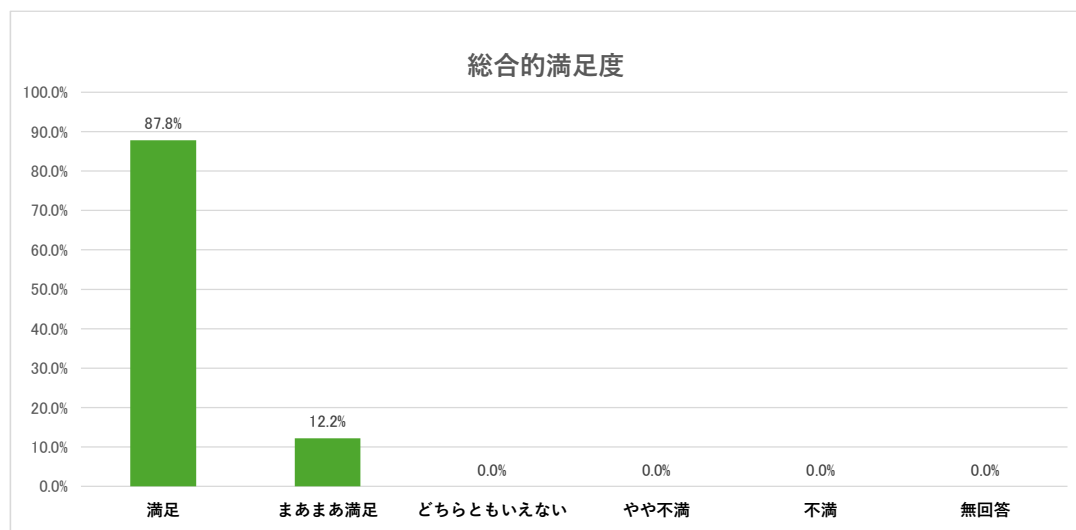
<不満・要望への対応>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q16	不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員は、きちんと対応してくれている	80.5%	7.3%	0.0%	12.2%	0.0%
Q17	困ったときに役所や第三者委員などにも相談できることを、職員はわかりやすく伝えてくれた（入園時の説明など）	95.1%	0.0%	0.0%	4.9%	0.0%



<当園を総合的にみて、どのように感じていらっしゃいますか（総合満足度）>

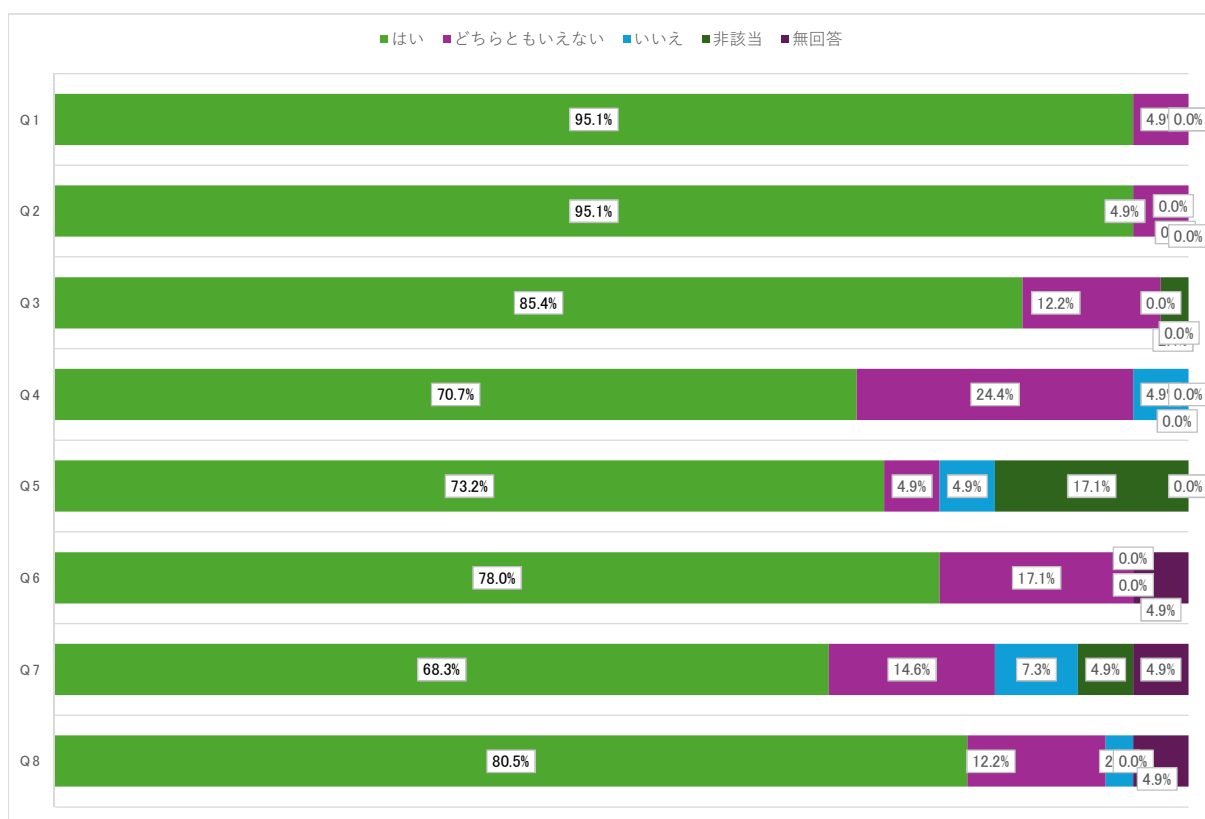
総合満足度	回答数	回答率
満足	36	87.8%
まあまあ満足	5	12.2%
どちらともいえない	0	0.0%
やや不満	0	0.0%
不満	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合 計	41	100.0%



3. 西荻北保育園

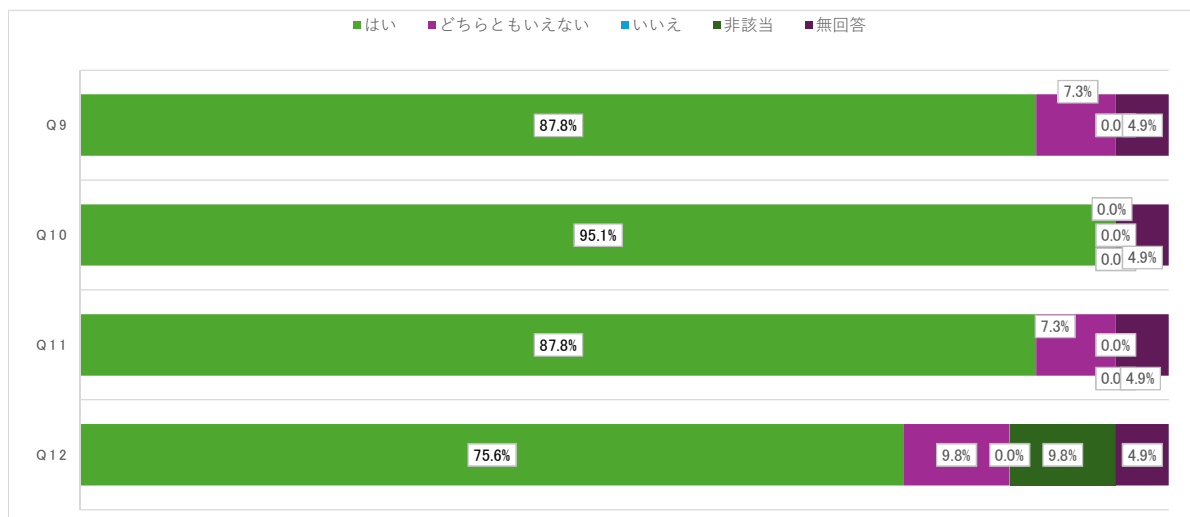
<サービスの提供>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q1	園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っている	95.1%	4.9%	0.0%	0.0%	0.0%
Q2	園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっている	95.1%	4.9%	0.0%	0.0%	0.0%
Q3	園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっている	85.4%	12.2%	0.0%	2.4%	0.0%
Q4	戸外遊びや行事などにより、お子さんが自然や社会と関わる機会は十分確保されている	70.7%	24.4%	4.9%	0.0%	0.0%
Q5	急な残業などであらかじめ取り決めた利用時間を変更する必要がある場合、柔軟に対応してくれている	73.2%	4.9%	4.9%	17.1%	0.0%
Q6	安全対策が十分取られている	78.0%	17.1%	0.0%	0.0%	4.9%
Q7	行事の日程は参加しやすいように十分な配慮がされている	68.3%	14.6%	7.3%	4.9%	4.9%
Q8	お子さんの気持ちや様子・子育てなどについて、職員と話したり相談することができるような信頼関係がある	80.5%	12.2%	2.4%	0.0%	4.9%



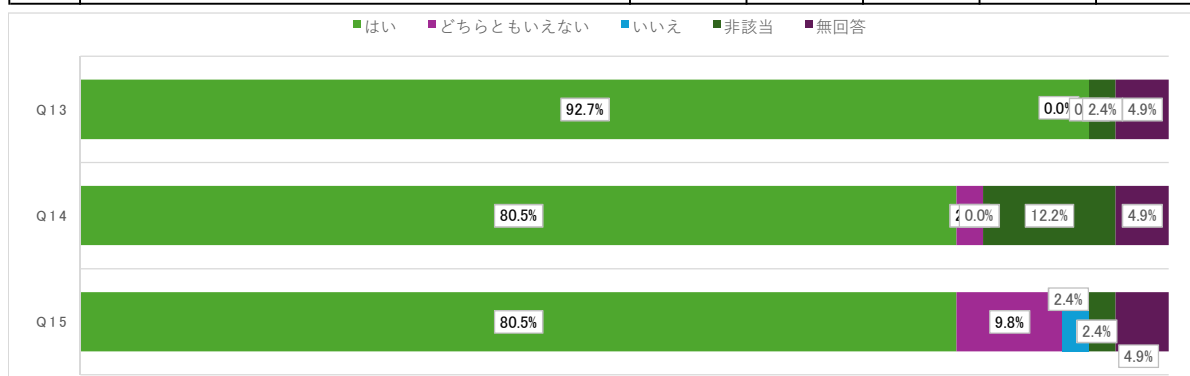
<安心・快適性>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q9	園内は清潔で整理された空間になっている	87.8%	7.3%	0.0%	0.0%	4.9%
Q10	職員の言葉遣いや態度、服装などは適切である	95.1%	0.0%	0.0%	0.0%	4.9%
Q11	お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの、 職員の対応は信頼できる	87.8%	7.3%	0.0%	0.0%	4.9%
Q12	子ども同士のいさかいやいじめ等があった場合の職員の 対応は信頼できる	75.6%	9.8%	0.0%	9.8%	4.9%



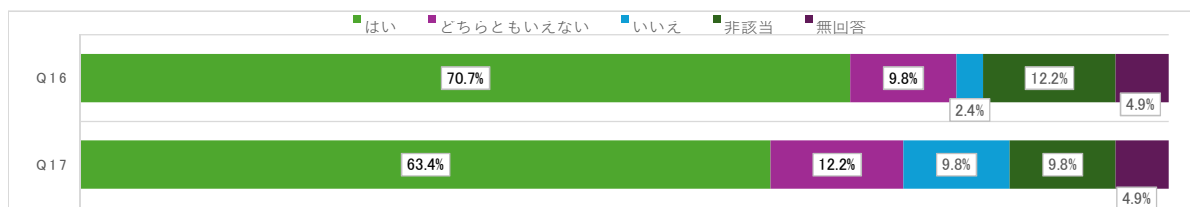
<利用者個人の尊重>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q13	職員はお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれている	92.7%	0.0%	0.0%	2.4%	4.9%
Q14	あなたやお子さんのプライバシー（他の人に見られたくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこと）を職員は守ってくれている	80.5%	2.4%	0.0%	12.2%	4.9%
Q15	お子さんの保育内容に関する説明は、わかりやすい	80.5%	9.8%	2.4%	2.4%	4.9%



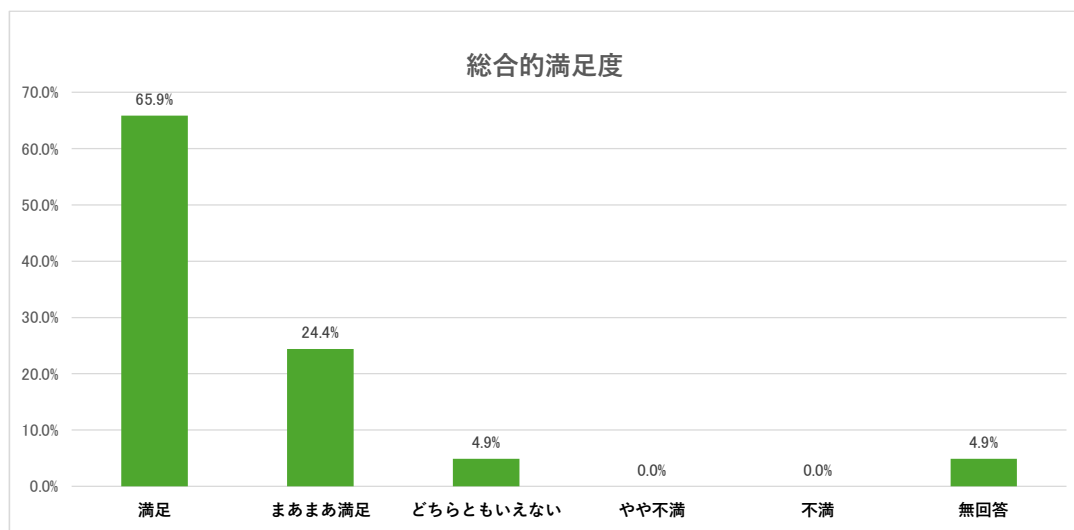
<不満・要望への対応>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q16	不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員は、きちんと対応してくれている	70.7%	9.8%	2.4%	12.2%	4.9%
Q17	困ったときに役所や第三者委員などにも相談できることを、職員はわかりやすく伝えてくれた（入園時の説明など）	63.4%	12.2%	9.8%	9.8%	4.9%



<当園を総合的にみて、どのように感じていらっしゃいますか（総合満足度）>

総合満足度	回答数	回答率
満足	27	65.9%
まあまあ満足	10	24.4%
どちらともいえない	2	4.9%
やや不満	0	0.0%
不満	0	0.0%
無回答	2	4.9%
合 計	41	100.0%



4. 井草保育園

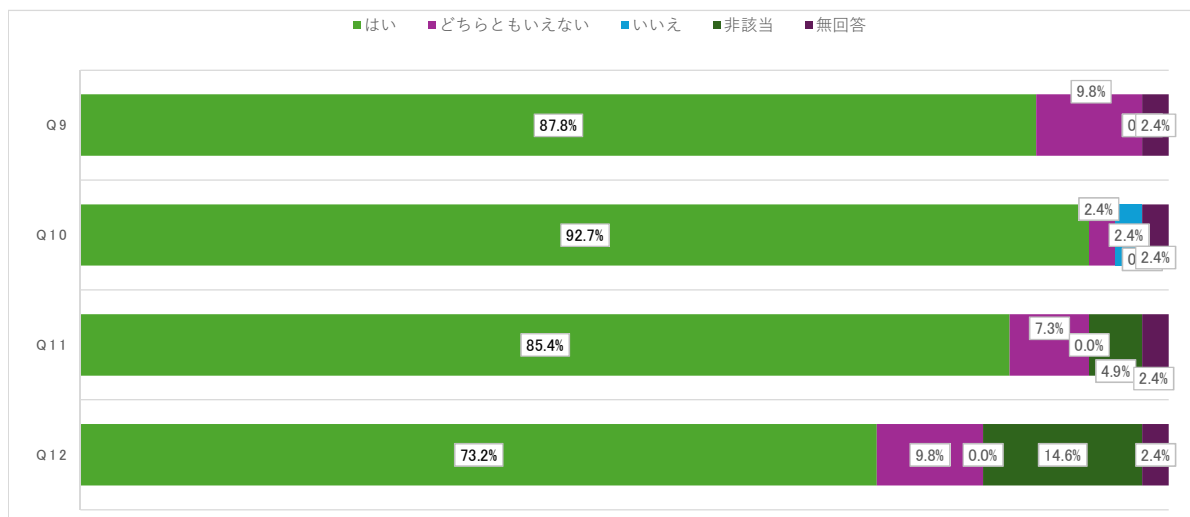
<サービスの提供>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q1	園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っている	97.6%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%
Q2	園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっている	95.1%	4.9%	0.0%	0.0%	0.0%
Q3	園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっている	97.6%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%
Q4	戸外遊びや行事などにより、お子さんが自然や社会と関わる機会は十分確保されている	87.8%	9.8%	2.4%	0.0%	0.0%
Q5	急な残業などであらかじめ取り決めた利用時間を変更する必要がある場合、柔軟に対応してくれている	70.7%	9.8%	0.0%	19.5%	0.0%
Q6	安全対策が十分取られている	87.8%	7.3%	2.4%	0.0%	2.4%
Q7	行事の日程は参加しやすいように十分な配慮がされている	68.3%	22.0%	4.9%	2.4%	2.4%
Q8	お子さんの気持ちや様子・子育てなどについて、職員と話したり相談することができるような信頼関係がある	85.4%	12.2%	0.0%	0.0%	2.4%



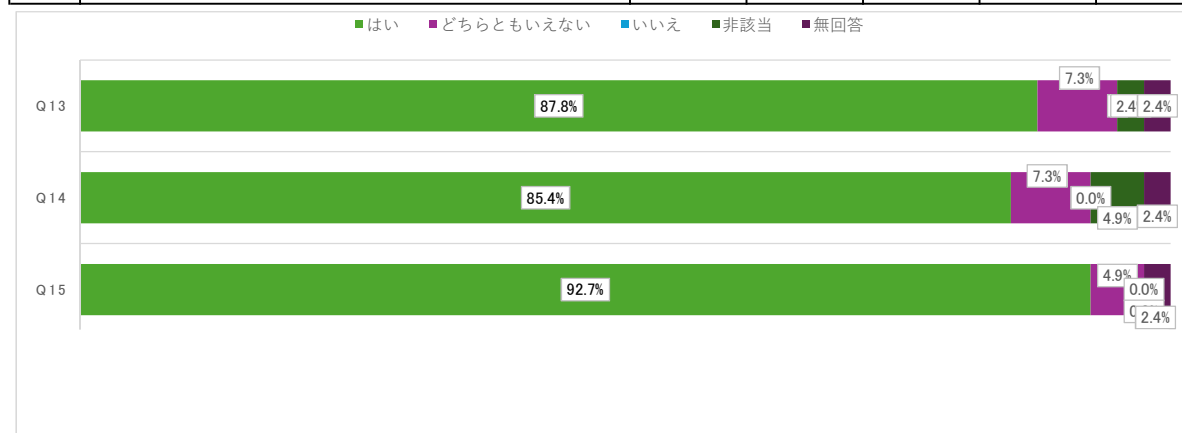
<安心・快適性>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q9	園内は清潔で整理された空間になっている	87.8%	9.8%	0.0%	0.0%	2.4%
Q10	職員の言葉遣いや態度、服装などは適切である	92.7%	2.4%	2.4%	0.0%	2.4%
Q11	お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの、 職員の対応は信頼できる	85.4%	7.3%	0.0%	4.9%	2.4%
Q12	子ども同士のいさかいやいじめ等があった場合の職員の 対応は信頼できる	73.2%	9.8%	0.0%	14.6%	2.4%



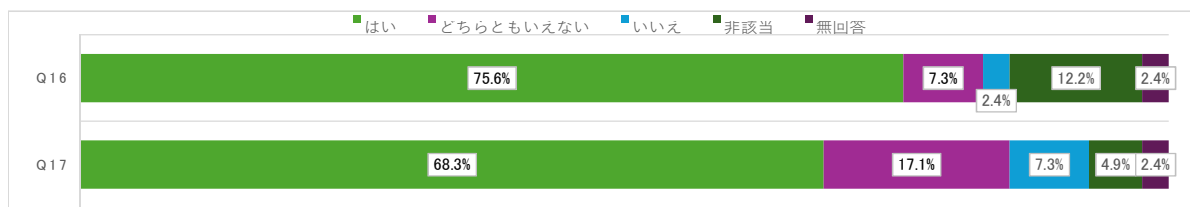
<利用者個人の尊重>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q13	職員はお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれている	87.8%	7.3%	0.0%	2.4%	2.4%
Q14	あなたやお子さんのプライバシー（他の人に見られたくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこと）を職員は守ってくれている	85.4%	7.3%	0.0%	4.9%	2.4%
Q15	お子さんの保育内容に関する説明は、わかりやすい	92.7%	4.9%	0.0%	0.0%	2.4%



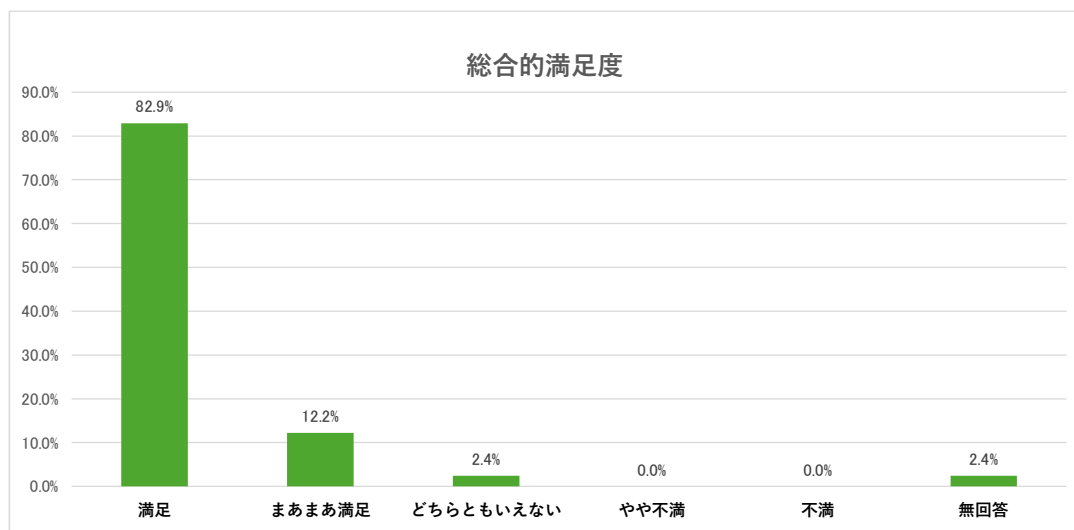
<不満・要望への対応>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q16	不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員は、きちんと対応してくれている	75.6%	7.3%	2.4%	12.2%	2.4%
Q17	困ったときに役所や第三者委員などにも相談できることを、職員はわかりやすく伝えてくれた（入園時の説明など）	68.3%	17.1%	7.3%	4.9%	2.4%



<当園を総合的にみて、どのように感じていらっしゃいますか（総合満足度）>

総合満足度	回答数	回答率
満足	34	82.9%
まあまあ満足	5	12.2%
どちらともいえない	1	2.4%
やや不満	0	0.0%
不満	0	0.0%
無回答	1	2.4%
合 計	41	100.0%

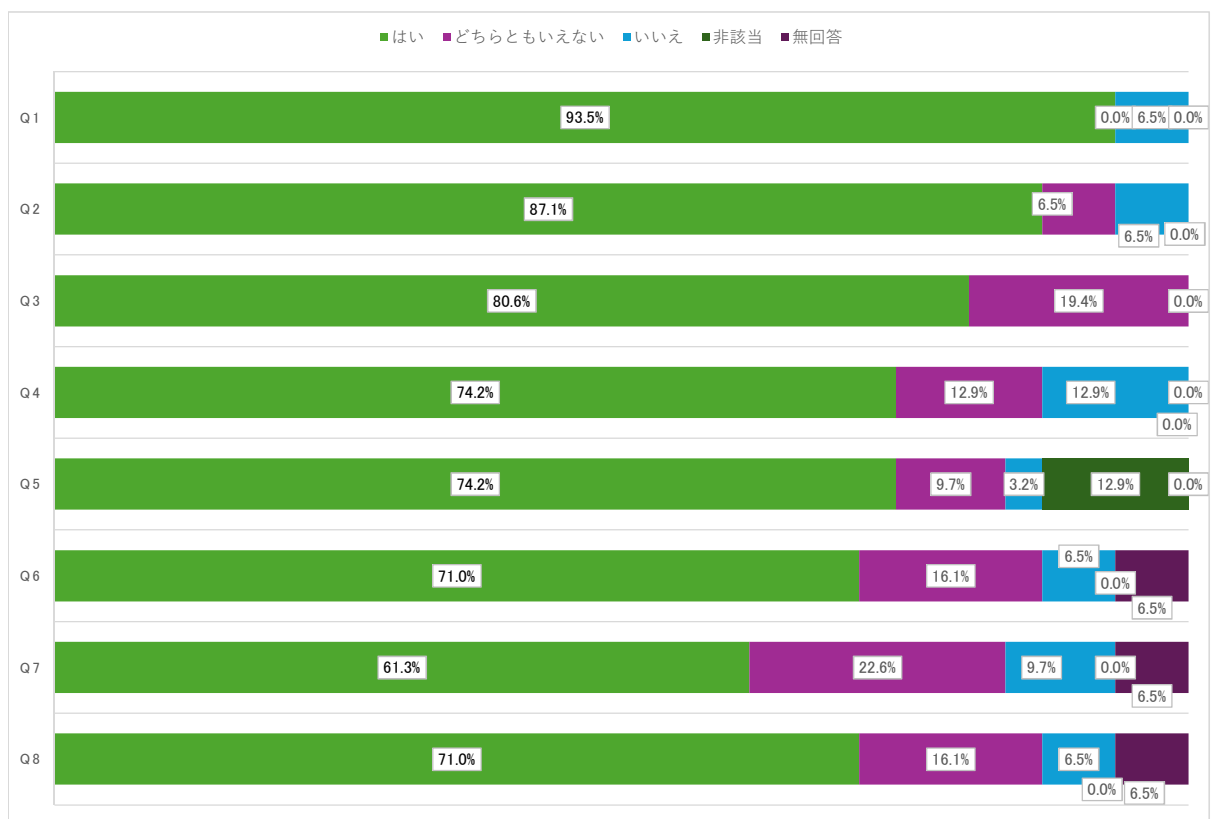


5. 和田保育園

和
田

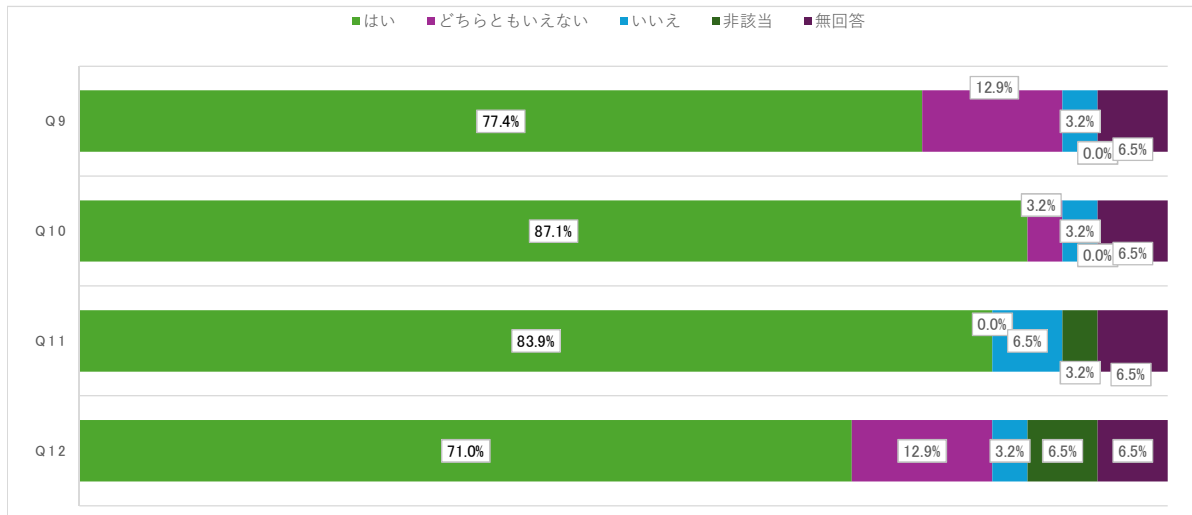
<サービスの提供>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q1	園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っている	93.5%	0.0%	6.5%	0.0%	0.0%
Q2	園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっている	87.1%	6.5%	6.5%	0.0%	0.0%
Q3	園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっている	80.6%	19.4%	0.0%	0.0%	0.0%
Q4	戸外遊びや行事などにより、お子さんが自然や社会と関わる機会は十分確保されている	74.2%	12.9%	12.9%	0.0%	0.0%
Q5	急な残業などであらかじめ取り決めた利用時間を変更する必要がある場合、柔軟に対応してくれている	74.2%	9.7%	3.2%	12.9%	0.0%
Q6	安全対策が十分取られている	71.0%	16.1%	6.5%	0.0%	6.5%
Q7	行事の日程は参加しやすいように十分な配慮がされている	61.3%	22.6%	9.7%	0.0%	6.5%
Q8	お子さんの気持ちや様子・子育てなどについて、職員と話したり相談することができるような信頼関係がある	71.0%	16.1%	6.5%	0.0%	6.5%



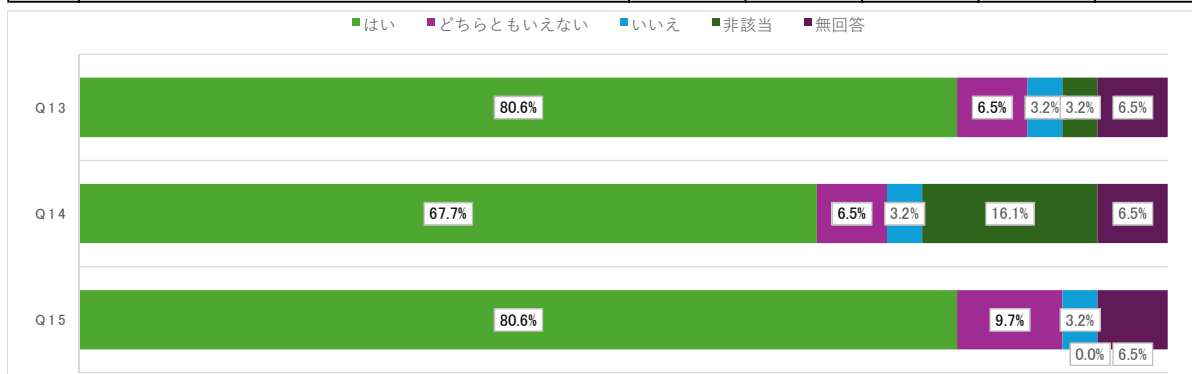
<安心・快適性>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q9	園内は清潔で整理された空間になっている	77.4%	12.9%	3.2%	0.0%	6.5%
Q10	職員の言葉遣いや態度、服装などは適切である	87.1%	3.2%	3.2%	0.0%	6.5%
Q11	お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの、 職員の対応は信頼できる	83.9%	0.0%	6.5%	3.2%	6.5%
Q12	子ども同士のいさかいやいじめ等があった場合の職員の 対応は信頼できる	71.0%	12.9%	3.2%	6.5%	6.5%



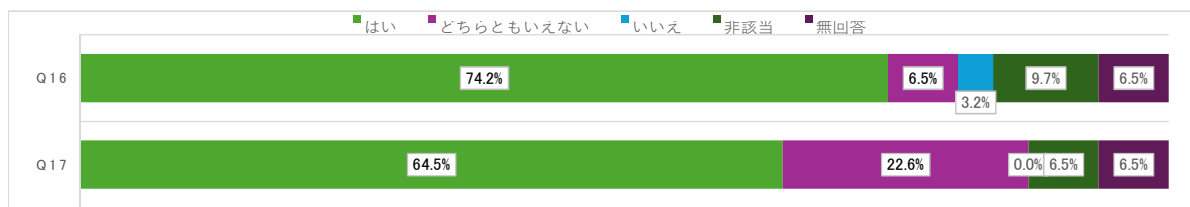
<利用者個人の尊重>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q13	職員はお子さんの気持ちを大切にしながら対応してく れている	80.6%	6.5%	3.2%	3.2%	6.5%
Q14	あなたやお子さんのプライバシー（他の人に見られ たくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこ と）を職員は守ってくれている	67.7%	6.5%	3.2%	16.1%	6.5%
Q15	お子さんの保育内容に関する説明は、わかりやすい	80.6%	9.7%	3.2%	0.0%	6.5%



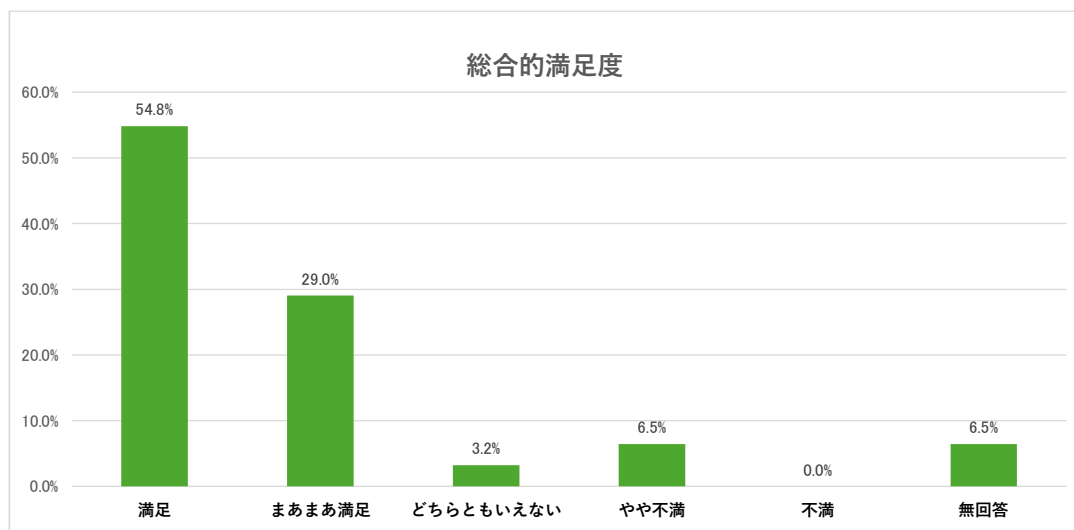
<不満・要望への対応>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q16	不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員は、きちんと対応してくれている	74.2%	6.5%	3.2%	9.7%	6.5%
Q17	困ったときに役所や第三者委員などにも相談できることを、職員はわかりやすく伝えてくれた（入園時の説明など）	64.5%	22.6%	0.0%	6.5%	6.5%



<当園を総合的にみて、どのように感じていらっしゃいますか（総合満足度）>

総合満足度	回答数	回答率
満足	17	54.8%
まあまあ満足	9	29.0%
どちらともいえない	1	3.2%
やや不満	2	6.5%
不満	0	0.0%
無回答	2	6.5%
合 計	31	100.0%

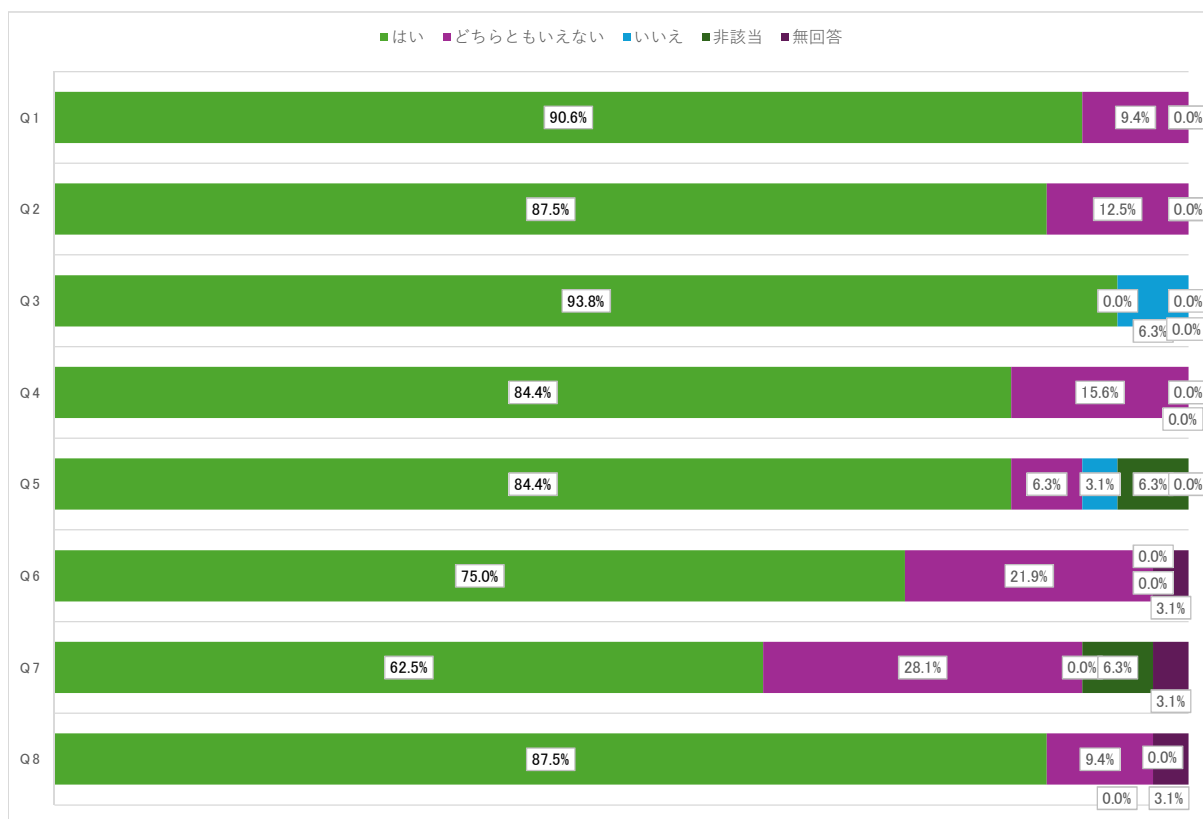


6. 浜田山保育園

浜
田
山

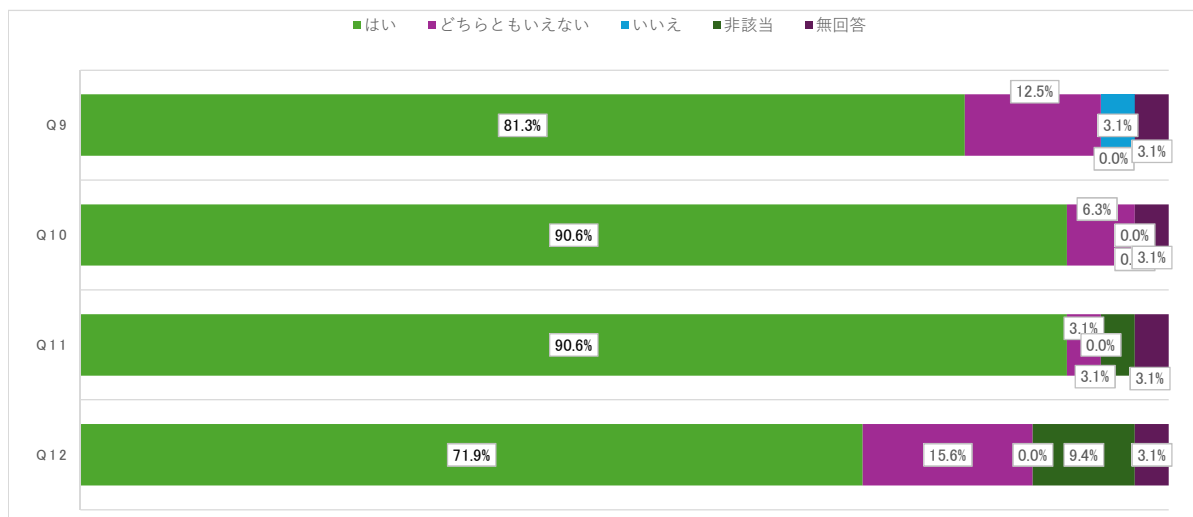
<サービスの提供>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q1	園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っている	90.6%	9.4%	0.0%	0.0%	0.0%
Q2	園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっている	87.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%
Q3	園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっている	93.8%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%
Q4	戸外遊びや行事などにより、お子さんが自然や社会と関わる機会は十分確保されている	84.4%	15.6%	0.0%	0.0%	0.0%
Q5	急な残業などであらかじめ取り決めた利用時間を変更する必要がある場合、柔軟に対応してくれている	84.4%	6.3%	3.1%	6.3%	0.0%
Q6	安全対策が十分取られている	75.0%	21.9%	0.0%	0.0%	3.1%
Q7	行事の日程は参加しやすいように十分な配慮がされている	62.5%	28.1%	0.0%	6.3%	3.1%
Q8	お子さんの気持ちや様子・子育てなどについて、職員と話したり相談することができるような信頼関係がある	87.5%	9.4%	0.0%	0.0%	3.1%



<安心・快適性>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q9	園内は清潔で整理された空間になっている	81.3%	12.5%	3.1%	0.0%	3.1%
Q10	職員の言葉遣いや態度、服装などは適切である	90.6%	6.3%	0.0%	0.0%	3.1%
Q11	お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの、 職員の対応は信頼できる	90.6%	3.1%	0.0%	3.1%	3.1%
Q12	子ども同士のいさかいやいじめ等があった場合の職員の 対応は信頼できる	71.9%	15.6%	0.0%	9.4%	3.1%



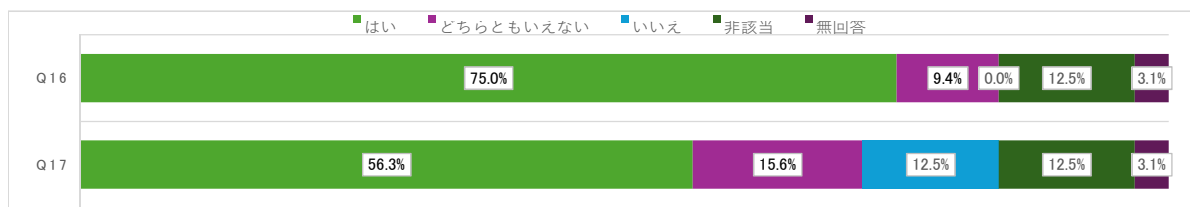
<利用者個人の尊重>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q13	職員はお子さんの気持ちを大切にしながら対応してく れている	90.6%	3.1%	0.0%	3.1%	3.1%
Q14	あなたやお子さんのプライバシー（他の人に見られ たくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこ と）を職員は守ってくれている	75.0%	9.4%	0.0%	12.5%	3.1%
Q15	お子さんの保育内容に関する説明は、わかりやすい	81.3%	15.6%	0.0%	0.0%	3.1%



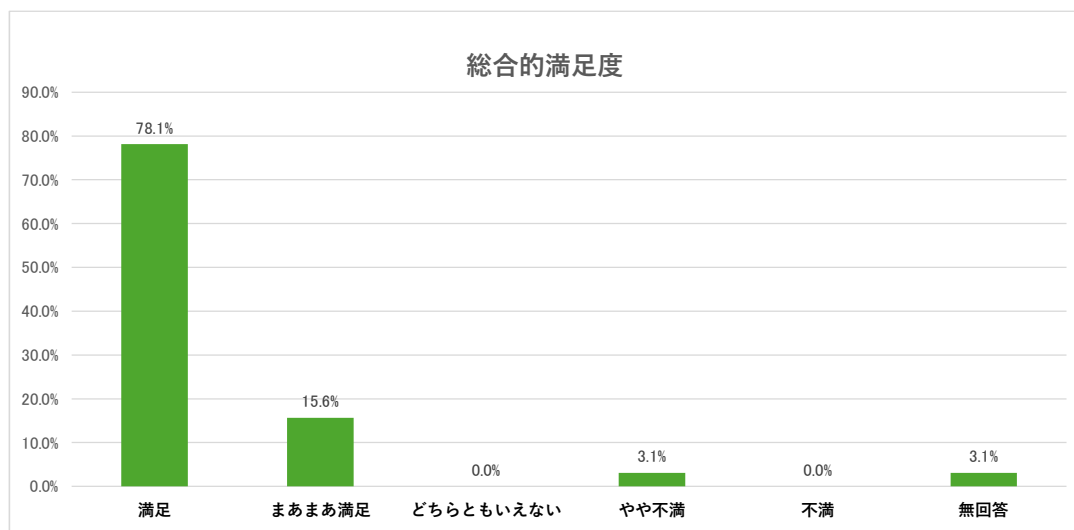
<不満・要望への対応>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q16	不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員は、きちんと対応してくれている	75.0%	9.4%	0.0%	12.5%	3.1%
Q17	困ったときに役所や第三者委員などにも相談できることを、職員はわかりやすく伝えてくれた（入園時の説明など）	56.3%	15.6%	12.5%	12.5%	3.1%



<当園を総合的にみて、どのように感じていらっしゃいますか（総合満足度）>

総合満足度	回答数	回答率
満足	25	78.1%
まあまあ満足	5	15.6%
どちらともいえない	0	0.0%
やや不満	1	3.1%
不満	0	0.0%
無回答	1	3.1%
合 計	32	100.0%

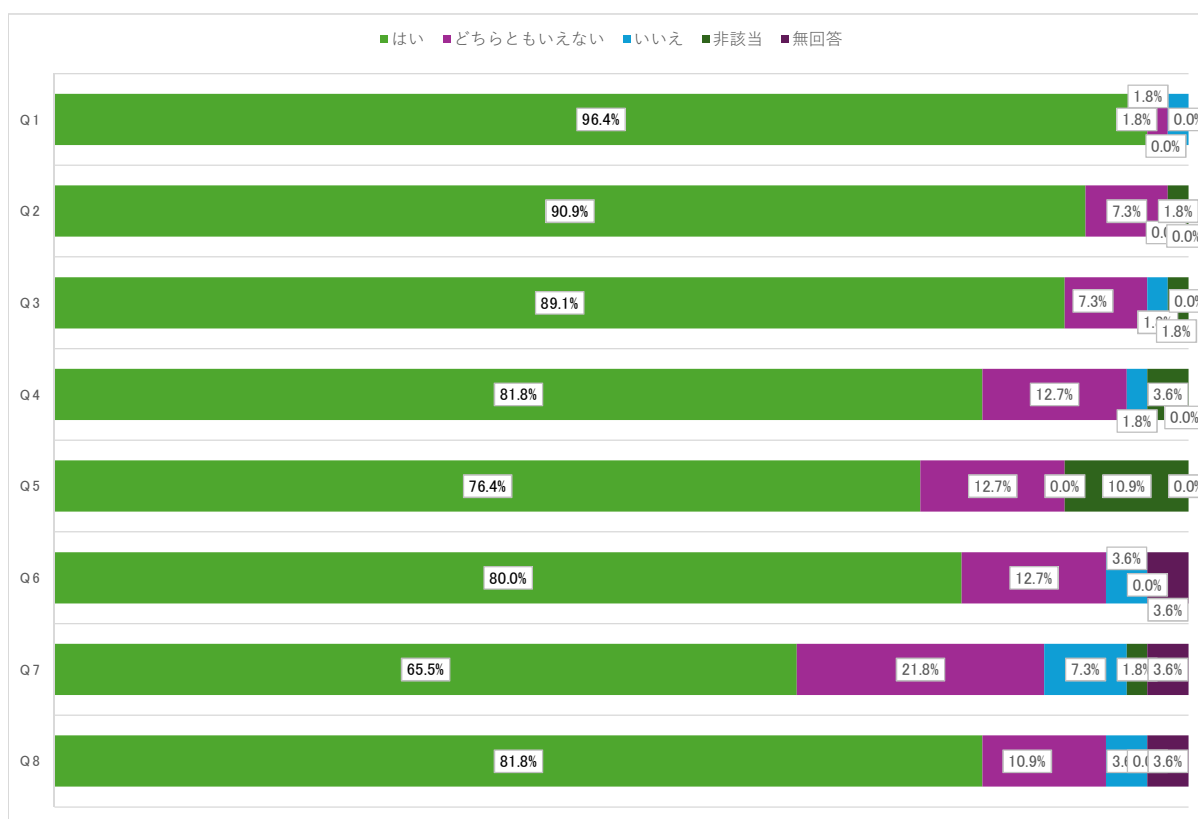


7. 下井草保育園

下
井
草

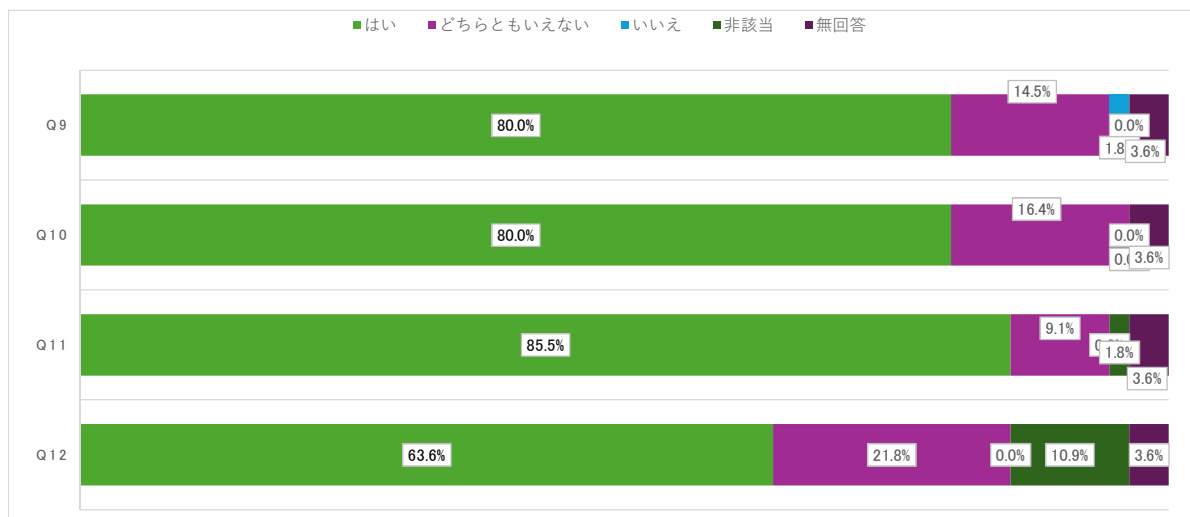
<サービスの提供>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q1	園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っている	96.4%	1.8%	1.8%	0.0%	0.0%
Q2	園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっている	90.9%	7.3%	0.0%	1.8%	0.0%
Q3	園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっている	89.1%	7.3%	1.8%	1.8%	0.0%
Q4	戸外遊びや行事などにより、お子さんが自然や社会と関わる機会は十分確保されている	81.8%	12.7%	1.8%	3.6%	0.0%
Q5	急な残業などであらかじめ取り決めた利用時間を変更する必要がある場合、柔軟に対応してくれている	76.4%	12.7%	0.0%	10.9%	0.0%
Q6	安全対策が十分取られている	80.0%	12.7%	3.6%	0.0%	3.6%
Q7	行事の日程は参加しやすいように十分な配慮がされている	65.5%	21.8%	7.3%	1.8%	3.6%
Q8	お子さんの気持ちや様子・子育てなどについて、職員と話したり相談することができるような信頼関係がある	81.8%	10.9%	3.6%	0.0%	3.6%



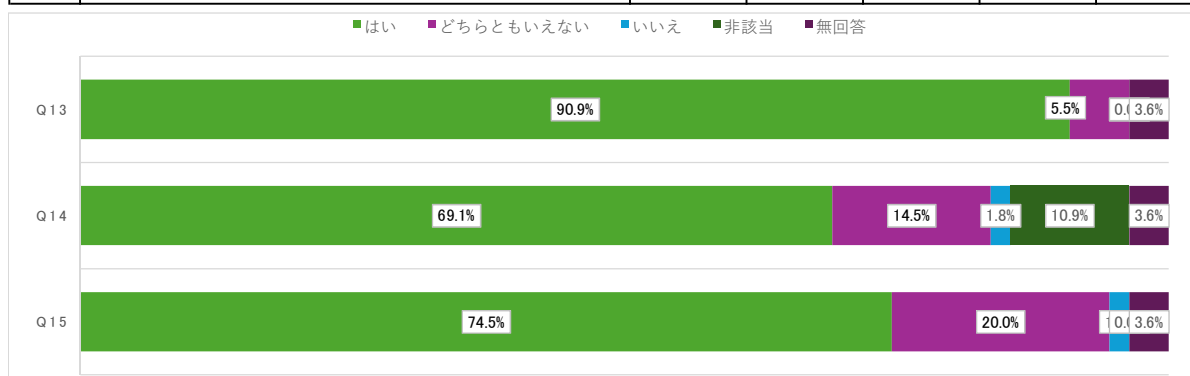
<安心・快適性>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q9	園内は清潔で整理された空間になっている	80.0%	14.5%	1.8%	0.0%	3.6%
Q10	職員の言葉遣いや態度、服装などは適切である	80.0%	16.4%	0.0%	0.0%	3.6%
Q11	お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの、 職員の対応は信頼できる	85.5%	9.1%	0.0%	1.8%	3.6%
Q12	子ども同士のいさかいやいじめ等があった場合の職員の 対応は信頼できる	63.6%	21.8%	0.0%	10.9%	3.6%



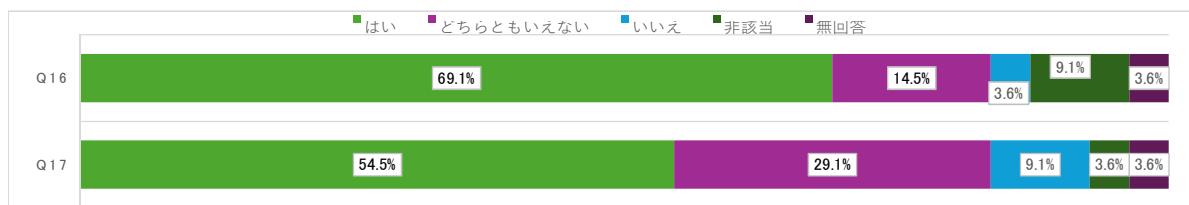
<利用者個人の尊重>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q13	職員はお子さんの気持ちを大切にしながら対応してく れている	90.9%	5.5%	0.0%	0.0%	3.6%
Q14	あなたやお子さんのプライバシー（他の人に見られ たくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこ と）を職員は守ってくれている	69.1%	14.5%	1.8%	10.9%	3.6%
Q15	お子さんの保育内容に関する説明は、わかりやすい	74.5%	20.0%	1.8%	0.0%	3.6%



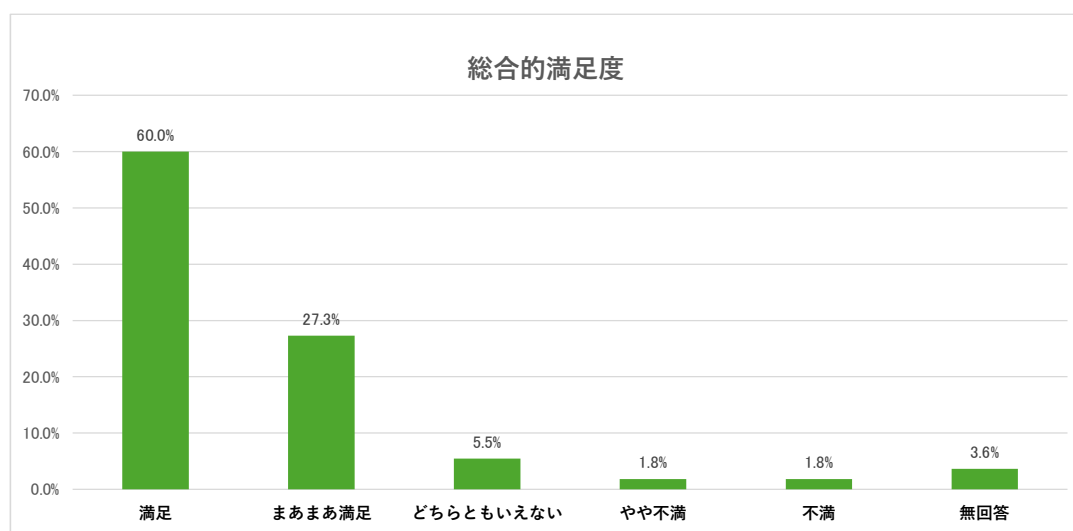
<不満・要望への対応>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q16	不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員は、きちんと対応してくれている	69.1%	14.5%	3.6%	9.1%	3.6%
Q17	困ったときに役所や第三者委員などにも相談できることを、職員はわかりやすく伝えてくれた（入園時の説明など）	54.5%	29.1%	9.1%	3.6%	3.6%



<当園を総合的にみて、どのように感じていらっしゃいますか（総合満足度）>

総合満足度	回答数	回答率
満足	33	60.0%
まあまあ満足	15	27.3%
どちらともいえない	3	5.5%
やや不満	1	1.8%
不満	1	1.8%
無回答	2	3.6%
合 計	55	100.0%

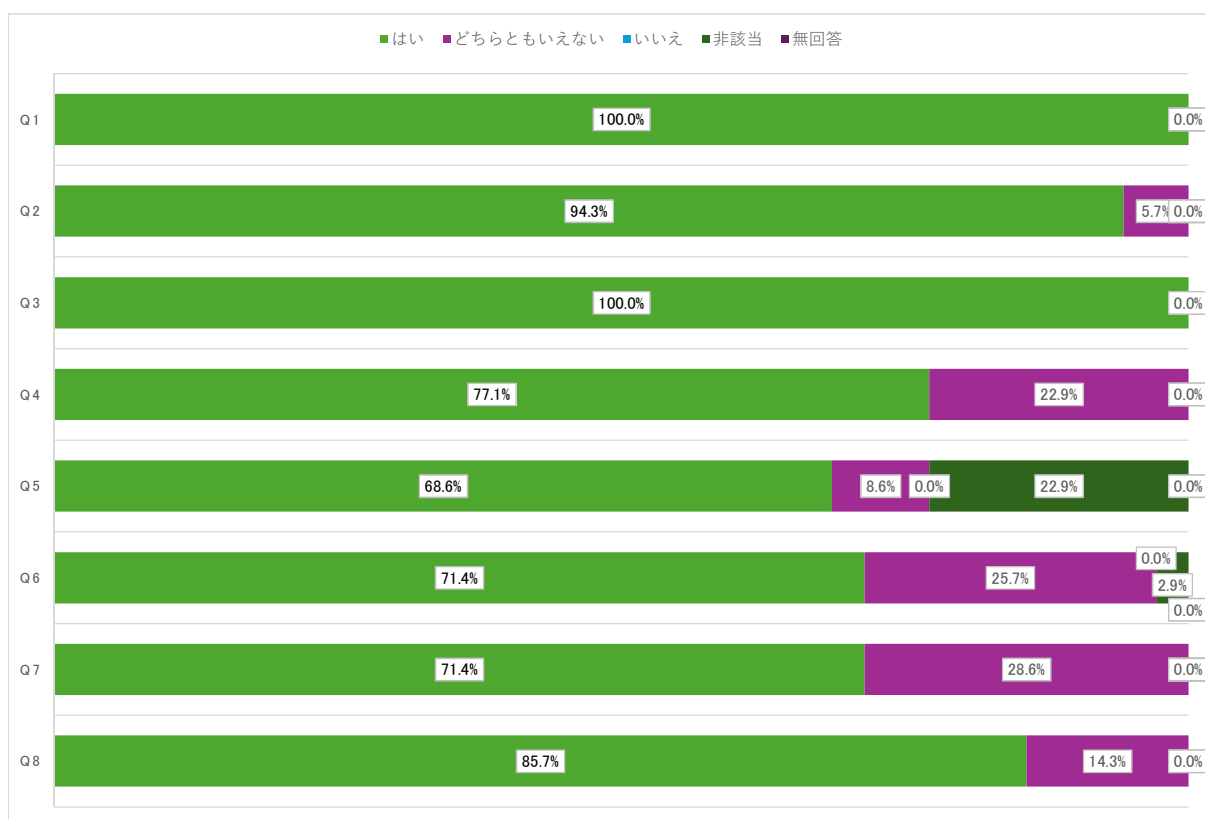


8. 堀ノ内東保育園

堀
ノ
内
東

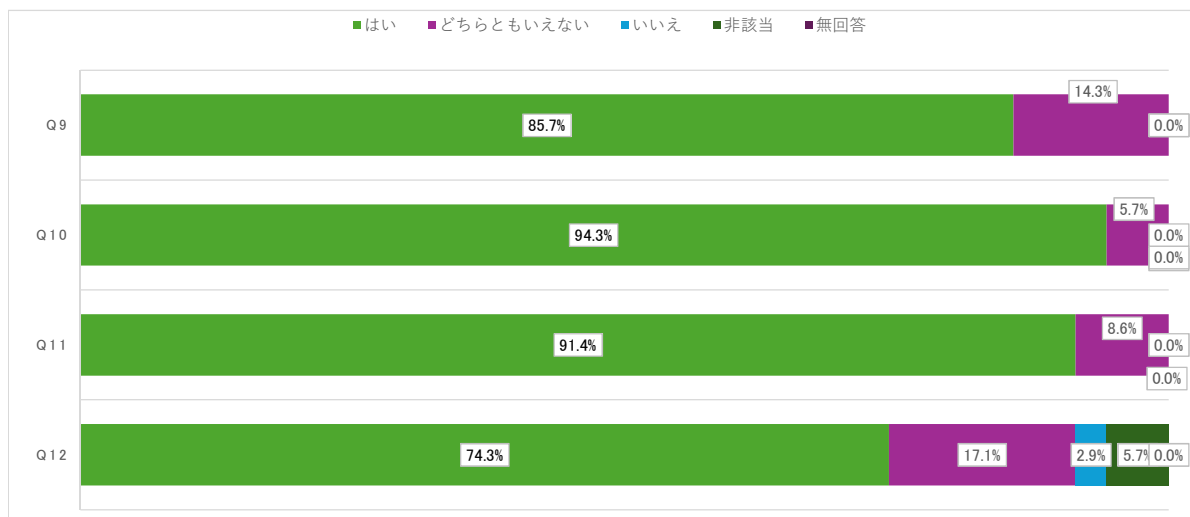
<サービスの提供>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q1	園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っている	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Q2	園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっている	94.3%	5.7%	0.0%	0.0%	0.0%
Q3	園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっている	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Q4	戸外遊びや行事などにより、お子さんが自然や社会と関わる機会は十分確保されている	77.1%	22.9%	0.0%	0.0%	0.0%
Q5	急な残業などであらかじめ取り決めた利用時間を変更する必要がある場合、柔軟に対応してくれている	68.6%	8.6%	0.0%	22.9%	0.0%
Q6	安全対策が十分取られている	71.4%	25.7%	0.0%	2.9%	0.0%
Q7	行事の日程は参加しやすいように十分な配慮がされている	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%
Q8	お子さんの気持ちや様子・子育てなどについて、職員と話したり相談することができるような信頼関係がある	85.7%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%



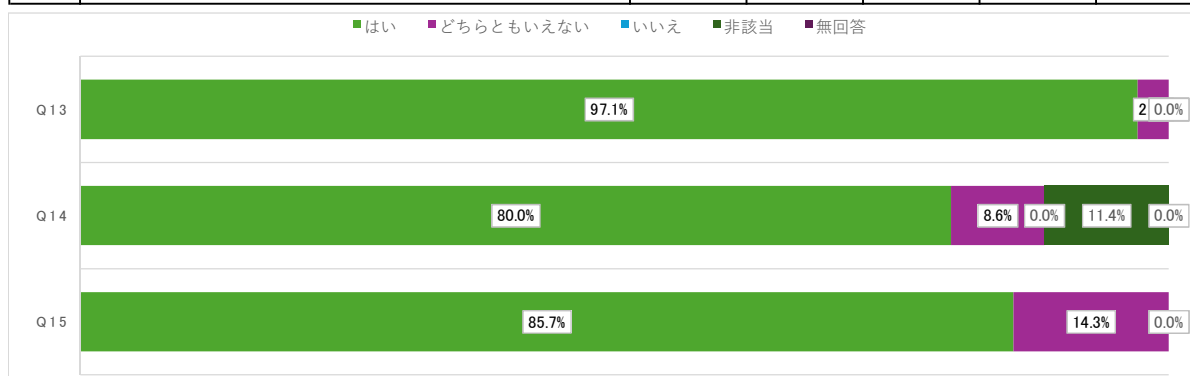
<安心・快適性>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q9	園内は清潔で整理された空間になっている	85.7%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%
Q10	職員の言葉遣いや態度、服装などは適切である	94.3%	5.7%	0.0%	0.0%	0.0%
Q11	お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの、 職員の対応は信頼できる	91.4%	8.6%	0.0%	0.0%	0.0%
Q12	子ども同士のいさかいやいじめ等があった場合の職員の 対応は信頼できる	74.3%	17.1%	2.9%	5.7%	0.0%



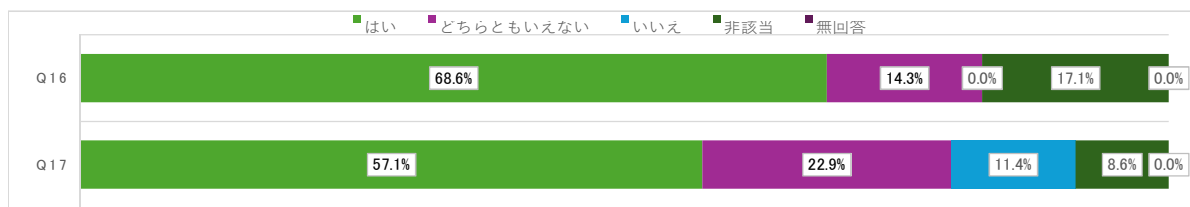
<利用者個人の尊重>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q13	職員はお子さんの気持ちを大切にしながら対応してく れている	97.1%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%
Q14	あなたやお子さんのプライバシー（他の人に見られ たくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこ と）を職員は守ってくれている	80.0%	8.6%	0.0%	11.4%	0.0%
Q15	お子さんの保育内容に関する説明は、わかりやすい	85.7%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%



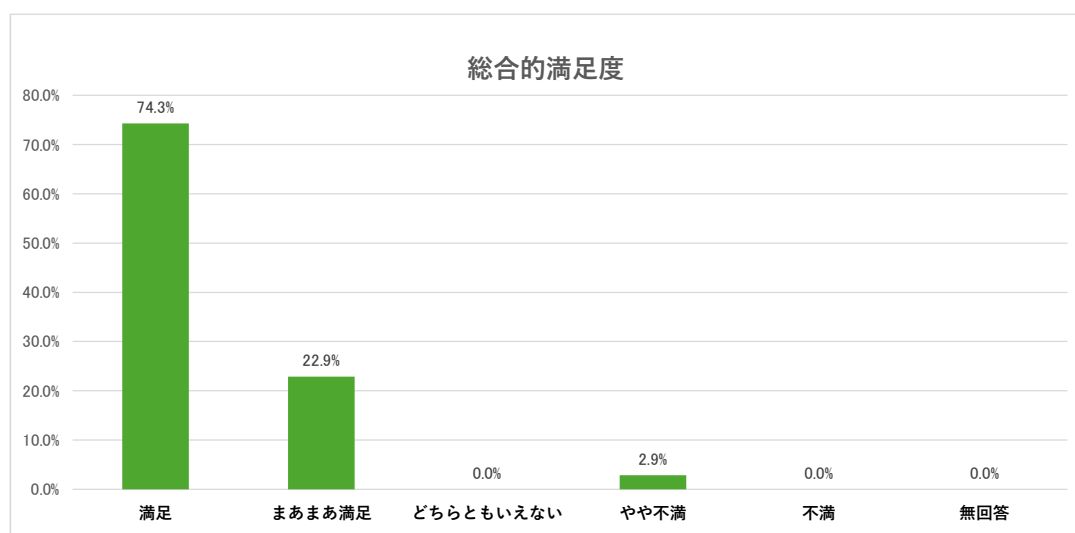
<不満・要望への対応>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q16	不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員は、きちんと対応してくれている	68.6%	14.3%	0.0%	17.1%	0.0%
Q17	困ったときに役所や第三者委員などにも相談できることを、職員はわかりやすく伝えてくれた（入園時の説明など）	57.1%	22.9%	11.4%	8.6%	0.0%



<当園を総合的にみて、どのように感じていらっしゃいますか（総合満足度）>

総合満足度	回答数	回答率
満足	26	74.3%
まあまあ満足	8	22.9%
どちらともいえない	0	0.0%
やや不満	1	2.9%
不満	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合 計	35	100.0%



第 2 部 事業評価

1. 評価の概要

(1) 評価の目的

組織としてのマネジメント力がどのような状況にあるのか、また、現在提供されているサービスの質がどのような状況にあるのかについて、第三者評価機関が経営層及び職員の自己評価を事前に分析し、訪問調査を実施した上で、合議により評価を行った。

評価で用いるカテゴリーは、以下の通りである。

カテゴリー 1：リーダーシップと意思決定

カテゴリー 2：事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行

カテゴリー 3：経営における社会的責任

カテゴリー 4：リスクマネジメント

カテゴリー 5：職員と組織の能力向上

カテゴリー 6：サービス提供のプロセス

カテゴリー 7：事業所の重要課題に対する組織的な活動

(2) 評点のつけ方

事業評価では、以下の評点等により各評価項目を評価する。

評点基準 <カテゴリー 1～6>
評点は、標準項目の実施状況を以下のルールに基づき、記号化したもので、評価項目ごとに付ける。 1 標準項目の実施が確認できた場合は○、未実施・確認不可の場合は●で表す 2 ○及び●が混在する場合は、標準項目の順番にかかわらず、左端から○を配列し、●は右端に寄せて表す。 3 「非該当」が選択された標準項目は、評点の構成要素から除く
評点基準<カテゴリー 7>
「目標の設定と取り組み」「取り組みと検証」「検証結果の反映」については、確認できた内容（それぞれ一つ）が●で表される。 ○確認方法：事業者がそれぞれの重要課題について前年度に具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証した上で、今年度以降の目標設定や取り組みに反映しているかどうかの確認とする。

目標の設定と取り組み	○具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○具体的な目標が設定されていなかった
取り組みと検証	○目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていない場合を含む） ○設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	○次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
標準項目	
○定義：東京都内の福祉サービス事業者が、福祉サービスの質の向上を図る観点から、標準的に実施していることが必要であると認められる事項、または、実施するための仕組み（取り組み）があることが必要であると認められる事項をいう。 ○確認方法：標準項目を確認したものとするができるのは、次のすべてを満たした場合とする。 ア 事業者が当該事項を実施していること イ その実施が継続的（必要性を認識し、計画的）であること ウ その根拠が示せること	

（３） 訪問調査とフィードバック

評価者による訪問調査及び評価結果のフィードバックは、以下の日程で行った。

保育園名	訪問調査日	フィードバック訪問日
1.大宮前保育園	令和7年11月	令和8年2月
2.四宮保育園	令和7年12月	令和8年2月
3.西荻北保育園	令和7年12月	令和8年2月
4.井草保育園	令和7年11月	令和8年2月
5.和田保育園	令和7年12月	令和8年2月
6.浜田山保育園	令和7年11月	令和8年2月
7.下井草保育園	令和7年10月	令和8年2月
8.堀ノ内東保育園	令和7年10月	令和8年2月

2. 各保育園の評価結果報告書

園ごとの評価結果報告書は、それぞれ次の通りである。

1. 大宮前保育園	69
2. 四宮保育園	101
3. 西荻北保育園	133
4. 井草保育園	165
5. 和田保育園	197
6. 浜田山保育園	229
7. 下井草保育園	261
8. 堀ノ内東保育園	293

1. 大宮前保育園

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

2026 年 2 月 28 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 156-0043

所在地 東京都世田谷区松原3-38-16-107

評価機関名 株式会社にはほんの福祉ネット

認証評価機関番号

機構 06 — 168

電話番号 03- 6379- 5156

代表者氏名 永峯 治之

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名			担当分野	修了者番号
	①			経営	H1901102
	②			福祉	H2101111
	③			福祉、経営	H2301066
	④				
	⑤				
	⑥				
福祉サービス種別	認可保育所				
評価対象事業所名称	大宮前保育園				
事業所連絡先	〒	168-0081			
	所在地	東京都杉並区宮前5丁目19番8号			
	TEL	03-3333-7609			
事業所代表者氏名	島崎 かなこ				
契約日	2025 年 6 月 20 日				
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 8 月 1 日				
利用者調査結果報告日	2025 年 10 月 22 日				
自己評価の調査票配付日	2025 年 8 月 1 日				
自己評価結果報告日	2025 年 10 月 22 日				
訪問調査日	2025 年 11 月 28 日				
評価合議日	2025 年 11 月 28 日				
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	区担当者との打ち合わせにより全体の流れ、留意事項の確認を行った。その後、事業所にて事前説明を行い、オンライン形式での利用者調査や職員アンケートの実施方法について説明を行った。訪問調査前には当日の訪問者、タイムスケジュール、確認予定の書類について案内した。訪問調査では施設見学もあわせて行い、実態の把握に努めた。合議では、訪問者2名と他の1名、事務局により報告内容の精査・修正を行った。				

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- ☒ 機構が定める部分を公表することに同意します。
- ☐ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- ☐ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2026 年 2 月 28 日

事業者代表者氏名 園長 島崎 かなこ

印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	①子どもの最善の利益を保障する。 ②子どもも大人も「またあした」が楽しい保育を目指す。 ③各家庭の背景を理解し保護者と楽しく子育てができる共育での実現を目指す。 ④円滑な園運営を目指し職員・異職種と対話を大切にし連携を取り合いながら進めていく。 ⑤地域の子育て支援に目を向け地域に根差した保育園を目指す。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） (1)職員に求めている人材像や役割 ・子どもの気持ちに寄り添い子どもの主体性を大切に想像力豊かな人材。 ・常に向上心を持ち積極的に研修などに参加し学んだことを保育に生かせる人材。 ・様々な物事・問題を一人で抱え込まず発信し、チームワークを深め職員同士で共有し助け合える人材。 ・自分の経験を生かした保育の継承。
	(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感) ・子どもの気持ちに寄り添い保護者と子どもの成長を喜びあえる職員。 ・自分も仕事も大切にしワークライフバランスを意識し計画的・意欲的に何事にも取り組めることを期待する。 ・地域のことに意識を向け理解を深め地域の方や近隣の保育施設と交流を持つことを意識できる職員。

調査対象

複数児利用世帯は最低年齢児1人を対象として実施世帯数を絞り、調査対象者に対し実施。

調査方法

WEB回答システムを活用。機関が作成した二次元コード記載の案内を事業所を通して各家庭に配布。各家庭においてそれを読み込んだ上で、個別に匿名で回答。

利用者総数

66

利用者家族総数(世帯)

66

共通評価項目による調査対象者数

66

共通評価項目による調査の有効回答者数

42

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

63.6

利用者調査全体のコメント

＜総合的な満足度＞

「満足」79%、「まあまあ満足」21%、計100%という満足度が示された。

＜調査結果の講評について＞

・肯定的な評価(「はい」との回答)が全体に占める割合についてのみ、記述した。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	42	0	0	0
回答者の100%「はい」と回答した。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	42	0	0	0
回答者の100%「はい」と回答した。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	38	4	0	0
回答者の90%「はい」と回答した。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	36	3	3	0
回答者の86%「はい」と回答した。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	33	2	0	7
回答者の79%「はい」と回答した。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	35	5	2	0
回答者の83%「はい」と回答した。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	33	7	1	1
回答者の79%「はい」と回答した。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	33	8	0	1
回答者の79%「はい」と回答した。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	35	7	0	0
回答者の83%「はい」と回答した。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	41	1	0	0
回答者の98%「はい」と回答した。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	38	3	0	1
回答者の90%「はい」と回答した。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	34	3	0	5
回答者の81%「はい」と回答した。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	41	1	0	0
回答者の98%「はい」と回答した。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	32	5	1	4
回答者の76%「はい」と回答した。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	40	2	0	0
回答者の95%「はい」と回答した。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	31	5	1	5
回答者の74%「はい」と回答した。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	25	7	4	6
回答者の60%「はい」と回答した。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリ1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○ 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○ 非該当
	● あり ○ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○ 非該当
	カテゴリ1の講評		
	園が目指していることを明示し、保護者や職員への理解を深めている 区立の保育施設として、児童福祉法や関連法令の根拠の下、区の基本理念やビジョンなどを運営や保育の基礎としている。年度当初には保育目標を達成する大枠となる全体的な計画を通して児童憲章、園の保育理念・保育方針・保育目標を確認している。これらを園内の各所に掲示することで職員の意識を高めると共に、保護者への周知を図り、基本に立ち返る働きかけを行っている。また、係の目標申告を作成して職員に周知し、一年間の目標を明示している。保護者に対しては、新入園児説明会、年度当初のクラスごとの保護者会で説明し理解を深めている。		
	園運営の方向性を提示し、自らの役割と責任を果たしている 年度当初の職員会議で経営層の年間目標を職員に伝えている。組織目標から係の目標シートを作成し、園長自身も具体的な年間計画を作成し、自らの役割と責任を職員に伝えるなど園運営の大切な情報を自ら発し、リーダーシップを発揮している。園長・主査・向上リーダーが、保育の質の向上を図る中心となり、大切にしたい保育の実現のために方向性の共有を図っている。園運営に関わる変更、改善事項などが生じた際には、アプリや園だより、クラスだより、保護者会などで伝えている。また個々の意見については個別に丁寧に対応している。		
	園で定めた手順に沿って、検討・決定・周知・実行を着実にやっている 毎週の定例打ち合わせ、職員会議等では誰もが意見を出しやすい雰囲気づくりを心がけ、話しやすい場を整えている。職員の意見をできるだけ吸い上げ、職員の主体性を尊重した運営を心がけている。重要な案件についてはその経緯を説明・周知している。連絡・確認事項は、ミーティングなどにより迅速に伝え、共有を図っている。会計年度任用職員に対しても個別に声をかけるなど、必要な情報を共有している。保護者には、園での決定事項やその経緯、内容などの情報を園だよりや掲示などで伝えている。		

2			事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		6
サブカテゴリ1(2-1)					
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			評点(○○○○○○)		
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している				○ 非該当
● あり ○ なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している				○ 非該当
● あり ○ なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している				○ 非該当
● あり ○ なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している				○ 非該当
● あり ○ なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している				○ 非該当
サブカテゴリ2(2-2)					
実践的な計画策定に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している			評点(○○○)		
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している				○ 非該当
● あり ○ なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている				○ 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる			評点(○○)		
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる				○ 非該当

カテゴリー2の講評

様々な方法で収集した情報を検討・活用して園運営に活かしている

保護者については、保護者会や個人面談などを通して、園への要望などを把握している。日々の登降園時のやり取りや連絡帳等からも、保護者の思いをつかみ、対応の見直しなどに役立てている。職員は、個人の目標申告シートなどをもとに園長とのヒアリングを行っている。個別に話を傾聴し、意向を把握している。会議等の打ち合わせでは、活発な意見交換により、園運営の課題解決につなげている。改善点については、係の目標シートや個人の目標申告シートに反映させている。

地域の福祉の現状について情報収集やニーズを把握し関係各所との関係を深めている

区や課の方針を受け、様々な事業を展開している。福祉事業や区の施策などの現状や動向については、区立園長会、庁内メール、区内広報などで随時確認している。近隣園との中核園事業に参画して、合同研修、園庭の共同利用などに取り組んでいる。近隣施設との交流も積極的に実施し、地域のニーズを把握している。収集した情報は、回覧やミーティングなどにより、できるだけ速やかに職員に周知している。近隣の関係機関との地域ネットワーク会議や連絡会に参画して情報交換を行い、顔の見える関係を構築している。

目標の達成に向けた意見交換を行い計画の実行に取り組んでいる

区の中長期計画、課の組織目標を受け、係の目標申告を作成している。杉並区保育実践方針等をもとに全体的な計画を作成し、年度末反省をもとに職員と共に係の目標シートを作成して園内の取り組みを明確にしている。目標シートの各項目に取り組み内容を記載し、達成度合いを図る目安としている。園運営については、各プロジェクトを中心にして計画内容のさらなる充実を図っている。議題を事前に決定・通知し、意見を集約し検討して会議に臨むなど、限られた時間を効果的に活用し、目標達成に向けて着実に取り組んでいる。

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○ 非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○ 非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○ 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリー3の講評

社会人として適切な行動ができるよう取り組み、組織としての責務を果たしている

社会人として、また福祉サービスに従事する者として、守るべき事項を全体に周知するため、保育課からの資料を活用して学ぶ機会を設けている。園長会で得た情報のほか、公務員倫理や規範についても繰り返し伝え、意識の向上を図っている。年度当初には、会計年度任用職員も含めて資料を提供し、随時助言や指導を行い、子どもに対する行動や言葉の選択など、適切な保育や守秘義務について確認し共有している。虐待が疑われるような情報をつかんだ際は、速やかに園長に報告し、必要に応じて関係機関と連携を取り、迅速に対応する体制を整えている。

地域へ園の取り組みを開示し様々な意向を把握して対応できる体制を備えている

苦情・要望などの相談窓口について、入園説明会で園の概要と共に保護者に説明し、相談の仕組みについて案内している。園長を苦情受付・解決責任者として位置づけ、いつでも相談に対応できる体制を備えている。担任・主査・栄養士など、相談を受けた職員は必ず園長に報告し、会議などで情報を共有している。また、実習生や体験学習の受け入れなど、次世代の人材の育成にもつながる取り組みも積極的に行っている。園庭開放を含む子育て支援事業の取り組みや日々の活動の様子なども開示し、透明性の確保を図っている。

様々なネットワークに参画し、地域の一員として園の役割を果たしている

園庭開放やふれあい保育、緊急一時保育など、地域の子育て世帯のニーズに応える事業を行っている。また、中核園事業では、担当年齢別の担任や栄養士などが交流や研修を行い、園の持つ専門分野の知識を地域に還元できるよう努め、園児同士の交流にも取り組んでいる。そのほか、近隣小学校との連携による行事や地域ネットワーク会議などにも参加している。こうした取り組みの積み重ねを通して、地域連携に対する職員の意識も高まっている。

4			リスクマネジメント		5/5
サブカテゴリ1(4-1)					
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる					
評点(00000)					
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている				○ 非該当
● あり ○ なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している				○ 非該当
● あり ○ なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる				○ 非該当
● あり ○ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる				○ 非該当
サブカテゴリ2(4-2)					
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている					
評点(0000)					
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している				○ 非該当
● あり ○ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている				○ 非該当
● あり ○ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している				○ 非該当
カテゴリ4の講評					
想定される様々なリスクについて、マニュアルを定め訓練を実施している 区として業務継続計画を策定し、職員にも周知している。リスクへの対策を常に話し合い、具体的な行動について職員間で共有し判断している。危機管理マニュアルや園マニュアルをもとに、事故、感染症、災害、情報セキュリティ、防犯対策などの対応を確認し、役割分担を行い、各種事態に備えている。年間避難訓練計画を定め、地震や火災、それらの際の併設施設との協力など、非常時に備えた訓練を実施している。訓練後は課題の抽出を行い、状況に応じて臨機応変に対応できるようにしている。 リスクに対して危機意識を持ち必要な対策をとり、危険回避と再発防止に努めている 保護者には、リスクへの対策について新入園児説明会や保護者会、園だよりなどで伝えている。園のしおりには、安全・防犯の対策、災害時の対応などを記載し、緊急時の園の対応を案内している。年度当初の保護者会でも、緊急時安全メールについての確認などを含め、災害時の対応について改めて説明している。感染症の罹患については速やかに園全体へ周知している。ヒヤリハットを含めたけがなどについては、原因の分析、振り返り、対応策の検討など、職員全体で情報を共有し、再発防止や深刻な事故の防止に取り組んでいる。 情報管理を適切に行い必要な情報を活用できるようにしている 区の情報セキュリティ基本方針や情報セキュリティ対策基準に基づき、保育課内および園内において、適切な情報セキュリティマネジメントを行っている。園では、個人情報を含む書類は施錠管理し、持ち出しと返却時には持ち出し管理簿に毎回記入している。画像保存機器類の持ち出しと返却についても、管理簿を活用してチェックを徹底している。個人情報の紛失や漏洩が発生しないようにダブルチェックを行うなど、慎重かつ厳格な管理を行っている。					

5 職員と組織の能力向上			カテゴリー5
サブカテゴリー1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○ 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○ 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○ 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○ 非該当

サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	☐ 非該当
カテゴリー5の講評		
目指す職員像の実現のため、長期的な展望で人材の確保や育成に取り組んでいる 区の人事課や保育課と園との間で連携を取り、人材確保を行っている。採用後には、配置園においてOJTを含む計画的な指導を行っている。そして、専門性を身につけ、個々の能力を活かせるように、区の人材育成方針や職員人材育成事業実施計画に基づいた研修を実施し、育成に努めている。職員一人ひとりの適性を把握しながら育成を図り、専門的な知識を高めながらキャリアアップを支援している。職員自身が具体的に自分の職責や果たすべき役割への筋道を見据え、個人と組織の目標達成に向けて意識して取り組んでいけるようにしている。 中長期的な見通しを立てた計画により職員の意欲向上を支援した育成に取り組んでいる 人事課が企画する職層研修によりライフプランや業務改善計画の立案を行い、中長期を見据えた人材育成計画を策定している。区の目標申告シートを活用して職員の状況を把握し、計画的な育成を行っている。職層研修、会計年度任用職員研修、実務研修など、勤務形態を問わずキャリアに合わせた研修を実施している。新任職員には、長期的人材育成計画に基づく育成を行っている。育成担当者が適切な指導を行うことができるよう、担当者研修や会議など、支援する仕組みを確立している。園全体で職員を支援・育成していく方針・姿勢を実践している。 良好な人間関係と安心して働き続けられる職場環境づくりに取り組んでいる 職員間の良好な関係を構築するため、職員間のコミュニケーションを取りやすいように会議は少人数での構成で意見を出しやすいように工夫している。また、日々のミーティングで体制を組み、全員が仕事内容を把握できるようにし、また休みを取りやすい環境を整えている。職員の意欲と働きがいの向上を目指して、日頃からコミュニケーションを図り、個人の目標申告シートに基づく職員とのヒアリングにより意向などを聞き、課題があれば一緒に考え、前向きに仕事に取り組んでいくことができるように努めている。		

7		事業所の重要課題に対する組織的な活動	7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
				サブカテゴリ1(7-1)
				事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている
				評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)
				前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 子どもも大人も笑顔があふれ、「また明日」が楽しみになる保育園という理念の実現を目指し、そのために、保育者の専門性を高めて保育の質を向上させること、および保護者支援や地域支援を通して公立保育園としての役割を果たすことを目標として掲げた。その実現のために、園内研修を通じた学びと振り返りを継続し、職員間での共通理解を深めて実践につなげた。また、子どもの「やりたい」という意欲を尊重し、多様な体験ができるよう園全体で検討を重ねた。さらに、保護者とのコミュニケーションツールとしてデジタル配信を活用し、情報の共有を活性化させた。これらの取り組みの結果、職員が自クラス以外の園児にも広く目を向けられるようになり、園全体で子どもの個性を尊重する体制が強化された。また、保護者とのやり取りが活発になったことで対話の機会が増え、より強固な信頼関係を築くことができた。今後は、保育の質をさらに高めるために園内研修を一層充実させ、職員同士が互いを認め合える肯定的な意見交換を促進していく方針である。また、保護者とのコミュニケーションを大切に継続し、共に子どもを育む「子育て」の深化を目標に据えている。
	目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった		
	取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
	検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
				評価項目1で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評 園の理念を、職員の専門性向上と地域・家庭への多角的な支援を通じて具現化しようとする姿勢に、確かな組織力がうかがえる。日々の実践を内省し、職員間で知見を共有し合う文化を土台とすることで、個々の保育者の眼差しが特定の枠を超え、園全体の子どもたちを包括的に見守るものへと進化している。特に、子どもの意欲を起点とした経験の創出を、組織的な検討プロセスを経て実現している点は、保育の質を構造的に高める取り組みとして意義深い。こうした真摯な探究は、個性を尊重する風土をより強固なものにしている。また、情報共有の仕組みを整えることで、保護者との間に双方向の対話を生み出し、相互理解の質を深めている。共有の手段を単なる効率化に留めず、対面での信頼を支える基盤として活用したことで、家庭と園が同じ視点で育ちを喜び合える体制が構築されている。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

お互いの意見を肯定的に捉え、互いの仕事を理解した上で自信を持って発信し、共通の方向性を持って保育に当たるため、「風通しの良い働きやすい職場環境の構築」と「職員の危機管理意識の向上」を目標として掲げた。その実現のために、まず互いの業務状況を把握できるようホワイトボードによる「見える化」を図り、助け合う職場風土を醸成することで、一人ひとりのワークライフバランスの保障に努めた。あわせて、会議や園内研修において「適切な保育とは何か」というテーマで子どもの人権について深く考え、日々の実践に結び付ける取り組みを行った。これらの取り組みの結果、自クラスだけでなく他クラスへも自然と視野が広がり、互いのワークライフバランスを尊重し合う姿が見られるようになった。さらに、研修等を通じて子どもの人権に対する意識が研ぎ澄まされ、一人ひとりを大切にする視点や危機管理に対する意識が園全体で分かち合われた。今後は、互いを認め合い、率直に伝え合いながら仕事ができる人的・物的な環境をさらに整えていく方針である。その上で、子どもの人権や適切な保育についての学びを継続し、専門職としての意識をより一層高めていくことを目標に据えている。

目標の設定と取り組み

- ☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- ☐ 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- ☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- ☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評

職員間の心理的安全性と保育の倫理性を車の両輪として捉え、組織文化の刷新に取り組んでいる。業務の透明性を高めて互いの状況を可視化する試みは、個々の負担を軽減するだけでなく、園全体で支え合う互助的な関係性を構築している。こうした職場環境の安定は、職員の心にゆとりをもたらし、他者への配慮や広い視野を養う基盤となっている。また、人権や適切な関わりという根源的なテーマを日常の対話に据えることで、個人の経験に頼らない共通の職業倫理を確立している。自らの実践を客観的に見つめ直すプロセスは、危機管理意識を単なる規則の遵守に留めず、子ども一人ひとりを尊重する具体的な振る舞いへと昇華させている。職員同士が認め合い、率直に意見を交わす人的環境の充実、専門職としての自律性を高め、質の高い保育を継続するための持続可能な土台となっている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	☐ 非該当
サブカテゴリ1の講評		
区のホームページやアプリ等を活用して園の情報をわかりやすく提供している 区のホームページや区の公式アプリケーション「すぎぼよ」、杉並区の保育施設ガイドブック、園のしおりなどにより、園の情報を発信している。ホームページでは園の住所や電話番号、対象年齢、定員、保育時間、保育目標などの概要を伝えている。園の特色として、ねらい、広く日当たりの良い園庭の桜、イチョウ、けやきなどの樹木やさまざまな草花を紹介し、より園の特徴がわかる園庭、遊具等の写真を掲載して紹介している。外国籍の方などを想定し、ふりがなやカタカナ表記などを施した情報媒体を用意するなど、「わかりやすさ」に配慮している。 行政や関係機関と連携を取りながら情報の提供と共有に努めている 区の主管課には、中核園との連携、子育て支援事業、誰でも通園制度の取り組みや感染症の状況、近隣の関係機関との交流実施等についての報告や必要なやり取りを常に行い、園の現況を発信して共有に努めている。地域ネットワーク会議に参加し情報交換をしながら地域とのつながりと連携を図っている。近隣の私立保育園と共に地域の児童館と連携して出張保育を行った。保育園職員として専門的な立場から支援に関わり地域ニーズを把握している。地域との関係を大事にしながら様々な連携を通じて、園の取り組みや情報を提供している。 問い合わせや見学の要望には、個別の状況に応じ園としてできる限り対応している 見学希望の受付について、区として都の施策(保活ワンストップサービス)を導入している。電話などによる受付も継続している。開催日を決めつつ、個別の希望にはできる限り日程調整を行い、対応している。見学者の人数によっては受け付ける組数や回数を調整している。見学時には、園内環境を見てもらいながら園が大事にしていることや活動について触れ、入園時に準備が必要な持ち物や保護者参加の行事について説明し、実際の園生活がわかるように配慮している。園庭開放やふれあい保育等への参加、電話による子育て相談なども案内している。		

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		☐ 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		☐ 非該当
サブカテゴリー2の講評			
園の特徴をふまえて保護者にサービス内容を伝え、保育への理解を図っている 身体測定や園医による健康診断を行うほか、入園までの生活状況や健康状態、食事の状態など、保育に必要な子どもに関する情報を収集している。また、保護者の就労状況や子育ての意向なども確認している。乳児や食物アレルギー、健康上の問題など対応が必要な場合は、栄養士や看護師も面談に加わっている。説明会では、入園までに準備するものや個人情報に関する事項、入園後のルール、緊急時の取り決めなどを、しおりや重要事項説明書などに基づき、丁寧に伝えている。 無理なく新しい環境へ適応できるよう子どもの様子を見ながら適切に支援している 入園当初は保護者と相談して、短時間の保育から始める慣れ保育を行っている。慣れ保育はおおむね一週間をめどに子どもの状況や保護者の事情を考慮し、子どもの様子を見ながら無理なく予定の保育時間まで延ばしている。入園時に提出された家庭連絡票や入園までの生活状況、健康調査票、食事調査などの書類は、支援に役立てる基礎資料としている。保護者からは家庭での保育の状況や、子どもが落ち着く対応・好きな遊びなどを職員に伝えてもらっている。保護者の不安を軽減し、安心して預けてもらえるよう信頼関係の構築を図っている。 支援の継続性に配慮した支援や関わりを大切にしている 転園や退園する際には、いつでも相談できることや次の生活へ向け声をかけ、保護者や子どもの不安の軽減を図っている。必要に応じて保護者の承諾の上、スムーズな移行を支援するため、移行先に子どもの情報を提供できる体制を備えている。また、就学へ向けて小学校から提供される情報を保護者に伝えている。卒園時には保育所児童保育要録を作成し、就学先の小学校へ提出し、育ちの連続性を保障している。			

サブカテゴリ3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○ 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○ 非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○ 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○ 非該当

サブカテゴリー3の講評

保育に必要な情報を適切に収集・記録し、全体で共有している

入園時には健康診断を実施して健康状態を把握し、個別面接時に入園までの生活状況や家族構成、出生・成育歴、予防接種歴、発育状況、食事、排泄、睡眠、好きな遊び等、保育に必要な子どもの心身や生活の状況を把握し記録している。収集した個人情報、取り扱いに十分注意しながら全体で共有している。連絡帳や登降園時に聞き取った日々の体調や連絡事項についても、必要に応じてミーティング等で伝達し、園日誌に記載して園長や担任間で共有している。

子どもの個別の発達や状況を踏まえた計画を作成し、共通理解に努め、取り組んでいる

「杉並区立保育園保育実践方針」を踏まえて策定された「全体的な計画」に基づき、年齢毎の発達を考慮して、年、月、週の各期間における指導計画を作成している。保護者には年度当初の保護者会で年間指導計画を示し、各年齢の発達や保育についてわかりやすく説明している。乳児クラスおよび特別な配慮を必要とする子どもについては、個別に指導計画を作成している。全職員が子どもの育ちを理解し、日頃から必要な情報の共有に努めている。医師や臨床心理士などの専門家とも連携し、子どもの特性に合わせた保育を計画し実践している。

職員間で子どもの状況の共有に努め、保護者にもわかりやすく伝えている

年度当初の保護者会では、園全体の計画やクラスごとの保育内容をまとめた資料を配り、発達の様子を分かりやすく伝えている。年度末には一年間の歩みを振り返り、子どもの成長を保護者と一緒に喜び合っている。日々の様子は連絡帳や日誌に記録し、毎日の打ち合わせで健康状態や活動内容を細かく共有している。日常的に子どもの姿を語り合う温かい職場風土があり、職員一人ひとりが理解を深めている。大切な情報は会計年度任用職員にも丁寧に周知し、全員で足並みを揃えて日々の保育に当たっている。

サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○ 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○ 非該当	
● あり ○ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○ 非該当	
サブカテゴリー5の講評			
個人情報の取り扱いについて保護者に説明して同意を得ている 個人情報の取り扱いについては、基本的なルールを入園時に保護者に伝え、情報提供の範囲や目的などについて同意を得ている。外部機関から情報提供の依頼があった際には、改めて保護者の意思を確認して対応している。園のしおりの中でも個人情報の取り扱いの徹底についても触れ、カメラ・ビデオ撮影等について明記している。SNS(ソーシャルネットワークサービス)への投稿やビデオ・写真の撮影の取り扱い、配慮事項等についても、保護者に注意を促している。 子どものプライバシーを保護し、羞恥心に配慮した保育を行っている 子どものプライバシーを尊重し、羞恥心に配慮した保育を職員全体で大切にしている。おむつ替え、シャワー、着替えの時はそれぞれの身長に合わせた手作りの衝立をして、プライバシーを保護している。また、幼児クラスでは、看護師からプールでシャワーを使う前にプライバシーゾーンについて健康教育で話をしている。日々の生活の中で、子どもが自分を守る意識を持てるよう支えている。全職員が環境づくりの大切さを共有し、誰もが安心して過ごせる配慮を続けている。 子どもの権利を守り、一人ひとりの気持ちを大切にした保育を追求している 個々の心情を尊重した保育を実践し、各家庭の価値観に応じた個別支援を行うことで、保護者との確かな信頼関係を築いている。育児に悩みのある家庭への支援は、担任だけが行うのではなく、園長、主査も関わるなど組織的に支える体制を整えている。虐待防止や権利擁護などの課題については、外部研修への参加を積極的に推進している。得られた知見は会議で共有し、職員の倫理観や専門性を高めている。常に子どもの権利を最優先に考え、家庭背景に配慮した質の高い保育を組織全体で展開している。			

サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○ 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○ 非該当
サブカテゴリー6の講評		
各種マニュアルを整備し、確認と実践により、組織として対応の統一化を図っている 手引き書として区立保育園全園共通のマニュアル、危機管理マニュアル、杉並区立保育園保育実践方針、保育実践の手引き等を備えている。また、保育理念・目標、保育方針、役割分担表などの事項をまとめた園マニュアルのファイルを、事務所と各クラスに備えている。杉並区立保育園保育実践方針、保育実践の手引きについては、職員一人ひとりに配布している。確認や実践を通してこれらを活用していくことで、職員一人ひとりが組織としての共通事項を踏まえて、統一的な対応をとることができるようにしている。 定められた手順や留意事項を共有し、日々の実践に活かしている 園マニュアルのファイルは、一年を通して必要となる事項から構成されているため、日常的な活用を前提とするものである。それゆえ、疑問があった場合の確認や判断に迷った時に立ち返るものとして、活かしている。また、杉並区立保育園保育実践方針も、区の保育を進めていくうえでのガイドラインとして、全体的な計画や各期間の指導計画の作成、それらに基づく保育実践を通して、日常的に活用している。危機管理や衛生管理などの分野におけるマニュアルも、子どもの安全・安心に関わるため、内容の確認や訓練などを通して活用している。 業務手順に対する定期・随時の見直しにより、業務の安定的な遂行を確保している 杉並区保育実践方針は、社会状況の変化など必要に応じて内容を変更・改訂する仕組みを備えている。区立園共通のマニュアルは、各検討会などで検討して内容を見直している。園マニュアルは、年度末に反省を行い、項目ごとに確認して見直しを行い、毎年内容をブラッシュアップしている。保護者や職員からの意見や要望、仕事の手順の変更等、見直しが必要な場合は、時期を待たずに都度打ち合わせを行い改定している。こうした定期・随時の見直しにより、職員間での認識や対応の共通化・統一化を図り、業務の安定的な遂行を確保している。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4	
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 36 / 36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目
● あり ○ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている ○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している ○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している ○ 非該当
● あり ○ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している ○ 非該当
● あり ○ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている ○ 非該当
● あり ○ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している ○ 非該当
評価項目1の講評	
子どもの「やりたい」という気持ちに寄り添った環境づくりに取り組んでいる 子どもの「やりたい」という想いに寄り添った遊びの環境を整え、意欲が広がるような援助を心がけている。年齢や発達に応じた安全面に配慮しつつ、子どもが主体的に玩具や教材を選んで好きな遊びに没頭できる環境を整え、随時見直している。また、職員が子どもたちの「やりたい」遊びを考え工夫した手作り玩具を整え、室内遊びでも好奇心を刺激するようにしている。職員が子どもの想いや姿に寄り添い、自発的な学びを支える環境づくりを日々積み重ねている。 配慮を要する子どもに対して共通認識を持ち、必要な対応ができるようにしている 保育者は巡回相談や訪問支援を通して個別の関わり方を学び、日々の専門性を高めている。安全面に十分配慮しながら、一人ひとりの特性を理解して友達と交流できる環境づくりを工夫している。配慮を要する子どもクラス仲間として一緒に過ごし、自然な育ちを支えている。園全体で共通認識を持ち、子どもの個性や主体性を尊重しながら、人格の基盤や生きる力を大切に育んでいる。このように全職員が一人ひとりの心に寄り添い、どの子ども自分らしく自己表現ができる保育を実践している。 子どもの気持ちを尊重した対応を行い、より良い援助ができるようにしている 子ども同士のトラブルが起きた際は、安全を確保しつつ状況を丁寧に見守り、一人ひとりの気持ちを尊重して対応している。年齢に合わせて分かりやすい言葉を選び、互いの思いを代弁しながら言葉でのやり取りを支えている。保護者に対しても、成長の過程でこうした経験が大切であることを説明し、深い理解を得られるよう努めている。このように、子どもが葛藤を通じて育つ機会を大切にし、職員が連携して温かく見守っている。保護者との信頼関係を基盤に、健やかな育ちを共に支える体制を整えている。	

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○ 非該当

評価項目2の講評

子どもの生活が安定するよう保護者や職員間での情報共有を図っている

前日の様子や顔色、身体の状態を観察し、体調やけがについて登園時に保護者へ確認して受け入れを行っている。こうした確認事項を各クラスや全体で共有し、それらを踏まえた対応につなげている。降園時には、日中のエピソードを交えて言葉をかけ、保護者に伝えるようにしている。けがによる通院や日中の様子など、直接話す必要がある場合は担任や園長が対応している。保護者への伝達事項は必ず職員間で共有し、漏れのないよう注意を払いながら対応している。

基本的な生活習慣が身につくよう、子どもの成長に合わせて援助している

年間指導計画や月・週単位の計画に生活習慣の自立に必要な経験を盛り込み、個々の発達に応じて着実に力を伸ばせるよう援助している。着脱や衣服の整理、食具の扱い、衛生管理、排泄、挨拶など、子ども自身が意識できるよう、保護者とも連携しながら適切に声をかけている。そして、子どもが「自分でできた」という達成感を持てるよう、温かく見守りながら、日常の積み重ねを通して、基本的な生活習慣が身につくよう支援している。

子どもの年齢や状況に合わせて、必要な休息を取れるようにしている

年齢や発達に応じた基本的な生活習慣の目安を保護者へ伝え、休息の必要性について家庭と園で共通認識を持てるように努めている。日々の活動に加え、家庭での様子を個別に聞き取り、一人ひとりの状況に応じた配慮を徹底している。寝付けない子には無理強いをせず、体を休められるよう環境を整えている。年長児については、クラスや個々の様子を見極めつつ、就学に向けて段階的に午睡時間を短縮している。個別の体調や体力を踏まえ、集団生活の中でも一人ひとりに最適な生活リズムの構築を支援している。

3 評価項目3		
日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		
評点(〇〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○ 非該当
● あり ○ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○ 非該当
評価項目3の講評		
子どもが主体的に遊び込める時間と空間の保障に取り組んでいる 園の環境を活かし、子どもが自主的に活動できるよう職員全体で意識し、生活空間を維持しながら遊びの保障をしている。園庭には様々な稼働遊具や固定遊具を用意して、子ども自ら創意工夫し遊びを展開できるようにしている。各クラスが声をかけ合い協力して、ホールや園庭を使う時間と空間を各クラスに保障している。子どもが主体的に集団活動へ関わることができるよう、担任だけでなく会計年度任用職員も含め、遊びへの参加の促し方や配慮を理解している。 素材や自然物に実際に触れ、体験的に楽しめるよう、環境を工夫している 天気の良い日は積極的に戸外へ出かけ、四季折々の自然を五感で感じられるようにしている。園庭遊びでは、土に触れたり、体を思い切り動かしたりするなど、環境を活かして元気に活動している。また、異年齢の関わりを通じて憧れや敬う気持ちが育まれている。散歩先で見つけた自然物を制作活動に繋げるなど、興味を形にする工夫を凝らしている。豊かな自然環境と集団のつながりを生かし、子どもの主体的な学びや健やかな育ちを職員一丸となって支えている。 子どもが様々な経験を通じて、自分の気持ちを調整する力を育めるようにしている みんなが心地よく過ごせるように、日々の生活を通じて決まりの大切さを伝えている。気持ちの切り替えが難しい時は、成長の大切な一歩として受け止め、子どもが自分で選べる提案をしたり、落ち着くまで心に寄り添ったりしている。手洗いや片付けなどの習慣から、きまりの意味に気づき、自分の気持ちを整える力が育つよう働きかけている。子どもが安心して過ごせるように職員が温かく見守り、一人ひとりの思いに応える援助を積み重ねている。子どもたちの「やりたい」という気持ちを大切に、職員全体で支えている。		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		○ 非該当
評価項目4の講評			
行事は子どものアイデアを取り入れ、楽しく取り組める内容となるよう工夫している 年間計画に沿って様々な行事を実施し、常に子どもの視点に立って発達や興味を捉え、その声を計画に活かしている。遊びの姿や日常の会話からヒントを得て活動に取り入れ、楽しさを実現するプロセスを大切にしている。職員と子どもが共に楽しみながら作り上げる姿勢を重視している。クラスだより等を通じて生き生きとした様子を保護者に伝え、園の取り組みへの理解と共有を深めている。このように、行事を通じて豊かな育ちを支え、保護者との信頼関係を築いている。 みんなでやり遂げる楽しさや喜びを味わえるように取り組んでいる 各行事では、目標の実現に向け、子どもの「やりたい」という意欲を大切にアイデアを出し合い、協力して達成感を味わえるように取り組んでいる。保育者は対話を促して子どもの思いを引き出し、行事の過程における共感や葛藤が成長の糧となるように援助している。何をどのように進めていくかを話し合う中で、思いが衝突することもある。相手の思いを受け入れたり、自分の思いと折り合いをつけたりしながら、協力し一つのことをやり遂げている。こうして作り上げられた行事だからこそ、子どもが精いっぱい楽しみ、自己を表現する機会となっている。 様々な工夫により行事における子どもの様子を伝え、保護者と共有している 園だよりやクラスだより、連絡帳を通じて日々の活動を保護者に伝えている。写真を活用したドキュメンテーションを導入し、活動のプロセスや期待感に満ちた子どもの姿を具体的に可視化している。園外保育の際には、趣旨や準備のポイントを丁寧に解説し、保護者の理解と協力を得られるよう配慮している。送迎時の対話では、活動の意図や子どもにとっての意義を専門的な視点から伝えている。こうした発信を通じ、園の保育への理解を深め、子育ての見通しや成長の喜びを共有することに努めている。			
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		○ 非該当
評価項目5の講評			
保育時間の長い子どもが、落ち着いて好きな遊びを楽しめるように配慮している 長時間保育を利用する子どもが心身ともに安定して過ごせるよう、動と静の活動のバランスを考慮し、園内の空間を有効に活用したメリハリのある環境構成に努めている。子どもが主体的に遊具や遊びを選択できる設定を行い、一人ひとりの活動や対人関係を継続的に見守っている。早朝や夕方の延長時間帯においては、日中の活動から生じた興味や関心の継続性を保障するため、担任と密に連携し、遊びの環境を柔軟に整えている。こうした配慮により、一日の生活リズムの安定と遊びの充実を図っている。 子どもが安心して過ごせるよう、保育体制や環境を工夫している 保育室は一人ひとりが落ち着いて過ごせるように配慮・工夫している。合流の時間は子どもの年齢、人数や状況に合わせ年度ごとに確認し、保育体制を決めている。年度の途中であっても状況の変化に合わせ随時確認・検討している。「遊びたい」という意欲に応えられる環境を準備しつつ、疲れた時には安心して体を休められるよう工夫している。どの子どもにとっても負担が少なくゆったり過ごせるように職員が連携し、遊びの設定や遊具の用意などを行っている。 異年齢児がゆったりと関わり、自然な形で良い関係を築くことができる環境を整えている 保護者や担任からの連絡事項は、職員間で確実な引き継ぎを行い、踏まえるべき情報に基づく対応を徹底している。会計年度任用職員を含む全職員が保育に必要な情報を共有し、園児一人ひとりの遊びや人間関係を継続的に見守る体制を敷いている。長時間保育を利用する子どもたちは、朝夕の合同保育を通じて自然な形で異年齢児と交流している。日中の保育においても互いの存在を気につけ、挨拶や関わりを持つなど、兄弟姉妹のような親密な関係性が築かれており、豊かな社会性の育ちを促している。			

6 評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評価

標準項目

●

あり

○

なし

1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している

○ 非該当

●

あり

○

なし

2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている

○ 非該当

●

あり

○

なし

3. 子どもの体調（食物アレルギーを含む）や文化の違いに応じた食事を提供している

○ 非該当

●

あり

○

なし

4. 食についての関心を深めるための取り組み（食材の栽培や子どもの調理活動等）を行っている

○ 非該当

●

あり

○

なし

5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている

○ 非該当

評価項目6の講評

落ち着いた環境の中で、子どもが食事を楽しく食べられるよう工夫している

給食は栄養バランスを考慮し、季節の食材を取り入れた区の統一献立を使用して自園で調理している。ミーティングでは当日の献立の喫食状況や形態について意見交換を行っている。食事テーブルの配置や動線を整理し、椅子やテーブルは子どもの年齢や体格に合ったものを用意している。いつもと同じ席で保育士と会話を楽しみながら、落ち着いた雰囲気ですぐ食べられるよう工夫している。子どもの食事の言葉かけや介助については気持ちを尊重し、楽しい食事となるように職員全体で配慮している。

アレルギー児の食事については、誤食のないよう細心の注意を払い提供している

食物アレルギー等の個別対応が必要な場合は、「アレルギー疾患生活管理指導表」に基づき、マニュアルに則って除去食や代替食で対応している。前月に保護者と献立表及び成分表の項目を確認し、食材を特定している。アレルギー児の給食については、前日の全体ミーティングで内容を共有している。当日は個別トレーで用意し、提供直前に担任と調理員が原因食材の除去や代替を目視し、口頭確認を経てから配膳している。必要な手順や対応については、全職員が共通理解を持って取り組んでいる。

食に対する興味や関心を深める取り組みを積極的に行っている

年間を通して、食に対する興味や関心を育む活動を保育に取り入れている。野菜などの栽培を通して、生長や変化を観察し、匂いや感触に触れ、収穫したものを食べる経験もしている。栄養素の働き、食べ物と身体の関係などについても、献立と関連付けて伝えている。地図を掲示して、食材が「どこで作られたものなのか」を視覚的に確認できるようにしている。こうした食育の取り組みを発信することで、保護者の関心も促している。

7 評価項目7

子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評価

標準項目

●

あり

○

なし

1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している

○ 非該当

●

あり

○

なし

2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている

○ 非該当

●

あり

○

なし

3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み（乳幼児突然死症候群の予防を含む）を行っている

○ 非該当

評価項目7の講評

子どもが健康や安全に関心を持ち、自分自身の身を守るように働きかけている

連携園の看護師との協力のもと、一年を通して健康教育を実施している。子ども自身が自分の健康や安全に関心を持ち、危険なことから身を守り、病気やけがに対する意識を持てるよう、年齢に合わせ子どもがわかる言葉で伝えている。うがいや手洗い、便の拭き方、プライベートゾーンの話等を専門職の立場からしてもらうことで、子どもも興味を持ってじっくりと話を聞き、実践する姿が見られている。生活や遊びの中での体験的な学びを通じ、病気や怪我の予防に対する意識を高めることで、子ども自身が主体的に判断し行動できるよう支援している。

専門機関との連携のもと、適切な対応ができるように体制を整え備えている

毎月保健だよりを発行し、定期的実施する各健康診断等のほか、季節や時期に応じた健康に関する情報等を発信している。園のしおりでは、園での健康管理について説明し、感染症対策や、保育中に発生したけがや病気の際の対応、園ができる応急処置等について明記している。薬については、区立園共通の対応として預からないことを原則としている。慢性疾患などのために薬の使用が必要な場合には、主治医が記入した与薬申込書を提出してもらった上で、保護者の代理として与薬を行う体制を整えている。

保護者と連携して、子どもの健康維持に向けて取り組んでいる

乳児クラスは連絡帳を活用し、保護者と健康状態の共有を図っている。幼児クラスは登降園時に保護者より健康状態を確認して把握している。健康に関する情報は園内に掲示しており、乳幼児突然死症候群（SIDS）については年度当初にチラシを配付して周知を図っている。また、毎月保健だよりを発行して季節に応じた健康維持に関する情報を提供している。入園前の個人面談で個々の健康状況を把握し、乳幼児期に必要な体の発達を知らせている。感染症情報は保育ICTシステムで速やかに配信し、子どもの健康を維持できるよう家庭との連携を図っている。

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○ 非該当
評価項目8の講評			
保護者の相談に丁寧に対応し、個々の事情に応じて必要な支援を行っている 入園時の面談や日々の連絡帳、送迎時の対話を通じ、保護者の就労状況や育児の悩みをきめ細かく把握している。収集した情報は担任・園長・主査間で迅速に共有し、組織として支援の方向性を検討する体制を構築している。個々の事情に応じた保育時間の柔軟な変更や具体的な助言など、実情に即した支援を講じている。園全体で家庭に寄り添う見守りを継続することで、保護者との強固な信頼関係を築き、安心して子どもを預けられる保育環境の維持・向上に努めている。 保護者同士の交流を深め、子どもの発達や育児等について共通認識を促進している 各クラスで定期的に保護者会を開催し、年間保育計画に基づいた子どもの成長や園の保育方針を説明することで、保護者との共通認識の形成を図っている。運営にあたっては、担任の保育観を伝えとともに、懇談や交流の時間を設け、子育ての悩みを共有できる場を提供している。これにより、保護者同士の互助的なつながりの構築を促進している。個人面談では、園と家庭における子どもの姿を多角的に振り返り、個々の発達課題や支援方針を丁寧に共有することで、子育てのパートナーシップ構築に努めている。 子どもの成長・発達を伝え、保護者と共通認識を得られるようにしている 保護者が子どもの成長に見通しを持ち、喜びを共有できる支援を重視している。行事の参加など、親子で共に取り組み、活動に共感を得られる機会を設けている。保育参観・参加は、保護者の希望に応じて時期を問わず随時実施できる体制を整えている。また、保護者の要望や意向を迅速に把握し、保育運営に反映させることを園全体の基本方針としている。寄せられた意見や質問に対しては、組織としてスピード感を持って対応を検討し、速やかな実施に繋げる体制を構築している。			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○ 非該当
評価項目9の講評			
地域全体のつながりを活かした活動により、子どもの経験の幅を広げている 近隣の方々と自然に挨拶を交わし、声をかけ合う等、様々な大人との関わりの中で子どもは社会への関心を広げている。中核園の年長交流では、就学先の近い地域の子どもたちが出会い、交流している。また、清掃事務所職員の協力により、ごみの分別や、ごみが積み込まれていく様子を観察できる清掃車(ごみぱっくん号)を使用し、ごみの積み込み体験をしている。高齢者活動施設(ゆうゆう館)では、高齢者とゲーム(去年は輪投げ)などを通して交流している。職員以外の人との関わりを通して、多様な経験を積み、様々な学びを得ている。 地域との連携のもと、人との関わりを通して、刺激を受けている 園庭開放に地域の親子の参加を呼びかけ、園児と一緒に遊ぶ機会を設けている。参加した地域親子と在園時が、自然に触れ合い関わる姿が見られている。また、中核園事業で行われる交流事業や小学校区の連携事業に積極的に参加している。5歳児は、幼保小の連携で小学校を訪れ、色々な体験や交流を行ったり、就学前の交流に参加したりして、就学への期待感を膨らませている。また、消防署の職員を招いた避難訓練では、消防車も来てくれたことで、さらに子どもの意識が高まった。社会への関心を広げ、ルールを知ることにもつながっている。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	豊かな保育を展開するため、子どもの発信から様々な工夫をして取り組んでいる	
内容①	子どもが主体的に集団活動に関われるよう援助し、活動を積み重ね力を合わせてやり遂げる喜びや楽しさを味わうことができるようにしている。子どものアイデアや発信を最大限に尊重し、保育者はそれを逃さず、よく聞き取り子どもの思いに寄り添っている。子どもの「やりたい」という思いが実現するように日々の保育の中で考え取り組んでいる。子どもの発想や気づきに注目して対話を重ねながら、子ども同士が思いを伝え合い一緒に考えながら展開させることができるよう、プロセスを大事にして働きかけや支援をしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル②	保護者との信頼関係を深め、子どもの成長を共有できるよう取り組んでいる	
内容②	保護者が子どもの成長を知り、育ちの見通しを持ち、大きくなっていく姿を待ち遠しく楽しみに思いながら子育てができることも、保護者支援のひとつであると考えている。保護者会などでは、園が大事にしている保育について丁寧に伝えている。そして、保護者の話を聴き、子どもを中心に「子育て」に取り組んでいる。システム配信を活用して活動の様子を知らせ、子どもの成長・発達に関する情報を積極的に発信し、保育の見える化を図ることで、理解と共有につなげている。園生活を楽しむ子どもの姿を知ることによって保護者の安心と信頼につなげている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-5-2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している
タイトル③	子どもの人権を念頭に置き、園ができる支援について考え全職員で取り組んでいる	
内容③	職員は日頃から保護者支援の意識を持ち、日々のコミュニケーションを大事にしている。「子どもの人権」を念頭に置き、職員一人ひとりがより良い保育へ向け、職務に取り組んでいる。個々の子どもが持つそれぞれの思いをしっかり受け止め、保護者の願いに気づき、寄り添う支援に力を尽くしている。日々の保育園での子どもの姿や思い、取り組みの様子についてできるだけ伝えるように努め、多様なニーズを持つ保護者が安心して子育てができるようにしている。園ができることを考え、共に育ち合うことを大切に園全体で保育を進めている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	園の環境を活かした自然な異年齢交流が行われている
	内容	計画に基づくものに加え、普段から自然な形で異年齢同士が互いの存在を認め、交わり、豊かな経験を積んでいる。室内環境を活用・工夫してクラス間を行き来し、クラスを超えて親しんでいる。ともに遊び、活動を共にすることを通して、リードしたりされたり、相手を思いやったり、思いやられる心地よさを味わったり、年上の子どもの心強い姿に憧れを抱いたりしている。成長・発達の見通しに立った職員の関わり、意図やねらいに基づく環境設定などを背景として、相互の関わりを通して子ども自身が育ちあっていく関係を作り上げ、展開させている。
2	タイトル	子どもが主体的に関わりながら自分のやりたいことが実現できるように支援している
	内容	子どもが「やりたい」と思う遊びを見つけ、創造的に遊び、集中できる環境づくりに取り組んでいる。子どもが興味・関心を示した事象や出来事を保育者がキャッチし、遊びが広がるような関わりを目指している。また、子ども同士で話したり、自分で考え、相手の思いを受け入れたりする経験や学びを大事にしている。職員は子どもの意見を聞き、子どもが安心して主体的に集団活動に関わり、友達と協力しながら夢中になって遊べる環境を整え、やり遂げる喜びを味わうことができるよう活動を援助している。
3	タイトル	より良い保育を行うために職員同士で協力できる職場の気風がある
	内容	比較的小規模な職員集団である点を活かし、積極的な対話により共通認識や相互理解を深め、日々の円滑な連携につなげている。園長や主査を中心に個々の職員の思いを受け止め、また職員間でも互いの声を受け止める実践を積み重ねている。こうした取り組みが、役職や立場に関わらず誰もが安心して自分の意見、アイデア、懸念点、問題点などを率直に発言できる風通しの良い職場環境を作り上げることにつながっている。日々のミーティングで体制を組み、休憩のとりやすさを含め、働きやすい環境にするなど、職員同士が協力し合う気風がある。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	子どもの人権を大切に必要に対応ができるよう職員が常に学び合っていく環境を整える
	内容	子どもの人権を大切にし、子どもを尊重する保育について考え「適切な保育はどのようなことか」という視点に立ち、園の保育を考える討議を行ってきた。今後も引き続き人権について学び合い、子どもの人権に関連付けて、危機管理についても話し合っている。良くないと考えられる関わりや何が良いのか、具体的な言動について振り返り、園内で子どもの尊厳が守られ、自己を発揮して安心して過ごせるため職員が意思統一を図り、今後も継続して取り組むことを課題としている。
2	タイトル	日頃から保護者との信頼関係構築に努め、子どもの育ちを共有し、保育を伝えていく
	内容	日頃より保護者とのコミュニケーションに努め、送迎時の声かけや掲示、システム活用によるおたよりの発信等を通じて保育の共有を進めている。保護者の話から子育ての悩みや保護者自身のこと等を職員が傾聴し、必要に応じて面談を行うなど、丁寧な対応を心がけている。今後も、子どもの健やかな成長を支え、保護者と共に育みながら子どもの姿を共有することができるように、子どもが園生活から様々な学びを得ていることを積極的に示し、遊びや活動のねらいをより明確に伝え、さらに保育への理解を図っていくことを課題としている。
3	タイトル	職員一人ひとりが意識を持ちワークライフバランスに取り組んで行く
	内容	職員各自のワークライフバランスを実現していくことは、より良い職場環境の整備だけでなく、より良い保育の継続にも不可欠である。その意味では、経営層と共に個々の職員もこれまで以上に高い意識を持って取り組んでいくことが必要となる。各自の業務の現状や見通しを見える化していくことは、さらなる全体共有や相互フォローにつながる。また、システムの有効活用は、事務の効率化や簡略化につながる。様々な工夫により、個々の力を一層発揮し、無理なく働き続けられる環境を維持していくことを課題としている。

2. 四宮保育園

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

2026 年 2 月 28 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 156-0043

所在地 東京都世田谷区松原3-38-16-107

評価機関名 株式会社にはほんの福祉ネット

認証評価機関番号

機構 06 — 168

電話番号 03- 6379- 5156

代表者氏名 永峯 治之

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①		経営	H1901102
	②		福祉	H2201084
	③		福祉、経営	H2301066
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	四宮保育園			
事業所連絡先	〒	167-0023		
	所在地	東京都杉並区上井草2丁目28番3号		
	TEL	03-3390-5288		
事業所代表者氏名	高橋 聖子			
契約日	2025 年 6 月 20 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 8 月 1 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 10 月 22 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 8 月 1 日			
自己評価結果報告日	2025 年 10 月 22 日			
訪問調査日	2025 年 12 月 4 日			
評価合議日	2025 年 12 月 4 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	区担当者との打ち合わせにより全体の流れ、留意事項の確認を行った。その後、事業所にて事前説明を行い、オンライン形式での利用者調査や職員アンケートの実施方法について説明を行った。訪問調査前には当日の訪問者、タイムスケジュール、確認予定の書類について案内した。訪問調査では施設見学もあわせて行い、実態の把握に努めた。合議では、訪問者2名と他の1名、事務局により報告内容の精査・修正を行った。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- ☒ 機構が定める部分を公表することに同意します。
- ☐ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- ☐ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2026 年 2 月 28 日

事業者代表者氏名 園長 高橋 聖子

印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） ・子どもの健康・安全・情緒の安定を基本とし、子どもの自主性や創造性を大切にして、発達に応じた保育をします。 ・保育園ならではの広い園庭を利用し、五感を使った経験を取り入れます。 ・保育園と保護者と情報を共有し、共に考え、子どもの成長を見守り共育てをしていきます。 ・地域における子育て支援をしていきます。 ・より良い保育を目指して職員の連携を図ると共に、職員集団の資質の向上に努めます。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） （1）職員に求めている人材像や役割 ・子どもや保護者の気持ちに寄り添った保育を行う ・保育の専門家としてより良い保育を目指し、保護者や子どもとのかかわりを日々振り返りながら前向きに課題に取り組む ・保育の仕事に誇りを持ち、やりがいを感じながら保育を楽しみ向上させる ・職員、保護者、地域の方と協力、連携をとって保育を行う ・自分の考えや思いを、ほかの職員と共有し、課題解決をしていくことができる職場環境作りを行う （2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ・自分を大切にしながら、日々の保育がより豊かになるよう、自己研鑽を行い一人の人間としていきいきと生きる。 ・子ども一人ひとりの人権を大切にしながら、子どもや、保護者の気持ちに共感しながら保育を作り上げていく。

調査対象

複数児利用世帯は最低年齢児1人を対象として実施世帯数を絞り、調査対象者に対し実施。

調査方法

WEB回答システムを活用。機関が作成した二次元コード記載の案内を事業所を通して各家庭に配布。各家庭においてそれを読み込んだ上で、個別に匿名で回答。

利用者総数

74

利用者家族総数(世帯)

74

共通評価項目による調査対象者数

74

共通評価項目による調査の有効回答者数

41

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

55.4

利用者調査全体のコメント

＜総合的な満足度＞

「満足」88%、「まあまあ満足」12%、計100%という満足度が示された。

＜調査結果の講評について＞

・肯定的な評価(「はい」との回答)が全体に占める割合についてのみ、記述した。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	41	0	0	0
回答者の100%「はい」と回答した。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	39	2	0	0
回答者の95%「はい」と回答した。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	35	6	0	0
回答者の85%「はい」と回答した。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	36	5	0	0
回答者の88%「はい」と回答した。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	26	1	0	14
回答者の63%「はい」と回答した。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	32	9	0	0
回答者の78%「はい」と回答した。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	30	10	0	1
回答者の73%「はい」と回答した。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	36	5	0	0
回答者の88%「はい」と回答した。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	38	3	0	0
回答者の93%「はい」と回答した。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	37	3	1	0
回答者の90%「はい」と回答した。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	38	2	1	0
回答者の93%「はい」と回答した。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	33	3	0	5
回答者の80%「はい」と回答した。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	38	3	0	0
回答者の93%「はい」と回答した。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	29	3	0	9
回答者の71%「はい」と回答した。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	35	5	1	0
回答者の85%「はい」と回答した。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	33	3	0	5
回答者の80%「はい」と回答した。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	39	0	0	2
回答者の95%「はい」と回答した。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリー1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリー1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○ 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○ 非該当
	● あり ○ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○ 非該当
	カテゴリー1の講評		
	園が目指していることを明示し、保護者や職員への理解を深めている 区立の保育施設として、児童福祉法や関連法令の根拠の下、区の基本理念やビジョンなどを運営や保育の基礎としている。年度当初には保育目標を達成する大枠となる全体的な計画を通して児童憲章、園の保育理念・保育方針・保育目標を確認している。これらを園内の各所に掲示することで職員の意識を高めると共に、保護者への周知を図り、基本に立ち返る働きかけを行っている。また、係の目標申告を作成して職員に周知し、一年間の目標を明示している。保護者に対しては、新入園児説明会、年度当初の保護者会や園だより、クラスだよりでも説明している。		
	園運営の方向性を提示し、自らの役割と責任を果たしている 年度当初の職員会議で、経営層の年間目標を職員に伝えている。組織目標から係の目標シートを作成し、これに基づき園長自身も具体的な年間計画を作成し、自らの役割と責任を職員に伝えるなど、組織の方向性や経営層の役割を明示することで、園運営をリードしている。園長・主査・向上リーダーが、保育の質の向上を図る中心となり、大切にしたい保育の実現のために方向性の共有を図っている。園運営に関わる変更、改善事項などが生じた際には、園だよりや保護者会などで速やかに保護者に伝えている。また個々の意見については個別に丁寧に対応している。		
	園で定めた手順に沿って、検討・決定・周知・実行を着実にやっている 毎週の定例及び毎日のミーティングでは誰もが意見を出しやすい雰囲気づくりを心がけ、話しやすい場を整えている。職員の意見をできるだけ吸い上げ、職員の主体性を尊重した運営を心がけている。重要な案件についてはその経緯を説明・周知している。連絡・確認事項は、ミーティングなどにより迅速に伝え、共有を図っている。会計年度任用職員に対しても個別に声をかけるなど、必要な情報を共有している。保護者には、園での決定事項やその経緯、内容などの情報を園だよりや掲示などで伝えている。		

2			事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		カテゴリー2
サブカテゴリー1(2-1)					
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況		6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			評点(○○○○○○)		
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している				○ 非該当
● あり ○ なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している				○ 非該当
● あり ○ なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している				○ 非該当
● あり ○ なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している				○ 非該当
● あり ○ なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している				○ 非該当
サブカテゴリー2(2-2)					
実践的な計画策定に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況		5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している			評点(○○○)		
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している				○ 非該当
● あり ○ なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている				○ 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる			評点(○○)		
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる				○ 非該当

カテゴリー2の講評

様々な方法で収集した情報を検討・活用して園運営に活かしている

保護者については、保護者会や個人面談などを通して、園への要望などを把握している。日々の登降園時のやり取りや連絡帳等からも、保護者の思いをつかみ、対応の見直しなどに役立てている。職員は、個人の目標申告シートなどをもとに園長とのヒアリングを行っている。個別に話を傾聴し、意向を把握している。会議等の打ち合わせでは、活発な意見交換により、園運営の課題解決につなげている。改善点については、係の目標シートや個人の目標申告シートに反映させている。

地域の福祉の現状について情報収集やニーズを把握し関係各所との関係を深めている

区や課の方針を受け、様々な事業を展開している。福祉事業や区の施策の現状や動向については、区立園長会、区内広報などで随時確認している。また、区内の7つの各区域に1つ指定される「中核園」として、保育施設間で連携を図り、保育の質の向上、人材育成、情報共有などに取り組んでいる。こうした地域との関わりを通して収集した情報は、回覧やミーティングなどにより、速やかに職員に周知している。近隣の関係機関との地域ネットワーク会議や連絡会に参画して情報交換を行い、顔の見える付き合いを継続している。

目標の達成に向けた意見交換を行い計画の実行に取り組んでいる

区の中長期計画、課の組織目標を受け、係の目標申告を作成している。杉並区保育実践方針等をもとに全体的な計画を作成し、年度末反省をもとに職員と共に係の目標シートを作成して園内の取り組みを明確にしている。目標シートの各項目に取り組み内容を記載し、達成度合いを図る目安としている。園運営については、各プロジェクトを中心にして計画内容のさらなる充実を図っている。議題を事前に決定・通知し、意見を集約し検討して会議に臨むなど、限られた時間を効果的に活用し、目標達成に向けて着実に取り組んでいる。

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	☐ 非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	☐ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	☐ 非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	☐ 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	☐ 非該当

カテゴリー3の講評

社会人として適切な行動ができるよう取り組み、組織としての責務を果たしている

社会人として、また福祉サービスに従事する者として、守るべき事項を全体に周知するため、保育課からの資料を活用して学ぶ機会を設けている。園長会で得た情報のほか、公務員倫理や規範についても繰り返し伝え、意識の向上を図っている。年度当初には、会計年度任用職員も含めて資料を提供し、随時助言や指導を行い、子どもに対する行動や言葉の選択など、適切な保育や守秘義務について確認し共有している。虐待が疑われるような情報をつかんだ際は、速やかに園長に報告し、必要に応じて関係機関と連携を取り、迅速に対応する体制を整えている。

地域へ園の取り組みを開示し様々な意向を把握して対応できる体制を備えている

苦情・要望などの相談窓口について、入園説明会で園の概要と共に保護者に説明し、相談の仕組みについて案内している。園長を苦情受付・解決責任者として位置づけ、いつでも相談に対応できる体制を備えている。担任・主査・栄養士など、相談を受けた職員は必ず園長に報告し、会議などで情報を共有している。また、実習生や体験学習の受け入れなど、次世代の人材の育成にもつながる取り組みも積極的に行っている。園庭開放を含む子育て支援事業の取り組みや日々の活動の様子なども開示し、透明性の確保を図っている。

様々なネットワークに参画し、地域の一員として園の役割を果たしている

園庭開放やふれあい保育、緊急一時保育など、地域の子育て世帯のニーズに応える事業を行っている。また、中核園として、担当年齢別の担任や看護師や栄養士など職員が交流や研修を中心となっており、園の持つ専門分野の知識を地域に還元ができるよう努め、園児の交流にも取り組んでいる。そのほか、近隣小学校との連携による行事などにも参加している。こうした取り組みの積み重ねを通して、地域連携に対する職員の意識も高まっている。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○ 非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○ 非該当
カテゴリー4の講評		
想定される様々なリスクについて、マニュアルを定め訓練を実施している 区として業務継続計画を策定し、職員にも周知している。リスクへの対策を常に話し合い、具体的な行動について職員間で共有し判断している。危機管理マニュアルや園マニュアルをもとに、事故、感染症、災害、情報セキュリティ、防犯対策などの対応を確認し、役割分担を行い、各種事態に備えている。年間避難訓練計画を定め、地震や火災、それらの際の併設施設との協力など、非常時に備えた訓練を実施している。訓練後は課題の抽出を行い、状況に応じて臨機応変に対応できるようにしている。 リスクに対して危機意識を持ち必要な対策をとり、危険回避と再発防止に努めている 保護者には、リスクへの対策について新入園児説明会や保護者会、園だよりなどで伝えている。園のしおりには、安全・防犯の対策、災害時の対応などを記載し、緊急時の園の対応を案内している。年度当初の保護者会でも、緊急時安全メールについての確認などを含め、災害時の対応について改めて説明している。感染症の罹患については速やかに園全体へ周知している。ヒヤリハットを含めたけがなどについては、原因の分析、振り返り、対応策の検討など、職員全体で情報を共有し、再発防止や深刻な事故の防止に取り組んでいる。 情報管理を適切に行い必要な情報を活用できるようにしている 区の情報セキュリティ基本方針や情報セキュリティ対策基準に基づき、保育課内および園内において、適切な情報セキュリティマネジメントを行っている。園では、個人情報を含む書類は施錠管理し、持ち出しと返却時には持ち出し管理簿に毎回記入している。画像保存機器類の持ち出しと返却についても、管理簿を活用してチェックを徹底している。個人情報の紛失や漏洩が発生しないようにダブルチェックを行うなど、慎重かつ厳格な管理を行っている。		

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○ 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○ 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○ 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○ 非該当

サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	☐ 非該当
カテゴリー5の講評		
目指す職員像の実現のため、長期的な展望で人材の確保や育成に取り組んでいる 区の人事課や保育課と園との間で連携を取り、人材確保を行っている。採用後には、配置園においてOJTを含む計画的な指導を行っている。そして、専門性を身につけ、個々の能力を活かせるように、区の人材育成方針や職員人材育成事業実施計画に基づいた研修を実施し、育成に努めている。職員一人ひとりの適性を把握しながら育成を図り、専門的な知識を高めながらキャリアアップを支援している。職員自身が具体的に自分の職責や果たすべき役割への筋道を見据え、個人と組織の目標達成に向けて意識して取り組んでいけるようにしている。		
中長期的な見通しを立てた計画により職員の意欲向上を支援した育成に取り組んでいる 人事課が企画する職層研修によりライフプランや業務改善計画の立案を行い、中長期を見据えた人材育成計画を策定している。区の目標申告シートを活用して職員の状況を把握し、計画的な育成を行っている。職層研修、会計年度任用職員研修、実務研修など、勤務形態を問わずキャリアに合わせた研修を実施している。新任職員には、長期的人材育成計画に基づく育成を行っている。育成担当者が適切な指導を行うことができるよう、担当者研修や会議など、支援する仕組みを確立している。園全体で職員を支援・育成していく方針・姿勢を実践している。		
良好な人間関係と安心して働き続けられる職場環境づくりに取り組んでいる 職員間の良好な関係を構築するため、全職員の仕事内容や関係性を園長や主査が日頃から聞き取り、クラスリーダーが状況を把握して、気持ち良く働けるように調整役を担っている。また、会議等では互いの意見を肯定的に受け止める意見交換を実践している。日頃からコミュニケーションを図り、個人の目標申告シートに基づく職員とのヒアリングにより、思いや不安、悩みなどを聞くなど、相談しやすい関係づくりに努めている。さらに職員同士の連携により工夫や改善を行い、意欲の向上を図り、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。		

7		カテゴリー7
事業所の重要課題に対する組織的な活動		
サブカテゴリー1(7-1)		
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている		
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)		
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 保育の質の向上を目指し、職員一人ひとりが主体的に学びながら専門性を高めていくことを目標として掲げた。その実現のために、クラス内で話し合う時間を増やし、実務研修や園内研修で得た知見を積極的に共有してきた。会議においては、検討事項を事前に各クラスで協議してから参加する仕組みを導入した。子どもを肯定的に捉え、各家庭に寄り添う視点を大切にしながら、クラス発信で課題を園全体へ共有し、解決策を検討してきた。これらの取り組みの結果、会議が円滑に進行するようになり、職員の意識が高まって活発な意見交換が行われる場へと変化した。また、決定に至る経緯を記録に残すことで、一人ひとりが保育の意図を深く理解し、自身の日常的な実践に活かせるようになった。今回の園内研修で5歳児の遊びや生活習慣に関する具体的な協議を通じ、園全体の保育の質が向上した。今後は、職員がさらに安心して自己を発揮して仕事に従事できるよう、職員自身の権利や人権についても対話を深め、より良い職場環境を構築することを目標に据えている。		
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった	
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である	
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である	
評価項目1で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評 個人の研鑽を組織全体の知恵へと変換する仕組みづくりに、保育の質を構造的に高めようとする意志がうかがえる。事前の対話を経て全体会議に臨む重層的な協議プロセスは、一人ひとりが自らの意見に責任を持つ主体的な参画意識を醸成している。課題の抽出から解決までをボトムアップで進める手法は、現場の実感に即した実効性の高い保育実践を支える基盤となっている。また、意思決定の過程を可視化し共有する文化は、保育の意図への深い洞察を促し、職員間の信頼関係を進化させている。こうした学び合う集団としての成熟は、子どもを肯定的に捉える眼差しを豊かにし、家庭への細やかな寄り添いへと還元されている。職員自身の権利や人権にまで対話の対象を広げる姿勢は、安心感を持って仕事に従事できる環境を整え、保育の質を持続させるための土台となっている。		

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

就学を見据えた一貫性のある保育を実践し、保育計画を段階的に見直すため、自園の年間計画と発達段階への理解を深め、全職員が共通の方向性を持って保育を展開することを目標として掲げた。その実現のために、まず職員会議にて「五歳児までに育ってほしい姿」や経験してほしい活動を洗い出し、小グループによる対話を重ねた。次に、話し合った内容を全体で共有することで、自園が大切にすべき価値観を明確化した。さらに、各年齢でどのような具体的な働きかけや環境設定が必要か、詳細なイメージの共有に取り組んだ。これらの取り組みの結果、年齢ごとの適切な援助の指標が明確になり、目標達成に向けた意識を各自が持てるようになった。その上で、計画を固定化せず、日々の生活の中で子どもの意欲や興味を的確に捉え、翌日の活動へつなげる子ども主体の保育が実践された。そのプロセスを通じて、職員が専門職としての自信を持ち、主体的に保育に向き合う姿が見られた。今後は、一貫性のある計画を土台とし、一人ひとりの育ちに寄り添う実践を深めていく方針である。あわせて、就学への円滑な接続を意識した環境構成を継続することを目標に据えている。

目標の設定と取り組み

- ☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- ☐ 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- ☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- ☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評

就学に向けた一貫性のある育ちを保障するために、長期的な展望と日々の実践を接続させる組織的な枠組みを構築している。発達の指標を単なる知識に留めず、全職員が対話を通じて具体的な経験や価値観として共有するプロセスは、園独自の保育の軸を強固なものにしている。各年齢における援助の方向性が明確化されたことで、職員は自信を持って環境構成や関わりを選択し、計画に縛られない柔軟な応答を可能にしている。子どもの微細な興味を捉えて活動を展開する実践は、専門職としての主体的な姿勢を養う基盤となっている。こうした共通の視座に基づいた重層的な見守りと円滑な接続への配慮は、一人ひとりの育ちを安定的かつ豊かに支える質の高い教育環境の実現に寄与している。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目
	サブカテゴリ1
1	サービス情報の提供 サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4 評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している 評価 標準項目
	● あり ○ なし 1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している ○ 非該当 ● あり ○ なし 2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている ○ 非該当 ● あり ○ なし 3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している ○ 非該当 ● あり ○ なし 4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している ○ 非該当
	サブカテゴリ1の講評
	区のホームページやアプリ等を活用して園の情報をわかりやすく提供している 区のホームページや区の公式アプリケーション「すぎぼよ」、杉並区の保育施設ガイドブック、園のしおりなどにより、園の情報を発信している。ホームページでは園の住所や電話番号、対象年齢、定員、保育時間、保育目標などの概要を伝えている。そのほか、中核園としての連携や園の環境や活動等、園の特色を紹介している。実際の活動の様子や園全体の環境等の写真を掲載してより園の特徴をわかりやすく提供している。ふりがなやかたかな表記などを施した情報媒体も用意している。 行政や関係機関と連携を取りながら情報の提供に努めている 区の主管課には中核園事業、子育て支援事業の取り組みや感染症の状況、近隣の関係機関との交流実施などについての報告や必要なやり取りを常に行い園の現況を発信して共有に努めている。地域のネットワーク会議等に参加して情報交換等を行い、地域とのつながりと連携を図っている。利用希望者に対し、園庭開放、ふれあい保育や育児相談にも対応している。行事等、自園の取り組みをわかりやすく発信している。また、中核園として様々な取り組みを実施しており、職員はより意識を持ち専門的な立場から支援に関わり地域のニーズを把握している。 問い合わせや見学の要望には個別の状況に応じ、できる限り対応している 見学希望の受付について、区として都の施策(保活ワンストップサービス)を導入している。電話などによる受付も継続している。個々の要望に応じて日程を調節し対応している。見学当日は、園内を案内しながら、園が大事にしていることや活動について触れ、入園時に準備が必要な持ち物や保護者参加の行事等、概要を伝えている。また、保育体験(ふれあい保育)の利用も積極的に受け入れ、実際に園生活や食事を体験してもらうことで、園に対する理解の促進につなげている。

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		☐ 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		☐ 非該当
サブカテゴリー2の講評			
個別の面接と入園説明会を行い、安心して入園できるようにしている 身体測定や園医による健康診断を行うほか、入園までの生活状況や健康状態、食事の状態など、保育に必要な子どもに関する情報を収集している。また、保護者の就労状況や子育ての意向なども確認している。乳児や食物アレルギー、健康上の問題など対応が必要な場合は、栄養士や看護師も面談に加わっている。説明会では、入園までに準備するものや個人情報に関する事項、入園後のルール、緊急時の取り決めなどを、しおりや重要事項説明書などにに基づき、丁寧に伝えている。 無理なく新しい環境へ適応できるよう子どもの様子を見ながら適切に支援している 入園当初は保護者と相談して、短時間の保育から始める慣れ保育を行っている。慣れ保育はおおむね一週間をめぐりに子どもの状況や保護者の事情を考慮し、子どもの様子を見ながら無理なく予定の保育時間まで延ばしている。入園時に提出された家庭連絡票や入園までの生活状況、健康調査票、食事調査などの書類は、支援に役立てる基礎資料としている。保護者からは家庭での保育の状況や、子どもが落ち着く対応・好きな遊びなどを職員に伝えてもらっている。保護者の不安を軽減し、子どもが園の環境に慣れ、安心して過ごすことができるように配慮している。 支援の継続性に配慮した支援や関わりを大切にしている 就学後の環境の変化や学校生活等への不安については、5歳児クラスの保護者会にて共有し、児童館長を招いて質問等に答えてもらうなど、解消できるように工夫している。その他、個人面談等で園児の姿や課題を共有し、学校への円滑な移行への支援をしている。就学へ向けて小学校から提供される情報を保護者に伝えている。就学先の学校には保育園児童要録を提出し、支援の継続に配慮している。転園や退園する際は、保護者や子どもの不安を軽減できるように、次の生活へ向けて声をかけ、いつでも相談できることを伝えている。			

サブカテゴリ3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○ 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている	○ 非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○ 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○ 非該当

サブカテゴリー3の講評

保育に必要な情報を適切に収集・記録し、全体で共有している

入園時には健康診断を実施して健康状態を把握し、個別面接時に入園までの生活状況や家族構成、出生・成育歴、予防接種歴、発育状況、食事、排泄、睡眠、好きな遊び等、保育に必要な子どもの心身や生活の状況を把握し記録している。収集した個人情報、取り扱いに十分注意しながら全体で共有している。連絡帳や登降園時に聞き取った日々の体調や連絡事項についても、必要に応じてミーティング等で伝達し、園日誌に記載して園長や担任間で共有している。

子どもの個別の発達や状況を踏まえた計画を作成し、共通理解に努め、取り組んでいる

「杉並区立保育園保育実践方針」を踏まえて策定された「全体的な計画」に基づき、年齢毎の発達を考慮して、年、月、週の各期間における指導計画を作成している。保育ICTシステムの書式に沿って作成し、内容の入力方法はカリキュラム係で検討・決定している。月ごとにテーマを決め、「散歩」「絵本」「個別を中心に」等、各クラスで話し合ったことを全体で共有している。乳児クラスおよび特別な配慮を必要とする子どもについては、個別に指導計画を作成している。計画の基づく保育の様子は、掲示や配信により、保護者と日々共有している。

職員間で子どもの状況の共有に努め、保護者にもわかりやすく伝えている

毎日のミーティングで保育体制、午前中の活動、保護者対応、健康状態、けがの報告等、連絡事項を確認し確実に情報共有している。朝夕保育時に保護者から聞いた情報も、漏れのないように当番担当者から担任や園長に連絡している。子どもの状況等の共有化のため、記録の仕方に留意している。一人ひとりの姿や課題に対して、「保育者がどのようなアプローチを行い、それによって子どもがどのように変化や成長が見られたのか」がわかるようにしている。また、「学びの物語」と題して、各自事例を持ち寄り、保育の振り返りと検討を重ねている。

サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5 / 5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○ 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○ 非該当	
● あり ○ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○ 非該当	
サブカテゴリー5の講評			
個人情報の取り扱いについて保護者に説明して同意を得ている 個人情報の取り扱いについては、基本的なルールを入園時に保護者に伝え、情報提供の範囲や目的などについて同意を得ている。外部機関から情報提供の依頼があった際には、改めて保護者の意思を確認して対応している。園のしおりの中でも個人情報の取り扱いの徹底についても触れ、ビデオ撮影等及び画像データ提供について明記している。SNS(ソーシャルネットワークサービス)への投稿やビデオ・写真の撮影の取り扱い、配慮事項等についても、保護者に注意を促している。 子どものプライバシーを保護し、羞恥心に配慮した保育を行っている 子どものプライバシー保護の徹底は職員間で共有し適切に対応している。一人ひとりの子どもを尊重し、子どもからの声をありのままに受け止めている。言葉だけでなく、身振り手振り等の表現や表情から気持ちを汲み取り理解に努めている。着替えの時には着替え方を知らせ、カーテンで他からの視線を遮るようにしている。水遊びやシャワー時の着替えはラップタオルを用意してもらう等、子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている。看護師は健康教育でプライベートゾーンについて話し、子ども自身が自分の身体を大切にする意識を持てるよう支援している。 子どもの権利を守り、一人ひとりの気持ちを大切に保育を追求している 子ども一人ひとりの気持ちを大切に思いを代弁し、気持ちを受け止め、子どもの人権に配慮した保育を行っている。園生活において知り得た個人的な情報や家庭の事情については、守秘義務を踏まえて対応し、保護者との信頼関係を築いている。職員には、虐待防止や育児困難家庭への支援、子どもの権利を守るための課題について、区関係機関が実施する研修への参加を促している。必要な研修を受講し、そこで得た知識を伝え、会議の中で学びを共有し、倫理意識を高め、会計年度任用職員も含め全職員がそれらを理解して対応できるように取り組んでいる。			

サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	☐ 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	☐ 非該当
サブカテゴリー6の講評		
各種マニュアルを整備し、確認と実践により、組織として対応の統一化を図っている 手引き書として区立保育園全園共通のマニュアルのほか、危機管理マニュアル、杉並区立保育園保育実践方針、保育実践の手引き等を備えている。また、保育理念・目標、保育方針、役割分担表などの事項をまとめた園マニュアルのファイルを、事務所と各クラスに備えている。杉並区立保育園保育実践方針、保育実践の手引きについては、職員一人ひとりに配布している。確認や実践を通してこれらを活用していくことで、職員一人ひとりが組織としての共通事項を踏まえて、統一的な対応をとることができるようにしている。 定められた手順や留意事項を共有し、日々の実践に活かしている 園マニュアルのファイルは、一年を通して必要となる事項から構成されているため、日常的な活用を前提とするものである。それゆえ、疑問があった場合の確認や判断に迷った時に立ち返るものとして、活かしている。また、杉並区立保育園保育実践方針も、区の保育を進めていくうえでのガイドラインとして、全体的な計画や各期間の指導計画の作成、それらに基づく保育実践を通して、日常的に活用している。危機管理や衛生管理などの分野におけるマニュアルも、子どもの安全・安心に関わるため、内容の確認や訓練などを通して活用している。 業務手順に対する定期・随時の見直しにより、業務の安定的な遂行を確保している 杉並区保育実践方針は、社会状況の変化など必要に応じて内容を変更・改訂する仕組みを備えている。区立園共通のマニュアルは、各検討会などで検討して内容を見直している。園マニュアルは、年度末に反省を行い、項目ごとに確認して見直しを行い、毎年内容をブラッシュアップしている。保護者や職員からの意見や要望、仕事の手順の変更等、見直しが必要な場合は、時期を待たずに都度打ち合わせを行い改定している。こうした定期・随時の見直しにより、職員間での認識や対応の共通化・統一化を図り、業務の安定的な遂行を確保している。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4	
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 36 / 36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している ☐ 非該当
評価項目1の講評	
子どもが主体的に関わり遊び、継続して楽しめるような環境づくりに配慮している 子どもの興味や関心を起点とした環境構成を行い、遊びが広がるような援助に努めている。年齢や発達に応じた安全面に配慮しつつ、子どもが主体的に興味を持って自ら考えて行動できる環境を整え、定期的な見直しと改善に取り組んでいる。積み木遊びなどの展開を翌日も継続できるよう、園全体で協力して環境を維持している。遊具は子どもが手に取りやすい位置に配置し、室内環境も関心を広げる工夫を凝らしている。園内研修では子ども主体の保育について対話を重ね、職員間で保育の質の向上を図っている。 配慮を要する子どもに対して共通認識を持ち、必要な対応ができるようにしている 個々の子どもの特性を理解し、個別配慮をしながらクラス内でお互いが充実した時間を持てるように体制を確保し援助している。特別な配慮が必要な子どもを含めて、誰にとってもわかりやすく見通しを持ちやすい環境を考え、整えている。「活動に参加したい」「参加したくない」という意思の表明を尊重し、どの子も居心地のよい場所として安心して生活できるよう配慮している。保育者が、多様な子どもたちのありのままの姿を認めることで、子どもたちの中にも互いを尊重する気持ちが育つよう、全職員が共通認識を持って取り組んでいる。 子どもの気持ちを尊重した対応を行い、より良い援助ができるようにしている 子ども同士のトラブルを成長の機会と捉え、大人が解決するのではなく、それぞれの思いを伝え合えるように援助している。必要に応じて仲立ちとなり、危険のないよう見守りながらそのプロセスを大切にしている。保護者に対しても、成長の過程でトラブルが起こりうることを説明し、理解を得られるように努めている。また、幼保小連携事業として、5歳児が小学校の行事に参加し交流する機会を設けている。保育所児童保育要録を作成し申し送りを行うなど、小学校教育への円滑な接続につなげている。	

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○ 非該当

評価項目2の講評

子どもの生活が安定するよう保護者や職員間での情報共有を図っている

前日の様子や顔色、身体の状態を観察し、体調やけがについて登園時に保護者へ確認して受け入れを行っている。こうした確認事項を各クラスや全体で共有し、それらを踏まえた対応につなげている。降園時には、日中のエピソードを交えて言葉をかけ、保護者に伝えるようにしている。けがによる通院や日中の様子など、直接話す必要がある場合は担任や園長が対応している。保護者への伝達事項は必ず職員間で共有し、漏れのないよう注意を払いながら対応している。

基本的な生活習慣が身につくよう、子どもの成長に合わせて援助している

年間指導計画や月・週単位の計画に生活習慣の自立に必要な経験を盛り込み、個々の発達に応じて着実に力を伸ばせるよう援助している。着脱や衣服の整理、食具の扱い、衛生管理、排泄、挨拶など、子ども自身が意識できるよう、保護者とも連携しながら適切に声をかけている。そして、子どもが「自分でできた」という達成感を持てるよう、温かく見守りながら、日常の積み重ねを通して、基本的な生活習慣が身につくよう支援している。

子どもの年齢や状況に合わせて、必要な休息を取れるようにしている

年齢や発達に応じた基本的な生活習慣の目安を保護者へ伝え、休息の必要性について家庭と園で共通認識を持てるように努めている。日々の活動に加え、家庭での様子を個別に聞き取り、一人ひとりの状況に応じた配慮を徹底している。寝付けない子には無理強いをせず、体を休められるよう環境を整えている。年長児については、クラスや個々の様子を見極めつつ、就学に向けて段階的に午睡時間を短縮している。個別の体調や体力を踏まえ、集団生活の中でも一人ひとりに最適な生活リズムの構築を支援している。

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している			評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている		○ 非該当
● あり ○ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている		○ 非該当
● あり ○ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している		○ 非該当
評価項目3の講評			
子どもが主体的に遊び込める時間と空間の保障に取り組んでいる 乳児クラスは、それぞれ室内のレイアウトを工夫して少人数で落ち着いて遊べる空間を確保する等、子どもが遊び込めるコーナーづくりや環境設定を工夫している。幼児は戸外遊び等活動の時間を十分取り、子どもの発見や気づき、探求心、遊びを自発的に見つけ展開する力を大事にしている。保育者は遊びの楽しさを知らせながら、興味を持った子どもから始め、徐々に集団活動にも関わることができるようにしている。また、子どもの表情や身振り、言葉に応答的に関わることで、伝えたい気持ちや共感してもらう心地よさを養えるようにしている。 素材や自然物に実際に触れ、体験的に楽しめるよう、環境を工夫している 子どものやってみたいと発信したことを最大限尊重し、環境面等の援助をしている。子どもの発想を大事にして保育を実践し、見守りながら、日々遊具や玩具の安全管理を行っている。自由に作ることを楽しめるような空き箱や紙等の素材や、ごっこ遊びに使えそうな材料を準備する等、子どもが楽しく表現できる環境を整えている。戸外では、築山やロープワーク、マルチパーツやお風呂マット、タイヤ等の様々な可動遊具を備えている。「子どもが自ら意欲的に始めたことこそが生きる力になる」と考え、試行錯誤しながら経験する機会を大切にしている。 子どもが様々な経験を通じて、自分の気持ちを調整する力を育めるようにしている 集団生活の中でみんなが気持ちよく生活できるように、決まりを守る大切さを感じられるよう、実際の生活や活動を通して働きかけている。気持ちの切り替えが難しい時には、年齢や時期による成長・発達のひとつと受け止め、子どもが選べるような選択肢を提案したり、落ち着くまで気持ちに寄り添ったりしている。手洗いや片づけ、遊びや生活習慣から守るべききまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育めるよう働きかけている。子どもが安心して関われるように保育者は見守り、子どもの思いに応えるよう援助している。			

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		○ 非該当
評価項目4の講評			
行事は子どものアイデアを取り入れ、楽しく取り組める内容となるよう工夫している 子どもの経験したこと、興味のあることから遊びが派生することが多い。5歳児クラスのおまつりごっこでは、開催の仕方やどのクラスを招待するか等、子どもたちの話し合いで決定した。他クラスも参加することで、園全体で楽しむことができた。子どもの意見が可能な限り尊重されたことで、遊びが長く盛り上がり、楽しんでいった。「どうすれば実現できるか」を考え、子どもと一緒に行事を作り上げるプロセスを大事にしている。「保育者がいかに子どもの発信をとらえ、活動を展開することができるか」が、子どもの豊かな遊びと経験につながっている。 みんなでやり遂げる楽しさや喜びを味わえるように取り組んでいる 行事に取り組む際には、係を中心に話し合いを重ね、ねらいや経験させたいことを職員間で確認しながら進めている。年間行事予定にはなかった「おまつりごっこ」は、休日におまつりに行った子どもからのリクエストや、風船の張り子でちょうちんを作ったことから始まり、日ごとに発展して大いに盛り上がった。イメージを共有して表現を楽しみ、力を合わせひとつのものを作りあげる経験ができた。保育の中で子どもの発信により生まれた活動は少しずつ形にして行くうちに、クラスから園全体に活動が広がりみんなで共有できる展開の楽しさがある。 様々な工夫により行事における子どもの様子を伝え、保護者と共有している 行事の持ち方について、「現在関わっている子どもの興味・関心や発達段階に合っているか」や「何を体験させたいのか」、ねらい等について話し合い、職員間で共有している。保護者会では、年間の行事予定について説明し、ねらいや見通しを伝えて理解や協力を得ている。行事に向けた取り組みの様子は、園だよりやクラスだよりなどのほか、日々の活動を伝えるドキュメンテーションでも保護者に発信している。保護者の意向や期待する声を傾聴し、子どもの思いや園の考え、目的等を積極的に発信して、園の保育への理解につなげている。			
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		○ 非該当
評価項目5の講評			
保育時間の長い子どもが、落ち着いて好きな遊びを楽しめるように配慮している 多くの子どもが長い時間を共に過ごす中で、互いの遊びを尊重し、落ち着いて過ごせるよう工夫している。1歳児クラスは室内を月齢に応じて区切り、少人数でゆったりと過ごせるようにしている。2歳児クラスも少人数のグループに分かれて保育を行うことで、落ち着いて遊べるように配慮している。幼児クラスはホールや廊下、他クラスの空間も活用し、活動場所を広げている。静と動のバランスを考慮して保育室の環境を整えると共に、園内の空間を有効に活用して、生活にメリハリがつくようにしている。 子どもが安心して過ごせるよう、保育体制や環境を工夫している 夕方の保育ではできるだけ自分のクラスで過ごすようにし、仕切り等を使い一人ひとりが落ち着いて過ごせるように配慮している。合流の時間は、子どもの年齢、人数や状況に合わせ年度ごとに確認し、保育体制を決めている。年度の途中であっても状況の変化に合わせ随時確認・検討している。また、配慮が必要な子どもがくつろげる環境を提供し、疲れた時には安心して体を休められるよう工夫している。どの子どもにとっても負担が少なくゆったり過ごせるように職員が連携し、遊びの設定や遊具の用意により、子どもの気持ちが高まるようにしている。 異年齢児がゆったりと関わり、自然な形で良い関係を築くことができる環境を整えている 保護者や担任からの連絡事項の引き継ぎは、必ず確認して漏れのないように注意して対応している。会計年度任用職員を含めた全職員が保育に必要な情報を共有し、一人ひとりの遊びや関係性を継続的に見守っている。日々同じような顔ぶれで朝夕の時間を過ごしている。日中の保育の中でも、子どもたちは自然な形で触れ合うことができている。保育時間の長い子どもは自然な形で異年齢での関わりを体験し、日中も互いの存在を気にかけて、挨拶したり声をかけたり、姿を見つければ嬉しそうに表情を交わし、兄弟姉妹のような良いつながりができている。			

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている		○ 非該当
評価項目6の講評			
落ち着いた環境の中で、子どもが食事を楽しく食べられるよう工夫している 給食は栄養バランスを考慮し、季節の食材を取り入れた区の統一献立を使用して自園で調理している。毎月の献立は、栄養士が喫食状況を観察し、毎日のミーティングで子どもの食べ具合を報告し、献立作成に活かすようにしている。食事テーブルの配置や大人の動線を整理し、椅子やテーブルは子どもの年齢や発達、体格に合ったものを用意し、楽しく落ち着いて食べられるように配慮している。苦手なものであっても、無理に勧めることはせず、子どもの気持ちを尊重し、楽しく和やかな雰囲気の中で食事できるようにしている。 アレルギー児の食事については、誤食のないよう細心の注意を払い提供している 食物アレルギー等の個別対応が必要な場合は、「アレルギー疾患生活管理指導表」に基づき、マニュアルに則って除去食や代替食で対応している。前月に保護者と献立表及び成分表の項目を確認し、食材を特定している。アレルギー児の給食については、前日の全体ミーティングで内容を共有している。当日は個別トレーで用意し、提供直前に担任と調理員が原因食材の除去や代替を目視し、口頭確認を経てから配膳している。必要な手順や対応については、全職員が共通理解を持って取り組んでいる。 食に対する興味や関心を深める取り組みを積極的に行っている 給食日よりでは季節の食材やメニュー、食のトピックスを発信し、簡単なレシピも紹介している。野菜等の栽培を行い、その生長過程を観察して収穫し、食べる経験をしている。食材に親しみがわき、苦手な野菜であっても味見してみたり、匂いをかいでみたりする姿もみられている。また、幼児クラスでは調理活動を楽しみ、食材に興味・関心を持つ良いきっかけとなっている。年齢や子どもの様子に応じ、ランチプレートで提供したり、行事に合わせた盛り付けの工夫をしたりするなど、楽しく食べられるよう工夫している。			
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している			
		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている		○ 非該当
評価項目7の講評			
子どもが健康や安全に関心を持ち、自分自身の身を守るように働きかけている 連携園の看護師との協力のもと、一年を通して健康教育を実施している。子ども自身が自分の健康や安全に関心を持ち、危険なことから身を守り、病気やけがに対する意識を持てるよう、年齢に合わせ子どもがわかる言葉で伝えている。うがいや手洗い、便の拭き方、プライベートゾーンの話等を専門職の立場からしてもらうことで、子どもも興味を持ってじっくりと話を聞き、実践する姿が見られている。また、職員は緊急対応や嘔吐処置法等を定期的に学び、各マニュアルや必要な物品は所定の場所に用意し、全ての職員が速やかに対応できるよう備えている。 子どもの健康を維持するための情報を随時保護者に周知している 毎月保健だよりを発行し、定期的実施する各健康診断等のほか、季節や時期に応じた健康に関する情報等を掲載している。園のしおりでは、園での健康管理について説明し、感染症対策や、保育中に発生したけがや病気の際の対応、園ができる応急処置等について明記している。薬については、区立園共通の対応として預からないことを原則とし、慢性疾患などのために薬の使用が必要な場合には、主治医が記入した与薬申込書を提出してもらった上で、保護者の代理として与薬を行っている。 保護者と連携して、子どもの健康維持に向けて取り組んでいる 入園前の個人面談で個々の健康状況を把握し、乳幼児期に必要な体の発達について保健だより等で情報を提供している。乳児クラスは連絡帳を活用し、健康状態の共有を図り、幼児クラスは登降園時に直接保護者に健康状態を確認している。健康に関する情報は園内に掲示しており、乳幼児突然死症候群(SIDS)については、年度当初に周知を図っている。午睡チェックは、乳児クラスは10分間隔、幼児クラスは30分間隔で行っている。なお、入園してから2か月の期間は、年齢に関わらず5分間隔で子どもの様子を確認している。			

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○ 非該当
評価項目8の講評			
保護者の相談に丁寧に対応し、個々の事情に応じて必要な支援を行っている 入園時や入園後の個人面談の情報から保護者の個々の事情を考慮し、できる範囲で必要な支援を行っている。送迎時には、連絡事項だけでなく日中の活動の様子や日々の姿を伝えて子どもの姿を共有し、保護者の悩みや困りごとをつかむことができるように努めている。保護者会や個人面談では、家庭での子どもの姿を聞き取りながら、心配事や課題について寄り添い、状況に応じた対応を行っている。養育に困難さを感じている保護者には、園でサポートできるよう、信頼関係を基盤として関わり、相談できる存在として機能できるようにしている。 保護者同士の交流を深め、子どもの発達や育児等について共通認識を促進している 保護者会は、前期・後期と二回行っており、年間の保育計画をもとにその年齢ごとに発達についての資料を作成して配布している。クラスで楽しんでいる遊びや、取り組んでいることについて、写真やスライド等で伝えている。また、自己紹介や懇談等、交流の時間を設け、共通して抱える悩みや子育てについて一緒に話し合い、保護者同士のつながりが広がるよう配慮している。個人面談では、園や家庭での子どもの様子について確認し、今後の方針を共有し、保護者の心配や悩みが解消できるように努めている。 子どもの成長・発達を伝え、保護者と共通認識を得られるようにしている 保護者の要望や意向について、丁寧に聴き取るよう全職員が心がけ、意思統一を図り、どの職員も同じ対応ができるようにしている。各家庭の状況に寄り添い、保護者の心配事や悩み、気持ちを汲み取り、一緒に考え、共有できるようにしている。保育参加・保育参観は随時受け付け、実際の保育者の子どもたちへの働きかけを見てもらい、保育者の子どもとの関わりや言葉かけを知る良い機会となっている。園の保育を積極的に伝え、保護者とのコミュニケーションを大切にし、子育ての協力関係を築き、保護者との共通認識を深めている。			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている			
		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○ 非該当
評価項目9の講評			
中核園として園の取り組みに地域の方の参加を呼びかけ交流の幅を広げている 中核園として、地域の公・私立園を含めた保育施設間の連携・情報共有等の促進を図る事業に関わっている。職員も中核園としての役割を認識し、体制を整え、自園が実施する事業に近隣園が共に参加できる機会を設け、呼びかけている。他園の保育者や子どもと交流したり、近隣の方や地域の方と関わったりすることで、視野を広げ、家庭や園以外にも温かい目で見守ってくれる存在があることを認識する良い機会となっている。園庭開放や子どもの交流を通じて顔見知りの関係が見られるようになり、つながりが広がり、親しみが増している。 地域との連携のもと、人との関わりを通して、刺激を受けている 近隣児童館で行われるお祭りに地域の方と共に参加し、交流の機会を楽しんでいる。地域の自治会で行われるお祭りでは、園児の作品を灯ろうにして飾ってもらった経験ができた。清掃事務所の協力を得て、環境学習を実施している。消防署や警察署の職員を招いて避難訓練や交通安全教室を行った。防犯対策についても警察署の助言を受け園で取り組んでいる。公共施設の方々を含む園の職員以外の大人と触れ合い、改めて話を聴くことで、社会への関心を広げ、ルールに対する理解を深め、環境や防犯などへの意識も高めている。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル①	子どもが主体的に関わりながら自分のやりたいことが実現できるように支援している	
内容①	子どもが主体的に遊びを見つけ、創造的に遊び、集中できる環境づくりに取り組んでいる。子どもが興味・関心を示した事象や出来事を保育者がとらえ、遊びが広がるような関わりを目指している。子ども同士で話したり、自分で考え、相手の思いを受け入れたりする経験や学びを大事にしている。職員は子どもの意見を聞き、子どもが安心して主体的に集団活動に関わり、友達と協力しながら夢中になって遊べる環境を整え、やり遂げる喜びを味わうことができるよう活動を援助している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	子どもの自主性、自発性を尊重し、主体的に遊び込める時間と空間を整え提供している	
内容②	マルチパーツ等の可動遊具をふんだんに揃え、のびのびと戸外遊びを楽しめる環境がある。子どもが主体的に動いて遊びを見つけ創造的に遊び、集中して遊び込む姿が見られる。子どもの探求心を最大限保障できるように、職員間で連携して遊びを見守る基盤がある。職員は役割を分担し、各自が責任を持ち効果的なチェックを実施し、遊具のメンテナンスを確実にしている。また、室内遊具の見直しや環境整備を行い、子どもが使いやすいく片付けしやすいように整え、遊具の数や壊れ等の安全点検を日々実施している。園全体で遊びの環境の充実に力を入れている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル③	職員一人ひとりの学びの継続が、保育の質と組織力の向上につながっている	
内容③	職員には同僚性があり、保育を語り合える風通しの良い雰囲気がある。クラスで保育を話し合う時間を確保し、研修等での学びを日々の保育に活かせるように職員間で共有している。また、「学びの物語」に継続して取り組み、実践記録と保育者の思いを記録している。記録の視点、10の姿のどこに関連しているかを考え、実践方針及び実践の手引きと照らし合わせる等、丁寧な保育の振り返りを行っている。向上リーダーが学んできた子どもの権利についての考察の視点に気づき取り入れた。園全体の保育の質向上に向け、さらに職員のスキルを高めている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	豊かな保育を展開するため、子どもの発信から様々な工夫をして取り組んでいる
	内容	子どもが主体的に集団活動に関われるよう援助し、活動を積み重ね力を合わせてやり遂げる喜びや楽しさを味わうことができるようにしている。子どものアイデアや発信を最大限に尊重して保育者はそれを逃さず、よく聞き取り子どもの思いに寄り添っている。子どもの「やりたい」という思いが実現するように日々の保育の中で考え取り組んでいる。特に幼児の取り組みでは、子どもの発想や気づきに注目して対話を重ねながら、子ども同士が思いを伝え合い一緒に考えながら展開させることができるよう、プロセスを大事にして働きかけや支援をしている。
2	タイトル	職員は中核園事業を自分事としてとらえ、柔軟な対応力を発揮して取り組みを進めている
	内容	職員一人ひとりが中核園職員としての自覚を持ち、区立園としての役割を意識しながら近隣の施設との連携、園内の協力体制等で、柔軟な対応力を発揮している。地域に根ざした保育園として、近隣園と共に保育の質の向上を目指している。中核園で行っている職員の交流や子どもの交流では、どのような取り組みを企画すれば共に学びを深めることができるのかを考え、様々な意見やアイデアを出している。職員同士の交流でも、相手の園の立場に立った意見や感想を発信して、学びを共有しながら積極的に交流し、保育施設間の連携と情報共有を促進している。
3	タイトル	業務の効率化を図る工夫を取り入れ、職員の意欲と組織力向上に取り組んでいる
	内容	園長、主査、向上リーダーを中心に働きやすい職場づくりを推進している。子どもの安全を最優先に考えた保育に取り組みながら、体制や業務の効率化を図り、小さな工夫を取り入れ検証を重ねている。誰に対してもわかりやすい確実な取り組みを目指し、書式や表示の方法も都度ブラッシュアップしている。それぞれがワークライフバランスに注意を払い行動することで、突発的な状況が発生しても臨機応変に体制を取り、互いに助け合うことができるようになっていく。さらに園全体の連携を高め、保育の質向上や職員のモチベーション向上につながる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	人権について学びを深め、保育を振り返り誰もが安心して過ごせる環境を守っていく
	内容	子どもの人権を大切に、子どもを尊重する保育について考え「子どもにとってどうなのか」「子ども主体の保育が行われているか」という視点に立ち、園の保育を考える討議を前年度から行ってきた。今期も引き続き人権について学び合い、子どもの人権に関連付けて、職員（大人）の人権についても話し合っている。良くないと考えられる関わりの何が良くないのか、具体的な言動について振り返り、園内で子どもや職員の尊厳が守られ、自己を発揮して安心して過ごせるため全職員が意思統一を図り、今後も継続して取り組んでいくことを課題としている。
2	タイトル	保護者との保育共有による理解促進と、さらなる信頼関係の構築を図っていく
	内容	送迎時の声かけや、システム活用によるおたよりの発信等を通じて保護者と保育の共有を進め、信頼関係を築いてきた。また、保護者自身のことや子育ての悩み等を傾聴し、必要に応じて面談を行い、個々の状況に合わせた支援に努めてきた。今後も引き続き保護者と子どもの姿を共有し、子どもの健やかな成長を共に支えることができるよう、信頼関係をより深めたいと考えている。子どもが園生活から様々な学びを得ていることを積極的に示し、遊びや活動のねらいをより明確に伝え、さらに保育への理解と信頼を強固にしていくことを課題としている。
3	タイトル	職員一人ひとりが意識を持ちワークライフバランスの充実に取り組んで行く
	内容	職員各自のワークライフバランスを実現していくことは、より良い職場環境の整備だけでなく、より良い保育の継続にも不可欠である。その意味では、経営層と共に個々の職員もこれまで以上に高い意識を持って取り組んでいくことが必要となる。各自の業務の現状や見通しを見える化していくことは、さらなる全体共有や相互フォローにつながる。また、システムの有効活用は、事務の効率化や簡略化につながる。様々な工夫により、個々の力を一層発揮し、無理なく働き続けられる環境を維持していくことを課題としている。

3. 西荻北保育園

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

2026 年 2 月 28 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 156-0043

所在地 東京都世田谷区松原3-38-16-107

評価機関名 株式会社にはほんの福祉ネット

認証評価機関番号

機構 06 — 168

電話番号 03- 6379- 5156

代表者氏名 永峯 治之

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名			担当分野	修了者番号	
	①				経営	H1901102
	②				福祉	H2101111
	③				福祉、経営	H2301066
	④					
	⑤					
	⑥					
福祉サービス種別	認可保育所					
評価対象事業所名称	西荻北保育園					
事業所連絡先	〒	167-0042				
	所在地	東京都杉並区西荻北2丁目27番18号				
	TEL	03-3396-8427				
事業所代表者氏名	田中 巨					
契約日	2025 年 6 月 20 日					
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 8 月 1 日					
利用者調査結果報告日	2025 年 10 月 22 日					
自己評価の調査票配付日	2025 年 8 月 1 日					
自己評価結果報告日	2025 年 10 月 22 日					
訪問調査日	2025 年 12 月 2 日					
評価合議日	2025 年 12 月 2 日					
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	区担当者との打ち合わせにより全体の流れ、留意事項の確認を行った。その後、事業所にて事前説明を行い、オンライン形式での利用者調査や職員アンケートの実施方法について説明を行った。訪問調査前には当日の訪問者、タイムスケジュール、確認予定の書類について案内した。訪問調査では施設見学もあわせて行い、実態の把握に努めた。合議では、訪問者2名と他の1名、事務局により報告内容の精査・修正を行った。					

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- ☒ 機構が定める部分を公表することに同意します。
- ☐ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- ☐ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2026 年 2 月 28 日

事業者代表者氏名 園長 田中 巨

印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 保育方針～育てよう あいのクローバー ・ふれあい～心と心の触れ合いを大事に子どもや保護者の気持ちに寄り添った保育を実践していく ・たすけあい～子育ての楽しさや悩みを保護者と共に感じ合い、一緒に考え助け合っていく保育を実践していく ・みとめあい～保護者の思いや状況を認めながら子どもの育ちを援助していく ・そだちあい～家庭・保育園・地域の中で、大人同士、子ども同士様々な人の関わりの中で共に育ちあえる保育を実践していく
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） （1）職員に求めている人材像や役割 ・職員一人ひとりが、保育園の子どもたちをみているという意識をもって保育を行う。 ・保護者とコミュニケーションを図り、子どもを真ん中に、共に育て合う関係づくりを大切にしていく。 ・様々な場面で専門分野での立場から安心して子育てができるように地域の中で保育園が役割を果たしていく。 ・子ども一人ひとりの人格の尊重を念頭に自己肯定感が育まれる保育を大切にしていく。 ・実体験や人との関わりの中で、感じる心を大切にしていく。 （2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ・子どもの最善の利益を念頭に、全職員が子どもの気持ちを十分に受け止めて寄り添っていく。 ・よりよい保育をするために常に安全意識をもち、一人ひとりが的確な判断ができるようにする。 ・専門職として常に学ぶ意識を持ち、保育の向上を目指す。 ・保護者の思いを聞きながら子どもの成長を保護者と共に喜び、互いに育ちあえるようにする。

調査対象

複数児利用世帯は最低年齢児1人を対象として実施世帯数を絞り、調査対象者に対し実施。

調査方法

WEB回答システムを活用。機関が作成した二次元コード記載の案内を事業所を通して各家庭に配布。各家庭においてそれを読み込んだ上で、個別に匿名で回答。

利用者総数

86

利用者家族総数(世帯)

80

共通評価項目による調査対象者数

80

共通評価項目による調査の有効回答者数

41

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

51.3

利用者調査全体のコメント

＜総合的な満足度＞

「満足」66%、「まあまあ満足」24%、計90%という満足度が示された。

＜調査結果の講評について＞

・肯定的な評価(「はい」との回答)が全体に占める割合についてのみ、記述した。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	39	2	0	0
回答者の95%「はい」と回答した。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	39	2	0	0
回答者の95%「はい」と回答した。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	35	5	0	1
回答者の85%「はい」と回答した。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	29	10	2	0
回答者の71%「はい」と回答した。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	30	2	2	7
回答者の73%「はい」と回答した。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	32	7	0	2
回答者の78%「はい」と回答した。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	28	6	3	4
回答者の68%「はい」と回答した。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	33	5	1	2
回答者の80%「はい」と回答した。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	36	3	0	2
回答者の88%「はい」と回答した。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	39	0	0	2
回答者の95%「はい」と回答した。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	36	3	0	2
回答者の88%「はい」と回答した。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	31	4	0	6
回答者の76%「はい」と回答した。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	38	0	0	3
回答者の93%「はい」と回答した。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	33	1	0	7
回答者の80%「はい」と回答した。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	33	4	1	3
回答者の80%「はい」と回答した。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	29	4	1	7
回答者の71%「はい」と回答した。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	26	5	4	6
回答者の63%「はい」と回答した。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリー1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリー1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○ 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○ 非該当
	● あり ○ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○ 非該当
	カテゴリー1の講評		
	園が目指していることを明示し、保護者や職員への理解を深めている 区立の保育施設として、児童福祉法や関連法令の根拠の下、区の基本理念やビジョンなどを運営や保育の基礎としている。年度当初には保育目標を達成する大枠となる全体的な計画を通して児童憲章、園の保育理念・保育方針・保育目標を確認している。これらを園内の各所に掲示することで職員の意識を高めると共に、保護者への周知を図り、基本に立ち返る働きかけを行っている。また、係の目標申告を作成して職員に周知し、一年間の目標を明示している。保護者に対しては、新入園児説明会、年度当初の保護者会や園だより、クラスだよりでも説明している。		
	園運営の方向性を提示し、自らの役割と責任を果たしている 年度当初の定例の打ち合わせや職員会議で、経営層の年間目標を職員に伝えている。組織目標から係の目標シートを作成し、園長自身も具体的な年間計画を作成し、自らの役割と責任を職員に伝えるなど園運営の大切な情報を自ら発し、リーダーシップを発揮している。園長・主査・向上リーダーが、保育の質の向上を図る中心となり、大切にしたい保育の実現のために方向性の共有を図っている。運営に関わる変更や改善事項などが生じた際は、園だよりや保護者会などで園長より速やかに保護者に説明している。		
	園で定めた手順に沿って、検討・決定・周知・実行を着実にやっている 毎週の定例打ち合わせ、職員会議等では誰もが意見を出しやすい雰囲気づくりを心がけ、話しやすい場を整えている。職員の意見をできるだけ吸い上げ、職員の主体性を尊重した運営を心がけている。重要な案件についてはその経緯を説明・周知している。連絡・確認事項は、ミーティングなどにより迅速に伝え、共有を図っている。会計年度任用職員に対しても個別に声をかけるなど、必要な情報を共有している。保護者には、園での決定事項やその経緯、内容などの情報を園だよりや掲示などで伝えている。		

2			事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		カテゴリー2
サブカテゴリー1(2-1)					
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況		6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			評点(○○○○○○)		
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している				○ 非該当
● あり ○ なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している				○ 非該当
● あり ○ なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している				○ 非該当
● あり ○ なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している				○ 非該当
● あり ○ なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している				○ 非該当
サブカテゴリー2(2-2)					
実践的な計画策定に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況		5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している			評点(○○○)		
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している				○ 非該当
● あり ○ なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている				○ 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる			評点(○○)		
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる				○ 非該当

カテゴリー2の講評

様々な方法で収集した情報を検討・活用して園運営に活かしている

保護者については、保護者会や「みんなであそぼう会」で園への要望など聞く機会を設けている。日々の登降園時のやり取りや連絡帳等からも、保護者の思いを把握し、対応の見直しなどに役立てている。職員は、個人の目標申告シートなどをもとに園長とのヒアリングを行っている。個別に話を傾聴し、意向を把握している。会議等の打ち合わせでは、活発な意見交換により、園運営の課題解決につなげている。改善点については、係の目標シートや個人の目標申告シートに反映させている。

地域の福祉の現状について情報収集やニーズを把握し関係各所との関係を深めている

区や課の方針を受け、様々な事業を展開している。福祉事業や区の施策の現状や動向については、区立園長会、区内広報などで随時確認している。また、区内の7つの各区域に1つ指定される「中核園」として、保育施設間で連携を図り、保育の質の向上、人材育成、情報共有などに取り組んでいる。こうした地域との関わりを通して収集した情報は、回覧やミーティングなどにより、速やかに職員に周知している。近隣の関係機関との地域ネットワーク会議や連絡会に参画して情報交換を行い、顔の見える付き合いを継続している。

目標の達成に向けた意見交換を行い計画の実行に取り組んでいる

区の中長期計画、課の組織目標を受け、係の目標申告を作成している。杉並区保育実践方針等をもとに全体的な計画を作成し、年度末反省をもとに職員と共に係の目標シートを作成して園内の取り組みを明確にしている。目標シートの各項目に取り組み内容を記載し、達成度合いを図る目安としている。園運営については、各プロジェクトを中心に計画内容のさらなる充実を図っている。議題を事前に通知し、意見を集約し検討して会議に臨むなど、限られた時間を効果的に活用し、目標達成に向けて着実に取り組んでいる。

3 経営における社会的責任			
サブカテゴリ1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。		○ 非該当
サブカテゴリ2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○ 非該当
サブカテゴリ3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		○ 非該当
● あり ○ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		○ 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		○ 非該当

カテゴリー3の講評

社会人として適切な行動ができるよう取り組み、組織としての責務を果たしている

社会人として、また福祉サービスに従事する者として、守るべき事項を全体に周知するため、保育課からの資料を活用して学ぶ機会を設けている。園長会で得た情報のほか、公務員倫理や規範についても繰り返し伝え、意識の向上を図っている。年度当初には、会計年度任用職員も含めて資料を提供し、随時助言や指導を行い、子どもに対する行動や言葉の選択など、適切な保育や守秘義務について確認し共有している。虐待が疑われるような情報をつかんだ際は、速やかに園長に報告し、必要に応じて関係機関と連携を取り、迅速に対応する体制を整えている。

地域へ園の取り組みを開示し様々な意向を把握して対応できる体制を備えている

苦情・要望などの相談窓口について、入園説明会で園の概要と共に保護者に説明し、相談の仕組みについて案内している。園長を苦情受付・解決責任者として位置づけ、いつでも相談に対応できる体制を備えている。担任・主査・栄養士・看護師など、相談を受けた職員は必ず園長に報告し、会議などで情報を共有している。また、実習生や体験学習の受け入れなど、次世代の人材の育成にもつながる取り組みも積極的に行っている。園庭開放を含む子育て支援事業の取り組みや日々の活動の様子なども開示し、透明性の確保を図っている。

様々なネットワークに参画し、地域の一員として園の役割を果たしている

園庭開放やふれあい保育、緊急一時保育など、地域の子育て世帯のニーズに応える事業を行っている。また、中核園として、担当年齢別の担任や看護師や栄養士など職員が交流や研修を中心となっており、園の持つ専門分野の知識を地域に還元ができるよう努め、園児の交流にも取り組んでいる。そのほか、近隣小学校との連携による行事などにも参加している。こうした取り組みの積み重ねを通して、地域連携に対する職員の意識も高まっている。

4			リスクマネジメント		5/5
サブカテゴリ1(4-1)					
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる					
評点(00000)					
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている				○ 非該当
● あり ○ なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している				○ 非該当
● あり ○ なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる				○ 非該当
● あり ○ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる				○ 非該当
サブカテゴリ2(4-2)					
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている					
評点(0000)					
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している				○ 非該当
● あり ○ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている				○ 非該当
● あり ○ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している				○ 非該当
カテゴリ4の講評					
想定される様々なリスクについて、マニュアルを定め訓練を実施している 区として業務継続計画を策定し、職員にも周知している。リスクへの対策を常に話し合い、具体的な行動について職員間で共有し判断している。危機管理マニュアルや園マニュアルをもとに、事故、感染症、災害、情報セキュリティ、防犯対策などの対応を確認し、役割分担を行い、各種事態に備えている。年間避難訓練計画を定め、地震や火災、それらの際の併設施設との協力など、非常時に備えた訓練を実施している。訓練後は課題の抽出を行い、状況に応じて臨機応変に対応できるようにしている。 リスクに対して危機意識を持ち必要な対策をとり、危険回避と再発防止に努めている 保護者には、リスクへの対策について新入園児説明会や保護者会、園だよりなどで伝えている。園のしおりには、安全・防犯の対策、災害時の対応などを記載し、緊急時の園の対応を案内している。年度当初の保護者会でも、緊急時安全メールについての確認などを含め、災害時の対応について改めて説明している。感染症の罹患については速やかに園全体へ周知している。ヒヤリハットを含めたけがなどについては、原因の分析、振り返り、対応策の検討など、職員全体で情報を共有し、再発防止や深刻な事故の防止に取り組んでいる。 情報管理を適切に行い必要な情報を活用できるようにしている 区の情報セキュリティ基本方針や情報セキュリティ対策基準に基づき、保育課内および園内において、適切な情報セキュリティマネジメントを行っている。園では、個人情報を含む書類は施錠管理し、持ち出しと返却時には持ち出し管理簿に毎回記入している。画像保存機器類の持ち出しと返却についても、管理簿を活用してチェックを徹底している。個人情報の紛失や漏洩が発生しないようにダブルチェックを行うなど、慎重かつ厳格な管理を行っている。					

5 職員と組織の能力向上			カテゴリー5
サブカテゴリー1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○ 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○ 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○ 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○ 非該当

サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	☐ 非該当
カテゴリー5の講評 目指す職員像の実現のため、長期的な展望で人材の確保や育成に取り組んでいる 区の人事課や保育課と園との間で連携を取り、人材確保を行っている。採用後には、配置園においてOJTを含む計画的な指導を行っている。そして、専門性を身につけ、個々の能力を活かせるように、区の人材育成方針や職員人材育成事業実施計画に基づいた研修を実施し、育成に努めている。職員一人ひとりの適性を把握しながら育成を図り、専門的な知識を高めながらキャリアアップを支援している。職員自身が具体的に自分の職責や果たすべき役割への筋道を見据え、個人と組織の目標達成に向けて意識して取り組んでいけるようにしている。 中長期的な見通しを立てた計画により職員の意欲向上を支援した育成に取り組んでいる 人事課が企画する職層研修によりライフプランや業務改善計画の立案を行い、中長期を見据えた人材育成計画を策定している。区の目標申告シートを活用して職員の状況を把握し、計画的な育成を行っている。職層研修、会計年度任用職員研修、実務研修など、勤務形態を問わずキャリアに合わせた研修を実施している。新任職員には、長期的人材育成計画に基づく育成を行っている。育成担当者が適切な指導を行うことができるよう、担当者研修や会議など、支援する仕組みを確立している。園全体で職員を支援・育成していく方針・姿勢を実践している。 良好な人間関係と安心して働き続けられる職場環境づくりに取り組んでいる 職員間の良好な関係を構築するため、園で働く全職員の状況を把握できるように努めている。特に会計年度任用職員や委託業者など、勤務形態が異なる者とのコミュニケーションをとることに注力している。状況によってはヒアリングも行っている。また、職員の意欲と働きがいの向上を目指して、日頃からコミュニケーションを図り、個人の目標申告シートに基づく職員とのヒアリングにより意向などを聞き、課題があれば一緒に考え、前向きに仕事に取り組んでいくことができるように努めている。		

カテゴリー7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 障害児保育に関する豊かな経験を基盤としつつ、適切な支援を継続するために「子どもを主体にした保育の実践」を目標として掲げた。その実現のために、園全体で子ども一人ひとりの育ちについて丁寧に伝え合い、指導計画から抽出された課題を会議の議題として深く話し合った。また、保育を進める上で欠かせない保護者との連携を強化するため、日々の様子やクラスの取り組みを園だより等で分かりやすく発信し、相互理解に努めた。さらに、対応に工夫が必要な場面では、専門的な巡回相談で得た学びを積極的に実践へ取り入れた。これらの取り組みの結果、全職員が子どもの育ちについて共通の認識を持ち、質の高い関わりを共有できた。また、専門的な助言を具体的な次の保育へとつなげることで、職員一人ひとりの対応力が向上し、より細やかな支援が展開されている。さらに、保護者との信頼関係も深まり、園全体で子どもを育む体制が整った。今後は、引き続き子どもの育ちを伝え合うことで理解を深め、保育の視野をさらに広げ、クラスの枠を超えて全職員がすべての子どもを温かく見守り、柔軟に連携し合える保育体制の構築を目標に据えている。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評 専門的な配慮を必要とする場面においても、個別の支援に留まらず、子ども一人ひとりの主体性を尊重しようとする姿勢に、実践の深まりがうかがえる。日々の育ちの姿を組織的な対話の主題に据えることで、個々の保育者の気づきが園全体の共通認識へと昇華されており、特定の担当者に依存しない多層的な見守りの体制が構築されている。特に、外部専門家からの知見を具体的な援助の形へと反映させるプロセスは、職員一人ひとりの観察力と対応力を着実に向上させている。また、保育の意図や子どもの日常を丁寧に外部へ向けて可視化する試みは、家庭との間に深い安心感を生み出し、園と保護者が同じ視点で成長を支え合う「共育て」の基盤をより強固なものにしている。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

子どものけがや転倒、体幹の発達といった課題に着目し、一人ひとりの発達に応じた「丈夫なからだづくり」を目標として掲げた。その実現のために、職員会議の継続的なテーマとして議論を重ね、日々の生活における子どもの姿から現状の分析を行った。また、子どもの運動機能に関する専門的な知識を学び合い、遊びの中にどのような動きを取り入れるべきか、環境設定や遊具の活用方法を園内研修等で具体的に検討した。さらに、職員間で共通のイメージを持って働きかけができるように、からだの使い方を意識した活動を計画し、指導計画を通じてその経過を報告し合った。これらの取り組みの結果、子どもの発達段階に合わせたからだづくりに、園全体で毎月計画的に取り組むことができた。そのプロセスを通じて、職員が子どもの動きをより細やかに観察し、意図を持って環境を整える意識が定着した。今後は、環境設定や遊具の使い方の工夫をより一層深め、日常の遊びを健やかなからだづくりへとつなげていく方針である。あわせて、子どもたちが楽しみながら多様な動きを経験できるよう、運動遊びのバリエーションを広げていくことを目標に据えている。

目標の設定と取り組み

- ☐ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- ☒ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- ☐ 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- ☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- ☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評

日々の生活における具体的な課題を起点として、身体機能の発達を支える環境構成の再構築を図っている。単なる運動遊びの導入に留まらず、専門的な知見を基に現状を多角的に分析し、その結果を日常的な空間や道具の活用方法へ反映させるプロセスを構築している。職員間で共通の視座を持ち、具体的な活動の推移を共有し合う仕組みは、観察の精度を高め、一人ひとりの発達に応じたきめ細かな援助を可能にしている。こうした意図的な環境設定と見守りの継続は、子どもたちが遊びを通じて多様な身体の使い方を自然に獲得していくための強固な土台となっている。生活全体を身体形成の場と捉え、楽しみながら挑戦できる機会を広げようとする姿勢は、健やかな育ちを支える質の高い実践の積み重ねに寄与している。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目																		
	サブカテゴリー1																		
1	サービス情報の提供 サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4																		
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している 評点(〇〇〇〇)																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th><th>標準項目</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>● あり ○ なし</td><td>1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している</td></tr> <tr> <td>○ 非該当</td><td></td></tr> <tr> <td>● あり ○ なし</td><td>2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている</td></tr> <tr> <td>○ 非該当</td><td></td></tr> <tr> <td>● あり ○ なし</td><td>3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している</td></tr> <tr> <td>○ 非該当</td><td></td></tr> <tr> <td>● あり ○ なし</td><td>4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している</td></tr> <tr> <td>○ 非該当</td><td></td></tr> </tbody> </table>	評価	標準項目	● あり ○ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○ 非該当		● あり ○ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○ 非該当		● あり ○ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○ 非該当		● あり ○ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○ 非該当	
評価	標準項目																		
● あり ○ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している																		
○ 非該当																			
● あり ○ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている																		
○ 非該当																			
● あり ○ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している																		
○ 非該当																			
● あり ○ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している																		
○ 非該当																			
	サブカテゴリー1の講評																		
	区のホームページやアプリ等を活用して園の情報をわかりやすく提供している 区のホームページや区の公式アプリケーション「すぎぼよ」、杉並区の保育施設ガイドブック、園のしおりなどにより、園の情報を発信している。ホームページでは園の住所や電話番号、対象年齢、定員、保育時間、保育目標などの概要を伝えている。園の特色として、ねらい、食育を紹介し、より園の特徴がわかる室内遊具は発達にあった遊具や手作りのままごと素材、積み木をそろえている。室内遊具等の写真を掲載して紹介している。外国籍の方などを想定し、ふりがなやカタカナ表記などを施した情報媒体を用意するなど、「わかりやすさ」に配慮している。 行政や関係機関と連携を取りながら情報の提供と共有に努めている 区の主管課には、中核園との連携、子育て支援事業、誰でも通園制度の取り組みや感染症の状況、近隣の関係機関との交流実施等についての報告や必要なやり取りを常に行い、園の現況を発信して共有に努めている。地域ネットワーク会議に参加し情報交換をしながら地域とのつながりと連携を図っている。近隣の私立保育園と共に地域の児童館と連携して催し物に協力している。保育園職員として専門的な立場から支援に関わり地域ニーズを把握している。地域との関係を大事にしながら様々な連携を通じて、園の取り組みや情報を提供している。 問い合わせや見学の要望には、個別の状況に応じ園としてできる限り対応している 見学希望の受付について、区として都の施策(保活ワンストップサービス)を導入している。電話などによる受付も継続している。開催日を決めつつ、個別の希望にはできる限り日程調整を行い、対応している。見学者の人数によっては受け付ける組数や回数を調整している。見学時には、園内環境を見てもらいながら園が大事にしていることや活動について触れ、入園時に準備が必要な持ち物や保護者参加の行事について説明し、実際の園生活がわかるように配慮している。園庭開放やふれあい保育等への参加、電話による子育て相談なども案内している。																		

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		☐ 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		☐ 非該当
サブカテゴリー2の講評			
園の特徴をふまえて保護者にサービス内容を伝え、保育への理解を図っている 身体測定や園医による健康診断を行うほか、入園までの生活状況や健康状態、食事の状態など、保育に必要な子どもに関する情報を収集している。また、保護者の就労状況や子育ての意向なども確認している。乳児や食物アレルギー、健康上の問題など対応が必要な場合は、栄養士や看護師も面談に加わっている。説明会では、入園後のルールや緊急時の取り決めなどを丁寧に伝えている。さらに、当園が障害児指定園であること、すべての子どもが分け隔てなく共に育ち合う園であることなども改めて伝え、保護者の理解を促進している。 無理なく新しい環境へ適応できるよう子どもの様子を見ながら適切に支援している 入園当初は保護者と相談して、短時間の保育から始める慣れ保育を行っている。慣れ保育はおおむね一週間をめどに子どもの状況や保護者の事情を考慮し、子どもの様子を見ながら無理なく予定の保育時間まで延ばしている。入園時に提出された家庭連絡票や入園までの生活状況、健康調査票、食事調査などの書類は、支援に役立てる基礎資料としている。保護者からは家庭での保育の状況や、子どもが落ち着く対応・好きな遊びなどを職員に伝えてもらっている。保護者の不安を軽減し、安心して預けてもらえるよう信頼関係の構築を図っている。 支援の継続性に配慮した支援や関わりを大切にしている 転園や退園する際には、いつでも相談できることや次の生活へ向け声をかけ、保護者や子どもの不安の軽減を図っている。必要に応じて保護者の承諾の上、スムーズな移行を支援するため、移行先に子どもの情報を提供できる体制を備えている。また、就学へ向けて小学校から提供される情報を保護者に伝えている。卒園時には保育所児童保育要録を作成し、就学先の小学校へ提出し、育ちの連続性を保障している。			

サブカテゴリ3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○ 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている	○ 非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○ 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○ 非該当

サブカテゴリー3の講評

保育に必要な情報を適切に収集・記録し、全体で共有している

入園時には健康診断を実施して健康状態を把握し、個別面接時に入園までの生活状況や家族構成、出生・成育歴、予防接種歴、発育状況、食事、排泄、睡眠、好きな遊び等、保育に必要な子どもの心身や生活の状況を把握し記録している。収集した個人情報、取り扱いに十分注意しながら全体で共有している。連絡帳や登降園時に聞き取った日々の体調や連絡事項についても、必要に応じてミーティング等で伝達し、園日誌に記載して園長や担任間で共有している。

子どもの個別の発達や状況を踏まえた計画を作成し、共通理解に努め、取り組んでいる

「杉並区立保育園保育実践方針」を踏まえて策定された「全体的な計画」に基づき、年齢毎の発達を考慮して、年、月、週の各期間における指導計画を作成している。保護者には年度当初の保護者会で年間指導計画を示し、各年齢の発達や保育についてわかりやすく説明している。乳児クラスおよび特別な配慮を必要とする子どもについては、個別に指導計画を作成している。全職員が子どもの育ちを理解し、日頃から必要な情報の共有に努めている。医師や臨床心理士などの専門家とも連携し、子どもの特性に合わせた保育を計画し実践している。

職員間で子どもの状況の共有に努め、保護者にもわかりやすく伝えている

年度当初の保護者会では、各クラスの保育方針をまとめた資料を配付し、発達に合わせた丁寧な説明を行っている。年度末には一年間の歩みを振り返り、子どもの成長を保護者と分かち合っている。日々の様子は連絡帳や日誌に記録し、毎日のミーティングで健康状態や活動内容を共有する仕組みを整えている。日常的に子どもの話題が自然と出る職場風土があり、職員全員が理解を深めている。大切な情報は会計年度任用職員にも確実に周知し、一丸となって保育に当たっている。こうして対話を大切にしながら、信頼の輪を広げている。

サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○ 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○ 非該当	
● あり ○ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○ 非該当	
サブカテゴリー5の講評			
個人情報の取り扱いについて保護者に説明して同意を得ている 個人情報の取り扱いについては、基本的なルールを入園時に保護者に伝え、情報提供の範囲や目的などについて同意を得ている。療育等の関係で外部から情報提供の依頼があった際には、改めて保護者の意思を確認して対応している。園のしおりの中でも個人情報の取り扱いの徹底についても触れ、ビデオ撮影等及び画像データ提供について明記している。SNS(ソーシャルネットワークサービス)への投稿やビデオ・写真の撮影の取り扱い、配慮事項等についても、保護者に注意を促している。 子どものプライバシーを保護し、羞恥心に配慮した保育を行っている 子どものプライバシーを尊重し、羞恥心に配慮した保育を職員全員で大切にしている。おむつ替えや着替えの際は衝立やカーテンで他者の視線を遮っている。また、幼児クラスの子どもには、看護師が健康教育を通してプライベートゾーンについて話している。日々の生活の中で、子どもが自分を守る意識を持てるよう支えている。全職員が環境づくりの大切さを共有し、誰もが安心して過ごせる配慮を積み重ねている。 子どもの権利を守り、一人ひとりの気持ちを大切に保育を追求している 子ども一人ひとりの情緒を尊重し、家庭ごとの価値観に寄り添った個別対応を行うことで保護者との信頼関係を築いている。多様な経験が必要としている子には、さりげない配慮で経験値を高める支援を継続している。職員には虐待防止や権利擁護に関する外部研修への参加を促している。研修で得た知識は会議を通じて組織全体で共有し、会計年度任用職員を含む全職員の倫理意識を向上させている。このように、多様な家庭環境への理解を深めながら、子どもの権利を守る専門性の高い保育を実践している。今後も全職員が共通認識を持って対応している。			

サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	☐ 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	☐ 非該当
サブカテゴリー6の講評		
各種マニュアルを整備し、確認と実践により、組織として対応の統一化を図っている 手引き書として区立保育園全園共通のマニュアルのほか、危機管理マニュアル、杉並区立保育園保育実践方針、保育実践の手引き等を備えている。また、保育理念・目標、保育方針、役割分担表などの事項をまとめた園マニュアルのファイルを、事務所と各クラスに備えている。杉並区立保育園保育実践方針、保育実践の手引きについては、職員一人ひとりに配布している。確認や実践を通してこれらを活用していくことで、職員一人ひとりが組織としての共通事項を踏まえて、統一的な対応をとることができるようにしている。 定められた手順や留意事項を共有し、日々の実践に活かしている 園マニュアルのファイルは、一年を通して必要となる事項から構成されているため、日常的な活用を前提とするものである。それゆえ、疑問があった場合の確認や判断に迷った時に立ち返るものとして、活かしている。また、杉並区立保育園保育実践方針も、区の保育を進めていくうえでのガイドラインとして、全体的な計画や各期間の指導計画の作成、それらに基づく保育実践を通して、日常的に活用している。危機管理や衛生管理などの分野におけるマニュアルも、子どもの安全・安心に関わるため、内容の確認や訓練などを通して活用している。 業務手順に対する定期・随時の見直しにより、業務の安定的な遂行を確保している 杉並区保育実践方針は、社会状況の変化など必要に応じて内容を変更・改訂する仕組みを備えている。区立園共通のマニュアルは、各検討会などで検討して内容を見直している。園マニュアルは、年度末に反省を行い、項目ごとに確認して見直しを行い、毎年内容をブラッシュアップしている。保護者や職員からの意見や要望、仕事の手順の変更等、見直しが必要な場合は、時期を待たずに都度打ち合わせを行い改定している。こうした定期・随時の見直しにより、職員間での認識や対応の共通化・統一化を図り、業務の安定的な遂行を確保している。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4	
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 36 / 36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している ☐ 非該当
評価項目1の講評	
子どもが主体的に関わり遊び、継続して楽しめるような環境づくりに配慮している 子どもの興味や関心を大切に環境を整え、遊びが広がるような援助に努めている。年齢や発達に合わせた安全面への配慮をしながら、子どもが主体的に興味を持って玩具・教材を自分で選んで好きな遊びをできる環境を整え、随時見直しを行っている。遊びの継続性にも配慮し、次に登園した際に遊びを発展させられることができるように努めている。遊具や玩具、素材などは、子どもが手に取り使いやすいように配置し、室内環境も子どもの興味・関心を広げるよう工夫をしている。 配慮を要する子どもに対して共通認識を持ち、必要な対応ができるようにしている 障害児指定園であり、保育者は特に個に寄り添った保育や子どもへの対応の仕方について巡回指導や巡回相談、訪問支援を通して職員が指導を受けて学び、日々研鑽に努めている。安全面に十分な配慮を行いながら、一人ひとりの特性を理解し他児との交流ができるような環境や援助の仕方を考え、障害を持つ子どもも同じ年齢のクラスで仲間として一緒に過ごしている。園として全ての職員が共通認識を持ち、子どもの個性、主体性を認め、生き抜く人格の基盤や生命力、生活力を育んでいる。 子どもの気持ちを尊重した対応を行い、より良い援助ができるようにしている 子ども同士のトラブルが起きた際は、安全を第一に状況を見極め、一人ひとりの心情を尊重した対応を徹底している。発達段階に応じて分かりやすい言葉を用い、互いの気持ちを代弁することで、子ども同士の言葉による解決を促している。保護者に対しても、集団生活における葛藤が成長の大切な過程であることを日頃から説明し、共通理解を得られるよう努めている。このように、子どもが社会性を育む機会を丁寧に見守り、職員間で対応方針を共有している。保護者との連携を密にしながら、子どもたちの健やかな育ちを組織全体で支えている。	

2 評価項目2		
子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○ 非該当
評価項目2の講評		
子どもの生活が安定するよう保護者や職員間での情報共有を図っている 前日の様子や顔色、身体の状態を観察し、体調やけがについて登園時に保護者へ確認して受け入れを行っている。こうした確認事項を各クラスや全体で共有し、それらを踏まえた対応につなげている。降園時には、日中のエピソードを交えて言葉をかけ、保護者に伝えるようにしている。けがによる通院や日中の様子など、直接話す必要がある場合は担任や園長が対応している。保護者への伝達事項は必ず職員間で共有し、漏れのないよう注意を払いながら対応している。 基本的な生活習慣が身につくよう、子どもの成長に合わせて援助している 年間指導計画や月・週単位の計画に生活習慣の自立に必要な経験を盛り込み、個々の発達に応じて着実に力を伸ばせるよう援助している。着脱や衣服の整理、食具の扱い、衛生管理、排泄、挨拶など、子ども自身が意識できるよう、保護者とも連携しながら適切に声をかけている。そして、子どもが「自分でできた」という達成感を持てるよう、温かく見守りながら、日常の積み重ねを通して、基本的な生活習慣が身につくよう支援している。 子どもの年齢や状況に合わせて、必要な休息を取れるようにしている 年齢や発達に応じた基本的な生活習慣の目安を保護者へ伝え、休息の必要性について家庭と園で共通認識を持てるように努めている。日々の活動に加え、家庭での様子を個別に聞き取り、一人ひとりの状況に応じた配慮を徹底している。寝付けにくい子には無理強いをせず、体を休められるよう環境を整えている。年長児については、クラスや個々の様子を見極めつつ、就学に向けて段階的に午睡時間を短縮している。個別の体調や体力を踏まえ、集団生活の中でも一人ひとりに最適な生活リズムの構築を支援している。		

3	評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している 評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している ☐ 非該当
評価項目3の講評	
園の特徴をふまえて保護者にサービス内容を伝え、保育への理解を図っている 身体測定や園医による健康診断を行うほか、入園までの生活状況や健康状態、食事の状態など、保育に必要な子どもに関する情報を収集している。また、保護者の就労状況や子育ての意向なども確認している。乳児や食物アレルギー、健康上の問題など対応が必要な場合は、栄養士や看護師も面談に加わっている。説明会では、入園後のルールや緊急時の取り決めなどを丁寧に伝えている。さらに、当園が障害児指定園であること、すべての子どもが分け隔てなく共に育ち合う園であることなども改めて伝え、保護者の理解を促進している。 無理なく新しい環境へ適応できるよう子どもの様子を見ながら適切に支援している 入園当初は保護者と相談して、短時間の保育から始める慣れ保育を行っている。慣れ保育はおおむね一週間をめぐりに子どもの状況や保護者の事情を考慮し、子どもの様子を見ながら無理なく予定の保育時間まで延ばしている。入園時に提出された家庭連絡票や入園までの生活状況、健康調査票、食事調査などの書類は、支援に役立てる基礎資料としている。保護者からは家庭での保育の状況や、子どもが落ち着く対応・好きな遊びなどを職員に伝えてもらっている。保護者の不安を軽減し、安心して預けてもらえるよう信頼関係の構築を図っている。 支援の継続性に配慮した支援や関わりを大切にしている 転園や退園する際には、いつでも相談できることや次の生活へ向け声をかけ、保護者や子どもの不安の軽減を図っている。必要に応じて保護者の承諾の上、スムーズな移行を支援するため、移行先に子どもの情報を提供できる体制を備えている。また、就学へ向けて小学校から提供される情報を保護者に伝えている。卒園時には保育所児童保育要録を作成し、就学先の小学校へ提出し、育ちの連続性を保障している。	

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		○ 非該当
評価項目4の講評			
行事は子どものアイデアを取り入れ、楽しく取り組める内容となるよう工夫している 年間計画に沿って様々な行事を実施している。常に子どもの視点に立って子どもの姿や発達をとらえ、子どもの声を受け止め、行事計画に活かしている。遊んでいる姿や興味・関心を持っていること、普段の会話からヒントを得て活動に取り入れ、「どうすれば楽しいことを実現できるか」を検討し、展開させている。保育者も子どもも楽しみながら行事を作り上げるプロセスを大事にしている。クラスだよりや日々の子どもの姿を通して楽しむ様子が保護者にも伝わり、園の取り組みの共有につながっている。 みんなでやり遂げる楽しさや喜びを味わえるように取り組んでいる 自分の意見やアイデアを出し合い話し合うサークルタイムを設け、子どもたちの想いや声を聴き、行事等の実施計画を立てている。子どもの意見を引き出し、子どもは共感や葛藤を経験しながらおぼけやしきや夏まつり等の行事に取り組んでいる。年齢が上がるにつれて、「やりたいことを実現するために、何をするのか」までを考え、必要なものを自分たちの経験から順序立てて求める姿も見られている。年長児の活動に小さいクラスがあこがれの気持ちを抱き、声援を送り、互いに協力し合う豊かな経験を重ねている。 様々な工夫により行事における子どもの様子を伝え、保護者と共有している 園だよりやクラスだより、連絡帳を通じて日々の活動を保護者に伝えている。写真を活用したドキュメンテーションを導入し、活動のプロセスや期待感到満ちた子どもの姿を具体的に可視化している。園外保育の際には、趣旨や準備のポイントを丁寧に解説し、保護者の理解と協力を得られるよう配慮している。送迎時の対話では、活動の意図や子どもにとっての意義を専門的な視点から伝えている。こうした発信を通じ、園の保育への理解を深め、子育ての見通しや成長の喜びを共有することに努めている。			
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		○ 非該当
評価項目5の講評			
保育時間の長い子どもが、落ち着いて好きな遊びを楽しめるように配慮している 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるように配慮している。静と動の活動を考え、保育室の環境を配慮すると共に、園内の多目的室や特別室(クローバー)を有効に活用して、一日の活動にメリハリがつくようにしている。子ども自身が使ってみたい遊具や、やってみたい遊びの設定をし、職員は一人ひとりの遊びや関係性を継続的に見守っている。朝夕保育の延長時間には、日中の活動からの興味の継続等も保障できるように考え、クラス担任と連携を取って遊びの設定等の工夫をする等、都度対応をしている。 子どもが安心して過ごせるよう、保育体制や環境を工夫している 子どもの身体的・心理的負担の軽減を図るべく、保育室は一人ひとりが落ち着いて過ごせるように配慮・工夫している。合流の時間は子どもの年齢、人数や状況に合わせ年度ごとに確認し、保育体制を決めている。年度の途中であっても状況の変化に合わせ随時確認・検討している。「遊びたい」という意欲に応えられる環境を準備しつつ、疲れた時には安心して体を休められるよう工夫している。どの子どもにとっても負担が少なくゆったり過ごせるように職員が連携し、遊びの設定や遊具の用意などを行っている。 異年齢児がゆったりと関わり、自然な形で良い関係を築くことができる環境を整えている 保護者や担任からの連絡事項は、職員間で確実な引き継ぎを行い、踏まえるべき情報に基づく対応を徹底している。会計年度任用職員を含む全職員が保育に必要な情報を共有し、園児一人ひとりの遊びや人間関係を継続的に見守る体制を敷いている。長時間保育を利用する子どもたちは、朝夕の合同保育を通じて自然な形で異年齢児と交流している。日中の保育においても互いの存在を気につけ、挨拶や関わりを持つなど、兄弟姉妹のような関係性が築かれており、豊かな社会性の育ちを促している。			

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている		○ 非該当
評価項目6の講評			
落ち着いた環境の中で、子どもが食事を楽しく食べられるよう工夫している 給食は栄養バランスを考慮し、旬の食材を取り入れた区の統一献立に基づき自園で調理している。ミーティングで喫食状況を確認し、進捗会議では、個々の発達に合わせた食形態を確認している。食事環境の整備として、動線に配慮したテーブル配置や、子どもの体格に適合した什器を導入している。特定の座席で保育士と対話を楽しむなど、落ち着いた雰囲気作りを徹底している。食事の際の言葉がけや介助においても子どもの情緒を尊重し、食への意欲を育む楽しい食事環境の提供に努めている。 アレルギー児の食事については、誤食のないよう細心の注意を払い提供している 食物アレルギー等の個別対応が必要な場合は、「アレルギー疾患生活管理指導表」に基づき、マニュアルに則って除去食や代替食で対応している。前月に保護者と献立表及び成分表の項目を確認し、食材を特定している。アレルギー児の給食については、前日の全体ミーティングで内容を共有している。当日は個別トレーで用意し、提供直前に担任と調理員が原因食材の除去や代替を目視し、口頭確認を経てから配膳している。必要な手順や対応については、全職員が共通理解を持って取り組んでいる。 食に対する興味や関心を深める取り組みを積極的に行っている 年間を通して、食に対する興味や関心を育む活動を保育に取り入れている。野菜などの栽培を通して、生長や変化を観察し、匂いや感触に触れ、収穫したものを食べる経験もしている。4、5歳児クラスでは、おやつの際に、衛生面には十分配慮してパンにクリーム等を塗って食べる経験や、さらに3歳児も含めておにぎりをラップに包んで握って食べる経験も取り入れている。栄養素の働き、食べ物と身体の関係などについても、献立と関連付けて伝えている。こうした食育の取り組みを発信することで、保護者の関心も促している。			
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している			
			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている		○ 非該当
評価項目7の講評			
子どもが健康や安全に関心を持ち、自分自身の身を守るように働きかけている 日々の保育を通じ、子ども自身が健康や安全に関心を持ち、不調の訴えや危険回避ができるよう援助している。体の使い方を習得する体づくりを推進するほか、看護師と担任が連携し、年齢別の健康教育を実践している。生活や遊びの場面では、プライベートゾーンや手洗い、うがいの重要性を子どもの発達に応じた言葉で伝えている。こうした体験的な学びを通じ、病気や怪我に対する意識を高めることで、子ども自身が自らの健康について考えて行動できるよう支援している。 専門機関等との連携のもと、適切な対応ができるように体制を整え備えている 障害児指定園として、支援が必要な子どもの特性を深く理解し、共に育ち合う保育を日々実践している。医療的ケアが必要な子どもの受け入れに備え、ガイドラインに基づく実務研修を受講している。常に最新の知識を得て情報を更新し、職員間で共有する体制を整えている。また、毎月の身体測定や定期的な健康診断、歯科、眼科、耳鼻科の各健診を計画的に実施している。嘱託園医と健康に関する情報を密に共有しながら、専門的な知見を活かして、子ども一人ひとりの健康維持と健やかな成長を支えていくことに取り組んでいる。 保護者と連携して、子どもの健康維持に向けて取り組んでいる 乳児クラスは連絡帳を活用し、保護者と健康状態の共有を図っている。幼児クラスは登降園時に保護者より健康状態を確認して把握している。健康に関する情報は園内に掲示しており、乳幼児突然死症候群(SIDS)については入園説明や園内の掲示により周知を図っている。また、毎月保健だよりを発行して季節に応じた健康維持に関する情報を提供している。入園前の個人面談で個々の健康状況を把握し、乳幼児期に必要な体の発達を知らせている。感染症情報は、園内の掲示により周知し、子どもの健康を維持できるよう家庭との連携を図っている。			

8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○ 非該当
	● あり ○ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○ 非該当
	● あり ○ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○ 非該当
	● あり ○ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○ 非該当
評価項目8の講評			
保護者の相談に丁寧に対応し、個々の事情に応じて必要な支援を行っている 入園時や個人面談、日々の連絡帳、送迎時の会話から、保護者の置かれた状況や悩みをきめ細かく把握している。担任・園長・主査が連携して情報を共有し、まずは保護者の思いを真摯に受け止めることを重視している。その上で、保育時間の柔軟な変更など、個々の事情に応じた具体的な支援を検討・実施している。園全体で温かく見守り、保護者に寄り添った丁寧な対応を継続することで、安心して預けられる環境を整え、強固な信頼関係の構築に努めている。 保護者同士の交流を深め、子どもの発達や育児等について共通認識を促進している 各クラスで定期的に保護者会を開催し、年間保育計画に沿った発達の見通しや保育方針を説明することで、保護者との共通認識の形成に努めている。会の運営においては、担任の保育観を伝えるとともに、懇談や交流の時間を設け、子育ての悩みを共有できる環境を構築している。これにより、保護者間の相互理解とつながりの深化を促進している。個人面談では、園と家庭における子どもの成長を多角的に振り返り、個別の支援方針を共有することで、家庭と園が一体となって子どもを支える体制を整えている。 子どもの成長・発達を伝え、保護者と共通認識を得られるようにしている 保護者が子どもの成長に見通しを持ち、喜びを共有できる支援を重視している。保育参観・参加は、希望に応じて時期を問わず随時受け入れる柔軟な体制を整えている。また、保護者の要望を細やかに把握し、保育運営に反映させることを園全体の基本方針としている。寄せられた意見や質問に対しては、組織としてスピード感を持って対応を検討し、速やかな実施・改善に繋げる体制の構築に努めている。			
9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○ 非該当
評価項目9の講評			
地域全体のつながりを活かした活動により、子どもの経験の幅を広げている 近隣の方から行事で使う笹をもらい、年長児がお礼の手紙や絵を渡しに行くなど、活動を通して日常的な交流をすることができている。中核園の年長児交流では、就学先の近い地域の子どもたちが出会い、交流している。また、高齢者活動施設(ゆうゆう館)では高齢者に昔遊びを教えてもらったり、子どもたちがソーラン節を踊ったりするなど、多様な人との交流は、経験の幅や子どもの世界の広がりにつながっている。 地域との連携のもと、人との関わりを通して、刺激を受けている 園庭開放に地域の親子の参加を呼びかけ、園児と一緒に遊ぶ機会を設けている。参加した地域親子と在園児が自然に触れ合い、関わる姿が見られている。また、中核園事業で行われる交流事業や小学校区の連携事業に積極的に参加している。消防署の職員を招いて総合避難訓練を行ったことで、安全に対する子どもの意識がさらに高まった。そのほか、区民センター主催のちびっこまつりに5歳児の作品を出品したり、体験型のお祭りイベント(こども縁日)に職員が参加したりしている。日頃から子どもから大人まで地域との関わりを深めている。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	子どもが主体的に関わりながら自分のやりたいことが実現できるように支援している	
内容①	子どもが主体的に遊びを見つけ、創造的に遊び、集中できる環境づくりに取り組んでいる。子どもが興味・関心を示した事象や出来事を保育者がキャッチし、遊びが広がるような関わりを目指している。子ども同士で話し合うサークルタイムを設け、自分で考え、相手の思いを受け入れたりする経験や学びを大事にしている。職員は子どもの意見を聞き、子どもが安心して主体的に集団活動に関わり、友達と協力しながら夢中になって遊べる環境を整え、やり遂げる喜びを味わうことができるよう活動を援助している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	自然な異年齢交流により、子ども自身がともに育ちあっていく姿がある	
内容②	職員同士の信頼関係と良好なチームワークにより、子どもに様々な体験ができるように努めている。成長・発達の見通しに立った職員の関わり、意図やねらいに基づく環境設定、そして職員同士の円滑な連携により、保育の中で自然な異年齢交流を図ることができている。クラスの垣根を越えて関わり合うことを通して、互いに刺激し合い、子ども自身がともに育ちあっている。相手を思いやり、思いやられる心地よさを味わったり、年上の子どもの姿に憧れを抱いたりする経験は、子どもの成長に不可欠の栄養素として、吸収され、育ちに活かされている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル③	保護者との信頼関係を深め、子どもの成長を共有できるよう取り組んでいる	
内容③	保護者が子どもの成長を知り、育ちの見通しを持ち、大きくなっていく姿を待ち遠しく楽しみに思いながら子育てができることも、保護者支援のひとつであると考えている。保護者会などでは、園が大事にしている保育について丁寧に伝えている。そして、保護者の話を聴き、子どもを中心に「子育て」に取り組んでいる。システム配信を活用して活動の様子を知らせ、子どもの成長・発達に関する情報を積極的に発信し、保育の見える化を図ることで、理解と共有につなげている。園生活を楽しむ子どもの姿を知ることで保護者の安心と信頼につなげている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	豊かな保育を展開するため、子どもの発信から様々な工夫をして取り組んでいる
	内容	生活や活動を通して子どもが示す興味やアイデアを最大限に尊重して、保育者はそれを逃さず、よく聞き取り、子どもの思いに寄り添っている。そして、子どもの「やりたい」という思いが実現するように日々の保育の中で考え、取り組んでいる。子どもの発想や気づきに注目して対話を重ねながら、子ども同士が思いを伝え合い、一緒に考えながらそれらを展開させることができるよう、プロセスを大事にして働きかけや支援をしている。子ども自身が思いを表現し、形にしていくなかで、楽しみ、協力し合い、満足感や達成感を得ている。
2	タイトル	子どもが自分らしく輝ける環境づくりを全職員で考え取り組んでいる
	内容	子どもが自分らしく輝ける環境づくりを念頭に置き、職員一人ひとりがより良い保育へ向け、職務に取り組んでいる。日々の保育では、子ども同士が認め合いながら共に育つ保育を大事に行っている。活動内容や環境の工夫を通して、同じ目線で同じ遊びや経験ができるように職員全体で考えている。また、日々の子どもの姿や思い、取り組みの様子についてできるだけ伝えるように努め、多様なニーズを持つ保護者が安心して子育てができるようにしている。園ができることを考え、共に育ち合うことを大切にして園全体で保育を進めている。
3	タイトル	園として目指す方向性を明確にして職員が力を発揮できる組織運営に取り組んでいる
	内容	職員一人ひとりの思いを聞いてチームとして支え合う関係性の構築や、互いを認め合えるような組織運営を追求している。園として目指す方向性を全体で確認を行ったうえで、職層に応じた責任と役割をさらに周知し、組織としての基盤を固めている。保育の場面では、積極的に研修に参加し、その内容を会議の中で報告・共有して、学んだことを業務のスキルアップや標準化に活かしている。より良い保育を共に考える組織づくりを志し、園全体で取り組みを継続している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	子どもが安全に過ごせる環境をより一層強化する
	内容	子どもの安全な生活を保障するために日々取り組んでいる。事故に至らない事例＝ヒヤリハット事例についても日々収集し、記録している。ヒヤリハットは、それをいかに活用するかにより、事故の防止だけでなく、危機管理に対する意識の向上や共通認識の促進にもつなげていくことができる。日々の事例をより一層有効に活用していくことで、「子どもが安全に過ごせる環境の整備」というこれまでの取り組みを、さらに充実させていくことを課題としている。
2	タイトル	地域のニーズにもとづき、園としてできることを考え地域貢献に取り組む
	内容	中核園として近隣園との連携や交流について職員の意識は高く、ふれあい保育等、自園で行う地域親子への支援活動を積極的に進めている。小学校との交流や地域ネットワークへの参画も継続している。地域における保育の専門機関として、職員の専門性やこれまで培ってきた園の機能を活かした支援等、まだ工夫できる余地があると考えている。園ができる取り組みについて、子育て相談や園庭開放を通じて、乳児が過ごす様子を見てやり取りの参考にしてもらうなど子育て支援の充実を再考し、引き続き地域貢献を実践していくことを今後の課題としている。
3	タイトル	日頃から保護者との信頼関係構築に努め、子どもの育ちを共有し、保育を伝えていく
	内容	日頃より保護者とのコミュニケーションに努め、送迎時の声かけや掲示、システム活用によるおたよりの発信等を通じて保育の共有を進めている。保護者の話から子育ての悩みや保護者自身のこと等を職員が傾聴し、必要に応じて面談を行うなど、丁寧な対応を心がけている。今後も、子どもの健やかな成長を支え、保護者と共に育みながら子どもの姿を共有することができるように、子どもが園生活から様々な学びを得ていることを積極的に示し、遊びや活動のねらいをより明確に伝え、さらに保育への理解を図っていくことを課題としている。

4. 井草保育園

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

2026 年 2 月 28 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 156-0043

所在地 東京都世田谷区松原3-38-16-107

評価機関名 株式会社にはほんの福祉ネット

認証評価機関番号 機構 06 — 168
電話番号 03- 6379- 5156
代表者氏名 永峯 治之 印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名			担当分野	修了者番号
	①				経営 H1901102
	②				福祉 H2101111
	③				福祉、経営 H2301066
	④				
	⑤				
	⑥				
福祉サービス種別	認可保育所				
評価対象事業所名称	井草保育園				
事業所連絡先	〒	167-0021			
	所在地	東京都杉並区井草2丁目15番15号			
	TEL	03-3395-8257			
事業所代表者氏名	菊地 由美子				
契約日	2025 年 6 月 20 日				
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 8 月 1 日				
利用者調査結果報告日	2025 年 10 月 22 日				
自己評価の調査票配付日	2025 年 8 月 1 日				
自己評価結果報告日	2025 年 10 月 22 日				
訪問調査日	2025 年 11 月 18 日				
評価合議日	2025 年 11 月 18 日				
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	区担当者との打ち合わせにより全体の流れ、留意事項の確認を行った。その後、事業所にて事前説明を行い、オンライン形式での利用者調査や職員アンケートの実施方法について説明を行った。訪問調査前には当日の訪問者、タイムスケジュール、確認予定の書類について案内した。訪問調査では施設見学もあわせて行い、実態の把握に努めた。合議では、訪問者2名と他の1名、事務局により内容の精査・修正を行った。				

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、
● 機構が定める部分を公表することに同意します。
○ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
○ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2026 年 2 月 28 日

事業者代表者氏名 園長 菊地 由美子 印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） ・保育理念、方針、目標のもと、全職員が同じ思いで子ども、保護者に寄り添った保育を行っていくこと。 ・子ども、保護者、職員それぞれの思いが傾聴され、対話することで保育園が安心でき、明日も来たい場所であること。 ・子どもが自ら気づき、もっとやりたい、もっと知りたいと思えるような子どもの五感、好奇心を刺激するような豊かな保育を提供していくこと。 ・子どもが様々な活動、経験を通し、安心して自己発揮し、挑戦し、その子らしく育っていくこと。 ・保育園の専門性を活かし、保護者が安心して子育てに喜びを感じたり、地域の子育て支援も担っていくこと。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） （1）職員に求めている人材像や役割 ・子どもの育ちはその場だけの対応や経験で保障できるものではなく、1歳から5歳までのつながりの中で積み重ねられ身につけていくことを意識し、丁寧な繰り返しの対応と子どもの小さな成長変化に気づき、喜び合えるような人材になってほしい。 ・大人が答えや全てを教えるのではなく、子ども自身が気づき、考え、決められるような保育活動を行っていくことを期待している。 ・職員皆で園の子どもたちを育てているという意識を持って、助け合い、より良い保育を目指し話し合いを重ね、向上に繋げられるような職員集団でありたい。 （2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ・保育園は保護者を支え、共に子どもの育ちを保障していく場所であることを理解し、保護者それぞれの思いや考えに寄り添いつつ、専門的見地を基に、子どもにとって大切な事を一緒に考えられるような存在でいてほしい。 ・子どもには生まれながらに人権、思いがあるということを常に理解し、一人ひとりの子どもの育ちや変化を大切に受け止め、専門的な視野で今その子が必要としている援助や活動経験は何かということを考えられる職員集団になってほしい。 ・子どもの命を守っていくために、安心安全な保育を心掛け、乳幼児期の経験が、その子の育ちの土台となることを意識し、責任感を持った保育をしてほしい。

調査対象

複数児利用世帯は最低年齢児1人を対象として実施世帯数を絞り、調査対象者に対し実施。

調査方法

WEB回答システムを活用。機関が作成した二次元コード記載の案内を事業所を通して各家庭に配布。各家庭においてそれを読み込んだ上で、個別に匿名で回答。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

89

74

74

41

55.4

利用者調査全体のコメント

＜総合的な満足度＞

「満足」 83%、「まあまあ満足」 12%、計95%という満足度が示された。

＜調査結果の講評について＞

・肯定的な評価(「はい」との回答)が全体に占める割合についてのみ、記述した。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	40	1	0	0
回答者の98%「はい」と回答した。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	39	2	0	0
回答者の95%「はい」と回答した。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	40	1	0	0
回答者の98%「はい」と回答した。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	36	4	1	0
回答者の88%「はい」と回答した。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	29	4	0	8
回答者の71%「はい」と回答した。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	36	3	1	1
回答者の88%「はい」と回答した。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	28	9	2	2
回答者の68%「はい」と回答した。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	35	5	0	1
回答者の85%「はい」と回答した。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	36	4	0	1
回答者の88%「はい」と回答した。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	38	1	1	1
回答者の93%「はい」と回答した。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	35	3	0	3
回答者の85%「はい」と回答した。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	30	4	0	7
回答者の73%「はい」と回答した。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	36	3	0	2
回答者の88%「はい」と回答した。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	35	3	0	3
回答者の85%「はい」と回答した。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	38	2	0	1
回答者の93%「はい」と回答した。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	31	3	1	6
回答者の76%「はい」と回答した。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	28	7	3	3
回答者の68%「はい」と回答した。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリー1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリー1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○ 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○ 非該当
	● あり ○ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○ 非該当
	カテゴリー1の講評		
	園が目指していることを明示し、保護者や職員への理解を深めている 区立の保育施設として、児童福祉法や関連法令の根拠の下、区の基本理念やビジョンなどを運営や保育の基礎としている。年度当初には保育目標を達成する大枠となる全体的な計画を通して児童憲章、園の保育理念・保育方針・保育目標を確認している。これらを園内の各所に掲示することで職員の意識を高めると共に、保護者への周知を図り、基本に立ち返る働きかけを行っている。また、係の目標申告を作成して職員に周知し、一年間の目標を明示している。保護者に対しては、入園前の面接、年度当初の保護者会や園だより、クラスだよりでも説明している。		
	園運営の方向性を提示し、自らの役割と責任を果たしている 年度当初の職員会議で、経営層の年間目標を職員に伝えている。組織目標から係の目標シートを作成し、これに基づき園長自身も具体的な年間計画を作成し、自らの役割と責任を職員に伝えるなど、組織の方向性や経営層の役割を明示することで、園運営をリードしている。園長・主査・向上リーダーが、保育の質の向上を図る中心となり、大切にしたい保育の実現のために方向性の共有を図っている。運営に関わる変更や改善事項などが生じた際は、園だよりや保護者会などで園長より速やかに保護者に説明している。		
	園で定めた手順に沿って、検討・決定・周知・実行を着実にやっている 毎週の定例及び毎日のミーティングでは誰もが意見を出しやすい雰囲気づくりを心がけ、話しやすい場を整えている。職員の意見をできるだけ吸い上げ、職員の主体性を尊重した運営を心がけている。重要な案件についてはその経緯を説明・周知している。連絡・確認事項は、ミーティングなどにより迅速に伝え、共有を図っている。会計年度任用職員に対しては、事務所が窓口となって個別に声をかけるなど、必要な情報を共有している。保護者には、園での決定事項やその経緯、内容などの情報を園だよりや掲示などで伝えている。		

2			事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		カテゴリー2
サブカテゴリー1(2-1)					
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況		6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			評点(○○○○○○)		
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している				○ 非該当
● あり ○ なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している				○ 非該当
● あり ○ なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している				○ 非該当
● あり ○ なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している				○ 非該当
● あり ○ なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している				○ 非該当
サブカテゴリー2(2-2)					
実践的な計画策定に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況		5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している			評点(○○○)		
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している				○ 非該当
● あり ○ なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている				○ 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる			評点(○○)		
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる				○ 非該当

カテゴリー2の講評

様々な方法で収集した情報を検討・活用して園運営に活かしている

保護者については、保護者会や個人面談などを通して、園への要望などを把握している。日々の登降園時のやり取りや連絡帳等からも、保護者の思いをつかみ、対応の見直しなどに役立てている。職員は会計年度任用職員も含め、個人の目標申告シートなどをもとに園長とのヒアリングを行っている。個別に話を傾聴し、意向を把握している。会議等の打ち合わせでは、活発な意見交換により、園運営の課題解決につなげている。改善点については、係の目標シートや個人の目標申告シートに反映させている。

地域の福祉の現状について情報収集やニーズを把握し関係各所との関係を深めている

区や課の方針を受け、様々な事業を展開している。福祉事業や区の施策などの現状や動向については、区立園長会、庁内メール、区内広報などで随時確認している。近隣園との中核園事業に参画して、合同研修、園庭の共同利用などに取り組んでいる。近隣施設との交流も積極的に実施し、地域のニーズを把握している。収集した情報は、回覧やミーティングなどにより、できるだけ速やかに職員に周知している。近隣の関係機関との地域ネットワーク会議や連絡会に参画して情報交換を行い、顔の見える関係を構築している。

目標の達成に向けた意見交換を行い計画の実行に取り組んでいる

区の中長期計画、課の組織目標を受け、係の目標申告を作成している。杉並区保育実践方針等をもとに全体的な計画を作成し、年度末反省をもとに職員と共に係の目標シートを作成して園内の取り組みを明確にしている。目標シートの各項目に取り組み内容を記載し、達成度合いを図る目安としている。園運営については、各プロジェクトを中心にして計画内容のさらなる充実を図っている。議題を事前に決定・通知し、意見を集約し検討して会議に臨むなど、限られた時間を効果的に活用し、目標達成に向けて着実に取り組んでいる。

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	☐ 非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	☐ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	☐ 非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	☐ 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	☐ 非該当

カテゴリー3の講評

社会人として適切な行動ができるよう取り組み、組織としての責務を果たしている

社会人として、また福祉サービスに従事する者として、守るべき事項を全体に周知するため、保育課からの資料を活用して学ぶ機会を設けている。園長会で得た情報のほか、公務員倫理や規範についても繰り返し伝え、意識の向上を図っている。年度当初には、会計年度任用職員も含めて資料を提供し、随時助言や指導を行い、子どもに対する行動や言葉の選択など、適切な保育や守秘義務について確認し共有している。虐待が疑われるような情報をつかんだ際は、速やかに園長に報告し、必要に応じて関係機関と連携を取り、迅速に対応する体制を整えている。

地域へ園の取り組みを開示し様々な意向を把握して対応できる体制を備えている

苦情・要望などの相談窓口について、入園説明会で園の概要と共に保護者に説明し、相談の仕組みについて案内している。園長を苦情受付・解決責任者として位置づけ、いつでも相談に対応できる体制を備えている。担任・主査・栄養士・看護師など、相談を受けた職員は必ず園長に報告し、会議などで情報を共有している。また、実習生や体験学習の受け入れなど、次世代の人材の育成にもつながる取り組みも積極的に行っている。園庭開放を含む子育て支援事業の取り組みや日々の活動の様子なども開示し、透明性の確保を図っている。

様々なネットワークに参画し、地域の一員として園の役割を果たしている

園庭開放やふれあい保育、緊急一時保育など、地域の子育て世帯のニーズに応える事業を行っている。高齢者活動施設(ゆうゆう館)や児童館とは避難や救急法の訓練を合同で行っている。また、中核園事業では、担当年齢別の担任や看護師や栄養士などが交流や研修を行い、園の持つ専門分野の知識を地域に還元できるよう努め、園児同士の交流にも取り組んでいる。そのほか、近隣小学校との連携による行事などにも参加している。こうした取り組みの積み重ねを通して、地域連携に対する職員の意識も高まっている。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○ 非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○ 非該当
カテゴリー4の講評		
想定される様々なリスクについて、マニュアルを定め訓練を実施している 区として業務継続計画を策定し、職員にも周知している。リスクへの対策を常に話し合い、具体的な行動について職員間で共有し判断している。危機管理マニュアルや園マニュアルをもとに、事故、感染症、災害、情報セキュリティ、防犯対策などの対応を確認し、役割分担を行い、各種事態に備えている。年間避難訓練計画を定め、地震や火災、それらの際の併設施設との協力など、非常時に備えた訓練を実施している。訓練後は課題の抽出を行い、状況に応じて臨機応変に対応できるようにしている。 リスクに対して危機意識を持ち必要な対策をとり、危険回避と再発防止に努めている 保護者には、リスクへの対策について新入園児説明会や保護者会、園だよりなどで伝えている。園のしおりには、安全・防犯の対策、災害時の対応などを記載し、緊急時の園の対応を案内している。年度当初の保護者会でも、緊急時安全メールについての確認などを含め、災害時の対応について改めて説明している。感染症の罹患については速やかに園全体へ周知している。ヒヤリハットを含めたけがなどについては、原因の分析、振り返り、対応策の検討など、職員全体で情報を共有し、再発防止や深刻な事故の防止に取り組んでいる。 情報管理を適切に行い必要な情報を活用できるようにしている 区の情報セキュリティ基本方針や情報セキュリティ対策基準に基づき、保育課内および園内において、適切な情報セキュリティマネジメントを行っている。園では、個人情報を含む書類は施錠管理し、持ち出しと返却時には持ち出し管理簿に毎回記入している。画像保存機器類の持ち出しと返却についても、管理簿を活用してチェックを徹底している。個人情報の紛失や漏洩が発生しないようにダブルチェックを行うなど、慎重かつ厳格な管理を行っている。管理方法は職員全体に周知徹底し、最終確認者は機器類の数を確認し、戸締りチェック表に記入している。		

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○ 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○ 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○ 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○ 非該当

サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	☐ 非該当
カテゴリー5の講評 目指す職員像の実現のため、長期的な展望で人材の確保や育成に取り組んでいる 区の人事課や保育課と園との間で連携を取り、人材確保を行っている。採用後には、配置園においてOJTを含む計画的な指導を行っている。そして、専門性を身につけ、個々の能力を活かせるように、区の人材育成方針や職員人材育成事業実施計画に基づいた研修を実施し、育成に努めている。職員一人ひとりの適性を把握しながら育成を図り、専門的な知識を高めながらキャリアアップを支援している。職員自身が具体的に自分の職責や果たすべき役割への筋道を見据え、個人と組織の目標達成に向けて意識して取り組んでいけるようにしている。 中長期的な見通しを立てた計画により職員の意欲向上を支援した育成に取り組んでいる 人事課が企画する職層研修により、ライフプランや業務改善計画の立案を行い、中長期を見据えた人材育成計画を策定している。区の目標申告シートを活用して職員の状況を把握し、計画的な育成を行っている。職層研修、会計年度任用職員研修、実務研修など、勤務形態を問わずキャリアに合わせた研修を実施している。新任職員には、長期的人材育成計画に基づく育成を行っている。育成担当者が適切な指導を行うことができるよう、担当者研修や会議など、支援する仕組みを確立している。園全体で職員を支援・育成していく方針・姿勢を実践している。 良好な人間関係と安心して働き続けられる職場環境づくりに取り組んでいる 職員間の良好な関係を構築するため、何でも安心して声を上げられるよう、互いの意見に耳を傾け共感し、発言に対して否定的なことは言わないように徹底している。この取り組みを保育に活かし、子どもと大人が楽しい保育を実践している時は、その状況を見逃さずに声を出して認め、職員の意欲向上を図るよう取り組んでいる。また、子どもの成長を共に喜び合えるように努めている。こうした取り組みが、互いの理解と信頼を深め、職員一人ひとりの特性や特技を活かした保育につながり、モチベーションの向上やより良い保育実践に活かしている。		

7		カテゴリー7
事業所の重要課題に対する組織的な活動		
サブカテゴリー1(7-1)		
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている		
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)		
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 理念である「一人ひとりの子どもを尊重」を実践するため、「子ども中心の保育」「子どもに寄り添った保育」を改めて目標として、日々の保育内容や行事の考え方を都度議題として検討を行った。園内研修では「子ども中心」「子どもにとってどうか」という視点を意識して、向上リーダーと共に内容の充実を図った。行事では、「何を経験させたいか」「ねらいは何か」を改めて考え、対象年齢や内容を検討し、実施した。子どもの満足度のため一つひとつの活動や遊びの時間を見直した。子どもの思いを最優先に考える機会を持ったことで、子どもに対する理解が進み、関わり方にもより意識を持つことができた。また、活動の見直しは、子どもの満足度や保育士の充実感にもつながった。今後も、子どもを中心に据えて考え、「子どもが主体とはどういうことか」をさらに深めて考えていくことを目標にしている。またそのうえで、子どもの発信からの保育の展開、子どものやりたいことを満たしつつも「保育士の願い、ねらいをどのように組み入れていくか」を会議で検討していく方針である。		
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった	
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である	
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である	
評価項目1で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評 「子どもの最善の利益」を追求していくべき保育園として、「子ども中心の保育」「子どもに寄り添った保育」という視点から現状を振り返り、実践を根拠づけていくことは、常に必要かつ有益なことである。職員にとっても、日々の取り組みを深めていくことにつながる。また、こうした主体的な取り組みの結果として、子どもの様子の変化という形でその成果を実感することは、士気ややりがい、仕事の楽しさなどの向上にもつながる。こうした好循環は、理念の実現にも好影響をもたらすものである。		

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

共育での充実を目指し、保護者の思いに寄り添うことや保育内容の共有の意識強化を図ることを目標とした。子どもや保護者の置かれている状況や国、都、区の取り組みを分かりやすく説明し、子育て支援をアドバイスするだけでなく、保護者の困り感や思いに寄り添い、受け止めることがまずは大事であるということを、改めて職員と再確認し、また定期的に伝えた。また、業務のICT化を進めるにあたり、保育内容や子どもの育ちをより一層保護者と共有していくために、日誌などの書き方を学び合ったり、保護者対応で大切にしたいポイントを全職員で確認したりした。相互の情報発信を心がけた結果、保護者とのやり取りが増え、要望に対して柔軟に対応できるようになり、信頼関係の構築も図ることができた。また、信頼関係が深まることで思いをさらに知ることができ、保護者との共育での充実につながった。業務のICT化を進める中で、日々のコミュニケーションの大切さや直接やり取りを行う効果も職員は感じている。そこで、今後も引き続き、送迎時の保護者との直接のやり取りや話し合いやすい雰囲気づくりを継続していくことを目指し、同じ思いで子どもの育ちを喜び合い、見守っていく方針である。

目標の設定と取り組み

- ☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- ☐ 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)
- ☒ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- ☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評

区の保育実践方針で掲げる保護者との「共育」の推進にとって、保護者とのコミュニケーションをしっかりと図ることは、重要かつ効果的なことである。便利さや迅速性などのICTの特性から、その活用は一方的な情報発信に偏るリスクもある。この点で、当園の実践では、細心の注意を払い、ICTと直接的なやり取りを状況によりうまく使い分け、保護者の安心や信頼につなげることができている。こうした取り組みは、「共育」の基盤を強化することにもつながる。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評点(〇〇〇〇)			
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	☐ 非該当
サブカテゴリ1の講評			
区のホームページやアプリ等を活用して園の情報をわかりやすく提供している 区のホームページや区の公式アプリケーション「すぎぼよ」、杉並区の保育施設ガイドブック、園のしおりなどにより、園の情報を発信している。ホームページでは園の住所や電話番号、対象年齢、定員、保育時間、保育目標などの概要を伝えている。園の特色として、ねらい、食育、たてわり交流、シンボルツリーを紹介し、より園の特徴がわかる広い園庭に築山があり、鉄棒などの固定遊具と自分たちで工夫して作れる可動式遊具等の写真を掲載して紹介している。ふりがなやかたかな表記などを施した情報媒体も用意している。			
行政や関係機関と連携を取りながら情報の提供と共有に努めている 区の主管課には、中核園との連携、子育て支援事業の取り組みや感染症の状況、近隣の関係機関との交流実施等についての報告や必要なやり取りを常に行い、園の現況を発信して共有に努めている。地域ネットワーク会議に参加し情報交換を行っている。併設の高齢者活動施設(ゆうゆう館)や児童館などとも、連携を通じて、園の情報を提供している。			
問い合わせや見学の要望には個別の状況に応じ、できる限り対応している 見学希望の受付について、区として都の施策(保活ワンストップサービス)を導入している。電話などによる受付も継続している。開催日を決めつつ、個別の希望にはできる限り日程調整を行い、対応している。見学者の人数によっては受け付ける組数や回数を調整している。見学時には、園内環境を見てもらいながら園が大事にしていることや活動について触れ、入園時に準備が必要な持ち物や保護者参加の行事について説明し、実際の園生活がわかるように配慮している。園庭開放やふれあい保育等への参加、電話による子育て相談なども案内している。			

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		☐ 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		☐ 非該当
サブカテゴリー2の講評			
園の特徴をふまえて保護者にサービス内容を伝え、保育への理解を図っている 身体測定や園医による健康診断を行うほか、入園までの生活状況や健康状態、食事の状態など、保育に必要な子どもに関する情報を収集している。また、保護者の就労状況や子育ての意向なども確認している。乳児や食物アレルギー、健康上の問題など対応が必要な場合は、栄養士や看護師も面談に加わっている。説明会では、入園後のルールや緊急時の取り決めなどを丁寧に伝えている。さらに、当園が障害児指定園であること、すべての子どもが分け隔てなく共に育ち合う園であることなども改めて伝え、保護者の理解を促進している。 子どもの様子を見ながら、無理なく新しい環境へ適応できるように支援している 入園当初は保護者と相談して、短時間の保育から始める慣れ保育を行っている。慣れ保育はおおむね一週間をめどに子どもの状況や保護者の事情を考慮し、子どもの様子を見ながら無理なく予定の保育時間まで延ばしている。入園時に提出された家庭連絡票や入園までの生活状況、健康調査票、食事調査などの書類は、支援に役立てる基礎資料としている。保護者からは家庭での保育の状況や、子どもが落ち着く対応・好きな遊びなどを職員に伝えてもらっている。保護者の不安を軽減し、安心して預けてもらえるよう信頼関係の構築を図っている。 支援の継続性に配慮した支援や関わりを大切にしている 転園や退園する際には、いつでも相談できることや次の生活へ向け声をかけ、保護者や子どもの不安の軽減を図っている。必要に応じて保護者の承諾の上、スムーズな移行を支援するため、移行先に子どもの情報を提供できる体制を備えている。また、就学へ向けて小学校から提供される情報を保護者に伝えている。卒園時には保育所児童保育要録を作成し、就学先の小学校へ提出し、育ちの連続性を保障している。「地域全体で子どもを見守ろう」という連携や交流が根付いている当地域の特性を活かして、子どもや保護者の安心につなげている。			

サブカテゴリ3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○ 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている	○ 非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○ 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○ 非該当

サブカテゴリ3の講評

保育に必要な情報を適切に収集・記録し、全体で共有している

入園時には健康診断を実施して健康状態を把握し、個別面接時に入園までの生活状況や家族構成、出生・成育歴、予防接種歴、発育状況、食事、排泄、睡眠、好きな遊び等、保育に必要な子どもの心身や生活の状況を把握し記録している。収集した個人情報は、取り扱いに十分注意しながら全体で共有している。連絡帳や登降園時に聞き取った日々の体調や連絡事項についても、必要に応じてミーティング等で伝達し、園日誌に記載して園長や担任間で共有している。

子どもの個別の発達や状況を踏まえた計画を作成し、共通理解に努め、取り組んでいる

「杉並区立保育園保育実践方針」を踏まえて策定された「全体的な計画」に基づき、年齢毎の発達を考慮して、年、月、週の各期間における指導計画を作成している。保護者には年度当初の保護者会で年間指導計画を示し、各年齢の発達や保育についてわかりやすく説明している。乳児クラスおよび特別な配慮を必要とする子どもについては、個別に指導計画を作成している。全職員が子どもの育ちを理解し、日頃から必要な情報の共有に努めている。医師や臨床心理士などの専門家とも連携し、子どもの特性に合わせた保育を計画し実践している。

職員間で子どもの状況の共有に努め、保護者にもわかりやすく伝えている

年度当初の保護者会では、全体的な計画や各クラスの保育について、各年齢の発達や保育についてわかりやすく記載した資料を配付して説明を行っている。年度末には一年間の子どもの成長を確認合っている。日々の子どもの様子は朝夕受託簿や保育日誌に記録し、毎日のミーティングで保育体制、午前中の活動、保護者対応、健康状態、けがの報告等、連絡事項を共有している。普段から子どもについての話題があがる職場風土があり、職員一人ひとりが子どもへの理解を常に深めている。内容によっては、会計年度任用職員とも共有し、保育にあたっている。

サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		☐ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		☐ 非該当
サブカテゴリー5の講評			
個人情報の取り扱いについて保護者に説明して同意を得ている 個人情報の取り扱いについては、基本的なルールを入園時に保護者に伝え、情報提供の範囲や目的などについて同意を得ている。療育等の関係で外部から情報提供の依頼があった際には、改めて保護者の意思を確認して対応している。園のしおりの中でも個人情報の取り扱いの徹底についても触れ、ビデオ撮影等及び画像データ提供について明記している。SNS(ソーシャルネットワークサービス)への投稿やビデオ・写真の撮影の取り扱い、配慮事項等についても、保護者に注意を促している。			
子どものプライバシーを保護し、羞恥心に配慮した保育を行っている 子どものプライバシー保護について職員間で共有して適切に対応し、日頃から子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている。着替えの際にはカーテンで他からの視線を遮断し、水遊びやシャワー時の着替えはラップタオルを用意してもらい着替え方を指導している。トイレでの排泄やズボンの着脱などの際は、衝立を活用してスペースを確保するなど対応している。そのほか、看護師からプライベートゾーンについて話をしている。日常生活の中でも、絵本などを通じて必要なことを伝え、子どもが自分を大切に守る意識を持てるよう支援している。			
子どもの権利を守り、一人ひとりの気持ちを大切に保育を追求している 子どもの人権に配慮した保育や適切な保育について職員全体で考え、保育に活かしている。また、保護者の意見に耳を傾け、相談しながら価値観の多様性に配慮した個別の対応をすることで、保護者との信頼関係を築いている。職員には、虐待防止や育児困難家庭への支援、子どもの権利を守るための課題などについて、区関係機関が実施する研修への参加を促している。必要な研修を受講しそこで得た知識を全職員で共有することで、高い倫理意識を持って子どもに関わることができるようにしている。			

サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
◎ あり ○ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○ 非該当
◎ あり ○ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○ 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
◎ あり ○ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○ 非該当
サブカテゴリー6の講評		
各種マニュアルを整備し、確認と実践により、組織として対応の統一化を図っている 手引き書として区立保育園全園共通のマニュアルのほか、危機管理マニュアル、杉並区立保育園保育実践方針、保育実践の手引き等を備えている。また、保育理念・目標、保育方針、役割分担表などの事項をまとめた園マニュアルのファイルを、事務所と各クラスに備えている。杉並区立保育園保育実践方針、保育実践の手引きについては、職員一人ひとりに配布している。確認や実践を通してこれらを活用していくことで、職員一人ひとりが組織としての共通事項を踏まえて、統一的な対応をとることができるようにしている。 定められた手順や留意事項を共有し、日々の実践に活かしている 園マニュアルのファイルは、一年を通して必要となる事項から構成されているため、日常的な活用を前提とするものである。それゆえ、疑問があった場合の確認や判断に迷った時に立ち返るものとして、活かしている。また、杉並区立保育園保育実践方針も、区の保育を進めていくうえでのガイドラインとして、全体的な計画や各期間の指導計画の作成、それらに基づく保育実践を通して、日常的に活用している。危機管理や衛生管理などの分野におけるマニュアルも、子どもの安全・安心に関わるため、内容の確認や訓練などを通して活用している。 業務手順に対する定期・随時の見直しにより、業務の安定的な遂行を確保している 杉並区保育実践方針は、社会状況の変化など必要に応じて内容を変更・改訂する仕組みを備えている。区立園共通のマニュアルは、各検討会などで検討して内容を見直している。園マニュアルは、年度末に反省を行い、項目ごとに確認して見直しを行い、毎年内容をブラッシュアップしている。保護者や職員からの意見や要望、仕事の手順の変更等、見直しが必要な場合は、時期を待たずに都度打ち合わせを行い改定している。こうした定期・随時の見直しにより、職員間での認識や対応の共通化・統一化を図り、業務の安定的な遂行を確保している。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4	
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 36 / 36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している ☐ 非該当
評価項目1の講評	
子どもが主体的に関わり遊び、継続して楽しめるような環境づくりに配慮している 子どもが「やってみたい」という気持ちを抱きながら遊びに向かっていける環境づくりを大切にしている。園庭ではタイヤなどの動かせる遊具を使い、子どもたちが自由にイメージを膨らませて遊ぶ姿が見られている。新しい玩具を導入したことで、「こうしてみよう」と友だち同士でアイデアを出し合う場面も増えた。室内でも、子どもの目線に合わせて遊具を配置し、積み木などは翌日も続きから取り組めるようにしている。じっくりと遊び込み、満足感を味わえる時間を保障している。 配慮を要する子どもに対して共通認識を持ち、必要な対応ができるようにしている 専門職の巡回指導、園内研修、区主催の実務者研修を通じて、個に寄り添う保育の研鑽に努めている。特に、障害児指定園として、一人ひとりの特性を理解し、安全面に配慮しながら、他児との交流を促す環境構成や援助を模索している。障害のある子どもクラスの一員として共に過ごし、全職員が共通認識を持って対応にあたっている。子どもの個性と主体性を尊重し、将来の自立に向けた人格の基盤、生命力、生活力を育む保育を実践している。こうした組織的な取り組みにより、全ての子どもが仲間として共に育ち合う環境を維持している。 子どもの気持ちを尊重した対応を行い、より良い援助ができるようにしている 子ども同士のトラブルでは、状況を見極め、双方の心情を尊重した対応を行っている。発達に応じた言葉がけや気持ちの代弁により、互いのやり取りを支えている。保護者には成長過程における葛藤の意義を伝え、理解を得よう努めている。また、ネットワーク会議を通じた小学生との交流や学校体験の機会を設け、就学への期待を高めている。保育所児童保育要録の作成と適切な引き継ぎにより、育ちの連続性に配慮している。こうした取り組みにより、子どもの社会性の育ちと、次なる生活への円滑な移行を支援している。	

2 評価項目2		
子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○ 非該当
評価項目2の講評		
子どもの生活が安定するよう保護者や職員間での情報共有を図っている 前日の様子、顔色や体の状態を観察し、体調や怪我について登園時に保護者に確認して受け入れを行っている。こうした確認事項を各クラスや全体で共有し、それらを踏まえた対応につなげている。降園時には、日中のエピソードを交えて、ひと言でも言葉をかけ、保護者に伝えるようにしている。また、けがによる通院や日中の様子等、直接話す必要がある場合は、担任や園長が対応している。保護者への伝達事項は必ず朝夕受諾簿にメモし、職員間で共有して漏れのないよう注意を払い対応している。 基本的な生活習慣が身につくよう、子どもの成長に合わせて援助している 年間指導計画や月や週単位の指導計画に生活習慣の自立に向けて必要な経験を盛り込み、個々の成長や発達に応じて徐々に力を伸ばしていけるよう援助している。衣服の前後裏表や靴の左右の認識、服をたたむ、スプーンや箸の持ち方、手洗い・うがい、便の拭き方やトイレトーパーのたたみ方、挨拶や気持ちの良い返事など、保護者とも連携しつつ、子ども自身が意識できるように必要に応じて声をかけている。日常の中での積み重ねを通して基本的な生活習慣が身につくよう、支援している。 子どもの年齢や状況に合わせて、必要な休息を取れるようにしている 年齢・発達に応じた基本的な生活習慣の目安を保護者へ伝え、休息の必要性について家庭と園で共通認識を持てるよう努めている。日々の活動に加え、家庭での様子を個別に聞き取り、一人ひとりの状況に応じた配慮を徹底している。寝付けにくい子には無理強いせず、身体を休められるよう環境を整えている。年長児は、クラスや個々の様子を見極めつつ、就学前に向けて段階的に午睡時間を短縮している。個別の体調や体力を踏まえ、集団生活の中でも一人ひとりに最適な生活リズムの構築を支援している。		

3 評価項目3		
日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		
評点(〇〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○ 非該当
● あり ○ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○ 非該当
評価項目3の講評		
子どもが主体的に遊び込める時間と空間の保障に取り組んでいる 職員全体で環境維持に努め、子どもが自主的に活動できるよう遊びを保障している。園庭にはタイヤ等の可動式遊具を配し、自ら創意工夫して遊びを展開できる環境を整えている。ホールや園庭の使用に際しては、各クラスが連携し、時間と空間を確保する体制を構築している。子どもの「やってみたい」という意欲を重視し、担任や会計年度任用職員が一体となって適切な促しや配慮を共有している。こうした取り組みを通して、子どもが主体的に集団活動へ関わり、遊びを深められるような環境づくりと支援を追求している。 継続性をもって楽しめる環境を工夫し、様々な表現を楽しめるように配慮している 子どもの特性を職員が深く理解し、興味やタイミングに合わせて活動に取り組めるよう配慮している。特に積み木遊びでは、自由な発想を妨げず継続して遊べる環境を工夫している。乳児クラスでは応答的な関わりを重視し、語彙力を引き出すため可能な限り個別に対応している。言葉での意思疎通が難しい場合も、表情や身振りから思いを察し、子どもが安心して過ごせるよう努めている。個々の主体性を尊重しながら、情緒の安定と発達を促すきめ細やかな関わりを徹底している。 子どもが様々な経験を通じて、自分の気持ちを調整する力を育めるようにしている 広い園庭での栽培活動を通じ、虫の飛来や植物の生長に気づける環境を整えている。夏は泥遊び、冬は氷張りなど、季節特有の体験を年齢に応じて重視している。安心できる関係性の中で、生活や遊びを通じ、きまりの重要性に気づけるよう導いている。また、子どもが自らの感情を調整する力を育めるよう、保育者は適切に見守り援助している。さらに、乳児・幼児別の打ち合わせを定期的に開催し、クラスを超えて課題の抽出や改善案の検討を行っている。会議での報告を通じて情報を共有し、園全体で保育の質の向上を図っている。		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		○ 非該当
評価項目4の講評			
行事は子どものアイデアを取り入れ、楽しく取り組める内容となるよう工夫している 行事のあり方を毎年検討し、前年踏襲ではなく、常に今の子どもの姿を鑑みたねらいを設定している。また、子どもの視点に立ち、発達や子どもの声をとらえ、それらを計画に反映している。普段の遊びや会話、興味・関心からヒントを得て活動に取り入れ、子どもが楽しめるように展開している。保育者も子どもも楽しみながら行事を作り上げるプロセスを重視している。クラスだより等では、日々の子どもの楽しむ様子を保護者と共有し、園の取り組みへの理解の促進につなげている。 みんなでやり遂げる楽しさや喜びを味わえるように取り組んでいる 目標に向けて子どもが意見やアイデアを出し合い、協力して達成感を味わえるよう取り組んでいる。保育者は意見を引き出し、子どもは共感や葛藤を経て運動会等の行事に向き合っている。特に年長児は、やりたいことの実現に向けて、経験を基に必要な準備や手順を論理的に考えるなど、大きな成長を見せている。こうした年長児の姿に年齢の下の子が憧れを抱き、声援を送ることで、異年齢児間の交流も深まっている。行事を通じて互いに協力し合い、認め合う豊かな経験の積み重ねを大切にしている。 様々な工夫により行事における子どもの様子を伝え、保護者と共有している 連絡帳や園だより、写真を活用したドキュメンテーションなどにより、活動の様子を保護者に発信している。取り組みの経緯や子どもの期待感、園外保育の準備事項などを分かりやすく伝え、理解と協力を得ている。送迎時も積極的に口頭で活動内容を伝え、活動の意図や重要性を共有している。これにより園の保育への理解を深めるとともに、子どもの成長を共に喜び、保護者が子育てに見通しや期待を持てるよう支援している。			
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		○ 非該当
評価項目5の講評			
保育時間の長い子どもが、落ち着いて好きな遊びを楽しめるように配慮している 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるよう、静と動の活動バランスや保育室の環境に配慮している。園内の空間を有効活用し、一日の生活にメリハリを設けている。子ども自身が遊具や遊びを選択できるよう設定し、職員は個々の遊びや人間関係を継続的に見守っている。早朝や夕方の延長保育では、日中の興味を継続できるようクラス担任と密に連携している。遊びの設定を工夫するなど、子どもの状況に合わせた柔軟な対応を徹底している。 子どもが安心して過ごせるよう、保育体制や環境を工夫している 夕方の保育ではできるだけ自分のクラスで過ごすようにし、一人ひとりが落ち着けるよう配慮している。合流の時間は子どもの年齢や人数、状況に合わせて年度ごとに確認し、保育体制を決定している。年度の途中であっても、状況の変化に応じて随時確認や検討を行っている。また、配慮が必要な子どもがくつろげる環境を提供し、疲れた時には安心して身体を休められるよう工夫している。どの子どもにとっても負担が少なくゆったりと過ごせるように、職員が連携して遊びの設定や遊具の用意などを行っている。 異年齢児がゆったりと関わり、自然な形で良い関係を築くことができる環境を整えている 保護者や担任からの連絡事項は必ず確認し、漏れがないよう引き継ぎを徹底している。会計年度任用職員を含む全職員が必要な情報を共有し、一人ひとりの遊びや関係性を継続的に見守っている。毎日同じような顔ぶれで朝夕を過ごすため、日中の保育でも子どもたちは自然に触れ合っている。保育時間の長い子どもは自然な形で異年齢児保育を体験しており、互いの存在を気につけ、挨拶や声掛けをする姿が見られる。姿を見つけては嬉しそうな表情を交わすなど、兄弟姉妹のような良いつながりを築いている。			

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている		○ 非該当
評価項目6の講評			
落ち着いた環境の中で、子どもが食事を楽しく食べられるよう工夫している 給食は栄養バランスを考慮し、季節の食材を取り入れた区の統一献立を使用して自園で調理している。ミーティングでは当日の献立の喫食状況や形態について意見交換を行っている。食事テーブルの配置や動線を整理し、椅子やテーブルは子どもの年齢や体格に合ったものを用意している。いつもと同じ席で保育士と会話を楽しみながら、落ち着いた雰囲気の中で食べられるよう工夫している。子どもの気持ちを尊重し、楽しい食事となるように、職員全体で配慮を徹底している。 アレルギー児の食事については、誤食のないよう細心の注意を払い提供している 食物アレルギー等の個別対応が必要な場合は、「アレルギー疾患生活管理指導表」に基づき、マニュアルに則って除去食や代替食で対応している。前月に保護者と献立表及び成分表の項目を確認し、食材を特定している。アレルギー児の給食については、前日の全体ミーティングで内容を共有している。当日は個別トレーで用意し、提供直前に担任と調理員が原因食材の除去や代替を目視し、口頭確認を経てから配膳している。必要な手順や対応については、全職員が共通理解を持って取り組んでいる。 食に対する興味や関心を深める取り組みを積極的に行っている 給食日よりでは季節の食材やメニュー、食のトピックスを発信し、簡単なレシピも紹介している。毎日の献立から3色の栄養素の働きを学び、食べ物と身体の関係への関心を深めている。5歳児はさつま芋を栽培し、秋には収穫や芋洗い、焼き芋を経験している。他にも野菜等の栽培を通じて生長や変化に気づき、収穫して食べる体験を重ねている。自分たちで育てた物を味わう感動を実感できる機会を通し、食が身近なものになるよう取り組んでいる。			
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している			
			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている		○ 非該当
評価項目7の講評			
子どもが健康や安全に関心を持ち、自分自身の身を守るように働きかけている 日々の保育を通じ、子どもが自身の健康や安全に関心を持ち、体の不調を知らせることや危険から身を守るができるよう援助している。また、体の使い方や身のこなしを習得する体づくりにも注力している。看護師は担任と連携し、紙芝居や模型を用いて年齢に応じた健康教育を実践している。生活や遊びの中で、プライベートゾーンや手洗い等の重要性を子どものわかる言葉で伝えている。こうした取り組みを通して、子どもが病気やけがについて意識を持ち、自ら考えて行動できるよう支援している。 専門機関等との連携のもと、適切な対応ができるように体制を整え備えている 障害児指定園として、支援が必要な子どもの特性を深く理解し、共に育ち合う保育を日々実践している。医療的ケアが必要な子どもの受け入れに備え、ガイドラインに基づく実務研修を受講している。常に最新の知識を得て情報を更新し、職員間で共有する体制を整えている。また、毎月の身体測定や定期的な健康診断、歯科、眼科、耳鼻科の各健診を計画的に実施している。嘱託医と健康に関する情報を密に共有しながら、専門的な知見を活かして、子ども一人ひとりの健康維持と健やかな成長を支えていくことに取り組んでいる。 保護者と連携して、子どもの健康維持に向けて取り組んでいる 乳児クラスは連絡帳を活用し、保護者と健康状態を共有している。幼児クラスは登降園時に健康状態を丁寧に聞き取り、把握に努めている。健康に関する情報は園内掲示で周知し、乳幼児突然死症候群(SIDS)については年度当初に資料を配布して啓発を行っている。また、毎月の保健だよりで季節に応じた健康情報を発信している。入園前面談で個々の健康状況を確認し、必要な発達情報を伝えている。感染症情報は保育ICTシステムで速やかに配信しており、家庭と密に連携しながら子どもの健康維持に最善を尽くしている。			

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○ 非該当
評価項目8の講評			
保護者の相談に丁寧に対応し、個々の事情に応じて必要な支援を行っている 入園面談やその後の個人面談から保護者の個々の事情を把握し、園として可能な範囲で必要な支援を行っている。送迎時の会話や連絡帳を通じて保護者の悩みや困りごとを早期に察知できるよう努めている。保護者の多様な事情や悩みについては、担任、園長、主査が真摯に聴き取り、まずは状況をありのまま受け止めている。基本を踏まえつつ、保育時間の変更といった必要な手立てを共に考え、個々の事情に寄り添っている。保護者が安心して子どもを預けられるよう園全体で見守り、信頼関係の構築に努めている。 保護者同士の交流を深め、子どもの発達や育児等について共通認識を促進している 各クラスで保護者会を開催している。年間の保育計画に基づき、子どもの成長や園の保育方針を説明し、共通認識の形成に努めている。会を通じて担任の人となりが伝わるよう配慮している。また、自己紹介や懇談などの交流時間を設け、共通の悩みや子育てについて話し合うことで、保護者同士のつながりが広がるよう支援している。個人面談も実施しており、園と家庭での様子を互いに確認している。子どもの育ちを共に振り返り、今後の支援方針を共有することで、家庭と園が一体となって子どもを支える体制を整えている。 子どもの成長・発達を伝え、保護者と共通認識を得られるようにしている 保護者が子どもの成長に見通しを持ち、楽しみや喜びを感じられることを大切にしている。行事では子どもと共に楽しみながら、取り組みへの共感や参加を促している。保育参観や保育参加は随時受け付けており、保護者の希望に合わせて柔軟に対応している。保護者からの発信を真摯に受け止め、小さな要望も保育に活かせるよう努めている。意見や質問にはスピード感を持って対応し、可能な改善はすぐに行う方針を園全体で共有している。一人ひとりの声に寄り添い、保護者との信頼関係を深めている。			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○ 非該当
評価項目9の講評			
地域全体のつながりを活かした活動により、子どもの経験の幅を広げている 併設の高齢者活動施設(ゆうゆう館)では利用者と伝承遊びを楽しみ、児童館では施設見学や屋上利用を通じて就学後の生活圏への安心感を高めている。多様な人との関わりを通じ、社会への関心を広げている。中核園の園児交流では、就学先が近い近隣園の子どもたちと出会い、自然な交流で親睦を深めている。また、地域での農福連携農業体験では、農園で作業をしている方々と自然な交流を図っている。これらの地域資源を活かした体験を通じ、子どもが社会の豊かなつながりを実感できるよう支援している。 地域との連携のもと、人との関わりを通して、刺激を受けている 園庭開放を通じて地域の親子を招待し、園児と一緒に遊ぶ機会を設けている。参加した親子と自然に触れ合う姿が見られている。中核園の交流事業や小学校区の連携事業にも積極的に参加している。5歳児は、幼保小連携の一環で小学校の展覧会を見学したり交流活動に参加したりして、就学への期待感を膨らませている。また、消防署の職員を招いた避難訓練、職員が子どもたちに行っている交通安全教室や防犯学習などの実施をしている。これらにより子どもの意識が高まっており、社会への関心を広げ、公共のルールを学ぶ貴重な機会となっている。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル①	子どもが主体的に関わりながら自分のやりたいことが実現できるように支援している	
内容①	子どもが主体的に遊びを見つけ、創造的に遊び、集中できる環境づくりに取り組んでいる。子どもが興味・関心を示した事象や出来事を保育者がとらえ、遊びが広がるような関わりを目指している。子ども同士で話したり、自分で考え、相手の思いを受け入れたりする経験や学びを大事にしている。職員は子どもの意見を聞き、子どもが安心して主体的に集団活動に関わり、友達と協力しながら夢中になって遊べる環境を整え、やり遂げる喜びを味わうことができるよう活動を援助している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル②	より良い保育を行うために職種を超えて協力できる職場の気風がある	
内容②	職員が互いに声をかけ合い、しっかり連携を取り、同じ方向を向いて協力できる体制がある。園の課題点に声をあげ、ミーティングで課題を投げかける等、一人ひとりの声が出しやすい職場環境がある。個々の気づきを見逃さず、すぐに意見や事案を報告して課題を解決している。園長、主査は職員の話をよく聴いてその思いを吸い上げている。決定までの話し合いに時間がかかる事例では、事前に各クラスで検討し意見をまとめ会議に臨む風土ができていく。職員一人ひとりが相手の意見を否定せず肯定的に受け止め、協議を重ね共通認識を深めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-5-2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している
タイトル③	「子どもの最善の利益」の追求を、子どもの満足や職員のやりがいにつなげている	
内容③	「子どもの最善の利益」を追求していくべき保育園として、「子ども中心の保育」「子どもに寄り添った保育」という視点から現状を振り返り、実践を根拠づけている。こうした根本的な視点に基づく取り組みは、職員にとっては日々の取り組みを深めていくことにつながる。また、職員の主体的な取り組みの結果として、子どもの様子の変化という形でその成果を実感することは、士気ややりがい、仕事の楽しさなどの向上にもつながる。子どもを真ん中に据えた取り組みを追求することで、子どもの楽しみ、職員のやりがい、そして、理念の実践につながる。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	豊かな保育を展開するため、子どもの発信から様々な工夫をして取り組んでいる
	内容	子どもが主体的に集団活動に関われるよう援助し、活動を積み重ね力を合わせてやり遂げる喜びや楽しさを味わうことができるようにしている。子どものアイデアや発信を最大限に尊重し、保育者はそれを逃さず、よく聞き取り、子どもの思いに寄り添っている。子どもの「やってみたい」という思いが実現するように日々の保育の中で考え取り組んでいる。特に幼児の取り組みでは、子どもの発想や気づきに注目して対話を重ねながら、子ども同士が思いを伝え合い一緒に考えながら展開させることができるよう、プロセスを大事にして働きかけや支援をしている。
2	タイトル	コミュニケーションの配慮・工夫により、保護者との「共育で」の基盤を強化している
	内容	区の保育実践方針で掲げる保護者との「共育で」の推進にとって、保護者とのコミュニケーションをしっかりと図ることは、重要かつ効果的なことである。便利さや迅速性などのICTの特性から、その活用は一方的な情報発信に偏るリスクもある。この点で、当園の実践では、細心の注意を払い、ICTと直接的なやり取りを状況によりうまく使い分け、保護者の安心や信頼につなげることができている。こうした取り組みの積み重ねは、「共育で」の基盤を強化することにもつながるものである。
3	タイトル	子どもが安全に安心して関わりながら遊ぶことができる環境の工夫をしている
	内容	子どもが主体的に遊びを見つけ、創造的に遊び、集中できる環境づくりに取り組んでいる。四季を感じながら、のびのびと戸外遊びを楽しめる環境が整えられている。職員は、遊びや玩具を充実させたり、遊具の安全点検を行ったり定期的なメンテナンスを行っている。また、広い園庭の中で異年齢の交流が自然に生まれ、あこがれの気持ちや優しさ、思いやり等の感情が育まれている。クラスの枠を超えて自然体で関わる遊びの様子を、連携して見守ることができる職員の基盤がある。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	日頃から保護者との信頼関係構築に努め、子どもの育ちを共有し、保育を伝えていく
	内容	日頃より保護者とのコミュニケーションに努め、送迎時の声かけや掲示、システム活用によるおたよりの発信等を通じて保育の共有を進めている。保護者の話から子育ての悩みや保護者自身のこと等を職員が傾聴し、必要に応じて面談を行うなど、丁寧な対応を心がけている。今後も、子どもの健やかな成長を支え、保護者と共に育みながら子どもの姿を共有することができるように、子どもが園生活から様々な学びを得ていることを積極的に示し、遊びや活動のねらいをより明確に伝え、さらに保育への理解を図っていくことを課題としている。
2	タイトル	子どもが安全に過ごせる環境をより一層強化する
	内容	子どもの安全な生活を保障するために日々取り組んでいる。特に、職員一人ひとりが危機管理に対する意識の向上と共通認識が持てるようにヒヤリハットを活用しての安全意識を高めていくことは大切な取り組みである。当然、園としてヒヤリハットを活用しての取り組みは行っている。日々の保育の中でそのような場面はまだまだ潜んでいると考えており、職員がキャッチできる余地がある。今後はさらにヒヤリの場面のキャッチに努め、報告を上げ分析を行い、子どもが安全に過ごせる環境をより一層強化することを課題としている。
3	タイトル	職員一人ひとりが意識を持ちワークライフバランスの充実に取り組んで行く
	内容	職員各自のワークライフバランスを実現していくことは、より良い職場環境の整備だけでなく、より良い保育の継続にも不可欠である。その意味では、経営層と共に個々の職員もこれまで以上に高い意識を持って取り組んでいくことが必要となる。各自の業務の現状や見直しを見える化していくことは、さらなる全体共有や相互フォローにつながる。また、システムの有効活用は、事務の効率化や簡略化につながる。様々な工夫により、個々の力を一層発揮し、無理なく働き続けられる環境を維持していくことを課題としている。

5. 和田保育園

和
田

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

2026 年 2 月 28 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 156-0043

所在地 東京都世田谷区松原3-38-16-107

評価機関名 株式会社にはほんの福祉ネット

認証評価機関番号

機構 06 — 168

電話番号 03- 6379- 5156

代表者氏名 永峯 治之

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名			担当分野	修了者番号	
	①				経営	H1901102
	②				福祉	H2201084
	③				福祉、経営	H2301066
	④					
	⑤					
	⑥					
福祉サービス種別	認可保育所					
評価対象事業所名称	和田保育園					
事業所連絡先	〒	166-0012				
	所在地	東京都 東京都杉並区和田1丁目66番19号				
	TEL	03-3382-5218				
事業所代表者氏名	小栗 さゆり					
契約日	2025 年	6 月	20 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年	8 月	1 日			
利用者調査結果報告日	2025 年	10 月	22 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年	8 月	1 日			
自己評価結果報告日	2025 年	10 月	22 日			
訪問調査日	2025 年	12 月	3 日			
評価合議日	2025 年	12 月	3 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	区担当者との打ち合わせにより全体の流れ、留意事項の確認を行った。その後、事業所にて事前説明を行い、オンライン形式での利用者調査や職員アンケートの実施方法について説明を行った。訪問調査前には当日の訪問者、タイムスケジュール、確認予定の書類について案内した。訪問調査では施設見学もあわせて行い、実態の把握に努めた。合議では、訪問者2名と他の1名、事務局により報告内容の精査・修正を行った。					

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- ☒ 機構が定める部分を公表することに同意します。
- ☐ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- ☐ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2026 年 2 月 28 日

事業者代表者氏名 園長 小栗 さゆり

印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 和田保育園の保育理念は ・子どもが安心して通える保育園 ・保護者が生き生きと生活し子育てできる保育園 ・地域の子育てを支援する保育園 です。この3つの理念は保育園を運営していく上で、全ての基であると捉えています。園長はもとより、職員全体で共有し意識して実践することが大事であると考えています。特に今年度は子ども誰でも通園制度が自園で始まりました。この事業を進めていくにあたり、改めて地域の子育て支援の必要性を実感しています。子どもが安心し、保護者と地域の方々がいきいきと子育てできる保育園を目指し、園全体で取り組み、子どもの育ちを保障していきたいと思っています。そのために、働く私たちも心身健康であるよう意識した職場づくりに取り組んでいます。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） （1）職員に求めている人材像や役割 ・基本の保育スキルのみならず、杉並区立園の保育を理解し、咀嚼し実践し継承できる職員。そのためには、国や都、杉並区、世の中の保育状況について深く考え、今を振り返り、先を見て行動できる人材が大事であると捉え、園長として働きかけています。 ・自園の中で自分の役割を意識し、チームの一員として活躍してくれる職員。 ・職員一人ひとりを大切に、肯定し合い、人権を意識し、認め合える職員集団。 （2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） 保育という仕事にプライドと責任感を持ち、杉並区の目指す保育を実践し、振り返り、学び合い、継承できる職員でいてほしいです。 ・意見は謙虚に受け止め、精進してほしい。 ・弱音を吐け、チームで助け合える職員。 ・報告、連絡、相談がきちんとできる職員。

調査対象

複数児利用世帯は最低年齢児1人を対象として実施世帯数を絞り、調査対象者に対し実施。

調査方法

WEB回答システムを活用。機関が作成した二次元コード記載の案内を事業所を通して各家庭に配布。各家庭においてそれを読み込んだ上で、個別に匿名で回答。

利用者総数

67

利用者家族総数(世帯)

54

共通評価項目による調査対象者数

54

共通評価項目による調査の有効回答者数

31

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

57.4

利用者調査全体のコメント

＜総合的な満足度＞

「満足」55%、「まあまあ満足」29%、計84%という満足度が示された。

＜調査結果の講評について＞

・肯定的な評価(「はい」との回答)が全体に占める割合についてのみ、記述した。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	29	0	2	0
回答者の94%「はい」と回答した。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	27	2	2	0
回答者の87%「はい」と回答した。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	25	6	0	0
回答者の81%「はい」と回答した。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	23	4	4	0
回答者の74%「はい」と回答した。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	23	3	1	4
回答者の74%「はい」と回答した。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	22	5	2	2
回答者の71%「はい」と回答した。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	19	7	3	2
回答者の61%「はい」と回答した。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	22	5	2	2
回答者の71%「はい」と回答した。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	24	4	1	2
回答者の77%「はい」と回答した。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	27	1	1	2
回答者の87%「はい」と回答した。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	26	0	2	3
回答者の84%「はい」と回答した。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	22	4	1	4
回答者の71%「はい」と回答した。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	25	2	1	3
回答者の81%「はい」と回答した。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	21	2	1	7
回答者の68%「はい」と回答した。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	25	3	1	2
回答者の81%「はい」と回答した。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	23	2	1	5
回答者の74%「はい」と回答した。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	20	7	0	4
回答者の65%「はい」と回答した。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリ1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○ 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○ 非該当
	● あり ○ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○ 非該当
	カテゴリ1の講評		
	園が目指していることを明示し、保護者や職員への理解を深めている 区立の保育施設として児童福祉法や関連法令の根拠の下、区の基本理念やビジョンなどを運営や保育の基礎としている。年度当初には保育目標を達成する大枠となる全体的な計画を通して児童憲章、園の保育理念・保育方針・保育目標を確認している。これらを園内の各所に掲示することで職員の意識を高めると共に、保護者への周知を図り、基本に立ち返る働きかけを行っている。また、係の目標申告を作成して職員に周知し、一年間の目標を明示している。保護者に対しては、新入園児説明会、保護者会や園だよりで説明し、玄関の見やすい場所にも掲示している。		
	園運営の方向性を提示し、自らの役割と責任を果たしている 年度当初の職員会議で、経営層の年間目標を職員に伝えている。組織目標から係の目標シートを作成し、これに基づき園長自身も具体的な年間計画を作成し、自らの役割と責任を職員に伝えるなど、組織の方向性や経営層の役割を明示することで、園運営をリードしている。園長・主査・向上リーダーが、保育の質の向上を図る中心となり、大切にしたい保育の実現のために方向性の共有を図っている。運営に関わる変更や改善事項などが生じた際は、園だよりや保護者会などで園長より速やかに保護者に説明している。		
	園で定めた手順に沿って、検討・決定・周知・実行を着実にやっている 職員会議や毎日のミーティングでは誰でも意見が出しやすいように肯定的で認め合えるように心がけている。職員の意見をできるだけ吸い上げ、職員の主体性を尊重した運営を心がけている。重要な案件についてはその経緯を説明・周知している。連絡・確認事項は、ミーティングなどにより迅速に伝え、共有を図っている。会計年度任用職員に対しても個別に声をかけるなど、必要な情報を共有している。保護者には、園での決定事項やその経緯、内容などの情報を園だよりや掲示などで伝えている。		

2			事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		6
サブカテゴリ1(2-1)					
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			評点(○○○○○○)		
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している				○ 非該当
● あり ○ なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している				○ 非該当
● あり ○ なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している				○ 非該当
● あり ○ なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している				○ 非該当
● あり ○ なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している				○ 非該当
サブカテゴリ2(2-2)					
実践的な計画策定に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している			評点(○○○)		
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している				○ 非該当
● あり ○ なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている				○ 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる			評点(○○)		
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる				○ 非該当

カテゴリー2の講評

様々な方法で収集した情報を検討・活用して園運営に活かしている

保護者については、保護者会や個人面談などを通して、園への要望などを把握している。日々の登降園時のやり取りや連絡帳等からも、保護者の思いをつかみ、対応の見直しなどに役立てている。職員は、個人の目標申告シートなどをもとに園長とのヒアリングを行っている。個別に話を傾聴し、意向を把握している。会議等の打ち合わせでは、活発な意見交換により、園運営の課題解決につなげている。改善点については、係の目標シートや個人の目標申告シートに反映させている。

地域の福祉の現状について情報収集やニーズを把握し関係各所との関係を深めている

区や課の方針を受け、様々な事業を展開している。福祉事業や区の施策などの現状や動向については、区立園長会、庁内メール、区内広報などで随時確認している。近隣園との中核園事業に参画して、合同研修、園庭の共同利用などに取り組んでいる。近隣施設との交流も積極的に実施し、地域のニーズを把握している。収集した情報は、回覧やミーティングなどにより、できるだけ速やかに職員に周知している。近隣の関係機関との地域ネットワーク会議や連絡会に参画して情報交換を行い、顔の見える関係を構築している。

目標の達成に向けた意見交換を行い計画の実行に取り組んでいる

区の中長期計画、課の組織目標を受け、係の目標申告を作成している。杉並区保育実践方針等をもとに全体的な計画を作成し、年度末反省をもとに職員と共に係の目標シートを作成して園内の取り組みを明確にしている。目標シートの各項目に取り組み内容を記載し、達成度合いを図る目安としている。園運営については、各プロジェクトを中心にして計画内容のさらなる充実を図っている。議題を事前に決定・通知し、意見を集約し検討して会議に臨むなど、限られた時間を効果的に活用し、目標達成に向けて着実に取り組んでいる。

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	☐ 非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	☐ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	☐ 非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	☐ 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	☐ 非該当

カテゴリー3の講評

社会人として適切な行動ができるよう取り組み、組織としての責務を果たしている

社会人として、また福祉サービスに従事する者として、守るべき事項を全体に周知するため、保育課からの資料を活用して学ぶ機会を設けている。園長会で得た情報のほか、公務員倫理や規範についても繰り返し伝え、意識の向上を図っている。年度当初には、会計年度任用職員も含めて資料を提供し、随時助言や指導を行い、子どもに対する行動や言葉の選択など、適切な保育や守秘義務について確認し共有している。虐待が疑われるような情報をつかんだ際は、速やかに園長に報告し、必要に応じて関係機関と連携を取り、迅速に対応する体制を整えている。

地域へ園の取り組みを開示し様々な意向を把握して対応できる体制を備えている

苦情・要望などの相談窓口について、入園説明会で園の概要と共に保護者に説明し、相談の仕組みについて案内している。園長を苦情受付・解決責任者として位置づけ、いつでも相談に対応できる体制を備えている。担任・主査・栄養士・看護師など、相談を受けた職員は必ず園長に報告し、会議などで情報を共有している。また、実習生や体験学習の受け入れなど、次世代の人材の育成にもつながる取り組みも積極的に行っている。園庭開放を含む子育て支援事業の取り組みや日々の活動の様子なども開示し、透明性の確保を図っている。

様々なネットワークに参画し、地域の一員として園の役割を果たしている

園庭開放やふれあい保育、緊急一時保育など、地域の子育て世帯のニーズに応える事業を行っている。また、中核園事業では、担当年齢別の担任や看護師などが交流や研修を行い、園の持つ専門分野の知識を地域に還元できるよう努め、園児同士の交流にも取り組んでいる。そのほか、近隣小学校との連携による行事や地域ネットワーク会議などにも参加している。こうした取り組みの積み重ねを通して、地域連携に対する職員の意識も高まっている。

4			リスクマネジメント		5/5
サブカテゴリ1(4-1)					
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる					
評点(00000)					
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている				○ 非該当
● あり ○ なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している				○ 非該当
● あり ○ なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる				○ 非該当
● あり ○ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる				○ 非該当
サブカテゴリ2(4-2)					
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている					
評点(0000)					
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している				○ 非該当
● あり ○ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている				○ 非該当
● あり ○ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している				○ 非該当
カテゴリ4の講評					
想定される様々なリスクについて、マニュアルを定め訓練を実施している 区として業務継続計画を策定し、職員にも周知している。リスクへの対策を常に話し合い、具体的な行動について職員間で共有し判断している。危機管理マニュアルや園マニュアルをもとに、事故、感染症、災害、情報セキュリティ、防犯対策などの対応を確認し、役割分担を行い、各種事態に備えている。年間避難訓練計画を定め、地震や火災、それらの際の併設施設との協力など、非常時に備えた訓練を実施している。訓練後は課題の抽出を行い、状況に応じて臨機応変に対応できるようにしている。 リスクに対して危機意識を持ち必要な対策をとり、危険回避と再発防止に努めている 保護者には、リスクへの対策について新入園児説明会や保護者会、園だよりなどで伝えている。園のしおりには、安全・防犯の対策、災害時の対応などを記載し、緊急時の園の対応を案内している。年度当初の保護者会でも、緊急時安全メールについての確認などを含め、災害時の対応について改めて説明している。感染症の罹患については速やかに園全体へ周知している。ヒヤリハットを含めたけがなどについては、原因の分析、振り返り、対応策の検討など、職員全体で情報を共有し、再発防止や深刻な事故の防止に取り組んでいる。 情報管理を適切に行い必要な情報を活用できるようにしている 区の情報セキュリティ基本方針や情報セキュリティ対策基準に基づき、保育課内および園内において、適切な情報セキュリティマネジメントを行っている。園では、個人情報を含む書類は施錠管理し、持ち出しと返却時には持ち出し管理簿に毎回記入している。画像保存機器類の持ち出しと返却についても、管理簿を活用してチェックを徹底している。個人情報の紛失や漏洩が発生しないようにダブルチェックを行うなど、慎重かつ厳格な管理を行っている。					

5 職員と組織の能力向上			カテゴリー5
サブカテゴリー1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○ 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○ 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○ 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○ 非該当

サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	☐ 非該当
カテゴリー5の講評		
目指す職員像の実現のため、長期的な展望で人材の確保や育成に取り組んでいる 区の人事課や保育課と園との間で連携を取り、人材確保を行っている。採用後には、配置園においてOJTを含む計画的な指導を行っている。そして、専門性を身につけ、個々の能力を活かせるように、区の人材育成方針や職員人材育成事業実施計画に基づいた研修を実施し、育成に努めている。職員一人ひとりの適性を把握しながら育成を図り、専門的な知識を高めながらキャリアアップを支援している。職員自身が具体的に自分の職責や果たすべき役割への筋道を見据え、個人と組織の目標達成に向けて意識して取り組んでいけるようにしている。		
中長期的な見通しを立てた計画により職員の意欲向上を支援した育成に取り組んでいる 人事課が企画する職層研修によりライフプランや業務改善計画の立案を行い、中長期を見据えた人材育成計画を策定している。区の目標申告シートを活用して職員の状況を把握し、計画的な育成を行っている。職層研修、会計年度任用職員研修、実務研修など、勤務形態を問わずキャリアに合わせた研修を実施している。新任職員には、長期的人材育成計画に基づく育成を行っている。育成担当者が適切な指導を行うことができるよう、担当者研修や会議など、支援する仕組みを確立している。園全体で職員を支援・育成していく方針・姿勢を実践している。		
良好な人間関係と安心して働き続けられる職場環境づくりに取り組んでいる 職員間の良好な関係を構築するため、年度当初に園長自ら、「相手を否定せず、肯定的な園運営を行っていきたい」旨を職員に伝えている。職員は会議の場でも互いの意見を肯定的に捉えており、年度当初に園長が伝えたことを実践している。また、保育の現場で良い取り組みを目にした場合は、その場ですぐにその素晴らしさを伝え、職員の意欲向上とやりがいにつながるような声掛けを心掛けている。		

7		事業所の重要課題に対する組織的な活動	7	カテゴリー7
サブカテゴリー1(7-1)				
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている				
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)				
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 子どもを大切に思う気持ちを基盤としつつ、子どもたちが主体性を存分に発揮できるよう、保育の振り返りを習慣化することを目標として掲げた。その実現のために、障害児保育に関する園内研修を実施し、自園の具体的な事例を用いて職員間で学び合った。また、心理職や医師による巡回相談を活用し、一人ひとりの子どもの姿に合わせた関わり方について専門的な助言を受け、日々の保育の中で実践を重ねてきた。これらの取り組みの結果、職員の保育に対する視点がより多角的になり、子どもに寄り添う姿勢が園全体に浸透している。また、保育者の適切な援助を通して、子どもたちが主体的に周囲と関わる姿が見られるようになり、その変化を職員同士で喜び合うことで、学ぶ意欲もさらに高まっている。子どもたちの成長を実感できたことで、自ら保育を振り返ることが自然な習慣として定着している。今後は、この振り返りを継続し、子どもの思いに寄り添う実践を深めていく方針である。				
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった			
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である			
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である			
評価項目1で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評 保育の本質を追求し、職員一人ひとりが自己の関わりを見つめ直す文化を醸成している。外部の専門家との連携を単なる助言で終わらせず、自園の事例と照らし合わせて継続的に実践へ反映させていることが、専門性の着実な向上に結びついている。こうした学びの積み重ねが、子どもへの深い理解と肯定的な眼差しを育み、園全体に温かな保育の指針を浸透させている。保育者の変化が子どもの活き活きとした姿を引き出し、それが職員の喜びとなって次なる意欲を生むという、理想的な成長の循環が構築されている。				

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

職員間のコミュニケーションにおいて、個々の思いを大切にしながらも、お互いを尊重した意見交換を行える職場環境の構築を目標として掲げた。その実現のために、まずは子どもの人権をテーマとした会議を開催した。具体的な事例として、食事場面における一人ひとりに寄り添った適切な関わり方について、職員同士で多角的に考え合う機会を設けた。また、日々の業務においても、相手の意図を汲み取り、丁寧な言葉選びで対話を行うよう心掛けた。こうした取り組みの結果、職員一人ひとりが子どもの人権をより深く意識するようになり、同時に共に働く同僚の立場や思いについても配慮する姿勢が広がってきた。職場内では、互いの専門性を認め合いながら、前向きに協力し合う体制がさらに強まっている。今後は、互いの実践やアイデアをより一層活かし合えるよう、会議などの場においてさらに肯定的な意見交換を活性化させ、全職員が安心して自分らしく力を発揮できる職場づくりを目標に据えて取り組んでいく方針である。

目標の設定と取り組み

- ☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- ☐ 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- ☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- ☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評

保育の質を左右する土台として職員間の相互理解と人権意識を捉え、組織文化の再構築を試みている。特定の場面における具体的な関わりを検討の俎上に載せることで、抽象的な理念を日々の振る舞いにまで落とし込み、職員一人ひとりの内省を促す契機としている。こうした丁寧な対話の積み重ねは、子どもへの眼差しを深めるのみならず、共に働く同僚への敬意や配慮を育む土壌となって現れている。互いの意図を汲み取り専門性を認め合う姿勢は、単なる業務上の協力関係を超越、心理的な安全性の高い組織運営を支える力となっている。自分らしく力を発揮できる環境の整備は、職員の意欲を高め、結果として子どもたちへの豊かな関わりへと還元されている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評点(〇〇〇〇)			
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	☐ 非該当
サブカテゴリー1の講評			
区のホームページやアプリ等を活用して園の情報をわかりやすく提供している 区のホームページや区の公式アプリケーション「すぎぼよ」、杉並区の保育施設ガイドブック、園のしおりなどにより、園の情報を発信している。ホームページでは園の住所や電話番号、対象年齢、定員、保育時間、保育目標などの概要を伝えている。園の特色として、ねらい、食育、たてわり交流、シンボルツリーを紹介し、より園の特徴がわかるシラカシの木がある園庭、絵本等の貸出し可能などんぐりぶんこ、給食メニューや遊具等の写真を掲載して紹介している。ふりがなやカタカナ表記などを施した情報媒体も用意している。 行政や関係機関と連携を取りながら情報の提供と共有に努めている 区の主管課には、中核園との連携、子育て支援事業、誰でも通園制度の取り組みや感染症の状況、近隣の関係機関との交流実施等についての報告や必要なやり取りを常に行い、園の現況を発信して共有に努めている。地域ネットワーク会議に参加し情報交換をしながら地域とのつながりと連携を図っている。近隣の私立保育園と共に地域の児童館と連携して出張保育を行った。保育園職員として専門的な立場から支援に関わり地域ニーズを把握している。地域との関係を大事にしながら様々な連携を通じて、園の取り組みや情報を提供している。 問い合わせや見学の要望には、個別の状況に応じ園としてできる限り対応している 見学希望の受付について、区として都の施策(保活ワンストップサービス)を導入している。電話などによる受付も継続している。開催日を決めつつ、個別の希望にはできる限り日程調整を行い、対応している。見学者の人数によっては受け付ける組数や回数を調整している。見学時には、園内環境を見てもらいながら園が大事にしていることや活動について触れ、入園時に準備が必要な持ち物や保護者参加の行事について説明し、実際の園生活がわかるように配慮している。園庭開放やふれあい保育等への参加、電話による子育て相談なども案内している。			

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		☐ 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		☐ 非該当
サブカテゴリー2の講評			
園の特徴をふまえて保護者にサービス内容を伝え、保育への理解を図っている 身体測定や園医による健康診断を行うほか、入園までの生活状況や健康状態、食事の状態など、保育に必要な子どもに関する情報を収集している。また、保護者の就労状況や子育ての意向なども確認している。乳児や食物アレルギー、健康上の問題など対応が必要な場合は、栄養士や看護師も面談に加わっている。説明会では、入園後のルールや緊急時の取り決めなどを丁寧に伝えている。さらに、当園が障害児指定園であること、すべての子どもが分け隔てなく共に育ち合う園であることなども改めて伝え、保護者の理解を促進している。 無理なく新しい環境へ適応できるよう子どもの様子を見ながら適切に支援している 入園当初は保護者と相談して、短時間の保育から始める慣れ保育を行っている。慣れ保育はおおむね一週間をめぐりに子どもの状況や保護者の事情を考慮し、子どもの様子を見ながら無理なく予定の保育時間まで延ばしている。入園時に提出された家庭連絡票や入園までの生活状況、健康調査票、食事調査などの書類は、支援に役立てる基礎資料としている。保護者からは家庭での保育の状況や、子どもが落ち着く対応・好きな遊びなどを職員に伝えてもらっている。保護者の不安を軽減し、安心して預けてもらえるよう信頼関係の構築を図っている。 支援の継続性に配慮した支援や関わりを大切にしている 転園や退園する際には、いつでも相談できることや次の生活へ向け声をかけ、保護者や子どもの不安の軽減を図っている。必要に応じて保護者の承諾の上、スムーズな移行を支援するため、移行先に子どもの情報を提供できる体制を備えている。また、就学へ向けて小学校から提供される情報を保護者に伝えている。卒園時には保育所児童保育要録を作成し、就学先の小学校へ提出し、育ちの連続性を保障している。「地域全体で子どもを見守ろう」という連携や交流が根付いている当地域の特性を活かして、子どもや保護者の安心につなげている。			

サブカテゴリ3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○ 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている	○ 非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○ 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○ 非該当

サブカテゴリー3の講評

保育に必要な情報を適切に収集・記録し、全体で共有している

入園時には健康診断を実施して健康状態を把握し、個別面接時に入園までの生活状況や家族構成、出生・成育歴、予防接種歴、発育状況、食事、排泄、睡眠、好きな遊び等、保育に必要な子どもの心身や生活の状況を把握し記録している。収集した個人情報は、取り扱いに十分注意しながら全体で共有している。連絡帳や登降園時に聞き取った日々の体調や連絡事項についても、必要に応じてミーティング等で伝達し、園日誌に記載して園長や担任間で共有している。

子どもの個別の発達や状況を踏まえた計画を作成し、共通理解に努め、取り組んでいる

「保育所保育指針」「杉並区立保育園保育実践方針」を踏まえて策定された「全体的な計画」に基づき、年齢毎の発達を考慮して、年、月、週の各期間における指導計画を作成している。保護者には年度当初の保護者会で年間指導計画を示し、各年齢の発達や保育についてわかりやすく説明している。乳児クラスおよび特別な配慮を必要とする子どもについては、個別に指導計画を作成している。全職員が子どもの育ちを理解し、日頃から必要な情報の共有に努めている。医師や臨床心理士などの専門家とも連携し、子どもの特性に合わせた保育を計画し実践している。

職員間で子どもの状況の共有に努め、保護者にもわかりやすく伝えている

年度当初の保護者会では全体的な計画を示し、各クラスの保育について各年齢の発達や保育についてわかりやすく記したレジュメを配付して説明している。年度末には、一年間の子どもの成長を確認合っている。日々の子どもの様子は朝夕受託簿や保育日誌に記録し、毎日のミーティングで保育体制、午前中の活動、保護者対応、健康状態、けがの報告等、連絡事項の情報共有を定例化している。普段から子どもの話題があがる職場風土があり、職員一人ひとりが子ども理解を常に深めている。内容によっては、会計年度任用職員にも周知を図り保育にあたっている。

サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○ 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○ 非該当	
● あり ○ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○ 非該当	
サブカテゴリー5の講評			
個人情報の取り扱いについて保護者に説明して同意を得ている 個人情報の取り扱いについては、基本的なルールを入園時に保護者に伝え、情報提供の範囲や目的などについて同意を得ている。療育等の関係で外部から情報提供の依頼があった際には、改めて保護者の意思を確認して対応している。園のしおりの中でも個人情報の取り扱いの徹底についても触れ、ビデオ撮影等及び画像データ提供について明記している。SNS(ソーシャルネットワークサービス)への投稿やビデオ・写真の撮影の取り扱い、配慮事項等についても、保護者に注意を促している。 子どものプライバシーを保護し、羞恥心に配慮した保育を行っている 子どもの人権について学び合い、保育を振り返りながら進めていくことの大切さを職員間で確認し合っている。子どものプライバシー保護を徹底し、日頃から一人ひとりを尊重する保育を実践している。子どもの声をありのままに受け止め、言葉だけでなく、身振り手振り等の表現や表情から気持ちを汲み取り理解に努めている。着替えの際には着替え方を知らせ、カーテンで他からの視線を遮るようにしている。プライベートゾーンについて等、健康教育で担任や看護師が子どもの意識を促し子ども自身が自分の身体を大切にしようとする意識を持てるよう支援している。 子どもの権利を守り、一人ひとりの気持ちを大切に保育を追求している 子ども一人ひとりの気持ちを大切に保育に取り組み、様々な家庭の価値観を考慮した保育や個別の対応を行い、保護者との信頼関係を築いている。職員には、虐待防止や育児困難家庭への支援や子どもの権利を守るための課題について、区関係機関が実施する研修への参加を促している。研修内容や知識を話し伝え、会議の中で学びを共有し、倫理意識を高め、会計年度任用職員も含め全職員が理解を深められるようにしている。			

サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	☐ 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	☐ 非該当
サブカテゴリー6の講評		
各種マニュアルを整備し、確認と実践により、組織として対応の統一化を図っている 手引き書として区立保育園全園共通のマニュアルのほか、危機管理マニュアル、杉並区立保育園保育実践方針、保育実践の手引き等を備えている。また、保育理念・目標、保育方針、役割分担表などの事項をまとめた園マニュアルのファイルを、事務所と各クラスに備えている。杉並区立保育園保育実践方針、保育実践の手引きについては、職員一人ひとりに配布している。確認や実践を通してこれらを活用していくことで、職員一人ひとりが組織としての共通事項を踏まえて、統一的な対応をとることができるようにしている。 定められた手順や留意事項を共有し、日々の実践に活かしている 園マニュアルのファイルは、一年を通して必要となる事項から構成されているため、日常的な活用を前提とするものである。それゆえ、疑問があった場合の確認や判断に迷った時に立ち返るものとして、活かしている。また、杉並区立保育園保育実践方針も、区の保育を進めていくうえでのガイドラインとして、全体的な計画や各期間の指導計画の作成、それらに基づく保育実践を通して、日常的に活用している。危機管理や衛生管理などの分野におけるマニュアルも、子どもの安全・安心に関わるため、内容の確認や訓練などを通して活用している。 業務手順に対する定期・随時の見直しにより、業務の安定的な遂行を確保している 杉並区保育実践方針は、社会状況の変化など必要に応じて内容を変更・改訂する仕組みを備えている。区立園共通のマニュアルは、各検討会などで検討して内容を見直している。園マニュアルは、年度末に反省を行い、項目ごとに確認して見直しを行い、毎年内容をブラッシュアップしている。保護者や職員からの意見や要望、仕事の手順の変更等、見直しが必要な場合は、時期を待たずに都度打ち合わせを行い改定している。こうした定期・随時の見直しにより、職員間での認識や対応の共通化・統一化を図り、業務の安定的な遂行を確保している。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4	
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 36 / 36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している ☐ 非該当
評価項目1の講評	
子どもが主体的に関わり遊び、継続して楽しめるような環境づくりに配慮している 子どもが主体的に周囲の人やものに関わり楽しめる環境づくりを最優先に考え、室内・室外を整えている。園庭には子どもが想像力を働かせ、イメージを持ち自分から遊び込めるよう、塩ビ管やマルチパーツ、お風呂マット、椅子、ドラム缶等の可動遊具を用意している。新たにトップという遊具を購入したところ、遊びの幅が広がり、子ども同士の工夫がさらに見られるようになった。室内環境でも、子どもの興味・関心を広げるような遊びの工夫をしている。子どもが手に取り使いやすいように遊具を配置し、積み木遊び等は翌日も続きができるようにしている。 配慮を要する子どもに対して共通認識を持ち、必要な対応ができるようにしている 縦割り保育の伝統があり、「なかよしデー」では3、4、5歳が交流する場を定期的に設定している。障害児指定園であり、保育者は特に個に寄り添った保育や子どもへの対応の仕方について研修等で学び、日々研鑽に努めている。安全面に十分な配慮を行いながら、一人ひとりの特性を理解し他児との交流ができるような環境や援助の仕方を考え、障害のある子どもも同じ年齢のクラスで仲間として一緒に過ごしている。園として全ての職員が共通認識を持ち、子どもの個性、主体性を認め、生き抜く人格の基盤や生命力、生活力を育んでいる。 子どもの気持ちを尊重した対応を行い、より良い援助ができるようにしている 子ども同士のトラブルについては、危険のないように注意して状況を見極めながら子どもの気持ちを尊重した対応をしている。年齢により子どもにわかる言葉で話し、互いの気持ちを代弁する等、言葉でのやり取りにつなげるようにしている。保護者に対しても成長の過程で子ども同士のトラブルが起こりうることを説明し、理解を得られるように努めている。	

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○ 非該当

評価項目2の講評

子どもの生活が安定するよう保護者や職員間での情報共有を図っている

前日の様子や顔色、身体の状態を観察し、体調やけがについて登園時に保護者へ確認して受け入れを行っている。こうした確認事項を各クラスや全体で共有し、それらを踏まえた対応につなげている。降園時には、日中のエピソードを交えて言葉をかけ、保護者に伝えるようにしている。けがによる通院や日中の様子など、直接話す必要がある場合は担任や園長が対応している。保護者への伝達事項は必ず職員間で共有し、漏れのないよう注意を払いながら対応している。

基本的な生活習慣が身につくよう、子どもの成長に合わせて援助している

年間指導計画や期・月・週単位の計画に生活習慣の自立に必要な経験を盛り込み、個々の発達に応じて着実に力を伸ばせるよう援助している。着脱や衣服の整理、食具の扱い、衛生管理、排泄、挨拶など、子ども自身が意識できるよう、保護者とも連携しながら適切に声をかけている。そして、子どもが「自分でできた」という達成感を持てるよう、温かく見守りながら、日常の積み重ねを通して、基本的な生活習慣が身につくよう支援している。

子どもの年齢や状況に合わせて、必要な休息を取れるようにしている

年齢や発達に応じた基本的な生活習慣の目安を保護者へ伝え、休息の必要性について家庭と園で共通認識を持てるように努めている。日々の活動に加え、家庭での様子を個別に聞き取り、一人ひとりの状況に応じた配慮を徹底している。寝付けない子には無理強いをせず、体を休められるよう環境を整えている。年長児については、クラスや個々の様子を見極めつつ、就学に向けて段階的に午睡時間を短縮している。個別の体調や体力を踏まえ、集団生活の中でも一人ひとりに最適な生活リズムの構築を支援している。

3 評価項目3		
日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		
評点(〇〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○ 非該当
● あり ○ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○ 非該当
評価項目3の講評		
子どもが主体的に遊び込める時間と空間の保障に取り組んでいる 園の環境を活かし、子どもが自主的に活動できるよう職員全体で意識し、生活空間を維持しながら遊びの保障をしている。園庭にはマルチパーツ、お風呂マット、椅子、ベンチや塩ビ管等用意し、子ども自ら創意工夫し遊びを展開できるようにしている。ホールや園庭を使う時間と空間の保障ができるよう、各クラスが声をかけ合い協力する体制がある。年長児はレッツプレイ(運動会)に向けリレーに取り組む等、子どもが主体的に集団活動へ関わることができるよう、担任だけでなく会計年度任用職員も含め、遊びへの参加の促し方や配慮を理解している。 素材や自然物に実際に触れ、体験的に楽しめるよう、環境を工夫している 環境プロジェクトでは、職員が2名一組で、保育室やホール、倉庫等それぞれを担当し、生活環境の整備に取り組んでいる。幼児クラスの縦割り保育「なかよしデー」を行い、初夏は泥んこ遊びを全身で楽しんでいる。その様子を見たり、保育者がさりげない援助をしたりすることで、乳児クラスも泥水遊びを楽しめるようになっていく。また、乳児クラスでは特に応答的な関わりを大切に、子どもの語彙力を引き出せるように可能な限り個別対応をしている。言葉でのやり取りの難しい場合は、表情や身振りから思いを察し、安心して過ごせるよう配慮している。 子どもが様々な経験を通じて、自分の気持ちを調整する力を育めるようにしている 散歩先に恵まれており、子どもの日の頃には鯉のぼりを見に行き、伝統文化を感じることができる。秋には落ち葉を拾い作品づくりや、育てたサツマイモの蔓を輪にして飾りを作る等、自然に触れ季節を感じとっている。また、安心できる関わりを重ねながら、生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づけるようにしている。それぞれの子どもが経験を通じて自分の気持ちを調整する力を育めるよう、保育者は見守り援助している。定期的な日程で乳児、幼児打ち合わせを行い、クラスを超えて課題の抽出や改善に向け検討し会議で報告している。		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		○ 非該当
評価項目4の講評			
行事は子どものアイデアを取り入れ、楽しく取り組める内容となるよう工夫している 行事のあり方を検討し、前年同様ではなく、必ず今の子どもの姿を鑑みたねらいであることを確認している。常に子どもの視点に立って子どもの姿や発達をとらえ、子どもの声を受け止め、行事計画に活かしている。遊んでいる姿や興味・関心を持っていること、普段の会話からヒントを得て活動に取り入れ、どうすれば楽しいことを実現できるか上手に展開させている。保育者も子どもも楽しみながら行事を作り上げるプロセスを大事にしている。クラスだよりや日々の子どもの姿を通して楽しむ様子が保護者にも伝わり、園の取り組みの共有につながっている。 みんなでやり遂げる楽しさや喜びを味わえるように取り組んでいる 目標に向けて子どもが自分の意見やアイデアを出し合い話し合う場を持ち、みんなで協力し達成感を味わえるよう取り組んでいる。保育者は子どもの意見を引き出し、子どもは共感や葛藤を経験しながら夏まつりや運動会、表現遊び等の行事に取り組んでいる。特に年長児はただやりたいと言うだけでなく、やりたいことを実現するためには何をするのかまでを考え、必要なものを自分たちの経験から順序立てて求める姿も見られ成長を感じている。年長児の活動に小さいクラスがあこがれを抱き、声援を送り、互いに協力し合う豊かな経験を重ねている。 様々な工夫により行事における子どもの様子を伝え、保護者と共有している 活動の様子を連絡帳、園だよりやクラスだより等で保護者に伝えている。写真を活用したドキュメンテーションでも伝えている。取り組みの経緯や期待感を持った子どもの様子、園外保育実施の際は持ち物やお弁当作りのポイント等、保護者の理解や協力を得られるようにわかりやすく伝えている。送迎時にはできるだけ子どもの活動の様子を口頭でも伝え、「子どもにとって大切なこと」や「なぜそれに取り組んでいるのか」について知らせている。園の保育に対する理解を促進し、子どもの成長を共有し、子育てに見通しや期待を持てるようにしている。			
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		○ 非該当
評価項目5の講評			
保育時間の長い子どもが、落ち着いて好きな遊びを楽しめるように配慮している 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるように配慮している。静と動の活動を考え、保育室の環境を配慮すると共に、園内の空間を有効に活用して、一日の活動にメリハリがつくようにしている。子ども自身が使ってみたい遊具や、やってみたい遊びの設定をし、職員は一人ひとりの遊びや関係性を継続的に見守っている。早朝・夕方の延長時間には、日中の活動からの興味の継続等も保障できるように考え、クラス担任と連携を取って遊びの設定等の工夫をする等、都度対応をしている。 子どもが安心して過ごせるよう、保育体制や環境を工夫している 夕方の保育ではできるだけ自分のクラスで過ごすようにし、乳児保育室はテーブルとイスや仕切りを使い、一人ひとりが落ち着いて過ごせるように配慮している。合流の時間は子どもの年齢、人数や状況に合わせて年度ごとに確認し、保育体制を決めている。年度の途中であっても状況の変化に合わせて随時確認・検討している。また、配慮が必要な子どもがくつろげる環境を提供し、疲れた時には安心して体を休められるよう工夫している。どの子どもにとっても負担が少なくゆったり過ごせるように職員が連携し、遊びの設定や遊具を用意している。 異年齢児がゆったりと関わり、自然な形で良い関係を築くことができる環境を整えている 保護者や担任からの連絡事項は、職員間で確実な引き継ぎを行い、情報の漏洩や誤認がないよう徹底している。会計年度任用職員を含む全職員が保育に必要な情報を共有し、園児一人ひとりの遊びや人間関係を継続的に見守る体制を敷いている。長時間保育を利用する子どもたちは、朝夕の合同保育を通じて自然な形で異年齢児と交流している。日中の保育においても互いの存在を気につけ、挨拶や関わりを持つなど、兄弟姉妹のような親密な関係性が築かれており、豊かな社会性の育ちを促している。			

6

評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点(000000)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○ 非該当

評価項目6の講評

落ち着いた環境の中で、子どもが食事を楽しく食べられるよう工夫している

給食は栄養バランスを考慮し、季節の食材を取り入れた区の統一献立を使用して自園で調理している。ミーティングで当日の献立について喫食状況や形態などの意見交換をしている。食事テーブルの配置や大人の動線を整理し、椅子やテーブルは子どもの年齢や発達、体格に合ったものを用意し、楽しく落ち着いた雰囲気の中で食べられるように配慮している。また、前年度には子どもの食事の言葉がけや介助について、人権の観点から学び合った。特に「一口たべて」という実践を改め、子どもの気持ちを尊重し、楽しい食事となるように職員全体で配慮している。

アレルギー児の食事については、誤食のないよう細心の注意を払い提供している

食物アレルギー等の個別対応が必要な場合は、「アレルギー疾患生活管理指導表」に基づき、マニュアルに則って除去食や代替食で対応している。前月に保護者と献立表及び成分表の項目を確認し、食材を特定している。アレルギー児の給食については、前日の全体ミーティングで内容を共有している。当日は個別トレーで用意し、園長が検食時にアレルギー児の給食を確認し、提供直前に担任と調理員が原因食材の除去や代替を目視し、口頭確認を経てから配膳している。必要な手順や対応については、全職員が共通理解を持って取り組んでいる。

食に対する興味や関心を深める取り組みを積極的に行っている

給食日よりでは季節の食材やメニュー、食のトピックスを発信し、簡単なレシピも紹介している。毎日の献立から3色の栄養素の働きに興味を持ち、食べ物と身体の関係に気づき関心を深めている。4、5歳児はさつま芋を栽培し、秋には収穫している。芋掘りやイモ洗いをして、焼き芋を経験している。その他にも野菜等の栽培を通じて、その生長や変化等に気づき、育てたものを収穫して食べる体験をしている。自分たちで作った物を味わう感動を実感できる機会を通し、食が身近なものになるよう取り組んでいる。

7

評価項目7

子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評点(000)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○ 非該当

評価項目7の講評

子どもが健康や安全に関心を持ち、自分自身の身を守るように働きかけている

日々の保育の中で、子ども自身が自分の健康や安全に関心を持ち、体の不調を知らせたり、助けを求めたり危険なことから身を守るよう援助している。また、体の使い方や身のこなしを身につける体づくりにも力を入れている。看護師は、担任保育士と連携を取り、紙芝居や模型を使い年齢に合わせて健康教育を実践している。生活や遊びの場面での体験を通して、プライベートゾーンやうがい、手洗いについて等、子どもがわかる言葉で伝えることを心がけている。病気やけがについて意識を持ち、子ども自身も考えて行動できるようになっている。

専門機関等との連携のもと、適切な対応ができるように体制を整え備えている

障害児指定園として、支援が必要な子どもの特性を深く理解し、共に育ち合う保育を日々実践している。医療的ケアが必要な子どもの受け入れに備え、ガイドラインに基づく実務研修を受講している。常に最新の知識を得て情報を更新し、職員間で共有する体制を整えている。また、毎月の身体測定や定期的な健康診断、歯科、眼科、耳鼻科の各健診を計画的に実施している。嘱託園医と健康に関する情報を密に共有しながら、専門的な知見を活かして、子ども一人ひとりの健康維持と健やかな成長を支えていくことに取り組んでいる。

保護者と連携して、子どもの健康維持に向けて取り組んでいる

乳児クラスは視診と連絡帳を活用し、幼児クラスは登降園時に保護者より健康状態を確認して、家庭との連携と共有を図っている。健康に関する情報は園内に掲示しており、乳幼児突然死症候群(SIDS)については年度当初にチラシを配付して周知を図っている。また、毎月保健だよりを発行して季節に応じた健康維持に関する情報を提供している。入園前の個人面談で個々の健康状況を把握し、乳幼児期に必要な体の発達を知らせている。感染症情報は掲示及び保育ICTシステムで速やかに配信し、子どもの健康を維持できるよう家庭との連携を図っている。

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○ 非該当
評価項目8の講評			
保護者の相談に丁寧に対応し、個々の事情に応じて必要な支援を行っている 入園時や入園後の個人面談の情報から保護者の個々の事情を考慮し、できる範囲で必要な支援を行っている。送迎時に声をかけ、連絡帳からも保護者の悩みや困りごとをキャッチできるように努めている。保護者の様々な事情や子育ての悩み等を担任や園長、主査が聴き取り、まずは困っている状況を受け止め、共有している。基本を踏まえつつ、一緒に考え、保育時間の変更や必要な手立てを講じ、個々の事情に寄り添えるようにしている。保護者が安心して子どもを園に預けられるよう園全体で見守り、信頼関係を深めている。 保護者同士の交流を深め、子どもの発達や育児等について共通認識を促進している 各クラスに保護者会を開催している。年間の保育計画に基づき、子どもの成長・発達や、園の保育について説明し、共通認識を持てるようにしている。その際には、会を通して担任の「人となり」が伝わるように心がけている。また、自己紹介や懇談等、交流の時間を設け、共通して抱える悩みや子育てについて一緒に話し合い、保護者同士のつながりが広がるよう配慮している。個人面談では、子どもの育ちを振り返り、園や家庭での子どもの様子について保護者と確認し、共に支えていくために今後の方針を共有している。 子どもの成長・発達を伝え、保護者と共通認識を得られるようにしている 保護者が子どもの成長に見通しを持ち、楽しみや喜びを感じるられることを大切にしている。一部の行事では、製作物をお願いして子どもと一緒に楽しみながら、取り組みに共感し、行事に参加してもらう機会を設けている。また、保育参観、保育参加の機会を随時設け知らせている。保護者が希望した場合は時期を問わずその都度応じている。保護者からの発信を見逃さないようにし、小さな声を聞き取り、保育に活かせるようにしたいと考えている。意見や質問にはスピード感を持ち受け止め、できることはすぐ取り組むことを園全体で共有している。			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○ 非該当
評価項目9の講評			
地域全体のつながりを活かした活動により、子どもの経験の幅を広げている 町内会を含めた地域ネットワークの取り組みが盛んに行われている地域性もあり、近隣の方々と自然に挨拶を交わし、声をかけ合う等、子どもたちが様々な大人との関わりを広げる機会となっている。人との関わりの中で社会への関心を広げている。中核園の年長交流では、就学先の近い地域の子どもたちが出会い、ゲーム等で交流する機会を設けている。また、地域のスーパーとのつながりから、年長児がさつま芋を買いに行く経験もしている。近隣の見守りのもと、子どもも自然に職員以外の大人との関わり方を意識できるようになっている。 地域との連携のもと、人との関わりを通して、刺激を受けている 園庭開放に地域の親子の参加を呼びかけ、園児と一緒に遊ぶ機会を設けている。参加した地域親子との触れ合い自然に関わる姿が見られる。また、中核園事業で行われる交流事業や小学校区の連携事業に積極的に参加している。5歳児は、幼保小の連携で小学校の展覧会に行ったり、就学前の交流に参加したりして、就学への期待感を膨らませている。また、消防署の職員を招いて避難訓練を行ったことで、さらに子どもの意識が高まった。社会への関心を広げ、ルールを知ることにもつながっている。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル①	子どもの最善の利益を念頭に置き、園ができる支援について考え全職員で取り組んでいる	
内容①	職員は日頃から保護者支援の意識を持ち、日々のコミュニケーションを大事にしている。「子どもの最善の利益」を念頭に置き、職員一人ひとりがより良い保育へ向け、職務に取り組んでいる。個々の子どもが持つそれぞれの思いをしっかりと受け止め、保護者の願いに気づき、寄り添う支援に力を尽くしている。日々の保育園での子どもの姿や思い、取り組みの様子についてできるだけ伝えるように努め、多様なニーズを持つ保護者が安心して子育てができるようにしている。保育園ができることを考え、共に育ち合うことを大切にして園全体で保育を進めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル②	全ての子どもが互いを尊重し認め合える心を育む保育環境を大事にしている	
内容②	子どもが安心して通える保育園を目標に掲げ、子ども誰でも通園の受け入れや、障害児指定園としての役割を意識した保育を実践している。全ての在園児を受け入れ一緒に過ごすことで、子ども自身も互いに認め合い、誰でも分け隔てなく接することや、友だちを慈しむ気持ちが育まれる環境を大事にしたいと考えている。全ての子どもが尊重される存在として認められており、職員は研修や巡回相談、巡回指導、専門機関との連携を通して対応を学び日々保育に取り組んでいる。職種や立場を超えた連携が不可欠であり、丁寧な情報共有が積み重ねられている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル③	園全体の課題を自分事として考え、個人の意欲と組織力向上に取り組んでいる	
内容③	向上リーダーやプロジェクトを中心に働きやすい職場づくりを推進すると共に、人権についての学びを通して、相手を尊重した肯定的なやり取りを意識した言動に取り組んできた。それぞれの考えを否定することなく認めて、互いに助け合える風土が生まれている。突発的な状況が発生しても臨機応変に体制を取りフォローし、休暇等も意識して取得できるように声をかけ合っている。それぞれがワークライフバランスに注意を払い行動することで、保育を語る時間の確保や保育を楽しむ心の余裕が生じ、保育の質向上や職員のモチベーション向上につながっている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	豊かな保育を展開するため、子どもの発信から様々な工夫をして取り組んでいる
	内容	子どもが主体的に集団活動に関われるよう援助し、活動を積み重ね力を合わせてやり遂げる喜びや楽しさを味わうことができるようにしている。子どものアイデアや発信を最大限に尊重して保育者はそれを逃さず、よく聞き取り子どもの思いに寄り添っている。子どもの「やりたい」という思いが実現するように日々の保育の中で考え取り組んでいる。特に幼児の取り組みでは、子どもの発想や気づきに注目して対話を重ねながら、子ども同士が思いを伝え合い一緒に考えながら展開させることができるよう、プロセスを大事にして働きかけや支援をしている。
2	タイトル	子どもが安全に安心して友だちと関わりながら遊ぶことができる環境の工夫をしている
	内容	子どもが主体的に遊びを見つけ、創造的に遊び、集中できる環境づくりに取り組んでいる。四季を感じながら、のびのびと戸外遊びを楽しめる環境を整えている。マルチパーツ等の可動遊具を揃え、新しい遊具を取り入れたり、遊具の安全点検を行ったり、定期的なメンテナンスを行っている。また、縦割り保育を継続してきたことで、異年齢同士の交流が自然に生まれ、あこがれの気持ちや優しさ、思いやり等の感情が育まれている。クラスの枠を超えて自然体で関わる遊びの様子を、連携して見守ることができる職員の基盤がある。
3	タイトル	保護者との信頼関係を深め、子どもの成長を共有できるよう取り組んでいる
	内容	保護者が子どもの成長を知り、大きくなった姿に見通しを持ち、待ち遠しく楽しみに思いながら子育てができることも親支援のひとつと考えている。入園時や年度当初の保護者会で、園が大事にしている保育について丁寧に伝え、保護者の話を聴く機会をとらえ、子どもを中心に家庭と保育園が「とも育て」に取り組んでいる。システム配信を活用して活動の様子を知らせたり、子どもの成長発達に関する情報を積極的に発信したり、園の保育の見える化により理解と共有を図っている。子どもが園生活を楽しむ姿を知ることによって保護者の安心と信頼につながっている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員一人ひとりが意識を持ちワークライフバランスに取り組んで行く
	内容	職員各自のワークライフバランスを実現していくことは、より良い職場環境の整備だけでなく、より良い保育の継続にも不可欠である。その意味では、経営層と共に個々の職員もこれまで以上に高い意識を持って取り組んでいくことが必要となる。各自の業務の現状や見通しを見える化していくことは、さらなる全体共有や相互フォローにつながる。また、システムの有効活用は、事務の効率化や簡略化につながる。様々な工夫により、個々の力を一層発揮し、無理なく働き続けられる環境を維持していくことを課題としている。
2	タイトル	地域のニーズにもとづき、園としてできることを考え地域貢献に取り組む
	内容	中核園事業の取り組みの中で、近隣園との連携や交流について職員の意識は高く、ふれあい保育等、自園で行う地域親子への支援活動を積極的に進めている。小学校との交流や地域ネットワークへの参画も継続している。「子ども誰でも通園制度」の開始により、様々なニーズを感じつつ試行錯誤を重ねている。地域における保育の専門機関として、職員の専門性やこれまで培ってきた園の機能を活かした支援等、工夫の余地は残されている。園ができる取り組みについて再考し、引き続き地域貢献を実践していくことを今後の課題としている。
3	タイトル	互いを認め合う保育について学び一人ひとりの子どもに合わせた支援について考えていく
	内容	障害児指定園として、現在も個々の発達に必要な支援に丁寧に取り組んでいる。子どもは遊びや生活の中で関わり合うことにより、互いの理解を深め存在を認め合い、成長し合う姿が見られている。保護者の気持ちに寄り添い、全ての子どもが持っている「その子らしさ」を伸ばし、個々の持つ可能性を引き出していくためには、一人ひとりの特性を活かした活動について学びを深めていく必要がある。職員それぞれのスキルアップを目指し、学び合い、知識を共有し、特別な配慮が必要な含めた全ての子どもへの援助の充実を図っていくことを課題としている。

6. 浜田山保育園

浜
田
山

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

2026 年 2 月 28 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 156-0043

所在地 東京都世田谷区松原3-38-16-107

評価機関名 株式会社にはほんの福祉ネット

認証評価機関番号

機構 06 — 168

電話番号 03- 6379- 5156

代表者氏名 永峯 治之

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①		経営	H1901102
	②		福祉	H2301094
	③		福祉、経営	H2301066
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	浜田山保育園			
事業所連絡先	〒	168-0065		
	所在地	東京都杉並区浜田山4丁目18番31号		
	TEL	03-3315-7811		
事業所代表者氏名	長島 和美			
契約日	2025 年 6 月 20 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 8 月 1 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 10 月 22 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 8 月 1 日			
自己評価結果報告日	2025 年 10 月 22 日			
訪問調査日	2025 年 11 月 27 日			
評価合議日	2025 年 11 月 27 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	区担当者との打ち合わせにより全体の流れ、留意事項の確認を行った。その後、事業所にて事前説明を行い、オンライン形式での利用者調査や職員アンケートの実施方法について説明を行った。訪問調査前には当日の訪問者、タイムスケジュール、確認予定の書類について案内した。訪問調査では施設見学もあわせて行い、実態の把握に努めた。合議では、訪問者2名と他の1名、事務局により報告内容の精査・修正を行った。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- ☒ 機構が定める部分を公表することに同意します。
- ☐ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- ☐ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2026 年 2 月 28 日

事業者代表者氏名 園長 長島 和美

印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） ・健康で安全に過ごせるように保育していきます。 ・子ども一人ひとりの思いを大切に、自信と自己肯定感を持てるように保育していきます。 ・人と関わることの楽しさを感じられるように保育していきます。 ・家庭との連絡を密にし共に協力して子育てをしていきます。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） （1）職員に求めている人材像や役割 ・乳幼児期の保育を丁寧に行い、子どもの生命と人権を守り、安心して安全に過ごす保育を実践できる人材。 ・子どもの思いに共感し、実体験を豊かにし、生活やあそびの中で子どもの学びを育む人材。 ・子ども、親、保育士が共に学び合い育ち合う関係を築いていける人材。 ・保護者や地域の子育て家庭に保育園や保育を知ってもらい、これまで培ってきた保育や子育てのノウハウをわかりやすく伝える取り組みをする人材。 （2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ・子どもや保護者の思いを肯定的に受け止め、いつも子どもを主語にしながら保育ができる職員。 ・保育のプロとしての自覚と専門性を高め、研修に進んで参加し学ぶことができる職員。 ・在園しているすべての子どもの保育しているという意識を持ち、職員同士の連携を深めながら保育ができる職員。

調査対象

複数児利用世帯は最低年齢児1人を対象として実施世帯数を絞り、調査対象者に対し実施。

調査方法

WEB回答システムを活用。機関が作成した二次元コード記載の案内を事業所を通して各家庭に配布。各家庭においてそれを読み込んだ上で、個別に匿名で回答。

利用者総数

86

利用者家族総数(世帯)

68

共通評価項目による調査対象者数

68

共通評価項目による調査の有効回答者数

32

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

47.1

利用者調査全体のコメント

＜総合的な満足度＞

「満足」78%、「まあまあ満足」16%、計94%という満足度が示された。

＜調査結果の講評について＞

・肯定的な評価(「はい」との回答)が全体に占める割合についてのみ、記述した。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	29	3	0	0
回答者の91%「はい」と回答した。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	28	4	0	0
回答者の88%「はい」と回答した。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	30	0	2	0
回答者の94%「はい」と回答した。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	27	5	0	0
回答者の84%「はい」と回答した。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	27	2	1	2
回答者の84%「はい」と回答した。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	24	7	0	1
回答者の75%「はい」と回答した。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	20	9	0	3
回答者の63%「はい」と回答した。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	28	3	0	1
回答者の88%「はい」と回答した。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	26	4	1	1
回答者の81%「はい」と回答した。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	29	2	0	1
回答者の91%「はい」と回答した。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	29	1	0	2
回答者の91%「はい」と回答した。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	23	5	0	4
回答者の72%「はい」と回答した。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	29	1	0	2
回答者の91%「はい」と回答した。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	24	3	0	5
回答者の75%「はい」と回答した。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	26	5	0	1
回答者の81%「はい」と回答した。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	24	3	0	5
回答者の75%「はい」と回答した。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	18	5	4	5
回答者の56%「はい」と回答した。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリ1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○ 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○ 非該当
	● あり ○ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○ 非該当
	カテゴリ1の講評		
	園が目指していることを明示し、保護者や職員への理解を深めている 区立の保育施設として、児童福祉法や関連法令の根拠の下、区の基本理念やビジョンなどを運営や保育の基礎としている。年度当初には保育目標を達成する大枠となる全体的な計画を通して児童憲章、園の保育理念・保育方針・保育目標を確認している。これらを園内の各所に掲示することで職員の意識を高めると共に、保護者への周知を図り、基本に立ち返る働きかけを行っている。また、係の目標申告を作成して職員に周知し、一年間の目標を明示している。保護者に対しては、新入園児説明会、年度当初の保護者会などの機会に説明している。		
	園運営の方向性を提示し、自らの役割と責任を果たしている 年度当初の職員会議で、経営層の年間目標を職員に伝えている。組織目標から係の目標シートを作成し、これに基づき園長自身も具体的な年間計画を作成し、自らの役割と責任を職員に伝えるなど、組織の方向性や経営層の役割を明示することで、園運営をリードしている。園長・主査・向上リーダーが、保育の質の向上を図る中心となり、大切にしたい保育の実現のために方向性の共有を図っている。運営に関わる変更や改善事項などが生じた際は、園だよりや保護者会などで園長より速やかに保護者に説明している。		
	園で定めた手順に沿って、検討・決定・周知・実行を着実にやっている 職員会議や毎日のミーティングでは誰もが意見をしやすい雰囲気づくりを心がけ、話しやすい場を整えている。職員の意見をできるだけ吸い上げ、職員の主体性を尊重した運営を心がけている。重要な案件については、その経緯と決定事項を説明し、連絡・確認事項は、ミーティングなどを通して迅速に職員に伝えている。また、決定事項等については漏れがないように議事録等を回覧し、チェックシートを活用して職員による確認を徹底している。保護者には、園での決定事項やその経緯、内容などの情報を園だよりや掲示などで伝えている。		

2			事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		カテゴリー2
サブカテゴリー1(2-1)					
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況		6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			評点(○○○○○○)		
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している				○ 非該当
● あり ○ なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している				○ 非該当
● あり ○ なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している				○ 非該当
● あり ○ なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している				○ 非該当
● あり ○ なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している				○ 非該当
サブカテゴリー2(2-2)					
実践的な計画策定に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況		5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している			評点(○○○)		
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している				○ 非該当
● あり ○ なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている				○ 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる			評点(○○)		
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる				○ 非該当

カテゴリー2の講評

様々な方法で収集した情報を検討・活用して園運営に活かしている

保護者については、行事や保護者会前後のアンケート、個人面談などにより、園への要望などを把握している。日々の登降園時のやり取りや連絡帳等からも、保護者の思いをつかみ、対応の見直しなどに役立てている。職員は、個人の目標申告シートなどをもとに園長とのヒアリングを行っている。個別に話を傾聴し、意向を把握している。会議等の打ち合わせでは、活発な意見交換により、園運営の課題解決につなげている。改善点については、係の目標シートや個人の目標申告シートに反映させている。

地域の福祉の現状について情報収集やニーズを把握し関係各所との関係を深めている

区や課の方針を受け、様々な事業を展開している。福祉事業や区の施策などの現状や動向については、区立園長会、庁内メール、区内広報などで随時確認している。近隣園との中核園事業に参画して、合同研修、園庭の共同利用などに取り組んでいる。近隣施設との交流も積極的に実施し、地域のニーズを把握している。収集した情報は、回覧やミーティングなどにより、できるだけ速やかに職員に周知している。近隣の関係機関との地域ネットワーク会議や連絡会に参画して情報交換を行い、顔の見える関係を構築している。

目標の達成に向けた意見交換を行い計画の実行に取り組んでいる

区の中長期計画、課の組織目標を受け、係の目標申告を作成している。杉並区保育実践方針等をもとに全体的な計画を作成し、年度末反省をもとに職員と共に係の目標シートを作成して園内の取り組みを明確にしている。目標シートの各項目に取り組み内容を記載し、達成度合いを図る目安としている。園運営については、各プロジェクトを中心にして計画内容のさらなる充実を図っている。議題を事前に決定・通知し、意見を集約し検討して会議に臨むなど、限られた時間を効果的に活用し、目標達成に向けて着実に取り組んでいる。

カテゴリー3			
3 経営における社会的責任			
サブカテゴリー1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。		○ 非該当
サブカテゴリー2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○ 非該当
サブカテゴリー3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		○ 非該当
● あり ○ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		○ 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		○ 非該当

カテゴリー3の講評

社会人として適切な行動ができるよう取り組み、組織としての責務を果たしている

社会人として、また福祉サービスに従事する者として、守るべき事項を全体に周知するため、保育課からの資料を活用して学ぶ機会を設けている。園長会で得た情報のほか、公務員倫理や規範についても繰り返し伝え、意識の向上を図っている。年度当初には、会計年度任用職員も含めて資料を提供し、随時助言や指導を行い、子どもに対する行動や言葉の選択など、適切な保育や守秘義務について確認し共有している。虐待が疑われるような情報をつかんだ際は、速やかに園長に報告し、必要に応じて関係機関と連携を取り、迅速に対応する体制を整えている。

地域へ園の取り組みを開示し様々な意向を把握して対応できる体制を備えている

苦情・要望などの相談窓口について、入園説明会で園の概要と共に保護者に説明し、相談の仕組みについて案内している。園長を苦情受付・解決責任者として位置づけ、いつでも相談に対応できる体制を備えている。担任・主査・栄養士・看護師など、相談を受けた職員は必ず園長に報告し、会議などで情報を共有している。また、実習生や体験学習の受け入れなど、次世代の人材の育成にもつながる取り組みも積極的に行っている。園庭開放を含む子育て支援事業の取り組みや日々の活動の様子なども開示し、透明性の確保を図っている。

様々なネットワークに参画し、地域の一員として園の役割を果たしている

園庭開放やふれあい保育、緊急一時保育など、地域の子育て世帯のニーズに応える事業を行っている。また、中核園事業では、担当年齢別の担任や看護師や栄養士などが交流や研修を行い、園の持つ専門分野の知識を地域に還元できるよう努め、園児同士の交流にも取り組んでいる。そのほか、近隣小学校との連携による行事、「はまだやま子どもまつり」などにも参加している。こうした取り組みの積み重ねを通して、地域連携に対する職員の意識も高まっている。

4			リスクマネジメント		5/5
サブカテゴリ1(4-1)					
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる					
評点(00000)					
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている				○ 非該当
● あり ○ なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している				○ 非該当
● あり ○ なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる				○ 非該当
● あり ○ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる				○ 非該当
サブカテゴリ2(4-2)					
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている					
評点(0000)					
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している				○ 非該当
● あり ○ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている				○ 非該当
● あり ○ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している				○ 非該当
カテゴリ4の講評					
想定される様々なリスクについて、マニュアルを定め訓練を実施している 区として業務継続計画を策定し、職員にも周知している。リスクへの対策を常に話し合い、具体的な行動について職員間で共有し判断している。危機管理マニュアルや園マニュアルをもとに、事故、感染症、災害、情報セキュリティ、防犯対策などの対応を確認し、役割分担を行い、各種事態に備えている。年間避難訓練計画を定め、地震や火災、それらの際の併設施設との協力など、非常時に備えた訓練を実施している。訓練後は課題の抽出を行い、状況に応じて臨機応変に対応できるようにしている。 リスクに対して危機意識を持ち必要な対策をとり、危険回避と再発防止に努めている 保護者には、リスクへの対策について新入園児説明会や保護者会、園だよりなどで伝えている。園のしおりには、安全・防犯の対策、災害時の対応などを記載し、緊急時の園の対応を案内している。年度当初の保護者会でも、緊急時安全メールについての確認などを含め、災害時の対応について改めて説明している。感染症の罹患については速やかに園全体へ周知している。ヒヤリハットを含めたけがなどについては、原因の分析、振り返り、対応策の検討など、職員全体で情報を共有し、再発防止や深刻な事故の防止に取り組んでいる。 情報管理を適切に行い必要な情報を活用できるようにしている 区の情報セキュリティ基本方針や情報セキュリティ対策基準に基づき、保育課内および園内において、適切な情報セキュリティマネジメントを行っている。園では、個人情報を含む書類は施錠管理し、持ち出しと返却時には持ち出し管理簿に毎回記入している。画像保存機器類の持ち出しと返却についても、管理簿を活用してチェックを徹底している。個人情報の紛失や漏洩が発生しないようにダブルチェックを行うなど、慎重かつ厳格な管理を行っている。					

5 職員と組織の能力向上			カテゴリー5
サブカテゴリー1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○ 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○ 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○ 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○ 非該当

サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	☐ 非該当
カテゴリー5の講評		
目指す職員像の実現のため、長期的な展望で人材の確保や育成に取り組んでいる 区の人事課や保育課と園との間で連携を取り、人材確保を行っている。採用後には、配置園においてOJTを含む計画的な指導を行っている。そして、専門性を身につけ、個々の能力を活かせるように、区の人材育成方針や職員人材育成事業実施計画に基づいた研修を実施し、育成に努めている。職員一人ひとりの適性を把握しながら育成を図り、専門的な知識を高めながらキャリアアップを支援している。職員自身が具体的に自分の職責や果たすべき役割への筋道を見据え、個人と組織の目標達成に向けて意識して取り組んでいけるようにしている。		
中長期的な見通しを立てた計画により職員の意欲向上を支援した育成に取り組んでいる 人事課が企画する職層研修によりライフプランや業務改善計画の立案を行い、中長期を見据えた人材育成計画を策定している。区の目標申告シートを活用して職員の状況を把握し、計画的な育成を行っている。職層研修、会計年度任用職員研修、実務研修など、勤務形態を問わずキャリアに合わせた研修を実施している。新任職員には、長期的人材育成計画に基づく育成を行っている。育成担当者が適切な指導を行うことができるよう、担当者研修や会議など、支援する仕組みを確立している。園全体で職員を支援・育成していく方針・姿勢を実践している。		
良好な人間関係と安心して働き続けられる職場環境づくりに取り組んでいる 職員間の良好な関係を構築するため、保育の向上リーダーを中心としてより良い関係づくりのための提案と発信を行っている。職員会議等で職員の意向を聞き取り、改善を行うように取り組んでいる。また、職員の意欲と働きがいの向上を目指して、個人の目標申告シートに基づいて職員とのヒアリングを行い、意向などを聞き、課題があれば一緒に考え、前向きに仕事に取り組んでいくことができるように努めている。		

7		事業所の重要課題に対する組織的な活動	7	カテゴリー7
サブカテゴリー1(7-1)				
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている				
評価項目1				
事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)				
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)				
障害児保育や乳児保育の専門性を基盤とし、子ども一人ひとりが自信と自己肯定感を持って成長できるよう、「個々の思いを大切に保育」を目標として掲げた。その実現のために、「子どもも大人もわくわくする保育」をテーマに据え、子どものつぶやきや興味から遊びを展開する実践に取り組んだ。日々の保育を振り返り、事例記録を用いた園内研修を実施して、クラスの枠を超えた職員間で気づきを共有し、多角的な意見交換を行った。また、毎月の指導計画の策定時に、子どもの細かな変化や経過を丁寧に話し合った。これらの取り組みの結果、担任だけでは気づけなかった子どもの新たな側面や魅力が共有され、一人ひとりの思いをより深く汲み取った保育が展開された。職員間での対話が深まったことで、子どもの成長を園全体で温かく見守る体制が強化された。今後は、子どもの成長には十分な時間をかけることが重要であると考え、引き続き他クラスからの視点を取り入れた見守りを継続していく方針である。また、子どもたちが日々の生活の中で「達成感」や「満足感」を十分に味わえるような保育内容を構想し、実践することを目標に据えている。				
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった			
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である			
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である			
評価項目1で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評				
専門的な配慮が必要な場面においても、個別の支援に留まらず、子どもの内なる意欲や「わくわくする心」を保育の真ん中に据えようとする姿勢に、確かな実践の深まりがうかがえる。子どもの微細なつぶやきや興味を遊びの起点として捉え直すプロセスは、一人ひとりの存在を丸ごと肯定する文化を園全体に根付かせている。特に、日々の具体的な事実を基に、クラスの垣根を超えて対話を重ねる仕組みは、保育者の視点を多層化させる重要な機能を果たしている。担任という地点からの視点に閉じず、多様な眼差しを重ね合わせることで、子どもの多面的な魅力や可能性を掘り起こす組織的な力が育まれている。また、一人ひとりの育ちのプロセスに十分な時間をかけ、その歩みを全職員で見守ろうとする態度は、子どもの安心感と自己肯定感の源泉となっている。こうした丁寧な関わり方の積み重ねは、子どもたちが日々の生活の中で充足感を味わうための確固たる土台を築いている。				

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

子どもの成長に欠かせない玩具や安心して遊べる空間の重要性を再認識し、保育環境を最適化することで、子どもが安全かつ主体的に過ごせるようにすることを目標として掲げた。その実現のため、環境係を中心に園庭遊具の定期的な見直しを行い、子どもが自主的に遊べる環境作りに取り組んだ。保育の向上リーダーを中心に、安全な遊び方や主体性を引き出す関わり方について職員間で協議を重ねた。また、各クラスで工夫している空間づくりの事例を共有し、日頃から感じている危険箇所については少人数チームで分担して点検や改善策の提案を行った。これらの取り組みの結果、職員一人ひとりの安全に対する意識が目に見えて向上した。具体的な意見交換を通じて、子どもが遊びやすい環境構成への理解が深まるとともに、危機管理意識を園全体で共有する体制が強化された。職員自らが改善案を出し合うことで、より実効性の高い安全管理が実現した。今後は、子どもが安心・安全に遊べる環境を整え、様々な遊具を使いながら自主的に工夫して遊べるような視点をさらに深めていく方針である。また、園舎内だけでなく散歩先の安全についても情報を共有し、園全体で高い意識を持って取り組むことを目標に据えている。

目標の設定と取り組み

- ☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- ☐ 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- ☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- ☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評

玩具や空間の重要性を原点に据え、安全の確保を制限としてではなく、子どもの主体的な探索を支える必須の基盤として再定義している。役割分担を明確化した組織的な検証プロセスは、個人の注意義務に依存しない構造的な安全管理の実現に寄与している。各現場の工夫を共有し、具体的な課題に対して小集団で改善案を導き出す手法は、職員一人ひとりに環境を構成する当事者意識をもたらしている。こうした対話の積み重ねは、危機管理の視点を園全体で分かち合う文化を醸成し、日々の生活環境を客観的に見直す組織的な力を高めている。室内外の環境から屋外活動の動線に至るまで、安全と自発的な遊びを両立させようとする一連の試みは、子どもの育ちを多層的に守り支える体制をより強固なものにしている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目										
	サブカテゴリー1										
1	サービス情報の提供 サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4 評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している 評点(〇〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th><th>標準項目</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>● あり ○ なし</td><td>1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している</td></tr> <tr> <td>● あり ○ なし</td><td>2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている</td></tr> <tr> <td>● あり ○ なし</td><td>3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している</td></tr> <tr> <td>● あり ○ なし</td><td>4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している</td></tr> </tbody> </table>	評価	標準項目	● あり ○ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	● あり ○ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	● あり ○ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	● あり ○ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
評価	標準項目										
● あり ○ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している										
● あり ○ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている										
● あり ○ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している										
● あり ○ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している										
	サブカテゴリー1の講評										
	区のホームページや冊子などで園の情報をわかりやすく提供している 区のホームページや区の公式アプリケーション「すぎぼよ」、杉並区の保育施設ガイドブック、園のしおりなどにより、園の情報を発信している。ホームページでは園の住所や電話番号、対象年齢、定員、保育時間、保育目標などの概要を伝えている。そのほか、園庭や室内で子どもが遊ぶ様子が伝わりやすいものになっている。外国籍の方などを想定し、ふりがなやカタカナ表記などを施した情報媒体を用意して選択できるようにするなど、それぞれの方にとっての「わかりやすさ」に配慮している。 行政や関係機関と連携を取りながら情報の提供に努めている 保育課にはふれあい保育や園庭開放、身体測定など子育て支援事業の取り組みや園内の感染症の状況、近隣の関係機関との交流実施などについての報告や必要なやり取りを常に行い、園の現況を発信して共有に努めている。また、小学校区域の地域ネットワーク事業に参加、子育てプラザや児童館、小学校と情報共有し、連携を図り、専門的な立場から地域の福祉全体の動向の把握に努めている。区の中でも乳幼児が少ない地域であるという特性をふまえた上で、事業所としての発信を工夫して行っている。 問い合わせや見学の要望には、個別の状況に応じ園としてできる限り対応している 見学希望の受付について、区として都の施策(保活ワンストップサービス)を導入している。電話などによる受付も継続している。受け入れは、月4回一日に4組までとしたうえで、個別の希望にはできる限り対応している。当日は、園長や主査が30分～40分ほど園内を案内しながら概要を伝えている。日常の保育で園が大切にしている点や、保護者参加の行事などを伝え、園の保育に対する理解を図っている。園庭開放やふれあい保育等への参加、電話による子育て相談なども案内している。										

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		☐ 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		☐ 非該当
サブカテゴリー2の講評			
園の特徴をふまえて保護者にサービス内容を伝え、保育への理解を図っている 身体測定や園医による健康診断を行うほか、入園までの生活状況や健康状態、食事の状態など、保育に必要な子どもに関する情報を収集している。また、保護者の就労状況や子育ての意向なども確認している。乳児や食物アレルギー、健康上の問題など対応が必要な場合は、栄養士や看護師も面談に加わっている。説明会では、入園後のルールや緊急時の取り決めなどを丁寧に伝えている。さらに、当園が障害児指定園であること、すべての子どもが分け隔てなく共に育ち合う園であること、多様性が尊重されることなども改めて伝えている。 子どもの様子を把握しながら、無理なく新しい環境へ適応できるように支援している 入園当初は保護者と相談して、短時間の保育から始める慣れ保育を行っている。慣れ保育の一日目は保護者と過ごし、これから我が子が過ごすことになる園やクラスの様子を知ってもらう機会としている。そして、おおむね一週間をめぐりに子どもの状況や保護者の事情を考慮し、子どもの様子を見ながら無理なく予定の保育時間まで延ばしている。入園時に提出された家庭連絡票や入園までの生活状況、健康調査票、食事調査などの書類は、支援に役立てる基礎資料としている。保護者の不安を軽減し、安心して預けてもらえるよう信頼関係の構築を図っている。 支援の継続性に配慮した支援や関わりを大切にしている 転園や退園する際には、いつでも相談できることや次の生活へ向け声をかけ、保護者や子どもの不安の軽減を図っている。必要に応じて保護者の承諾の上、スムーズな移行を支援するため、移行先に子どもの情報を提供できる体制を備えている。また、就学へ向けて小学校から提供される情報を保護者に伝えている。就学前には保育所児童保育要録を作成し、配慮事項などを小学校へ引き継いでいる。必要に応じ、就学支援シートを作成して個人面談で保護者と子どもの様子を共有し、就学先の小学校へ提出して育ちの連続性を保障している。			

サブカテゴリ3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○ 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている	○ 非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○ 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○ 非該当

サブカテゴリー3の講評

保育に必要な情報を適切に収集・記録し、全体で共有している

入園時には健康診断を実施して健康状態を把握し、個別面接時に入園までの生活状況や家族構成、出生・成育歴、予防接種歴、発育状況、食事、排泄、睡眠、好きな遊び等、保育に必要な子どもの心身や生活の状況を把握し記録している。収集した個人情報は、取り扱いに十分注意しながら全体で共有している。連絡帳や登降園時に聞き取った日々の体調や連絡事項についても、必要に応じてミーティング等で伝達し、園日誌に記載して園長や担任間で共有している。

子どもの個別の発達や状況を踏まえた計画を作成し、共通理解に努め、取り組んでいる

「杉並区立保育園保育実践方針」を踏まえて策定された「全体的な計画」に基づき、年齢毎の発達を考慮して、年、月、週の各期間における指導計画を作成している。保護者には年度当初の保護者会で年間指導計画を示し、各年齢の発達や保育についてわかりやすく説明している。乳児クラスおよび特別な配慮を必要とする子どもについては、個別に指導計画を作成している。全職員が子どもの育ちを理解し、日頃から必要な情報の共有に努めている。医師や臨床心理士などの専門家とも連携し、子どもの特性に合わせた保育を計画し実践している。

子どもの状況など保護者との共有に努め、職員はわかりやすく伝えている

年度当初の保護者会では、全体的な計画や発達に合わせた年間指導計画を丁寧に説明し、理解を得ている。日々の記録は日誌や連絡帳に記し、具体的なエピソードを交えながら、子どもの成長を感じられる場面を配信ツールで保護者と共有している。毎日の会議では、健康状態や活動内容、安全面などの連絡事項を確実に確認し、職員間での情報共有を徹底している。このように、日々の保育の積み重ねを可視化し、保護者と共有し、きめ細やかな支援を継続している。全職員が共通認識を持ち、質の高い保育を実践している。

サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)			
評価		標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		☐ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)			
評価		標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		☐ 非該当
サブカテゴリー5の講評			
個人情報の取り扱いについて保護者に説明して同意を得ている 個人情報の取り扱いについては、基本的なルールを入園時に保護者に伝え、情報提供の範囲や目的などについて同意を得ている。外部機関から情報提供の依頼があった際には、改めて保護者の意思を確認して対応している。園のしおりの中でも個人情報の取り扱いの徹底についても触れ、ビデオ撮影等及び画像データ提供について明記している。SNS(ソーシャルネットワークサービス)への投稿やビデオ・写真の撮影の取り扱い、配慮事項等についても、保護者に注意を促している。 子どものプライバシーを保護し、羞恥心に配慮した保育を行っている オムツ替えやプールや水遊び、身体測定等、着替えの際は、場所を変えたり衝立を利用したりして、まわりから見えにくい環境で行うよう配慮している。また、幼児3クラスでは、プール活動時はラップタオルを使用し、人前で半裸になることが常態化しない配慮がある。プライベートゾーンについては、毎年6月に保健計画をもとに事前に保護者に周知してから、看護師が3・4・5歳児に話している。トイレは個室のドアだけでなく、男児の立ち便器の間に隣が見えないよう衝立を設置し、個が守られ、子どもの羞恥心に配慮した形で使用されている。 配慮の必要な子どもや家庭の支援に努め、互いの差異を認め合う園の風土がある インクルーシブ保育を実現するための具体的な合理的な手段、個々に応じた配慮に努めることが職員間に浸透しており、それが子どもたちや保護者にも自然に互いの差異を認め合うという、園全体の風土を醸成している。入園時に把握した情報をもとに、個々の子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を心がけている。職員は、保護者との会話を大切にして保護者の子育てに対する不安を取り除くように努めている。また、保護者の思いを尊重しつつ、園での取り組みを伝えて、理解を得よう努めている。			

サブカテゴリー6	
6 事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5 / 5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている 〇 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている 〇 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している 〇 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている 〇 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている 〇 非該当
サブカテゴリー6の講評	
各種マニュアルを整備し、確認と実践により、組織として対応の統一化を図っている 手引き書として区立保育園全園共通のマニュアルのほか、危機管理マニュアル、杉並区立保育園保育実践方針、保育実践の手引き等を備えている。また、保育理念・目標、保育方針、役割分担表などの事項をまとめた園マニュアルのファイルを、事務所と各クラスに備えている。杉並区立保育園保育実践方針、保育実践の手引きについては、職員一人ひとりに配布している。確認や実践を通してこれらを活用していくことで、職員一人ひとりが組織としての共通事項を踏まえて、統一的な対応をとることができるようにしている。 定められた手順や留意事項を共有し、日々の実践に活かしている 園マニュアルのファイルは、一年を通して必要となる事項から構成されているため、日常的な活用を前提とするものである。それゆえ、疑問があった場合の確認や判断に迷った時に立ち返るものとして、活かしている。また、杉並区立保育園保育実践方針も、区の保育を進めていくうえでのガイドラインとして、全体的な計画や各期間の指導計画の作成、それらに基づく保育実践を通して、日常的に活用している。危機管理や衛生管理などの分野におけるマニュアルも、子どもの安全・安心に関わるため、内容の確認や訓練などを通して活用している。 業務手順に対する定期・随時の見直しにより、業務の安定的な遂行を確保している 杉並区保育実践方針は、社会状況の変化など必要に応じて内容を変更・改訂する仕組みを備えている。区立園共通のマニュアルは、各検討会などで検討して内容を見直している。園マニュアルは、年度末に反省を行い、項目ごとに確認して見直しを行い、毎年内容をブラッシュアップしている。保護者や職員からの意見や要望、仕事の手順の変更等、見直しが必要な場合は、時期を待たずに都度打ち合わせを行い改定している。こうした定期・随時の見直しにより、職員間での認識や対応の共通化・統一化を図り、業務の安定的な遂行を確保している。	

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4	
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している ☐ 非該当
評価項目1の講評	
保育士の連携と異年齢の関わりがある環境設定により、互いを尊重する心が育まれている 職員は、子どもに必要な声がけを、子どもに聞こえる声の高さで話しかける等、日ごろから一人ひとりが大切な存在であることを態度で示している。違いを認めて協力し合う仲間関係が築かれるような関わりや声がけを心がけている。また、日々の昼礼をはじめとした情報共有の場で積極的にコミュニケーションをとり、複数の職員が子ども一人ひとりの発達を丁寧に見ていく保育を展開している。職員の連携のもと、子どもはどの保育室でも安心して自由に遊びにいけるような取り組みが実践されている。 子どもが興味・関心を持ち、主体的に働きかけることを目指して環境構成を工夫している 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに関わることを目指して、玩具や絵本は、子どもの発達、興味・関心を見極め、季節に合わせたものを用意し、子どもが自分で出し入れできるように配置している。また、好きな遊びに主体的に遊びこめるよう視界を遮るなどコーナーを設置し工夫した空間作りを行っている。遊具の数や種類にも配慮している。遊びの経過を見守り、子どもからの要望や発信を受けとめ、提案として返し話し合い環境を変える等、職員は援助者としての姿勢を心がけている。 子どもの気持ちを尊重した対応を行い、より良い援助ができるようにしている 個々の子どもの特性を理解し、必要な個別配慮を行い、クラス内でお互いが認め合い、仲間であることを感じられるような関係作りができるように援助している。巡回相談や巡回指導、研修を通じて職員が障害児や要配慮児について学び、理解を深めている。また、関係機関より、園での支援について考え方や実際の対応などアドバイスを受け保育に活かしているが、子どもの状態を共有するだけでなく、保育場面の職員の対応も共有し、園として全ての職員が配慮を要する子どもに共通認識を持って対応できるよう取り組んでいる。	

2 評価項目2		
子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○ 非該当
評価項目2の講評		
子どもの生活が安定するよう保護者や職員間での情報共有を図っている 家庭での生活の姿を把握し、子どもの生活リズムを整えるために、登園時には積極的に保護者に声をかけ、家庭での様子・体調・食事・降園時からの変化等を確認している。顔色・機嫌・皮膚や目の状態等を観察している。また、連絡帳アプリも確認し、得られた情報は、「視診表」に記録するとともに、職員間で共有しその日の保育活動に活かしている。降園時は、担任が対応できない時間帯も、クラス担任が記入した申し送り表をもとに保護者に対応し、一日の子どもの様子に合わせてエピソードを伝えることを心がけている。 基本的な生活習慣が身につくよう、子どもの成長に合わせて個別に援助している 基本的な生活習慣の獲得については、園では保育士と看護師や栄養士との連携により丁寧に子どもに向き合い、さらに家庭とも連携を図っている。月齢や年齢で区切ることはせず、一人ひとりの子どもの成長の道筋をふまえ、連続性を捉えて個別に対応している。児童票は、0歳は毎月、1・2歳は2か月毎、幼児は3か月毎に、個別に成長と発達の様子を記し、園長以下職員全体で共有している。必要に応じて個別に面談を行う。また、日々の連絡帳でのやりとりだけでなく、毎日の送迎時の保護者との短い会話の時間を大切にし、信頼関係の構築を図っている。 子どもの年齢や状況に合わせて、必要な休息を取れるようにしている 午睡を含む休息については、子ども一人ひとりのその日の状況や年齢、発達を考えながら、長さや時間帯を調整している。特に、0歳児は月齢によって睡眠時間の差が大きいため、個々の生活リズムに合わせて、午前寝も入れながら、睡眠を取っている。また、幼児クラスも、安心して眠れる環境の中で身体を休めており、早く目覚めた子が静かに過ごせる場所の保障をしている。なお、5歳児は、その年の子どもの姿を踏まえて、保護者に説明をしたのち、12月以降、徐々に午睡のない生活でも安定して過ごせる生活リズムへの切り替えを図っている。		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している 評点(〇〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○ 非該当
● あり ○ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○ 非該当
評価項目3の講評		
子どもの主体性を尊重し、遊び込める空間の保障の工夫をしている また、熱中したのちクールダウンして場面を切り替えられるよう複数のコーナーを設定し、子どもが選択できるようにしている。散歩で拾ったどんぐりで芽つるリースを作るなど、活動が自然に広がるようにしている。日々の子どもの声に耳を傾け伝えたいことを受けとめ、気持ちに寄り添った活動を取り入れるなど、子どもの気づきや興味、関心を日々の遊びにつなげ、子どもが主体的にやってみようという気持ちを育む視点や援助の仕方を大切に保育している。 各年齢に応じた環境を設定し、子ども達が自分で選んで遊べる工夫をしている 子どもたちがじっくり遊べる空間を作るため、職員間で話し合いながら子ども目線で環境を構成している。子どもたちが求める遊びや発達に応じた遊びについて常に考え、教材や玩具を選定している。環境設定では、子どもの人数をふまえ室内にコーナーを設定し、個々がじっくり遊べる環境を作るよう心がけている。保育の振り返りや月の指導計画の検討の際、職員間で課題や工夫を共有し保育のアドバイスをしあい、子どもたちが自ら遊びを選び、活動が広がるよう、玩具や教材の種類や数を十分に揃え、豊かな遊びが展開できる環境を整えている。 大人との信頼関係のもと、子どもが安心して活動を楽しんでいる 年齢や発達に合わせた活動を取り入れ、幼児クラスは予定や活動をあらかじめ伝え、子どもが見通しを持って活動に取り組めるよう工夫している。乳児クラスでは自分がやりたい遊びを少人数でじっくりとでき、満足できるようにし、継続的に遊ぶことができるスペースの確保なども臨機応変に対応している。クラス間は自由に行き来できるようになっているが、大人との信頼関係をもとに、安心できる環境の中でクラス間を自由に行き来する子どもを、職員は状況を観察し、適宜援助し、子ども同士がやり取りを楽しめるよう関わっている。		

4 評価項目4

日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

●

あり

○

なし

○

非該当

●

あり

○

なし

○

非該当

●

あり

○

なし

○

非該当

標準項目

1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している

2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している

3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている

評価項目4の講評

子どもたち自身が話し合いをして決めることで、主体的に取り組めるようにしている

子どもに対して行事ありきという提示の仕方ではなく、日々の子どもの活動から吸い上げて行事につながるように工夫している。事前に行事について子どもたちと話をし子どもの行事についての受け止め方を探り、一人ひとりが関心を持ち主体的に取り組めるよう、具体的な内容を決め進めている。担当保育者は、子どものイメージを広げ、意見をくみ取りながら行事計画を作成し、それを職員間で会議等で共有し、子どもの取り組みを援助している。また、年間行事以外でも、子どもからの発想で水族館づくりをするなど、柔軟に対応している。

行事の実施にあたり何を大事にしていくかを考え、ねらいや内容について検討している

日頃の子どもの遊びや興味・関心、運動遊びなどから行事につながっている。子ども達が期待を持ち、楽しんで参加することをねらいに設定している。行事への取り組みについて、コロナ感染症の時期を経て若手職員の経験が少なくなってしまうているが、行事のねらいを確認し、見通しを持った取り組み方で継承していくことを目指して取り組んでいる。行事ごとに今の子どもの発達段階や興味・関心に合っているか、経験させたいことやねらいなどについて、プロジェクトチームを中心に職員間で話し合い、検討・共有し、計画を進めている。

保護者に行事に向けて頑張っている子どもの様子を伝え、理解や協力を得て実施している

年度当初に年間行事予定表を配布し行事の概要を説明しているので、保護者からは参加や当園時間の調整の協力が得られている。日々のクラス活動の行事への取り組みの様子を伝えていることで、家庭での会話が広がり子どもが行事に楽しんで意欲をもって取り組む姿がある。また、掲示や家庭での会話で行事の当日までの過程での成長を保護者が汲み取ってくださり、子どもも職員ものびのびと取り組むことができる。保護者も行事を我が子の成長や友だちとの仲間関係の深まりを感じる機会として、期待感をもって楽しみに見守る姿がある。

5 評価項目5

保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

●

あり

○

なし

○

非該当

●

あり

○

なし

○

非該当

標準項目

1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている

2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている

評価項目5の講評

子どもが好きな遊びを選び、くつろげるようにしている

延長保育の時間帯は、一人ひとりの子どもがゆったりと遊べるように、個別に遊ぶシロホンや玉落としなど、延長保育用玩具として用意している。また、朝夕の保育時間の職員配置も連携を取りながら柔軟に対応し、子どもが安心して過ごせるようにしている。個別配慮が必要な子どもの情報について職員間で共有し、甘えを受け止めスキンシップを図るなど柔軟に個々の子どもに合わせた遊びの提供や対応ができるようにしている。安全で安心できる環境の中で、朝はクラス保育へ円滑に移行し、夕方は穏やかに家庭へ引き継げるよう心掛けている。

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

年度当初に、子どもたちの姿から長時間保育の取り組み方を職員間で話し合い決めているが、子どもたちの成長に伴い、時期を見て安定して過ごせるよう、見直しを行い、玩具や環境設定を工夫している。当番の保育士は、担任と丁寧に引き継ぎを行い、体調や成長の変化等の情報共有を図っている。引継ぎ事項は、記録を行い伝達洩れを防いでいる。また、口頭で子どもの遊びの状況を伝え、子どもの遊びが途切れず、安心して遊びが継続できるようにしている。

保育体制を整えて、子どもが落ち着いて過ごせるようにしている

早朝や夕方の延長保育では子どもが落ち着いて過ごせる環境に配慮している。延長保育では合同保育を実施している。職員が安全を確認しながら、異年齢が触れ合い、発達や体調に応じた過ごし方ができるようにしている。乳児クラスでは、少し体を横にできるスペースを作ったり、幼児クラスでは、すぐに合同保育にせずゆったりと過ごせるような人数になるまでは、クラス別で過ごすよう配慮をしている。ゆっくりと過ごせる環境を提供し、好きな遊びを選び、くつろげるようにしている。

255

6 評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評価

標準項目

●

あり

○

なし

1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している

○ 非該当

●

あり

○

なし

2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている

○ 非該当

●

あり

○

なし

3. 子どもの体調（食物アレルギーを含む）や文化の違いに応じた食事を提供している

○ 非該当

●

あり

○

なし

4. 食についての関心を深めるための取り組み（食材の栽培や子どもの調理活動等）を行っている

○ 非該当

●

あり

○

なし

5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている

○ 非該当

評価項目6の講評

落ち着いて食事がとれるように、環境の整備や保育士の関り方を工夫をしている
 個々の食べ方に応じて席を決め、同じ場所で安心感を与えている。子どもの食への意欲を大事にし、食事が配膳されてから着席し、個々に「いただきます」をしている。0歳児はラックは使用せず、一人座りができるようになるまでは抱かれて、また座れるようになった乳児や幼児では椅子の高さに配慮し、足裏を床につけてしっかりと咀嚼できる正しい姿勢をとれるよう、個別に足の下に台を置く等の工夫をしている。楽しい雰囲気の中で食事ができるようにしており、苦手なものを無理に勧めず、子どもの気持ちに寄り添いながら食べる意欲を育てている。

アレルギー児の食事については、誤食のないよう細心の注意を払い提供している
 食物アレルギー等の個別対応が必要な場合は、「アレルギー疾患生活管理指導表」に基づき、マニュアルに則って除去食や代替食で対応している。前月に保護者と献立表及び成分表の項目を確認し、食材を特定している。アレルギー児の給食については、前日の全体ミーティングで内容を共有している。当日は個別トレーで用意し、提供直前に担任と調理員が原因食材の除去や代替を目視し、口頭確認を経てから配膳している。必要な手順や対応については、全職員が共通理解を持って取り組んでいる。

食に対する興味や関心を深める取り組みを積極的に行っている
 親子での会話が広がるように展示食の設置場所を工夫し、園だよりに栄養士の助言を掲載するなど、食を身近に感じる環境を整えている。栄養士が策定した食育計画に基づき、食材に触れる体験や調理工程の見学、おにぎり作り等の調理保育を通じて食への関心を深めている。季節ごとの野菜栽培では食材への興味を広げ、地域住民の協力による畑での芋掘りや、収穫物を用いた焼き芋会などの実体験を重視している。こうした多様な活動を通じ、感謝の心と食に対する豊かな意欲の育成に努めている。

7 評価項目7

子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評価

標準項目

●

あり

○

なし

1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している

○ 非該当

●

あり

○

なし

2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている

○ 非該当

●

あり

○

なし

3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み（乳幼児突然死症候群の予防を含む）を行っている

○ 非該当

評価項目7の講評

子どもが健康や安全に関心を持ち、自分自身の身を守るように働きかけている
 看護師は年間保健計画を策定し、年間を通じ季節に応じて定期的に保健指導を行っている。また担任は、日々の生活の中で習慣化されるよう、年齢や発達に配慮しながら声かけ等で促している。各検診前には子どもたちに目的等を伝え、子どもが自分のこととして健診を受けている姿がある。また、体の不調や困っていることを子どもが自分で言えるように伝え、体調に合わせて活動の配慮も行っている。日々の散歩では、保育者は交通ルールを守ることだけでなく、年齢に応じて子ども自らが安全を意識化できるような声かけに努めている。

専門機関等との連携のもと、適切な対応ができるように体制を整え備えている
 障害児指定園として、支援が必要な子どもの特性を深く理解し、共に育ち合う保育を日々実践している。医療的ケアが必要な子どもの受け入れに備え、ガイドラインに基づく実務研修を受講している。常に最新の知識を得て情報を更新し、職員間で共有する体制を整えている。また、毎月の身体測定や定期的な健康診断、歯科、眼科、耳鼻科の各健診を計画的に実施している。嘱託園医と健康に関する情報を密に共有しながら、専門的な知見を活かして、子ども一人ひとりの健康維持と健やかな成長を支えていくことに取り組んでいる。

保護者と連携して、子どもの健康維持に向けて取り組んでいる
 入園時には、健康状態の確認や与薬に関する規定に加え、睡眠時の安全管理として乳幼児突然死症候群（SIDS）対策を詳細に説明している。看護師が作成したパンフレットを配布し、仰向け寝の習慣化について家庭の理解と協力を求めている。入園後は、保健だよりを通じて時節に応じた健康情報を提供するほか、感染症発生時には速やかに状況を周知し、注意喚起と蔓延防止に注力している。子どもの健康を家庭と共に支えるため、専門的な保健情報の継続的な発信に努め、共通認識を持って健康維持に取り組んでいる。

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○ 非該当

評価項目8の講評

保護者の相談に丁寧に対応し、個々の事情に応じて必要な支援を行っている

入園時の面談で家庭状況を把握した後も、担任だけでなく園長や主査が朝夕の送迎時に積極的に関わり、保護者との密なコミュニケーションを継続している。対話や個人面談を通じて個々の事情を深く汲み取り、組織として必要な支援を検討する体制を整えている。園の基本ルールを遵守しつつ、子どもの状況に応じた登園時間の変更や、緊急時の土曜保育の受け入れなど、家庭の個別ニーズに対し柔軟に対応している。こうした寄り添った支援により、保護者の安心感と信頼関係の向上に努めている。

保護者同士の交流を深め、子どもの発達や育児等について共通認識を促進している

保護者会では、年間保育計画に基づいた発達の見通しや保育方針について説明している。画像や動画を活用して園生活を具体的に可視化し、保育の重点を伝えることで、保護者との共通認識の深化を図っている。懇談の時間には、保護者同士の交流に職員も積極的に加わり、育児の悩みを共有できる場を構築している。また、送迎時には事務所の扉を開放し、常に相談に応じる姿勢を明示している。園全体で心理的な安心感を提供し、保護者が抱える課題を早期にキャッチできる環境作りにも努めている。

子どもの成長・発達を伝え、保護者と共通認識を得られるようにしている

日常の挨拶や丁寧な対話を通じ、保護者との信頼関係の構築を基本としている。送迎時には具体的なエピソードを添えて日中の活動を伝え、園での様子を共有している。会話や連絡帳から把握した個別の課題に対しては、担任や園長が連携して面談等の場を設け、組織的に対応する体制を敷いている。保育参加や参観については、要望や園からの提案により随時実施している。特に行事への参加を通じ、子どもの成長を共に確認し合う機会を設けることで、家庭との緊密な協力関係を強化している。

9 評価項目9

地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○ 非該当

評価項目9の講評

地域全体のつながりを活かした活動により、子どもの経験の幅を広げている

保育実習生や中学生の体験学習等を受け入れている。来園者との交流を通して、子どもは人への関心や関わり方の幅を広げている。特に、中学生の職場体験では子どもが中学生に親しみを表し、「一緒に遊ぼう」と誘う姿がある。年長児には、自分の成長モデルとしての憧れを感じる機会でもある。地域への子育て支援事業の園庭開放やふれあい保育等で来園した子どもに、自分の玩具を貸す姿がある。園見学の地域親子の受け入れでは、乳児でも「こんにちは」と挨拶するなど、来園者を自然に受け入れる姿もある。こうした経験を通して社会性が育まれている。

地域との連携のもと、人との関わりを通して、刺激を受けている

中核園事業の一環として行う年長交流計画により、年長児は近隣の保育園と散歩先の公園で一緒に遊びを通じた交流を図っている。就学後における子ども同士の円滑な仲間作り意図している。また、地域ネットワークの近隣小学校からは、運動会や学芸会、音楽会への招待がある。小学校への訪問を楽しみにしているだけでなく、小学生の競技や演技、演奏の鑑賞を通じ、子どもたちに就学への期待を育む機会となっている。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	子どもが主体的に関わりながら自分のやりたいことが実現できるように支援している	
内容①	子どもが主体的に遊びを見つけ、創造的に遊び、集中できる環境づくりに取り組んでいる。子どもが興味・関心を示した事象や出来事を保育者がキャッチし、遊びが広がるような関わりを目指している。子ども同士で話したり、自分で考え、相手の思いを受け入れたりする経験や学びを大事にしている。職員は子どもの意見を聞き、子どもが安心して主体的に集団活動に関わり、友達と協力しながら夢中になって遊べる環境を整え、やり遂げる喜びを味わうことができるよう活動を援助している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル②	個々に求める役割と責任を明確にし職員が力を発揮できる組織運営に取り組んでいる	
内容②	職員一人ひとりの思いを聞いてチームとして支え合う関係性の構築や、互いを認め合えるような組織運営を追求している。職層に応じた責任と役割を明確にして全体に周知し、組織としての基盤を固めている。保育の場面では、積極的に研修に参加し、その内容を発表形式で会議の中で報告・共有して学んだことを業務のスキルアップや標準化に活かしている。より良い保育を共に考える組織づくりを志し、園全体で取り組みを継続している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル③	子どもが自信と自己肯定感の持てる保育を目指して職員が連携を図っている	
内容③	子どもの自信と自己肯定感を育む保育には、「ありのままを認める土台」と「できた！を積み重ねる経験」の2つが不可欠である。そしてこれらを実践していくためには、職員の連携が必要となる。そこで、日々の遊びや活動の中で見られる子どもの姿や表情を捉え、クラスの枠を超えてそれらを共有することができる職場風土を作り上げてきた。職員が全員で子どもの様子を見ていくことで、「できた」姿を受け止め、思いをのせた言葉をかけている。こうした積み重ねが、子どもの自信や自己肯定感につながっている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	より良い保育を行うために職種を超えて協力できる職場の気風がある
	内容	職員が互いに声をかけ合い、しっかり連携を取り、同じ方向を向いて協力できる体制がある。園の課題点に声をあげ、ミーティングで課題を投げかける等、一人ひとりの声が出しやすい職場環境がある。個々の気づきを見逃さず、すぐに意見や事案を報告して課題を解決している。園長、主査は職員の話をよく聴いてその思いを吸い上げている。決定までの話し合いに時間がかかる事例では、事前に各クラスで検討し意見をまとめ会議に臨む風土ができています。職員一人ひとりが相手の意見を否定せず肯定的に受け止め、協議を重ね共通認識を深めている。
2	タイトル	保護者との信頼関係を深め、子どもの成長を共有できるよう取り組んでいる
	内容	保護者が子どもの成長を知り、大きくなった姿に見通しを持ち、待ち遠しく楽しみに思いながら子育てができることも親支援のひとつと考えている。入園時や年度当初の保護者会で、園が大事にしている保育について丁寧に伝え、保護者の話を聴く機会をとらえ、子どもを中心に家庭と保育園が「共育で」に取り組んでいる。システム配信を活用して活動の様子を知らせたり、子どもの成長発達に関する情報を積極的に発信したり、園の保育の見える化により理解と共有を図っている。子どもが園生活を楽しむ姿を知ることによって保護者の安心と信頼につながっている。
3	タイトル	子どもの最善の利益を念頭に置き、園ができる支援について考え全職員で取り組んでいる
	内容	職員は日頃から保護者支援の意識を持ち、日々のコミュニケーションを大事にしている。「子どもの最善の利益」を念頭に置き、職員一人ひとりがより良い保育へ向け、職務に取り組んでいる。個々の子どもが持つそれぞれの思いをしっかりと受け止め、保護者の願いに気づき、寄り添う支援に力を尽くしている。日々の保育園での子どもの姿や思い、取り組みの様子についてできるだけ伝えるように努め、多様なニーズを持つ保護者が安心して子育てができるようにしている。保育園ができることを考え、共に育ち合うことを大切に園全体で保育を進めている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	日頃から保護者との信頼関係構築に努め子どもの育ちを共有し保育を伝えていく
	内容	日頃より保護者とのコミュニケーションに努め、送迎時の声かけや掲示、システム活用によるおたよりの発信等を通じて保育の共有を進めている。保護者の話から子育ての悩みや保護者自身のこと等、職員が傾聴し必要に応じて面談時間設け、丁寧な対応を心がけ支援につなげていく。子どもの健やかな成長を支え、保護者と共に育みながら子どもの姿を共有することができるよう、子どもが園生活から様々な学びを得ていることを積極的に示したり、遊びや活動のねらいをより明確に伝えたり、さらに保育への理解を図る発信に取り組むことを課題としている。
2	タイトル	子ども一人ひとりの保育のさらなる充実を図る体制構築に努める
	内容	日々の保育については、クラスの中で子どもの姿を共有し、保育の振り返りを行っている。このように、子ども一人ひとりの保育の充実を図る取り組みは日々積み重ねている。さらなる充実を図るために、子どもの発達や個性に合った保育の提供ができているか考える機会については、もっと増やしていく余地がある。また、クラスの枠を超えて考えることで、園全体での取り組みとなり様々な視点で検証が可能となる。この様に子ども一人ひとりの保育のさらなる充実を図る体制を構築することを課題としている。
3	タイトル	地域のニーズにもとづき、園としてできることを考え地域貢献に取り組む
	内容	中核園事業では近隣園との連携や交流について職員の意識は高く、ふれあい保育等、自園で行う地域親子への支援活動を積極的に進めている。小学校との交流や地域ネットワークへの参画も継続している。地域における保育の専門機関として、職員の専門性やこれまで培ってきた園の機能を活かした支援等、まだ工夫できる余地があると考えている。園ができる取り組みについて再考し、引き続き地域貢献を実践していくことを今後の課題としている。

7. 下井草保育園

下
井
草

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

2026 年 2 月 28 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 156-0043

所在地 東京都世田谷区松原3-38-16-107

評価機関名 株式会社にはほんの福祉ネット

認証評価機関番号 機構 06 — 168
電話番号 03- 6379- 5156
代表者氏名 永峯 治之

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名			担当分野	修了者番号
	①				経営 H1901102
	②				福祉 H2201084
	③				福祉、経営 H2301066
	④				
	⑤				
	⑥				
福祉サービス種別	認可保育所				
評価対象事業所名称	下井草保育園				
事業所連絡先	〒	167-0022			
	所在地	東京都杉並区下井草3丁目13番9号			
	TEL	03-3394-4323			
事業所代表者氏名	田村 順香				
契約日	2025 年 6 月 20 日				
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 8 月 1 日				
利用者調査結果報告日	2025 年 10 月 16 日				
自己評価の調査票配付日	2025 年 8 月 1 日				
自己評価結果報告日	2025 年 10 月 16 日				
訪問調査日	2025 年 10 月 21 日				
評価合議日	2025 年 10 月 21 日				
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	区担当者との打ち合わせにより全体の流れ、留意事項の確認を行った。その後、事業所にて事前説明を行い、オンライン形式での利用者調査や職員アンケートの実施方法について説明を行った。訪問調査前には当日の訪問者、タイムスケジュール、確認予定の書類について案内した。訪問調査では施設見学もあわせて行い、実態の把握に努めた。合議では、訪問者2名と他の1名、事務局により内容の精査・修正を行った。				

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、
● 機構が定める部分を公表することに同意します。
○ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
○ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2026 年 2 月 28 日

事業者代表者氏名 園長 田村 順香

印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 【保育理念】子どもも大人も笑顔あふれる保育園 【基本方針】・生活リズムを整え安定して過ごせるよう環境を整える ・一人ひとりを大切に子どもの気持ちに寄り添う ・子どもの話に耳を傾け子どもの気持ちを受け止める ・いろいろな経験ができるよう環境を整える
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） （1）職員に求めている人材像や役割 ・子どもに寄り添い、子どもの姿、声を聴き、保育に繋げていく、また、形づけていく。 ・園児、保護者、職員、地域住民等、それぞれの立場にたってコミュニケーションを取り、信頼関係を築くことができる。 ・職員間のチームワークを深め、連携して仕事を進める。 （2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ・子どもの気持ちに寄り添いながら、保護者とともに子どもの姿、成長を喜び、感じ合い、慣れ、思い込みを持つことなく、自身の保育や業務等を振り返り、保育や業務等の専門性の向上に努める。 チームの一員であることを意識し、他職員の意見も聞き調整しながら、園にとっての最善の利益を考えながら 責任を持って業務にあたる。

調査対象

複数児利用世帯は最低年齢児1人を対象として実施世帯数を絞り、調査対象者に対し実施。

調査方法

WEB回答システムを活用。機関が作成した二次元コード記載の案内を事業所を通して各家庭に配布。各家庭においてそれを読み込んだ上で、個別に匿名で回答。

利用者総数

106

利用者家族総数(世帯)

106

共通評価項目による調査対象者数

106

共通評価項目による調査の有効回答者数

55

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

51.9

利用者調査全体のコメント

＜総合的な満足度＞

「満足」60%、「まあまあ満足」27%、計87%という満足度が示された。

＜調査結果の講評について＞

・肯定的な評価(「はい」との回答)が全体に占める割合についてのみ、記述した。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	53	1	1	0
回答者の96%「はい」と回答した。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	50	4	0	1
回答者の91%「はい」と回答した。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	49	4	1	1
回答者の89%「はい」と回答した。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	45	7	1	2
回答者の82%「はい」と回答した。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	42	7	0	6
回答者の76%「はい」と回答した。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	44	7	2	2
回答者の80%「はい」と回答した。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	36	12	4	3
回答者の65%「はい」と回答した。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	45	6	2	2
回答者の82%「はい」と回答した。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	44	8	1	2
回答者の80%「はい」と回答した。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	44	9	0	2
回答者の80%「はい」と回答した。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	47	5	0	3
回答者の85%「はい」と回答した。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	35	12	0	8
回答者の64%「はい」と回答した。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	50	3	0	2
回答者の91%「はい」と回答した。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	38	8	1	8
回答者の69%「はい」と回答した。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	41	11	1	2
回答者の75%「はい」と回答した。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	38	8	2	7
回答者の69%「はい」と回答した。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	30	16	5	4
回答者の55%「はい」と回答した。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリー1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリー1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○ 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○ 非該当
	● あり ○ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○ 非該当
	カテゴリー1の講評		
	園が目指していることを明示し、保護者や職員への理解を深めている 区立の保育施設として、児童福祉法や関連法令の根拠の下、区の基本理念やビジョンなどを運営や保育の基礎としている。年度当初には保育目標を達成する大枠となる全体的な計画を通して児童憲章、園の保育理念・保育方針・保育目標を確認している。これらを事務所に掲示することで職員の意識を高めると共に、保護者への周知を図り、基本に立ち返る働きかけを行っている。また、係の目標申告を作成して職員に周知し、一年間の目標を明示している。保護者に対しては、新入園児説明会、年度当初の保護者会や園だより、園のしおり等でも説明している。		
	園運営の方向性を提示し、自らの役割と責任を果たしている 年度当初の職員会議で、経営層の年間目標を職員に伝えている。組織目標から係の目標シートを作成し、これに基づき園長自身も具体的な年間計画を作成し、自らの役割と責任を職員に伝えるなど、組織の方向性や経営層の役割を明示することで、園運営をリードしている。園長・主査・向上リーダーが、保育の質の向上を図る中心となり、大切にしたい保育の実現のために方向性の共有を図っている。運営に関わる変更や改善事項などが生じた際は、園だよりや保護者会などで園長より速やかに保護者に説明している。		
	園で定めた手順に沿って、検討・決定・周知・実行を着実にやっている 職員会議や毎日のミーティングでは誰もが意見を出しやすい雰囲気づくりを心がけ、話しやすい場を整えている。職員の意見をできるだけ吸い上げ、職員の主体性を尊重した運営を心がけている。重要な案件についてはその経緯を説明・周知している。連絡・確認事項は、ミーティングなどにより迅速に伝え、共有を図っている。会計年度任用職員に対しては、資料の回覧や個別に声をかけるなど、必要な情報を共有している。保護者には、園での決定事項やその経緯、内容などの情報を園だよりや掲示などで伝えている。		

2			事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		カテゴリー2
サブカテゴリー1(2-1)					
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況		6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			評点(○○○○○○)		
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している				○ 非該当
● あり ○ なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している				○ 非該当
● あり ○ なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している				○ 非該当
● あり ○ なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している				○ 非該当
● あり ○ なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している				○ 非該当
サブカテゴリー2(2-2)					
実践的な計画策定に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況		5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している			評点(○○○)		
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している				○ 非該当
● あり ○ なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている				○ 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる			評点(○○)		
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる				○ 非該当

カテゴリー2の講評

様々な方法で収集した情報を検討・活用して園運営に活かしている

保護者については、行事や保護者会前後のアンケート、個人面談などにより、園への要望などを把握している。日々の登降園時のやり取りや連絡帳等からも、保護者の思いをつかみ、対応の見直しなどに役立てている。職員は、個人の目標申告シートなどをもとに園長とのヒアリングを行っている。個別に話を傾聴し、意向を把握している。会議等の打ち合わせでは、活発な意見交換により、園運営の課題解決につなげている。改善点については、係の目標シートや個人の目標申告シートに反映させている。

地域の福祉の現状について情報収集やニーズを把握し関係各所との関係を深めている

区や課の方針を受け、様々な事業を展開している。福祉事業や区の施策などの現状や動向については、区立園長会、庁内メール、区内広報などで随時確認している。近隣園との中核園事業に参画して、合同研修、園庭で交流などに取り組んでいる。近隣施設との交流も積極的に実施し、地域のニーズを把握している。収集した情報は、回覧やミーティングなどにより、できるだけ速やかに職員に周知している。近隣の関係機関との地域ネットワーク会議や連絡会に参画して情報交換を行い、顔の見える関係を構築している。

目標の達成に向けた意見交換を行い計画の実行に取り組んでいる

区の中長期計画、課の組織目標を受け、係の目標申告を作成している。杉並区保育実践方針等をもとに全体的な計画を作成し、年度末反省をもとに職員と共に係の目標シートを作成して園内の取り組みを明確にしている。目標シートの各項目に取り組み内容を記載し、達成度合いを図る目安としている。園運営については、各プロジェクトを中心にして計画内容のさらなる充実を図っている。議題を事前に決定・通知し、意見を集約し検討して会議に臨むなど、限られた時間を効果的に活用し、目標達成に向けて着実に取り組んでいる。

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○ 非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○ 非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○ 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリー3の講評

社会人として適切な行動ができるよう取り組み、組織としての責務を果たしている

社会人として、また福祉サービスに従事する者として、守るべき事項を全体に周知するため、保育課からの資料を活用して学ぶ機会を設けている。園長会で得た情報のほか、公務員倫理や規範についても繰り返し伝え、意識の向上を図っている。年度当初には、会計年度任用職員も含めて資料を提供し、随時助言や指導を行い、子どもに対する行動や言葉の選択など、適切な保育や守秘義務について確認し共有している。虐待が疑われるような情報をつかんだ際は、速やかに園長に報告し、必要に応じて関係機関と連携を取り、迅速に対応する体制を整えている。

地域へ園の取り組みを開示し様々な意向を把握して対応できる体制を備えている

苦情・要望などの相談窓口について、入園説明会で園の概要と共に保護者に説明し、相談の仕組みについて案内している。園長を苦情受付・解決責任者として位置づけ、いつでも相談に対応できる体制を備えている。担任・主査・栄養士・看護師など、相談を受けた職員は必ず園長に報告し、会議などで情報を共有している。また、実習生や体験学習の受け入れなど、次世代の人材の育成にもつながる取り組みも積極的に行っている。園庭開放を含む子育て支援事業の取り組みや日々の活動の様子なども開示し、透明性の確保を図っている。

様々なネットワークに参画し、地域の一員として園の役割を果たしている

園庭開放やふれあい保育、緊急一時保育など、地域の子育て世帯のニーズに応える事業を行っている。また、中核園事業では、担当年齢別の担任や看護師や栄養士などが交流や研修を行い、園の持つ専門分野の知識を地域に還元できるよう努め、園児同士の交流にも取り組んでいる。そのほか、近隣小学校との連携による行事や地域ネットワーク会議などにも参加している。こうした取り組みの積み重ねを通して、地域連携に対する職員の意識も高まっている。

4			リスクマネジメント		5/5
サブカテゴリ1(4-1)					
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる					
評点(00000)					
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている				○ 非該当
● あり ○ なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している				○ 非該当
● あり ○ なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる				○ 非該当
● あり ○ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる				○ 非該当
サブカテゴリ2(4-2)					
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている					
評点(0000)					
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している				○ 非該当
● あり ○ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている				○ 非該当
● あり ○ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している				○ 非該当
カテゴリ4の講評					
想定される様々なリスクについて、マニュアルを定め訓練を実施している 区として業務継続計画を策定し、職員にも周知している。リスクへの対策を常に話し合い、具体的な行動について職員間で共有し判断している。危機管理マニュアルや園マニュアルをもとに、事故、感染症、災害、情報セキュリティ、防犯対策などの対応を確認し、役割分担を行い、各種事態に備えている。年間避難訓練計画を定め、地震や火災、それらの際の併設施設との協力など、非常時に備えた訓練を実施している。訓練後は課題の抽出を行い、状況に応じて臨機応変に対応できるようにしている。 リスクに対して危機意識を持ち必要な対策をとり、危険回避と再発防止に努めている 保護者には、リスクへの対策について新入園児説明会や保護者会、園だよりなどで伝えている。園のしおりには、安全・防犯の対策、災害時の対応などを記載し、緊急時の園の対応を案内している。年度当初の保護者会でも、緊急時安全メールについての確認などを含め、災害時の対応について改めて説明している。感染症の罹患については速やかに園全体へ周知している。ヒヤリハットを含めたけがなどについては、原因の分析、振り返り、対応策の検討など、職員全体で情報を共有し、再発防止や深刻な事故の防止に取り組んでいる。 情報管理を適切に行い必要な情報を活用できるようにしている 区の情報セキュリティ基本方針や情報セキュリティ対策基準に基づき、保育課内および園内において、適切な情報セキュリティマネジメントを行っている。園では、個人情報を含む書類は施錠管理し、持ち出しと返却時には持ち出し管理簿に毎回記入している。画像保存機器類の持ち出しと返却についても、管理簿を活用してチェックを徹底している。個人情報の紛失や漏洩が発生しないようにダブルチェックを行うなど、慎重かつ厳格な管理を行っている。					

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○ 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○ 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○ 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○ 非該当

サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	☐ 非該当
カテゴリー5の講評 目指す職員像の実現のため、長期的な展望で人材の確保や育成に取り組んでいる 区の人事課や保育課と園との間で連携を取り、人材確保を行っている。採用後には、配置園においてOJTを含む計画的な指導を行っている。そして、専門性を身につけ、個々の能力を活かせるように、区の人材育成方針や職員人材育成事業実施計画に基づいた研修を実施し、育成に努めている。職員一人ひとりの適性を把握しながら育成を図り、専門的な知識を高めながらキャリアアップを支援している。職員自身が具体的に自分の職責や果たすべき役割への筋道を見据え、個人と組織の目標達成に向けて意識して取り組んでいけるようにしている。 中長期的な見通しを立てた計画により職員の意欲向上を支援した育成に取り組んでいる 人事課が企画する職層研修によりライフプランや業務改善計画の立案を行い、中長期を見据えた人材育成計画を策定している。区の目標申告シートを活用して職員の状況を把握し、計画的な育成を行っている。職層研修、会計年度任用職員研修、実務研修など、勤務形態を問わずキャリアに合わせた研修を実施している。新任職員には、長期的人材育成計画に基づく育成を行っている。育成担当者が適切な指導を行うことができるよう、担当者研修や会議など、支援する仕組みを確立している。園全体で職員を支援・育成していく方針・姿勢を実践している。 良好な人間関係と安心して働き続けられる職場環境づくりに取り組んでいる 職員間の良好な関係を構築するため、職員に偏りなく公平な対応を心掛け、職員の声には丁寧に対応している。職員一人ひとりが同じ立場で同じ情報を持てるような職場づくりに努めている。職員会議ではグループ討議を意識して行っている。活発な意見交換を行うことができるように配慮した人数構成で、互いの意見を理解したうえで話し合えるように進めている。また、個人の目標申告シートに基づき職員とのヒアリングを行い、意向などを聞き、課題があれば一緒に考え、前向きに仕事に取り組むことができるように努めている。		

7		事業所の重要課題に対する組織的な活動	7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
				サブカテゴリ1(7-1)
				事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている
				評価項目1
				事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)
				前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)
				子ども主体の保育を実践するために、これまで以上に意識を高めて日々の振り返りを行い、職員間で共通認識を持って保育を展開するとともに、その取り組みを保護者へ発信していくことを目標として掲げた。その実現のために、まず毎月の指導計画検討時に、保育実践方針などの資料を用いて自らの保育を振り返る機会を設けた。あわせて、保育向上リーダーを中心に「不適切保育」に関するアンケートを実施し、一人ひとりが振り返る時間を確保した。また、保護者との信頼関係構築を目指した園内研修を行い、家庭に寄り添う支援のあり方について専門的に学ぶ機会を整えた。これらの取り組みの結果、職員が「子どもの声を聞く保育」を日常的に意識するようになり、主体性を尊重する姿勢が定着した。さらに、各家庭の状況に合わせた支援を職員自らが主体的に考えるようになり、子どもと保護者が安心して通園できる、よりきめ細かな対応が実現した。今後も、日々の振り返りを継続し、子どもの人権を最優先に考えた質の高い保育を深め、また、子育てを推進していく方針である。
	目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった		
	取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
	検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
				評価項目1で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評
				保育の質を個人の資質に委ねるのではなく、組織的な省察の仕組みとして確立しようとする姿勢に、確かな専門性がうかがえる。自らの関わりを客観的に見つめ直す場を構造化することで、一人ひとりの内面にある倫理観や子どもへの眼差しが、園全体で共有される確固たる指針へと昇華されている。特に、保育の本質を問い直すプロセスにおいて、根源的な人権の視点を中心に据えている点が意義深い。こうした真摯な内省の積み重ねは、職員の意識を「子どもの存在そのもの」という点へと立ち返らせ、主体性を尊重する文化を園の土壌として定着させている。また、家庭との関わりにおいても、画一的な対応を排し、それぞれの背景に深く寄り添おうとする柔軟な支援の形が模索されている。職員自らが各家庭の文脈を汲み取り、対話を深めようとする姿勢は、園と保護者の間に強固な安心感と信頼の絆を育んでいる。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

地域の公立保育園としての役割を再認識し、他園との交流や学び合いを深めるとともに、地域の子育て支援をさらに充実させることを目標として掲げた。その実現のために、まず中核園事業へ積極的に参加し、他園の職員と自らの保育について語り合い、学び合う機会を設けた。また、自園で開催する園内研修に近隣園の職員を招待し、共に専門性を高める取り組みを行った。さらに、地域支援として園庭開放や身体測定、子育て相談のほか、併設施設での保育講座を実施するなど、多角的な活動を展開した。これらの取り組みの結果、職員交流を通じて得た知見を日々の保育に反映させ、振り返りを行いながらその効果を検証することができた。あわせて、地域の子育て家庭に対して専門的な支援を直接届けられることができ、公立園としての信頼を高める一助となった。そのプロセスを通じて、職員一人ひとりが地域社会の一員として、保育の質の向上に寄与する意識を持つことができた。今後は、これらのネットワークをさらに強固なものとし、地域全体で子どもを育む環境づくりを推進していく方針である。その上で、多様化するニーズに応える子育て支援のメニューを検討し、より開かれた保育園を目指すことを目標に据えている。

目標の設定と取り組み

- ☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- ☐ 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- ☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- ☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

地域の公立保育園としての役割を再定義し、園内の実践を地域社会や近隣園へと開いていく姿勢に、専門性の社会的な還元を目指す意志がうかがえる。他園との対話や学びの場の共有を構造化することで、自園の保育を客観的に捉え直す視点が養われており、それが日常の実践を検証する組織的な力となっている。また、専門的な知見を園内のみに留めず、多様な形態で地域の子育て家庭へ直接届ける試みは、家庭の孤立を防ぐセーフティネットとしての機能を果たしている。こうした多角的な外部との接点は、職員一人ひとりに専門職としての社会的責任を再認識させ、保育の質を地域全体の文脈で捉える広い視野をもたらしている。外部とのネットワーク構築と、地域ニーズに応える柔軟な支援体制の模索は、園をより開かれた公共の場へと進化させ、地域全体で育ちを支える基盤を強固なものにしている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目										
	サブカテゴリー1										
1	サービス情報の提供 サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4 評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している 評点(〇〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th><th>標準項目</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>● あり ○ なし</td><td>1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している</td></tr> <tr> <td>● あり ○ なし</td><td>2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている</td></tr> <tr> <td>● あり ○ なし</td><td>3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している</td></tr> <tr> <td>● あり ○ なし</td><td>4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している</td></tr> </tbody> </table>	評価	標準項目	● あり ○ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	● あり ○ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	● あり ○ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	● あり ○ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
評価	標準項目										
● あり ○ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している										
● あり ○ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている										
● あり ○ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している										
● あり ○ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している										
	サブカテゴリー1の講評										
	区のホームページや冊子などで園の情報をわかりやすく提供している 区のホームページや区の公式アプリケーション「すぎぼよ」、杉並区の保育施設ガイドブック、園のしおりなどにより、園の情報を発信している。ホームページでは園の住所や電話番号、対象年齢、定員、保育時間、保育目標などの概要を伝えている。保育施設ガイドでは、遊具の種類、主な散歩コースや園独自の活動など、園の特徴がよりわかる情報を紹介している。外国籍の方などを想定し、ふりがなやカタカナ表記などを施した情報媒体を用意して選択できるようにするなど、それぞれの方にとっての「わかりやすさ」に配慮している。 行政や関係機関と連携を取りながら情報の提供と共有を図っている 区の主管課には、中核園事業、子育て支援事業の取り組みや感染症の状況、近隣の関係機関との交流実施などについて報告や必要なやり取りを常に行い、園の現況について共有に努めている。中核園事業の一環で開催される地域懇談会に参加して情報交換すると共に、研修など取り組みへの参加を通じ、地域の関連機関と連携を図っている。併設の高齢者活動施設(ゆうゆう館)や地域子育て支援拠点(子ども・子育てプラザ)などとも、連携を通じて、園の情報を提供している。 問い合わせや見学の要望には、個別の状況に応じ園としてできる限り対応している 見学希望の受付について、区として都の施策(保活ワンストップサービス)を導入し、園では活用を始めた。事前に寄せられた質問を踏まえた上で、毎月4回程度日程を設定し、見学を受け入れている。電話などによる受付も継続している。受け入れの際は、質問に応えつつ、「日常生活・活動や遊びを通じた学びや心身機能の発達」という、保育園での経験を通して子どもがどのように成長していくかを説明している。また、寄せられた質問を踏まえて見学者案内のしおりを随時見直し、対応の向上を図っている。										

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)			
評価		標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		☐ 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)			
評価		標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		☐ 非該当
サブカテゴリー2の講評			
個別面接と説明会を行い、安心して入園できるようにしている 身体測定や園医による健康診断を行うほか、入園までの生活状況や健康状態、食事の状態など、保育に必要な子どもに関する情報を収集している。また、保護者の就労状況や子育ての意向なども確認している。乳児や食物アレルギー、健康上の問題など対応が必要な場合は、栄養士や看護師も面談に加わっている。説明会では、入園までに準備するものや個人情報に関する事項、入園後のルール、緊急時の取り決めなどを丁寧に伝えている。約束事を中心として周知すべきことが多いため、疑問や確認したいことがあればいつでも応える旨、伝えている。 子どもの様子を見ながら、無理なく新しい環境へ適応できるように支援している 入園当初は保護者と相談して、短時間の保育から始める慣れ保育を行っている。慣れ保育はおおむね一週間をめどに子どもの状況や保護者の事情を考慮し、子どもの様子を見ながら無理なく予定の保育時間まで延ばしている。入園時に提出された家庭連絡票や入園までの生活状況、健康調査票、食事調査などの書類は、支援に役立てる基礎資料としている。保護者からは家庭での保育の状況や、子どもが落ち着く対応・好きな遊びなどを職員に伝えてもらっている。保護者の不安を軽減し子どもが園の人的、物的環境に慣れて過ごせるよう配慮している。 支援の継続性に配慮した支援や関わりを大切にしている 転園や退園する際には、子どもの作品をまとめて渡し、保護者や子どもの不安を軽減できるように次の生活へ向け声をかけ、いつでも相談できることを伝えている。必要に応じて保護者の承諾の上、スムーズな移行を支援するため、移行先に子どもの情報を提供できる体制を備えている。卒園時には保育所児童保育要録を作成し、就学先の小学校へ提出し、育ちの連続性を保障している。			

サブカテゴリ3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○ 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている	○ 非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○ 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○ 非該当

サブカテゴリー3の講評

保育に必要な情報を適切に収集・記録し、全体で共有している

入園時には健康診断を実施して健康状態を把握し、個別面接時に入園までの生活状況や家族構成、出生・成育歴、予防接種歴、発育状況、食事、排泄、睡眠、好きな遊び等、保育に必要な子どもの心身や生活の状況を把握し記録している。収集した個人情報、取り扱いに十分注意しながら全体で共有している。連絡帳や登降園時に聞き取った日々の体調や連絡事項についても、必要に応じてミーティング等で伝達し、園日誌に記載して園長や担任間で共有している。

子どもの個別の発達や状況を踏まえた計画を作成し、共通理解に努め、取り組んでいる

「杉並区立保育園保育実践方針」を踏まえて策定された「全体的な計画」に基づき、年齢毎の発達を考慮して、年、月、週の各期間における指導計画を作成している。保護者には年度当初の保護者会で年間指導計画を示し、各年齢の発達や保育についてわかりやすく説明している。乳児クラスおよび特別な配慮を必要とする子どもについては、個別に指導計画を作成している。全職員が子どもの育ちを理解し、日頃から必要な情報の共有に努めている。医師や臨床心理士などの専門家とも連携し、子どもの特性に合わせた保育を計画し実践している。

職員間で子どもの状況の共有に努め、保護者にもわかりやすく伝えている

年度当初の保護者会では、全体的な計画や発達に合わせた年間指導計画を丁寧に説明し、理解を得ている。日々の子どもの様子や成長に過程は、掲示物を含む様々な工夫により発信し、計画に基づく保育の経過を保護者と共有している。職員間では、指導計画の作成や計画に基づく保育の振り返りなどを通して、現在の子どもの姿を共有している。乳児や特に配慮していく必要のある子どもについては、成長・発達の様子を細かくとらえ、個別に記録し、保育に活かしている。

サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○ 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○ 非該当	
● あり ○ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○ 非該当	
サブカテゴリー5の講評			
個人情報の取り扱いについて保護者に説明して同意を得ている 個人情報の取り扱いについては、基本的なルールを入園時に保護者に伝え、情報提供の範囲や目的などについて同意を得ている。外部機関から情報提供の依頼があった際には、改めて保護者の意思を確認して対応している。園のしおりの中でも個人情報の取り扱いの徹底についても触れ、ビデオ撮影等及び画像データ提供について明記している。SNS(ソーシャルネットワークサービス)への投稿やビデオ・写真の撮影の取り扱い、配慮事項等についても、保護者に注意を促している。 子どものプライバシーを保護し、羞恥心に配慮した保育を行っている 子どものプライバシーを尊重し、羞恥心に配慮した保育を職員間で共有して実践している。着替えやシャワー、排泄、身体測定などの各場面では、他者の視線を遮り、あるいは露出を抑えるなど、環境面でも工夫している。また、他人に見せたり触らせたりしてはいけない、自分だけの大切な身体場所についても、子どもに知らせている。自分の身体を守り、他人の身体も尊重する大切さを学べるように支援している。さらに、「不適切保育」「子どもの人権」について職員が学び合い、日々の実践に活かしている。 子どもの権利を守り、一人ひとりの気持ちを大切に保育を追求している 「杉並区立保育園保育実践方針」に基づく実践と不可分の取り組みとして位置付けられた「すぎなみ対話保育カリキュラム」の考えを、保育の柱としている。「対話的な保育」の具体的な実践として、計画の立案、保育の振り返り、日々の活動などにおいて、「子どもの声を聴くこと」「日々の活動を子ども思いや願いに根拠づけること」を追求している。こうした実践の積み重ねは、一人ひとりを尊重すること、権利や利益の擁護・追求にもつながる。			

サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	☐ 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	☐ 非該当
サブカテゴリー6の講評		
各種マニュアルを整備し、確認と実践により、組織として対応の統一化を図っている 手引き書として区立保育園全園共通のマニュアルのほか、危機管理マニュアル、杉並区立保育園保育実践方針、保育実践の手引き等を備えている。また、保育理念・目標、保育方針、役割分担表などの事項をまとめた園マニュアルのファイルを、事務所と各クラスに備えている。杉並区立保育園保育実践方針、保育実践の手引きについては、職員一人ひとりに配布している。確認や実践を通してこれらを活用していくことで、職員一人ひとりが組織としての共通事項を踏まえて、統一的な対応をとることができるようにしている。 定められた手順や留意事項を共有し、日々の実践に活かしている 園マニュアルのファイルは、一年を通して必要となる事項から構成されているため、日常的な活用を前提とするものである。それゆえ、疑問があった場合の確認や判断に迷った時に立ち返るものとして、活かしている。また、杉並区立保育園保育実践方針も、区の保育を進めていくうえでのガイドラインとして、全体的な計画や各期間の指導計画の作成、それらに基づく保育実践を通して、日常的に活用している。危機管理や衛生管理などの分野におけるマニュアルも、子どもの安全・安心に関わるため、内容の確認や訓練などを通して活用している。 業務手順に対する定期・随時の見直しにより、業務の安定的な遂行を確保している 杉並区保育実践方針は、社会状況の変化など必要に応じて内容を変更・改訂する仕組みを備えている。区立園共通のマニュアルは、各検討会などで検討して内容を見直している。園マニュアルは、年度末に反省を行い、項目ごとに確認して見直しを行い、毎年内容をブラッシュアップしている。保護者や職員からの意見や要望、仕事の手順の変更等、見直しが必要な場合は、時期を待たずに都度打ち合わせを行い改定している。こうした定期・随時の見直しにより、職員間での認識や対応の共通化・統一化を図り、業務の安定的な遂行を確保している。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4	
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している ☐ 非該当
評価項目1の講評	
子どもが主体的に関わり遊び、継続して楽しめるような環境づくりに配慮している 子どもの手に届く高さに発達に合った様々な玩具を設定して自分で選び取ることができるようにする、棚やアコーディオンカーテンを活用して落ち着ける空間を確保する、積み木やままごとなどの各遊びに集中できる場所を保障するなど、各保育室ではそれぞれの月齢や年齢に応じて自主的に遊びこむ、遊びを発展させられる環境を整えている。ホールでは、リズム遊びや巧技台を使った運動などを行える器具類を必要に応じて設定し、園庭では子どもの運動発達を視野に置きながら固定遊具や可動遊具を活用して体を動かして遊べる環境を整えている。 異年齢交流や個別配慮により、内面を含む個々の育ちを支援している 主に幼児クラスを中心に異年齢同士の交流を行っている。前日の夕方に5歳児が取り組んだ積み木を、翌日には3、4歳児が興味深く眺めて刺激を受けたり、巧技台の組み方を工夫してサーキットを作り、3、4、5歳児でともに楽しんだりしている。遊びを通して学び合う姿がある。また、心理などの専門家による巡回相談や訪問支援を活用して、個々に応じたアプローチを追求している。子どもの個性や主体性を尊重しながら、人格の基盤や生きる力を大切に育んでいる。 子どもの気持ちを尊重した対応を行い、より良い援助ができるようにしている 子ども同士のトラブルへの対応では、行動という外面にとらわれず、その子の背景に注目している。特定の行動の理由や原因を探り、別の行動のあり方につながるような内面(心)の動きにアプローチしている。そして、「どうしたらよかったかな」と子どもとともに考えている。こうした実践の積み重ねが、「自分の気持ちを聞いてもらえる」という安心感につながり、子ども自身の思いの伝え方にも変化が見られている。職員間の連携や保護者の理解などのもとで、子どもが葛藤を通じて育つ機会を大切にしている。	

2 評価項目2		
子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	☐ 非該当
評価項目2の講評		
子どもの生活が安定するよう保護者や職員間での情報共有を図っている 前日の様子、顔色や体の状態を観察し、体調や怪我について登園時に保護者に確認して受け入れを行っている。こうした確認事項を各クラスや全体で共有し、それらを踏まえた対応につなげている。降園時には、日中のエピソードを交えて、ひと言でも言葉をかけ、保護者に伝えるようにしている。また、けがによる通院や日中の様子等、直接話す必要がある場合は、担任や園長が対応している。保護者への伝達事項は必ず職員間で共有し、漏れののないよう注意を払い対応している。 基本的な生活習慣が身につくよう、子どもの成長に合わせて援助している 年間指導計画や月・週単位の計画に生活習慣の自立に必要な経験を盛り込み、個々の発達に応じて着実に力を伸ばせるよう援助している。着脱や衣服の整理、食具の扱い、衛生管理、排泄、挨拶など、子ども自身が意識できるよう、保護者とも連携しながら適切に声をかけている。そして、子どもが「自分でできた」という達成感を持てるよう、温かく見守りながら、日常の積み重ねを通して、基本的な生活習慣が身につくよう支援している。 子どもの年齢や状況に合わせて、必要な休息を取れるようにしている 年齢や発達に応じた基本的な生活習慣の目安を保護者へ伝え、休息の必要性について家庭と園で共通認識を持てるように努めている。日々の活動に加え、家庭での様子を個別に聞き取り、一人ひとりの状況に応じた配慮を徹底している。寝付けない子には、横になる、静かに過ごすことで休息を図り、場合によっては空いている部屋を活用して遊ぶなどの対応もしている。年長児については、クラスや個々の様子を見極めつつ、就学に向けて段階的に午睡時間を短縮している。個々の体調などを踏まえ、一人ひとりに最適な生活リズムの構築を支援している。		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している 評点(〇〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○ 非該当
● あり ○ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○ 非該当
評価項目3の講評		
子どもが主体的に遊び込める時間と空間の保障に取り組んでいる 遊びをテーマにしたプロジェクトを編成し、環境整備を含めて遊びの充実に取り組んでいる。マルチパーツや玩具の現状を点検し、遊びのルールなども改めて確認した。数々の遊具に応じた園庭の使い方などを理解したうえで、子どもの成長・発達やその時々の子どもの興味や関心を踏まえ、適切な遊びの環境を設定している。室内のみならず、戸外での遊びの充実を図り、遊びを通して子どもが学びや気づきを得られる体験を保障している。 言葉と好奇心とのつながりを踏まえ、応答的な関わりを積み重ねている 言葉に対する感覚を養う点では、心地よい声のトーンや大きさに配慮して乳児の頃から話しかけている。そして、「ふわふわ」「べたべた」といった感触、驚きや嬉しさなどの感情など、子どもが感じたことを確認して応答的に関わることで、言葉と感覚が結びつく経験を保障している。言葉の獲得が表現や探求心の広がりにつながることを踏まえ、子どもが未知のものに興味を持ち、名前を知りたがる様子に、大人が言葉を添えることで、豊かな語彙の世界に案内している。 子どもが様々な経験を通じて、自分の気持ちを調整する力を育めるようにしている みんなが心地よく過ごせるように、日々の生活を通じて決まりの大切さを伝えている。4、5歳クラスになると、子ども同士で話し合って物事を決める機会を設けている。思いを表現して人に伝える、他者の思いを聞くなどの経験を通して、相手のことを考えたり、自分の思いに気づいたり、自分の気持ちを整えたりする力を育んでいる。子どもが安心して過ごせるように職員が温かく見守り、一人ひとりの思いに応える援助を積み重ねている。自分らしく自立していく歩みを、職員全体で支えている。		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		○ 非該当
評価項目4の講評			
行事は子どものアイデアを取り入れ、楽しく取り組める内容となるよう工夫している 年間計画を基本として様々な行事を実施している。日々の子どもの姿から行事内容を検討して計画に反映している。夏まつりごっこでは、子どもの目線で、子どもが主体となって、出し物を行い、意欲的に取り組むことができている。年間行事予定を踏まえつつ、内容については各クラスのやりたいことをとらえて組み立てている。「計画ありき」ではなく、その時々の子どもの興味や関心、アイディアなどをもとに行事に発展させ、形にしていってプロセスを大切にしている。 みんなでやり遂げる楽しさや喜びを味わえるように取り組んでいる 夏まつりごっこでは、おばけやしき、宝さがし、レストラン、お面やさんなどを実施した。おばけやしきでは、手形によるスタンプ、デカルコマニー(絵画技法のひとつ)によるお化けづくり、レストランでは本物そっくりなメニューの制作、お面やさんではイラストなど、幼児を中心に様々な形で制作に参加した。作り上げる過程での創意工夫や互いに刺激し合うことでの意欲の向上など、楽しむことができた。また、行事当日は、乳児を含めて楽しむ姿や驚く様子に、達成感や充実感を得ることができた。 様々な工夫により行事における子どもの様子を伝え、保護者と共有している 園だよりやクラスだより、連絡帳を通じて日々の活動を保護者に伝えている。日誌を掲示して、活動のプロセスや期待感に満ちた子どもの姿を具体的に可視化している。送迎時の対話では、活動の意図や子どもにとっての意義を伝えている。こうした発信を通じて、園の保育への理解を深め、子育ての見通しや成長の喜びを共有していくことができるように取り組んでいる。今後も、子ども一人ひとりがそれぞれに頑張る姿を丁寧に伝えていくことで、保護者とともに子どもの成長を認め合う機会を充実させていく方針である。			
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		○ 非該当
評価項目5の講評			
保育時間の長い子どもが、落ち着いて好きな遊びを楽しめるように配慮している 日中は室内や戸外で体を動かし、またメリハリを意識することで、落ち着いて過ごせるようにしている。そのうえで、小さなスペースの活用や水槽でのメダカの飼育、観葉植物の設置など、ホッとできる空間、ゆっくりとくつろぐことができる場所を確保している。延長保育の時間帯では、専用の遊具も準備している。会計年度任用職員は同じ人が関わることで、子どもの安心につなげている。こうした配慮により、一日の生活リズムの安定と遊びの充実を図っている。 子どもが安心して過ごせるよう、保育体制や環境を工夫している 子どもの身体的・心理的負担の軽減を図るべく、保育室は一人ひとりが落ち着いて過ごせるように配慮・工夫している。合流の時間は子どもの年齢、人数や状況に合わせ年度ごとに確認し、保育体制を決めている。年度の途中であっても状況の変化に合わせ随時確認・検討している。「遊びたい」という意欲に応えられる環境を準備しつつ、疲れた時には安心して体を休められるよう工夫している。どの子どもにとっても負担が少なくゆったり過ごせるように職員が連携し、遊びの設定や遊具の用意などを行っている。 保育形態の変化がある中でも、落ち着いて過ごせるようにしている 子どもの様子を把握するため健康観察を行い、様子に合わせた保育を行っている。保護者や担任からの連絡事項の引継ぎは、朝は視診表を使用し、夕方は当番の職員に担任から日中の様子を引継ぎ、必ず確認して漏れのないように注意して対応している。。毎年、長時間保育に入る子どもの構成が変わるため、その集団に合わせた人員配置や環境設定を追求している。けがやトラブルなくお迎えまで過ごせるよう配慮し、安心につなげている。			

6 評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	☐ 非該当

評価項目6の講評

落ち着いて食事がとれるように、環境の整備や保育士の関り方を工夫をしている
 給食は栄養バランスを考慮し、季節の食材を取り入れた区の統一献立で提供している。ミーティングでは献立の喫食状況や形態について意見交換を行っている。0歳児の頃から自分の席を決め、決まった席に着いて食事に向かえるようにしている。発達に応じて食べやすい形態の食具を用意し、口の動かし方などにも配慮して提供している。椅子やテーブルの高さなどは、姿勢の保持や咀嚼にも影響するため、隙間にクッションを挟むなどして調節し、きちんと座って食事をとることができるように工夫している。

アレルギー児の食事については、誤食のないよう細心の注意を払い提供している
 食物アレルギー等の個別対応が必要な場合は、「アレルギー疾患生活管理指導表」に基づき、マニュアルに則って除去食や代替食で対応している。前月に保護者と献立表及び成分表の項目を確認し、食材を特定している。アレルギー児の給食については、前日の全体ミーティングで内容を共有している。当日は個別トレーで用意し、検食時に園長と調理員で除去内容を確認し、提供直前に担任と調理員が原因食材の除去や代替を目視し、口頭確認を経てから配膳している。必要な手順や対応については、全職員が共通理解を持って取り組んでいる。

食に対する興味や関心を深める取り組みを積極的に行っている
 年間を通して食に対する興味や関心を育む活動を保育に取り入れている。野菜の栽培を通して、生長や変化を観察し、匂いや感触に触れ、収穫したものを食べる経験もしている。栄養素の働き、食べ物と身体の関係などについても、献立と関連付けて伝えている。ある日のひじきの食べ具合を踏まえて、次回の提供時には、水に浸す前後での乾物の変化を見て、匂いや感触を確かめ、興味を深めたうえで食事に臨むなど、栄養士と担任が連携し工夫している。こうした取り組みのほか、季節の食材やメニュー、簡単なレシピなどを発信し、保護者の関心も促している。

7 評価項目7

子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	☐ 非該当

評価項目7の講評

子どもが健康や安全に関心を持ち、自分自身の身を守れるように働きかけている
 日々の保育を通じ、子どもが自身の健康や安全に関心を持ち、体の不調を知らせることや危険から身を守ることができるように援助している。手洗い・うがい、生活リズムなどの様々なテーマで看護師による健康教育を実施し、それらの大切さや身につけるべき習慣などについて、分かりやすく伝えている。警察署員の協力により開催する交通安全教室では、交通ルールについて改めて確認し、日々の散歩の場面でもその定着を図っている。こうした取り組みを通して、子どもが安全や健康について意識を持ち、自ら考えて行動できるよう支援している。

専門機関等との連携のもと、適切な対応ができるように体制を整え備えている
 毎月保健だよりを発行し、定期的実施する各健康診断等のほか、季節や時期に応じた健康に関する情報等を発信している。園のしおりでは、園での健康管理について説明し、感染症対策や、保育中に発生したけがや病気の際の対応、園ができる応急処置等について明記している。薬については、区立園共通の対応として預からないことを原則としている。慢性疾患などのために薬の使用が必要な場合には、主治医が記入した与薬申込書を提出してもらった上で、保護者の代理として与薬を行う体制を整えている。

保護者と連携して、子どもの健康維持に向けて取り組んでいる
 乳児クラスは連絡帳を活用し、保護者と健康状態の共有を図っている。幼児クラスは登降園時に保護者より健康状態を確認して把握している。健康に関する情報は園内に掲示しており、乳幼児突然死症候群(SIDS)については年度当初にチラシを配付して周知を図っている。また、毎月保健だよりを発行して季節に応じた健康維持に関する情報を提供している。入園前の個人面談で個々の健康状況を把握し、乳幼児期に必要な体の発達を知らせている。感染症情報は保育ICTシステムで速やかに配信し、子どもの健康を維持できるよう家庭との連携を図っている。

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○ 非該当
評価項目8の講評			
保護者の相談に丁寧に対応し、個々の事情に応じて必要な支援を行っている 入園面談やその後の個人面談から保護者の個々の事情を把握し、必要な支援を行っている。日々のコミュニケーションや連絡帳を通じて状況を把握し、悩みや困りごとを早期に察知できるよう努めている。保護者の特性や家庭の状況など、子育ての背景を理解し、個々の事情に寄り添っている。保護者が安心して子どもを預けられるよう園全体で見守り、信頼関係の構築に努めている。 保護者同士の交流を深め、子どもの発達や育児等について共通認識を促進している 保護者会では、年間保育計画に基づいた発達の見通しや保育方針について説明している。画像や動画を活用して園生活を具体的に可視化し、保育の重点を伝えることで、保護者との共通認識を図っている。懇談の際は、意見交換を通して保護者間の交流を促し、育児の疑問や悩み、工夫例などの共有を図ることを目指して取り組んでいる。園としては、参加者全員にとってより一層実りのある時間にしていくため、「調整役」としての職員の関わり方について、研鑽を積んでいく意欲を持っている。 子どもの成長・発達を伝え、保護者と共通認識を得られるようにしている 保護者が子どもの成長に見通しを持ち、喜びを共有できる取り組みを大切にしている。保育参加や保育参観は、園での子どもの姿、他の子どもと関わる様子などに触れることで、子どもの成長を実感し、保護者の安心につながっている。また、アンケートによりテーマを投げかけ、子育てを行ううえでの困りごとや助言などを集め、クラスだよりで紹介している。各家庭での対応方法などを全体で共有する工夫により、子育てという共通の経験を持つ者同士での支え合いにつなげている。			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○ 非該当
評価項目9の講評			
地域全体のつながりを活かした活動により、子どもの経験の幅を広げている 地域の様々な施設とのつながりを活かして多様な体験の機会を提供している。職場体験として中学生を受け入れ、中核園事業として民間保育施設の子どもと交流し、幼保小連携の一環で行事への参加などにより小学生と関わっている。高齢者活動施設(ゆうゆう館)を併設する特色を活かし、世代を超えた交流もできている。同じく併設の地域子育て支援拠点(子ども・子育てプラザ)の利用児や園庭開放への参加児とは、遊びを通して関わることができている。様々な人との交流が子どもにとって豊かな経験となり、人と関わる力の育ちにもつながっている。 地域との連携のもと、人との関わりを通して、刺激を受けている 区が設置した団体利用農園では、農園スタッフのサポートを受けて、サツマイモの収穫を体験している。図書館に出向き、団体向け選書・貸出サービスを利用して、本を借りることもある。地域の方の協力を得て毎月数回開催する「お話の会」では、様々なテーマの話を楽しんでいる。職員以外の人との交流は、子どもにとって新鮮で、適度な刺激ともなり、関心の広がりや生活・活動の充実にもつながっている。今後も引き続き、様々な体験の機会を作っていく方針である。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-5-2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している
タイトル①	「子どもの声を聴くこと」により、一人ひとりの尊重、権利の擁護を実践している	
内容①	「対話的な保育」の具体的な実践として、計画の立案、保育の振り返り、日々の活動などにおいて、「子どもの声を聴くこと」を追求している。これは、保育の各場面では、子どもの選択、子ども同士の話し合いを尊重する実践として表れる。また、保育のあり方としては、日々の活動を子ども思いや願いに根拠づけることとして具体化される。これは、「不適切な関わりを防ぐ」というネガティブなものではなく、「適切な関わりを追求する」というポジティブなアプローチである。この実践の積み重ねは、一人ひとりの尊重、権利や利益の擁護・追求につながる。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	遊びや活動を通して子どもが様々な力を培っていくことができる環境を整えている	
内容②	遊びをテーマにプロジェクトを編成し、環境整備を含めて遊びの充実に取り組んでいる。遊具や玩具の現状を点検し、遊びのルールなども改めて確認した。そして、各遊具に応じた園庭の使い方などを理解したうえで、成長・発達やその時々々の興味・関心を踏まえ、適切な遊びの環境を整えている。こうした環境の中で、子どもは自由に遊びを展開・発展させ、また体を活発に動かすことで適切な身のこなしを身につけている。さらに、友達との交わりを通して、自分の気持ちを調節したり、折り合いをつけたりするなど、人と関わる力や内面の成長も見られている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル③	個々の気づきを全体の向上や業務改善につなげる取り組みがある	
内容③	目的意識や役割意識を持ち、現場で考えながら業務を進めていると、様々な気づきが生まれる。当園では、それらを漏れなく全体に活かしていく工夫をしている。それが「なんでも気づきメモ」である。職員の気づきやアイデアを形に残し、全体での共有につなげている。例えば、安全面で気になる箇所などがあれば、メモを通すことで、全体にとっての検討課題となり、流れたり忘れ去られたりすることなく組織としての対処事項となる。個々の気づきを全体の向上や業務改善につなげる仕組みであり、また、個々の意見が尊重される組織の風土の表れでもある。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	信頼され、尊重されることで、のびのびと遊ぶ子どもの姿がある
	内容	室内外の環境を整えるにあたり、子ども自身が「選ぶ」ことを重視している。安全に配慮し、興味・関心への理解を深め、成長・発達に対する見通しを持つなどすることで、玩具や素材、遊具などの選択、「どこで」「誰と」「どのように」遊ぶかの判断を尊重していく前提条件を整えている。そして、子どもの持つ力を信頼し、その発揮を援助している。こうした、「選択」の主体として信頼され、また「選択」という行為を尊重されることは、子どもの自尊心や肯定感につながる。またそれは、「のびのびと遊ぶ姿」として表れる。
2	タイトル	対話的アプローチを、子ども、職員、保護者との関わりの中で大切にし、実践している
	内容	「杉並区立保育園保育実践方針」に基づく実践と不可分の取り組みとして位置付けられた「すぎなみ対話保育カリキュラム」の考えを、保育の柱としている。この「対話的な保育」の「対話」は、「計画」に基づく保育の実施という一連のプロセスにおいて「子どもの声を聴く」という一貫した実践として具体化されている。また、職員間においては「風通しの良さ」としても表れ、チームワークの発揮や業務改善に結びついている。さらに、保護者とともに子育てを推進していく中でも、保護者同士の支え合いを促す工夫の中にも、「対話」が鍵となっている。
3	タイトル	子どもの人権を念頭に置き、園ができる支援について考え全職員で取り組んでいる
	内容	職員は「子どもの人権」を念頭に置き、「不適切保育」について会議等で話し合いを行い、一人ひとりがより良い保育へ向け、職務に取り組んでいる。個々の子どもが持つそれぞれの思いをしっかりと受け止め、保護者の願いに気づき、寄り添う支援に力を尽くしている。日々の保育園での子どもの姿や思い、取り組みの様子についてできるだけ伝えるように努め、多様なニーズを持つ保護者が安心して子育てができるようにしている。保育園ができることを考え、共に育ち合うことを大切にして園全体で保育を進めている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	日頃から保護者との信頼関係構築に努め子どもの育ちを共有し保育を伝えていく
	内容	日頃より保護者とのコミュニケーションに努め、送迎時の声かけや掲示、システム活用によるおたよりの発信等を通じて保育の共有を進めている。保護者の話から子育ての悩みや保護者自身のこと等を職員が傾聴し、必要に応じて面談を行うなど、丁寧な対応を心がけている。今後も、子どもの健やかな成長を支え、保護者と共に育みながら子どもの姿を共有することができるよう、子どもが園生活から様々な学びを得ていることを積極的に示し、遊びや活動のねらいをより明確に伝え、さらに保育への理解を図っていくことを課題としている。
2	タイトル	保護者にとってより有意義な懇談をサポートしていくため、学びや工夫を重ねていく
	内容	保護者との懇談の際は、意見交換を通して保護者間の交流を促し、育児の疑問や悩み、工夫例などの共有を図ることを目指して取り組んでいる。園としては、参加者全員にとってより一層実りのある時間にしていくため、「調整役」としての職員の関わり方について研鑽を積んでいく意欲を持っている。「子どもの成長」は本質的に「将来に向かう過程」であり、「子育て」も同様に（後ろ向きではなく）視点を前に置いた営みである。子育ての今後についてより有意義な懇談をサポートしていくことができるよう、学びや工夫を重ねていくことを課題としている。
3	タイトル	雇用形態を問わずどの職員とも、園の保育に対する理解や認識をじっくりと深めていく
	内容	子どもの成長・発達を支えていくうえで、雇用形態を問わずどの職員も不可欠の存在として役割を担っている。会計年度任用職員には、担任から必要な援助について指示を出すこともあれば、気づきを伝えてくれることもあるなど、現場の保育を正規職員とともに担い、力を発揮している。また、面談を通して悩みや意向などにも耳を傾け、意欲を支えている。今後も、各自の働きをより良い保育につなげていくため、時間を共有し、保育に対する理解や認識をじっくりと深めていくことを課題としている。

8. 堀ノ内東保育園

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

2026 年 2 月 28 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 156-0043

所在地 東京都世田谷区松原3-38-16-107

評価機関名 株式会社にはほんの福祉ネット

認証評価機関番号 機構 06 — 168
電話番号 03- 6379- 5156
代表者氏名 永峯 治之

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名			担当分野	修了者番号
	①			経営	H2201084
	②			福祉	H2301094
	③			福祉、経営	H1901102
	④				
	⑤				
	⑥				
福祉サービス種別	認可保育所				
評価対象事業所名称	堀ノ内東保育園				
事業所連絡先	〒	166-0013			
	所在地	東京都杉並区堀ノ内3丁目49番19号 101号室			
	TEL	03-3315-7922			
事業所代表者氏名	鈴木 孝枝				
契約日	2025 年 6 月 20 日				
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 8 月 1 日				
利用者調査結果報告日	2025 年 10 月 22 日				
自己評価の調査票配付日	2025 年 8 月 1 日				
自己評価結果報告日	2025 年 10 月 22 日				
訪問調査日	2025 年 10 月 27 日				
評価合議日	2025 年 10 月 27 日				
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	区担当者との打ち合わせにより全体の流れ、留意事項の確認を行った。その後、事業所にて事前説明を行い、オンライン形式での利用者調査や職員アンケートの実施方法について説明を行った。訪問調査前には当日の訪問者、タイムスケジュール、確認予定の書類について案内した。訪問調査では施設見学もあわせて行い、実態の把握に努めた。合議では、訪問者2名と他の1名、事務局により報告内容の精査・修正を行った。				

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、
● 機構が定める部分を公表することに同意します。
○ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
○ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2026 年 2 月 28 日

事業者代表者氏名 園長 鈴木 孝枝

印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） ①安心・安全な保育環境の提供 保護者が安心して預けられる、安全で信頼できる保育を実践します。 ②一人ひとりの個性を尊重する保育 子どもの個性やペースを大切にし、長所を伸ばす関わりを心がけます。 ③豊かな感性と表現力を育む保育 自然や文化に触れながら、自己表現や感受性を育てる機会を大切にします。 ④家庭との連携を大切にしたい保育 保護者と協力しながら、子どもの成長を温かく見守り、共に育てていきます。 ⑤基本的な生活習慣の定着 日々の生活を通して、健康的な生活習慣や社会性の基礎を身につけることを目指します。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） （1）職員に求めている人材像や役割 ①心身ともに健康で、明るく前向きに保育に取り組める人 健康的で明るい態度をもち、チームの一員として協調性を大切にできる方。 ②子どもの気持ちに寄り添い、柔軟に対応できる人 温かく穏やかな人柄で、子どもの思いや状況を受け止め、臨機応変に対応できる柔軟さのある方。 ③保育に対して意欲と情熱を持っている人 子どもの成長に寄り添う仕事にやりがいを感じ、主体的に学び続ける姿勢のある方。 ④子ども主体の保育を実践しようとする人 子どもの自主性や興味・関心を大切にし、その育ちを支える保育環境づくりに努められる方。 ⑤マニュアルを理解しつつ、創意工夫をもって取り組める人 決められた手順を正しく理解した上で、現場の状況に応じて柔軟かつ創造的な対応ができる方。 （2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ①保育の専門家としての自覚を持ち、常に学び続ける姿勢 保育のプロフェッショナルとしての責任と誇りを持ち、知識や技術の向上に努め、自己研鑽を続けることを期待します。 ②子どもの小さな変化にも気づき、きめ細やかな支援を行うこと 子どもの表情や行動の変化を丁寧に観察し、発達の段階に応じた適切なかわりや支援を行うことを大切にしたいと考えています。 ③保護者や地域社会との信頼関係の構築 子どもを取り巻く環境すべてを大切に、保護者や地域との連携・協力を積極的に行ってほしいと考えています。 ④チームの一員として協力し合う姿勢 他の職員と円滑なコミュニケーションを図り、互いに支え合いながら、より良い保育環境づくりに貢献することを期待します。

調査対象

複数児利用世帯は最低年齢児1人を対象として実施世帯数を絞り、調査対象者に対し実施。

調査方法

WEB回答システムを活用。機関が作成した二次元コード記載の案内を事業所を通して各家庭に配布。各家庭においてそれを読み込んだ上で、個別に匿名で回答。

利用者総数

82

利用者家族総数(世帯)

69

共通評価項目による調査対象者数

69

共通評価項目による調査の有効回答者数

36

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

52.2

利用者調査全体のコメント

＜総合的な満足度＞

「満足」72%、「まあまあ満足」22%、計94%という満足度が示された。

＜調査結果の講評について＞

・肯定的な評価(「はい」との回答)が全体に占める割合についてのみ、記述した。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	36	0	0	0
回答者の100%「はい」と回答した。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	34	2	0	0
回答者の94%「はい」と回答した。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	36	0	0	0
回答者の100%「はい」と回答した。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	27	9	0	0
回答者の75%「はい」と回答した。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	25	3	0	8
回答者の69%「はい」と回答した。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	25	9	0	2
回答者の69%「はい」と回答した。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	25	10	0	1
回答者の69%「はい」と回答した。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	30	5	0	1
回答者の83%「はい」と回答した。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	30	5	0	1
回答者の83%「はい」と回答した。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	33	2	0	1
回答者の92%「はい」と回答した。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	32	3	0	1
回答者の89%「はい」と回答した。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	26	6	1	3
回答者の72%「はい」と回答した。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	34	1	0	1
回答者の94%「はい」と回答した。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	28	3	0	5
回答者の78%「はい」と回答した。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	30	5	0	1
回答者の83%「はい」と回答した。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	24	5	0	7
回答者の67%「はい」と回答した。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	20	8	4	4
回答者の56%「はい」と回答した。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリ1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○ 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○ 非該当
	● あり ○ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○ 非該当
	カテゴリ1の講評		
	園が目指していることを明確に示し、保護者や職員に周知している 年度当初の会議で児童憲章・保育理念・保育目標・保育方針を確認している。区は「杉並区立保育園保育実践方針」を作成し、保育実践の考え方を示している。入園のしおりには、園が大切にしている保育について示し、入園説明会で全体に向け説明している。その他にも運営委員会、保護者会等で定期的に報告をし、保護者の理解が深まるようにしている。園運営に関しては、園長、エリアマネージャー、本部が共有し、園が目指す方向性を職員に示し、丁寧に説明している。年間指導計画を作成するにあたっては全体的な計画を基本としている。		
	園長は区及び本部と連携して園の運営をリードしている 園長は管理層として、職員配置及び園の職務分担を決定し、常に保育所運営の課題を自覚しながら、保育の目標や方針の原則に基づき、組織の長としてリーダーシップの発揮に努めている。現場から挙がった問題や課題はまず職員から園長に報告し、その後担当エリアマネージャーへ連絡し共有している。内容に応じて、園長及び担当エリアマネージャーで改善案や検討案を示し、決裁者の承認を経て決定される。区担当部門及び本部の指導の下、認可保育所としての役割を周知し、保育所保育指針の原則に従って、日々業務を推進している。		
	重要な案件について検討・決定・周知・実行を着実にやっている 年6回の本部主催の園長会議での質疑応答、園内における月末月初の会議、毎日の昼礼、クラス会議、給食会議等を定期的に設け、情報共有を密にしスムーズな園運営を行っている。本部での決定事項は、園長会議またはエリアマネージャーを通じて提示され、園長が昼礼や職員会議で決定経緯を踏まえ説明している。その際に書面や議事録を作成し、決定経緯の透明性の確保を図っている。保護者に関わる件については、保護者会や運営委員会で報告し、掲示や毎月発行する園だよりに掲載して必要な情報をタイムリーに共有している。		

2			事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		カテゴリー2
サブカテゴリー1(2-1)					
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況		6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			評点(○○○○○○)		
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している				○ 非該当
● あり ○ なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している				○ 非該当
● あり ○ なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している				○ 非該当
● あり ○ なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している				○ 非該当
● あり ○ なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している				○ 非該当
サブカテゴリー2(2-2)					
実践的な計画策定に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況		5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している			評点(○○○)		
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している				○ 非該当
● あり ○ なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている				○ 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる			評点(○○)		
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる				○ 非該当

カテゴリー2の講評

「満足度調査」を毎年行い、保護者の意向を把握・分析し、集計結果を公表している

園は保護者の意向・要望を把握するために年に1回「満足度調査」を行い、その結果を保護者に公表している。保護者参加の行事後のアンケートや、運営委員会等で出された意見、保護者会で得られた発言等を吸い上げ、分析することで現状の把握と問題点の抽出を行っている。さらに、登降園時のやり取りや連絡帳等から、日々保護者の思いを収集してニーズの把握に努め、対応に役立てている。また、職員の意向を把握するために毎年「従業員満足度調査」を行い、全職員の意向を確認している。その上で現状の改善に向け適切に対処できるよう検討している。

地区の園長会や地域懇談会に参加し、福祉ニーズを把握している

園長は、法人の園長会議の他に区の私立保育園園長会、地域懇談会や地域の子育てネットワークに参加し、近隣地域での児童に関する情報交換や共有を行っている。これらは地域の福祉ニーズとして、必要に応じて本部にも報告し、情報の分析に役立てている。区の発行する「子ども・子育て事業支援計画」により、中期的な動向を把握し、また区立保育園向け「杉並区立保育園保育実践方針」を園運営の参考にしている。必要に応じて区の担当課へ問い合わせや確認を行い、園、本部で情報を共有しながら、連携を重視し、計画の策定と実行に取り組んでいる。

「全体的な計画」の方針に従って計画を作成し、実行に取り組んでいる

園が作成する「全体的な計画」に基づき、各クラスと各職種(栄養、調理、看護)の年間計画を策定している。指導計画の作成にあたっては、各担当は子どもの実態を把握し、発達に即した内容を盛り込んだ案を提示している。毎月、定例の会議で振り返りを行い、目標の達成に向けた進捗を確認し、気づきや反省等を職員全体で話し合い共有している。行事の内容については書式にまとめ、収支については予算管理表にて管理している。職員会議等で取り組みの見直しを実施し、その内容は本部へ報告して定例の園長会議にて報告を行っている。

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	☐ 非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	☐ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	☐ 非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	☐ 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	☐ 非該当

カテゴリー3の講評

全職員に対して福祉サービスに従事する上での規範・倫理等を周知している

「個人情報保護規程」「マニュアル」「ハラスメント防止規定・ガイドライン」を定め、職員の行動指針としている。年度当初の会議で確認し、個人情報については、毎年全職員が研修を受講している。新入社員は、上記規定を用いた本部研修を行っている。職員に対しての規範・倫理等は法人の「行動基準」で示している。特に言葉遣いに注意して、社会人としての信頼関係を築けるよう努力している。「保育士マニュアル」は冊子として事務室に保管し、職員がいつでも閲覧できるようにしている。ハラスメントについてはポスターを掲示して周知している。

保護者等から苦情・相談を受け、迅速に対応できる体制を整えている

保護者には、入園時に「園のしおり」「重要事項説明書」をもとに要望苦情等に係る体制を説明し、園での窓口、本部の担当、第三者委員の窓口を明示している。意見箱や運営委員会、個別相談で頂いた意見に対しては、担当保育士・主任・園長・エリアマネージャー等で検討して返答している。苦情・相談は園の保育と保護者への対応を振り返る機会と捉え、些細な事でも問題意識を持ち全職員で共有している。虐待防止について本部、外部の研修を受け組織として対応を徹底している。職員間で互いに気づきを声に上げ、適切な保育についての理解を深めている。

福祉ニーズの把握と分析に基づき地域に開かれた保育園を目指して取り組んでいる

杉並区による監査・モニタリングや外部社労士によるモニタリングなどを受けている。アプリを利用して保育活動や行事の写真を配信して園運営の透明性を高めている。また、地域の中で開かれた保育園として、行事への在宅子育て家庭の招待や保育体験の機会の提供、児童館と協働した未就園児へのトイレトレーニングや離乳食相談会実施等の支援を通して地域へ貢献している。区の私立保育園連絡会、地域懇談会、子育てネットワークに参加して福祉ニーズを把握・分析し、地域の保育動向を把握したり情報交換を行ったりしている。

4			リスクマネジメント		5
サブカテゴリ1(4-1)					
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる			評点(00000)		
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている				○ 非該当
● あり ○ なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している				○ 非該当
● あり ○ なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる				○ 非該当
● あり ○ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる				○ 非該当
サブカテゴリ2(4-2)					
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			評点(0000)		
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している				○ 非該当
● あり ○ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている				○ 非該当
● あり ○ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している				○ 非該当
カテゴリ4の講評					
リスクに対して適切な対策が取れるよう、マニュアルの理解や対応力の強化を図っている 日常業務における安全管理の視点はマニュアルを通じて全職員に周知している。「事故防止」「不審者対応」「感染症防止」「プール管理」「SIDS対応」等のマニュアルを揃え、読み合わせをし、系列園の看護師による看護師会議等、それぞれ専門職による会議を実施している。また本部全体で危機管理研修等を実施している。本部のマニュアル策定、毎年の見直し等、リスクの発生を防ぐとともに対応力の強化を図っている。各園のマニュアル、フロー等を策定し、職員は定期的に閲覧してリスクに対し、迅速かつ適切な行動が取れるよう備えている。 災害時の対応の策定や備えを見直し、必要に応じて更新し職員への周知を徹底している 本部として標準的な事業再開計画(BCP)を定め、フローチャート化している。園は入園案内、運営委員会等でこれらについて周知し、保護者がいつでも閲覧できるようにしている。避難訓練を実施し、不審者対応訓練や救急救命研修を受講し、事故発生時の情報共有と、事故防止として改善及び管理の徹底を行っている。また、本部の新たな取り組みとして、初めに(ファースト)やるべき任務(ミッション)を記載した手順書と最低限必要となる資材を入れた箱(ボックス)「ファーストミッションボックス」を導入し、系列園の代表者が受講を開始している。 個人情報保護について組織的に適切な管理と保護、活用を行っている 情報の管理は区及び本部の指針に従って運用されている。守秘義務、個人情報保護の確実な実行に努めている。職員は、入社時に守秘義務及び個人情報保護の趣旨に関して本部で研修を受講し、コンプライアンスの徹底を図り誓約書に署名している。実習生・ボランティアにも同様の趣旨で同意を得ている。園の運営に関わる情報については職員室の鍵のかかるロッカーに保管し、電子データについてはパスワードで管理し、職層によってアクセス権限を与えている。利用者の個人情報の取り扱いは、入園説明会の折にその扱い方を説明して同意を得ている。					

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○ 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○ 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○ 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○ 非該当

サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	☐ 非該当
カテゴリ5の講評 必要な人材の確保に向けて、様々な手段を駆使している 園の職員体制を勘案して、園長の要望に基づき人事担当者が募集を行っている。採用においては、園長、エリアマネージャーの面接を経て決定し、適材適所で配置している。友人紹介アプリや紹介会社、派遣会社等、様々な手段を駆使して広く人材を求め、人員の補強を行っている。ホームページには、法人としての「理念」を掲げ、組織、保育体制、社員教育体制等を明示している。特に子どもたちと身近に関わる園の社員の強みやアイデアを活かす環境の重視、対話を大切にし所属施設を超えて行われる意見交換会等、特徴ある取り組みについて明確にしている。 職員一人ひとりの意向や経験等に基づいた育成支援に取り組んでいる 職種ごとにキャリアアップシートを分けて運用し、育成ポイント(強み・弱み)を面談にて確認している。また、職員一人ひとりが年間の予定を立て、社内研修や外部研修に参加して、専門性の向上を図っている。園長会議、主任会議、給食会議、看護師会議等各専門職による会議を行い、自らの役割を理解するよう支援を行っている。さらに、リーダー層が他園で実際の活動に触れて学ぶ交換研修や公開保育等、本部によって豊富な研修プログラムが用意されている。特に職層別の研修では、職員のキャリアパスに準じたそれぞれの役割での理解が求められている。 良好な人間関係と安心して働き続けられる職場環境づくりに取り組んでいる 日々の昼礼会議、定例の職員会議等を利用して日々コミュニケーションを取り、意見を出し合い、職員間で報告を共有できる風通しの良い職場環境づくりに取り組んでいる。園長、主任がシフト表・勤怠表と日々様子を注意深く見ることで、個々の職員の就業状況を把握している。能力評価は人事考課表と園長評価に基づき査定を行っている。有給等の休息の取得は、勤怠管理システムで管理している。園長は、職員の気持ちを考え前向きに仕事ができるような助言を心がけ、状況により本部との面談を行う。希望者には産業医面談や受診ができる仕組みがある。		

7		事業所の重要課題に対する組織的な活動	7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
				サブカテゴリ1(7-1)
		事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている		
		評価項目1		
		事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)		
		前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)		
		経験年数が少ない職員が多いため、リーダーとしての役割について共有し、さらにスキルアップする必要があると考え、リーダー保育士の育成に取り組んできた。職員には、外部研修を積極的に受講するよう促し、受講後は研修報告書の記入の他に、職員会議で研修報告をする機会を設け、受講者もさらに理解を深め、他の職員も共有できるようにして全体のスキルアップを目指してきた。研修に参加することにより、学びの機会が増え日頃の保育を振り返ることや、保育に活かすことができた。さらに、リーダー保育士会議をできるだけ行うようにして、リーダー保育士同士で悩みや、保育について語る時間を少しずつ重ねてきた。リーダー会議をきっかけに横のつながりができたことで、より協力して保育を行うことができるようになった。今後も、職員一人ひとりの育成を図り、組織全体としての力量の向上や連携の促進を図っていく方針である。		
	目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった		
	取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
	検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
		評価項目1で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評		
		研修を受けた職員が必ず研修報告を行うことにより、本人および職員全体のスキルアップにつながっている。職員同士の話し合いの時間を多く持つことで、保育についての悩みや様々な意見を聞くことができることにより、より良い保育につながるの、共有できる時間の確保に努めることを改めて考えるようになった。話し合うことにより、クラスの困りごと、他の職員の考え方や様々な保育観が見えるようになったことも大きな成果である。経験の浅い若手職員も自分の意見を発信したり、職員間の協力を得るための進め方、保育スキルの向上や経験が得られたりするなど、今後の保育につながる変化が見てとれる。		

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

地域の方々との交流を積極的に行い「みんなで育てる保育」の実践を目指すため、地域支援、地域交流を積極的に取り組んだ。クリスマスには近隣の高齢者施設の職員がサンタクロースになって園を訪問してくださる等、交流を持てた。また、近隣の商店街の花屋の協力を得て、花材を準備し「花育」を行った。4・5歳児対象で仕上げたフラワーアレンジメントを持ち帰り、保護者にも好評だった。さらに、ハロウィンの際は近隣の商店街の店舗の協力によりパレードを行い、菓子をいただいた。そして、6月のちびっこまつり、10月の運動会の際にはポスターを貼ったり招待状を送ったりするなど、地域の方も招待している。そのほか、1歳児～5歳児が毎週行っている英語の時間に園見学を兼ねて入園を検討している地域の方も参加できるようにした。こうした取り組みを通して、地域交流を活性化することができた。今後も地域との関わりを積み重ね、子どもの経験の幅を広げ、健やかな育ちにつなげていく方針である。

目標の設定と取り組み

- ☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- ☐ 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- ☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- ☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評

地域交流に多く取り組むことにより、子どもの活動の範囲が広くなり、園職員以外の大人と貴重な体験ができた。特に「花育」は、花屋から季節の花の説明を直接聞き、子どもたちは花について学び、牛乳パックにオアシスを用意し、実際に花を生けることができた。こうした経験を通して、花を身近に感じ、興味や関心が高まった。これらの取り組みを今後も継続して、地域交流と共に「みんなで育てる保育」を実践していくことが、子どもの育ちや生活の幅を広げることに繋がっていく。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目										
	サブカテゴリ1										
1	サービス情報の提供 サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4 評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している 評点(〇〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th><th>標準項目</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎ あり ○ なし</td><td>1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している</td></tr> <tr> <td>◎ あり ○ なし</td><td>2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている</td></tr> <tr> <td>◎ あり ○ なし</td><td>3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している</td></tr> <tr> <td>◎ あり ○ なし</td><td>4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している</td></tr> </tbody> </table>	評価	標準項目	◎ あり ○ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	◎ あり ○ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	◎ あり ○ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	◎ あり ○ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
評価	標準項目										
◎ あり ○ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している										
◎ あり ○ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている										
◎ あり ○ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している										
◎ あり ○ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している										
	サブカテゴリ1の講評										
	法人のホームページや区のホームページなどで園の情報を提供している 本社のホームページで事業所情報を提供している。募集状況や園概要には住所や電話、クラス別定員とクラス名など、保育の特色には保育目標や保育方針、保育環境についての説明、一日の流れ、季節の行事・催しなどを掲載している。令和8年度からの完全民営化に向けて、区のホームページでは、公設民営園から民営化する時期、経緯の丁寧な説明があり、それに呼応し本社のホームページでは、民営化後の新園の詳しい説明を、画像つきでわかりやすく発信している。 園見学は予約受付し必ず園長・主任が対応、質問にも丁寧に回答している 園見学は、予約を受け、必ず園長・主任が対応している。電話受付だけでなく、会社のホームページからも予約ができるようになっている。また、なるべく多くの見学者を受け入れるため一日3組までとしている。見学では、保育室など環境だけでなく園の保育理念が伝わるよう、保育内容にも言及して説明している。見学の最後には質問を受け、その回答は同時に見学した方々とも共有している。また個別の質問があった場合には、時間を別途設けている。見学者には感想の記入をお願いし、意見は検討し速やかに実践に反映させている。 園の魅力や取り組みを知ってもらう体験の機会を設けている 園見学の際には「保育園のしおり」から見学者が知りたいと思われる内容を抜粋した数ページの「見学用しおり」を提供している。また、見学の際に子育ての悩みが聞かれた場合は別途相談を受けたり、見学者との対話により必要を感じた場合はふれあい保育(保育体験)を勧めるなど、見学対応だけでなく育児支援サービスの一端も担っている。毎週火曜日の英語の時間は、1歳児クラスでの保育体験も案内し、園生活をより具体的にイメージできるような案内に努めている。										

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		☐ 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		☐ 非該当
サブカテゴリー2の講評			
園の基本的なサービスとルールを説明し、保護者との共通理解を築いている 入園にあたり、保護者への入園前面談と入園説明会を実施している。入園前面談は2月中に個別に行い、入園後に必要な子どもの生育歴や健康状況などを丁寧に聞き取っている。その上で3月に新入児説明会を実施、園のしおりをもとに園長・主任・看護師・栄養士・保育士が、保育園生活について丁寧に説明している。保護者から質問等受け答えし、同意の上で「重要事項に関する同意書」「個人情報同意書」にサインをもらっている。また入園説明会では、園長が園の保育方針を伝え、特色である「共子育て」に取り組むための共通理解を図っている。 保護者の意向を確認後記録化し、職員間での共有を徹底している。 入園前面談、新入園児説明会では、園長、主任、保育士、看護師、栄養士が各々の専門職としての視点から、保護者の育児方針や保育園利用における意向を確認している。また慣らし保育の期間や意向についてもすり合わせを行い、個別の「日程表」を作成している。これらの内容は「聞き取り票」に記録し全職員で情報共有を図っている。また、担任決定後さらにミーティングを行い、個別事情など把握し安心して園生活を迎える備えとしている。この過程を経て保護者に、園が担任だけでなく職員全体で我が子の成長支援を行う場である安心感につながっている。 支援の継続性に配慮した支援や関わりを大切にしている 転園や引っ越し等での退園の際には、保護者や子どもの不安を軽減できるように、いつでも相談できることを伝えている。また必要に応じて、保護者の同意を得て転園先に情報提供を行い、園で行っていた配慮を伝え、新園での無理のないスタートを図れるよう努めている。就学へ向けては、小学校から提供される情報を子どもや保護者に伝えている。また、保育所児童保育要録には、保護者から聞き取った就学への不安なども考慮して記載し、園での子どもの育ちが滑らかに引き継がれるよう配慮している。			

サブカテゴリ3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○ 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○ 非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○ 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○ 非該当

サブカテゴリー3の講評

子ども一人ひとりの日々の状況の把握に努め職員で共有し、保育を行っている

登園時の視診表は、乳児と幼児で、年齢発達に合わせて記入項目を変えている。0、1、2歳では、生活面に関して丁寧に記載するフォーマットとなっている。保護者との朝の短いやりとりのなかでさりげなく行い、登園した子どもの全身の状態を「見て、聴いて、触れて」チェックし、体調の変化を見逃さないように記録する様式となっている。また、登園時、傷チェックを行い、あった場合は箇所を記録している。気になる点があった場合は、速やかに看護師や園長に連絡、相談して、子どもが健康に園の一日が過ごせるよう配慮している。

全体的な計画を踏まえて、子どもの状況に応じた指導計画を作成している

指定管理園として区立園時代の保育目標を引き継ぎつつも、全体的な計画では会社の理念、保育方針との整合性を見だし、園の子どもの実態に応じた年齢別の保育目標が示されている。全体的な計画を踏まえて、各クラスの年間指導計画、月案、週案とつながりを持って作成している。毎月、クラス会議で子どもの姿の情報共有を行い次月の計画を立案、月初会議、月末会議でそれを園全体で確認、多数の視点で討議し、作成している。0～2歳児クラスでは、個別月案を作成、より丁寧に状況をふまえた発達の見通しを持ち保育を進めている。

職員会議では、各クラスの方針や個別の援助について理解を深めている

会議の前提として、当園が大事にしていることは、日々の子どもの状況の職員間の共有であり、毎日の昼礼をはじめとし、会議の際も短時間でも各クラスの子どもの個別の課題について、保育者の具体的な援助や関わり方の報告が行われ、園全体で子どもの理解を深める機会となっている。4期にわけた期毎に保育実践記録用紙に記録し保育の経過とクラスや個別の課題について報告し合い、見直しや修正をして振り返りを行っている。年度末には一年間の振り返りを行い次年度の保育計画の策定につなげている。

サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		☐ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		☐ 非該当
サブカテゴリー5の講評			
個人情報の取り扱いや子どもと保護者のプライバシー保護に努めている 子どもと保護者のプライバシーを守ることにについて、入園時に「個人情報の取り扱い(プライバシーポリシー)」について説明し、「個人情報・写真等の取り扱いに関するお願い」の文書を配付して、氏名や写真、動画などの利用目的と範囲(園だよりなどへの掲載、園内での掲示、保護者会での上映など)を示し、保護者にも他の園児が写っている写真をブログなどに掲載しないことを依頼し、書面で同意を得ている。職員も誓約書を提出して、子どもや保護者の情報を外部に提供しないことや保護者との会話がほかの保護者に聞こえないよう配慮している。			
日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重した保育を行っている 職員は、子どもがあらひのままの自分を出せるように丸ごと受け止め、安心と自信を持って生活ができるようにしている。一人ひとりの子どもの行動や欲求に分かりやすい言葉で穏やかに語りかけ、応答的に関わり、子どもの権利についてコンプライアンスに則って対応している。オムツは決まった場所で交換し、一つずつ着替えることを伝えている。身体測定の際はカーテン等で他者の視線を遮る工夫をしている。子ども一人ひとりの尊厳を大切に考え、自分の言動を振り返り、確認して子どもの遊びや思いを取り上げる行為はしないよう徹底している。			
子どもと保護者の価値観や生活に配慮し、保育を学び理解を深め対応している 子どもの人権に配慮した適切な保育について、本部作成の「虐待防止対応マニュアル」を常時閲覧できるようにし、本部、区、外部の研修を受講し、受講後は職員会議で報告・共有し倫理意識を高めている。また、保護者の意見に耳を傾け、相談しながら様々な国や家庭の価値観に配慮した個別の対応を行い、保護者との信頼関係を築いている。虐待防止や育児困難家庭への支援に向けては、子どもの様子や日々の保育の中で留意する事項等について情報を共有し、理解を深めている。また、職員間のコミュニケーションを円滑にし、共通理解と協働性を高めている。			

サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	☐ 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	☐ 非該当
サブカテゴリー6の講評		
系列園共通のマニュアルが整備され、基本事項や手順等を明確にしている 保育指針をしっかりとらえ、本部が作成した系列園共通マニュアルが園に置かれ、業務の標準化に活用している。必要に応じて本部でマニュアルを改訂し、園の職員会議で確認し新しい手順を現場に活かしている。「事故防止対応、防災・災害対応、感染症防止・衛生管理、食育、食物アレルギー、プール管理」と「身だしなみ・勤務時のマナー等」のマニュアルにより基本事項や手順が明確に整備され職員はいつでも見られるようになっている。新規職員は本部の研修で行動基準を取り入れたこれらのマニュアルの主な部分を学び現場の業務に就いている。 手順の見直しを定期、随時に行い、必要に応じて保護者に説明している 業務手順やマニュアルは必要に応じて見直しを行っている。園長会議、主任会議等で話し合う機会を設けている。年二回行われている運営委員会が保護者からの意見を頂いている。基本事項や手順等の見直しにあたり、職員会議等で検討し内容を明確にしている。特に保育に関わる内容については、子どもに関わる全職員に必要なことを周知し、頻度の高い項目はフローチャートにして職員間で認識にばらつきが生じないように注意している。変更や決定事項は園日誌や会議録に記載し、必ず確認して誰に尋ねても同じ説明ができるようにしている。 会議や研修を活用し、標準的な業務水準の確保に努めている 本部や区の園長会、主任会に参加して情報交換して得た内容は、職員会議で周知し園運営に活かしている。研修制度の充実に努め学ぶ内容や機会を増やし、職員一人ひとりのスキルアップに結びつけている。職員会議の中で研修のフィードバックを必ず行い、共有する仕組みが園全体のスキルアップにつながっている。ヒヤリハットのファイルを各クラスに配置し、すぐに記載できるよう徹底したことで職員の意識改革に連動している。職員はわからないことが起きた際は、各種マニュアルの活用すると共に、園長、主任、エリアマネージャーに確認している。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4	
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 36 / 36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している ☐ 非該当
評価項目1の講評	
発達状況に合わせて子どもが主体的に遊べる環境を工夫して整えている 年齢・発達や興味・関心を考慮し、遊び込める環境設定を行っている。視覚的にわかりやすいコーナーを設定し、好きな遊びに集中する子どもの姿がある。乳児では、子どもの目線に興味や関心のある玩具を置き、自発的に遊びを誘われるようにしている。また、広い園庭では0歳児から5歳児までが交流して外遊びを楽しむ姿があり、年少児は年長児に遊びを憧れを持って観察時に挑戦し、年長児は幼い年少児の姿を見て自然に手を差し伸べ援助するなど互恵性が生まれている。相互への関心が、触れ合い、互いを尊重し認め合う気持ちへとつながっている。 子どもたちの仲間意識を育み、小学校への円滑な接続の支援にも取り組んでいる 噛みつき等のトラブルの対応は、新入園児説明会で保護者に説明している。双方の子どもの気持ちを尊重し対応している。幼児ではしっかりと双方の話を聞き、理由をしっかりと聞き取り、その「気持ちの伝え方」の表現方法をわかりやすく伝え、双方の納得のもとでの解決を図っている。またトラブルにあった子だけでなく起こしてしまった子どもにも寄り添うことで再び仲間関係を深められるような援助となっている。近隣の小学校とは年3回ほど交流があり、小学校の展覧会や音楽会への招待や学校訪問により、5歳児が就学への期待感を抱いている。 異文化への興味を促す取り組みにより多様性への気づきやお互いを認め合う心を育んでいる 都のプログラムである「とうきょうすくわくプログラム」では、テーマに「世界」を選択し活動し3年目を迎えている。絵本などで視覚的に知るだけでなく、「世界タッチ」という教材を取り入れ、文化や習慣の違いなどを知り、オンラインで海外の子どもたちと実際に顔を見せ合い会話を触れ合い、交流を通じて、世界を身近に感じる体験を積み重ねている。また、1歳児から「英語」の時間があり、それぞれの年齢に応じて、外国人の講師と英語での交流を楽しんでいる。	

2 評価項目2		
子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○ 非該当
評価項目2の講評		
登降園時は、生活のリズムを整えるため、保護者と子どもの情報を伝え合っている 家庭での生活の姿を把握し、子どもの生活リズムを整えるために、登園時には積極的に保護者に声をかけ、家庭での様子・体調・食事・降園時からの変化等を確認している。視診をしっかりと行い、顔色・機嫌・皮膚や目の状態等を観察している。また、連絡帳アプリも確認し、得られた情報は、「視診表」に記録するとともに、職員間で共有しその日の保育活動に活かしている。降園時は、担任が対応できない時間帯も、クラス担任が記入した申し送り表をもとに保護者に対応し、1日の子どもの様子に合わせてエピソードを伝えることを心がけている。 基本的な生活習慣が身につくよう、子どもの成長に合わせて個別に援助している 基本的な生活習慣の獲得については、園では保育士と看護師や栄養士との連携により丁寧に子どもに向き合い、さらに家庭とも連携を図っている。月齢や年齢で区切ることなく、一人ひとりの子どもの成長の道筋をふまえ、連続性をとらえて個別に対応している。トイレトレーニングなどは保護者の意向も聞いた上で、子どもの今の状況を伝え、無理なく進めている。まずは日々の送迎時の保護者との短い会話の時間を大切に、信頼関係構築の土台と考えている。そのうえで、必要であれば個別に面談を行い、保護者への支援を行っている。 午睡は、子ども一人ひとりのその日の状況・発達・年齢に合わせ、柔軟に対応している 午睡を含む休息については、子ども一人ひとりのその日の状況や年齢、発達を考えながら、長さや時間帯を調整している。特に、0歳児は月齢によって睡眠時間の差が大きいため、個々の生活リズムに合わせて、午前寝も入れながら、睡眠を取っている。また、幼児クラスも、安心して眠れる環境の中で身体を休めており、早く目覚めた子が静かに過ごせる場所の保障をしている。なお、5歳児は、就学に向けて、1月より徐々に午睡時間を保育時間に替え、午睡のない生活でも安定して過ごせる生活リズムへの切り替えを図っている。		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している			評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている		○ 非該当
● あり ○ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている		○ 非該当
● あり ○ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している		○ 非該当
評価項目3の講評			
環境構成や保育者の関わり等の配慮のもと、主体的な遊びが展開されている 発達を考慮したままごとや机上遊び、知育玩具や手作り玩具による構成遊びなど、コーナー設定により環境を整えている。登園後から子どもの主体的な遊びが始まり、乳児は保育者が遊びのそばにつき、ハイハイやつかまり立ちを楽しんだり、テラスでの外気浴などゆったりと過ごしている。幼児は各遊びの環境のほか、廃材制作では、子どもの興味をふまえて工作ワゴンに必要な素材等を用意し、速やかにとりかかれるようにしている。保育士による絵本の読み聞かせの他、幼児では子ども同士で、合同保育の時間帯では、年下の乳児に幼児が読み聞かせる姿がある。 戸外活動で季節の移り変わりを感じ、多様な活動に発展させている 天気のよい日は積極的に戸外活動を行い、季節の移り変わりを感じられるようにしている。園庭遊びでは、異年齢で関わる中で憧れや敬う気持ちも育まれ、広い園庭での遊びや園庭の使い方は、自然に年長の子どもから年下の子どもに引き継がれている。乳児と幼児が安全に遊ぶルールも、幼児の子どもからの気づきや発信がある。また、近隣の公園への散歩で感じた子どもの視点をとらえて公園マップ作りを行うなど、戸外活動から様々な活動へと発展させている。散歩での交通ルールは、子どもが自ら気づくような声がけを保育士は心がけている。 リズム遊びや英語、体育教室など多様な活動を通じて豊富な経験が蓄積されている 子どもが意欲的に楽しみながら集団活動に参加できるよう取り組んでいる。園独自の身体作りのプログラムである週2回のリズム活動の他、幼児は週1回外部講師による体操指導、1歳から5歳までは外国人講師による英語指導を取り入れている。いずれも子どもたち自身が園生活のスケジュールとして把握し、期待感を持って主体的に参加している。室内活動のみならず、どの保育室もすぐに出られる中央の広い園庭では異年齢が関わり、戸外遊びを楽しめる充実した環境を活かして、メリハリのある園生活が展開されている。			

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		○ 非該当
評価項目4の講評			
子どもたち自身が話し合いをして決めることで、主体的に取り組めるようにしている 事前に行事について子どもたちと話し、行事についての子どもの受け止め方を探り、一人ひとりが関心を持ち主体的に取り組めるよう、子ども自身が話し合いをして具体的な内容を決めて進めている。また、「できない」ではなく「挑戦したいこと」という視点で話し合う場を設けている。大きな行事である「ちびっこまつり」では、ヨーヨー釣りや輪投げ、的あて等の店を出し、年長組を中心に行った。また運動会には保育士も応援合戦で参加、子どもと同じ目線で取組みを実践していることで、子どもの「自分たちも頑張る」という意欲につながっている。 行事の作り物や準備、制作や練習を通してやり遂げる喜びを感じられるようにしている ちびっこまつりの準備や制作物や、運動会の練習など、子ども一人ひとりが自分のこととして主体的に参加できるよう、話し合いの段階から子どもと一緒に取り組んでいる。そのため、準備が進んでいく過程で、子ども同士で意見を出し合ったり、保育士に相談したりする姿がある。また、取り組みの過程をドキュメンテーションにして掲示し、視覚的に子ども自身も振り返りながら進めている。保育者に見守られる中で、子どもたちは完成した喜びや達成感を仲間同士で味わっている。 保護者に行事に向けて頑張っている子どもの様子を伝え、理解や協力を得て実施している 年度当初に年間行事予定表を配布し行事の概要を説明していることで、保護者からは日程の調整の協力が得られている。各クラス毎に、ドキュメンテーションで行事への取組みの様子伝えていることで、家庭での会話が広がり、子どもが行事に楽しんで意欲をもって取り組む姿がある。また、保護者が他クラスの掲示を見ることで、全体の行事の方向性が伝わり、子どもも職員ものびのびと取り組むことができていく。子どもだけでなく、保護者も行事を我が子の成長や友だちとの仲間関係の深まりを感じる機会として、期待感をもって楽しみに見守る姿がある。			
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		○ 非該当
評価項目5の講評			
子どもが好きな遊びを選び、くつろげるようにしている 早朝や夕方の延長保育では子どもが落ち着いて過ごせる環境に配慮している。延長保育では合同保育を実施している。普段から異年齢交流をしているため、違和感なく過ごしている。職員が安全を確認しながら、異年齢が触れ合い、発達や体調に応じた過ごし方ができるようにしている。現在の利用は少ないため、子どもが安心して過ごせるよう声かけやスキンシップを多めにとり、ゆったりと過ごせる環境を提供し、好きな遊びを選び、くつろげるようにしている。 延長保育では職員は子どもの状況を共有し、個別対応も取り入れ、無理なく過ごしている 延長保育の担当者は、申し送り表により、日中の児の様子を引き継ぎ、確認をして、子どもが無理なく安心して過ごすことができるよう、必要に応じて個別の配慮を行っている。開園後の朝の時間帯と夕方の時間帯は、乳児と幼児で分かれて過ごし、乳児は3歳児保育室を使用し担当の職員とゆっくり過ごせるよう配慮している。また、水分補給を心がけている。幼児も夕方は一日の疲れが出てくる時間帯なので、折り紙や塗り絵など、向き合って座って遊べるような静の遊びの環境設定を行っている。			

6 評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	☐ 非該当

評価項目6の講評

子どもが楽しく食べる食事時間になるよう取り組んでいる

乳児は個別に用意のできた子から、幼児は同じテーブルの子が準備ができたなら一緒に「いただきます」をしている。みんな揃ってからの一斉での声かけはせず、子どもの食欲を大事にしている。食器は発達に応じたものを使用している。子どもの喫食状況を見ながら個々に応じた声かけをし、無理なく味わえる雰囲気作りをしている。個々に合わせた量を見極め、盛り付けを加減し、全品を並べて提供している。子どもが自分の好きな食べ物、苦手な食べ物を知り、「食べられるようになった」「一口食べてみた」という姿に目を向け、食の広がりを図っている。

献立や味付けを工夫し、子どもが楽しく味わって食べられる食事を提供している

給食提供の基本として、旬の食材の提供を心がけ、薄味にし素材の味を大切にしている。行事食、日本の郷土料理、世界の国の料理のメニューを取り入れ、子どもたちは味の文化を知り、喜んで食べている。食物アレルギーがある子どもは除去食や代替食を提供し、またアレルギー食材を使用しない「なかよしメニュー」の日も設定し、食物アレルギーの子どもが友だちと同じ給食を味わう機会を取り入れている。毎月の給食会議で喫食状況を確認し、味付け、形態等を検討しより美味しい、子どもの食が進む給食の提供に努めている。

栽培や調理活動など地域との連携を図りながら子どもの食への関心を高めている

子どもが食に関心を持ち、楽しみながら学べるように、各年齢でピーマンの種取りやとうもろこしの皮むきなど、様々な活動を行っている。幼児クラスではクッキングは毎月実施し、子どもたちが食材に触れたり調理に参加したりすることで、食への関心を高める機会を設けている。さらに、季節ごとに野菜を栽培し、育成から収穫、食べるまでの過程を経験できるようにしている。また、秋の収穫時期には近隣の畑にさつま芋も掘りに出かけたり、商店街の花屋では子どもたちが栽培したい野菜の苗を購入したりするなど、地域と連携し取り組んでいる。

7 評価項目7

子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	☐ 非該当

評価項目7の講評

子ども自らが衛生や安全を意識できるよう、啓発を行っている

年間保健指導計画を策定し、年間を通じ季節に応じて、手洗い、便秘について、咳エチケットなど、看護師が保健指導を行っている。また担任は、日々の生活の中で習慣化されるよう、年齢や発達に配慮しながら声かけ等で促している。看護師は検診前に子どもたちに目的等を伝え、子どもは自分のこととして健診を受けている姿がある。日々の散歩等の活動時には、交通マナー等の約束事、地震や火災の防災を想定した避難訓練でも安全に避難するための諸注意を担当が伝えるなど、看護師とも連携しながら衛生や安全への子どもの意識を高めている。

保育者や看護師、嘱託医と連携しながら子どもの健康の維持・管理を行っている

健康上の配慮が必要な子どもについては、入園時の面談で状況の把握に努め、園生活での対応方法等の確認を行っている。登園時には担当保育士が健康観察を行うとともに保護者との会話で子どもの健康状態を把握している。看護師も各クラスを巡回して子どもの健康状態を確認している。0歳児は毎週1回、他の年齢は年2回の嘱託医による健康診断のほか、幼児では耳鼻科、眼科の検診を実施して健康状態を確認している。所見があれば保護者と共有し医療機関の受診を依頼するなど、保護者・職員・嘱託医が連携して子どもの健康の維持・管理を行っている。

保護者とともに子どもの健康を支えられるよう、保健に関わる説明や情報を提供している

入園時には、健康状態の把握やポイント、園での与薬等の保健面に関する約束事のほか、睡眠時の安全管理としてのSIDS(乳幼児突然死症候群)対策などについて説明し、保護者の理解と協力を依頼している。園児が感染症に罹患した場合は、発生状況等を園内掲示やアプリ連絡帳での配信によって注意を喚起し、蔓延防止に努めている。保健便りでは、季節に応じた感染症や健康維持のための留意事項のほか、熱中症について注意喚起するなど、子どもの健康を保護者とともに支えられるよう、保健に関する情報の提供に努めている。

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○ 非該当
評価項目8の講評			
保護者の状況を把握し、保護者支援の柔軟な対応を心がけている 入園時面談で家庭状況を把握したのちも、園児、保護者の様子をくみ取るよう担任保育士だけでなく園長、主任も朝夕の送迎時、保護者との密なコミュニケーションを大切にしている。その際の会話や個人面談を通じて、保護者の困りごとや個々の事情を把握し、必要な支援を行えるよう心がけている。園の利用に関して基本的な決まり事はあるが、子どもの折々の状況に応じた時間での登園受け入れや、スポット延長利用申込みの締め切り時間を利用しやすい当日午後6時に設定するなど、就労や家庭の事情に応じて柔軟に対応し保護者支援に取り組んでいる。 保護者同士の交流の場や養育力の向上の機会を設けている 保護者が行事への参加を調整しやすいよう、年間の行事予定表を年度当初に配布するほか、園便りにも月単位の行事等の予定を掲載している。年2回行う保護者会では、園からの情報提供だけでなく、保護者同士の意見交換の場を設けて交流のきっかけを作っている。その場で出た子育ての悩みを共有し、他の保護者からの経験談等のアドバイスも聴かれている。また、保護者参加行事であるちびっこまつりや運動会は、お互いの子どもの行事での姿を通じて、楽しみながら保護者間の交流が広がる機会となっている。 保護者に子どもの園生活の様子を丁寧に伝え、子ども理解につなげている 保護者会では日頃の保育の様子を画像や動画を取り入れて伝え、「園での子どもたちの日常がよく分かる」と保護者から好評である。また、送迎時にできるだけ詳細に子どものことを伝達し合うよう心がけていることが、保護者との信頼関係構築の一助になっており、連絡帳や保育士との会話などから課題に気づくこともある。その場合は職員で協議し必要に応じて担任や園長も交えて話し合う機会を持っている。今後は、アプリを活用した画像配信やドキュメンテーションによる保育内容の紹介をより一層積極的に行っていく方針である。			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○ 非該当
評価項目9の講評			
地域との関係性を深め、地域に根づいた園となるよう取り組みを続けている ちびっこまつりや運動会では、卒園児に案内状を送付するほか、ポスターを掲示し地域の方の参加を呼びかけている。また、近隣の児童館で年に数回、保育園職員が地域の子育て中の保護者の方向けに「トイレトレーニング」「離乳食」などのテーマでお話をする機会を持ち、地域の子育て支援に取り組んでいる。参加者の方は、保育園への入園を希望されている方も多いため、保育園での生活の様子についても交えながらお話し、令和8年度の民営化により移転した後も、当園が地域資源の一つと認知されるよう、地域の方々との交流を深めている。 地域との連携からの取り組みが子どもの経験を広げる機会となっている 近隣の商店街を散歩する際は、園児に声をかけていただいており、地域の方の見守られていることを子どもたちも感じている。花屋の方が来園して「花育」を実施し、花や緑に触れる創作活動を行い、命の大切さや自然との関わりを通じて思いやりを育む活動になった。また、そのつながりから、商店街の方の協力が得られ、園児のハロウィンパレードを実施することができた。近隣の高齢者施設の方は、クリスマスにはサンタクロースに扮して来園し、子どもたちの楽しみが広がっている。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	子どもの自主性、主体性を大事にして続きを楽しみにできる保育の実践を目指している	
内容①	「どのような環境を用意すれば遊びが発展するのか」を考え、子どもが興味を持っていることを踏まえ室内外的环境を工夫し保育を行っている。年齢ごとに様々な遊具を設定し、危険のないように見守りながら子どもの力を引き出している。幼児クラスでは廃材を使い、いつでも自由に製作を楽しめるよう環境を整えている。乳児クラスでは少人数で落ち着いて過ごせるスペースを作り、その時々の子どもの気持ちを丁寧に受け止めることで安心して過ごせるようにしている。子どもが「また明日も遊びよう」と思える保育の継続を目標に、日々実践を積み重ねている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル②	子ども同士が文化・習慣の違いを認め合い、多様性を受け入れる心を育んでいる	
内容②	園では独自の保育プログラムとして、2年前から主に5歳児が「国際交流」の取り組みを始め、現在は幼児向けの国際交流プログラムを使い、全園児がオンライン形式でシンガポールやオーストラリア、ケニアの保育園と交流している。その国にちなんだゲームや手遊び等をして気軽に海外の友達や異文化に触れる機会となっている。子どもは経験を重ねることで興味や関心を持ち、自分との共通点や違いを感じ、世界観を広げるきっかけになっている。取り組みの様子は保護者にも伝えて共有し多様性を学ぶ活動のひとつとして理解を得ている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル③	異年齢児の関わりを通じて、他者と関わる力や共感する力を育んでいる	
内容③	リズム運動、食育等の活動では、広いホールを使い異年齢児交流を兼ねて行うことができている。異年齢児の関わりから受ける刺激は大きく、特に幼児クラスでは、異年齢児との交流を取り入れた活動を多く行っており、子どもたちは年齢の違う友達と関わる中で、人間関係を広げながら、他者と関わる力を育んでいる。遊びや生活の場面で小さいクラスの子どもが大きいクラスの真似をしたり、憧れの気持ちを持ったり、大きいクラスの子どもは、手伝ったり、自分達がやってあげたい、喜ばせたいという気持ちや思いやりが育まれている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの発信から豊かな保育を展開するため、様々な工夫の実践を重ねている
	内容	園庭や園舎の空間を活かした環境設定を考え、興味・関心を引き出し、子どもの「やってみたい」という思いが実現するよう取り組んでいる。子どもが主体的に集団活動に関われるよう、思いに寄り添いながら子どもからの発信を捉え、活動のプロセスを大事にした働きかけや支援の工夫をしている。乳児・幼児とも異年齢同士の関わりを通して経験する認め合いや、思いやりが育まれる活動の機会を大事にしている。活動を積み重ね力を合わせてひとつのものを作り上げる経験や、自由な発想で遊びを展開し、喜びや楽しさを味わうことができるようにしている。
2	タイトル	利用希望者の要望に応じ見学を受け入れ近隣施設と協力して子育て支援に取り組んでいる
	内容	園見学はホームページで予約ができるようになっている。見学時には、来園者の子育てに関する悩みや相談を伺う時間を設け、必要に応じてアドバイスをを行っている。また、近隣の児童館では年に数回、保育園職員が子育て世帯の方向けに「トイレトレーニング」や「離乳食」等をテーマに話をする機会があり、地域の子育て支援に取り組んでいる。当園への入園を希望する方も多いため、園での生活の様子についても交えながら話し、毎週火曜日の英語の時間に1歳児クラスの保育体験ができるようにして個別に対応している。
3	タイトル	学びの機会が職員間の円滑なチームワークと組織力や保育の質の向上につながっている
	内容	職員は同僚性があり、保育について語り合える風通しの良い雰囲気が職場全体に感じられる。普段から互いに言葉を交わしコミュニケーションを図り、役割分担を明確にして業務が効率的に進められるよう工夫している。また、法人の社員教育の仕組みも明確で、所属の施設を超えて行われる意見交換会ではそれぞれの取り組みを発表したり、アイデアが生まれ取り組みの幅を広げたり、交換研修や公開保育等の機会で主体的に学ぶことができる。一人ひとりの人間力の高まりが保育の質の向上につながり、保育の現場で気持ち良く協力して助け合うことができている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	引き続き保護者との信頼関係構築に努め、子どもの育ちを共有し保育を伝えていく
	内容	日頃より保護者とのコミュニケーションに努め、様々な機会を通して保育の共有化を進めている。子育ての悩みや保護者自身のこと等、職員は保護者の話を傾聴し必要に応じて面談時間を設けて、丁寧な対応や支援を行っている。園としては活動の報告に留まらず、保護者と子どもの姿を共有し、心身の成長をともに支えていくことを目指している。今後も引き続き、園生活から子どもが様々な学びを得ていることや取り組みの過程、遊びや活動のねらいの「見える化」につなげ、園の保育に対する理解と信頼を深め保護者支援を継続していくことを課題としている。
2	タイトル	様々なリスクに対して必要な対策を見直し、より安全性を高めていく
	内容	地震や火災、風水害等を想定して対策を進めている。そのさらなる充実のためには、具体的な防災対策を職員間で共有し、安全に関する各計画と個々の職員の行動を連動させていく必要がある。また、職員が防災に関する研修に積極的に参加し、日頃から防災意識を高めていくことも重要である。さらに、子どもの安全の確保という意味では防犯対策も不可欠であるため、実技を含む研修を継続的に実施し、隣接する児童館とも連携して安全対策を強化していく必要がある。今後も引き続き、安全な保育環境の維持・向上に取り組んでいくことを課題としている。
3	タイトル	職員一人ひとりの意識を向上させ、さらなる組織のチームワーク促進に邁進していく
	内容	日頃から実践を通じた保育の振り返りを行い、職員間での共有に努めている。新園舎移転を控え、さらに職員同士のつながりを深めたいと考えている。日々のミーティングだけではなく、乳児会議、幼児会議、リーダー会議での情報共有に力を入れ、互いを理解し、一人ひとりが思いを活発に発信できる環境づくりが必要だと感じている。それには職層や経験に応じた職員の気付きを尊重し、個々の力を日々の保育に活かせるような組織環境の維持が不可欠となる。エリアマネージャーを含めた対話を大切にし、チームワークの向上を図っていくことを課題としている。

巻末 付属資料

付属資料1 事業プロフィール

付属資料2 組織マネジメント分析シート

付属資料3 サービス分析シート

付属資料4 職員アンケート

付属資料5 利用者調査

使用帳票1 事業プロフィール

事業プロフィールⅠ

1 事業所名：

2 園長について

氏名：

園長歴：年目 当園での園長歴：年目

園長としての評価受審回数：回 副園長時代の評価受審回数：回
※当園に限らない

3 副園長について

氏名：

副園長歴：年目 当園での副園長歴：年目

副園長としての評価受審回数：回
数※当園に限らない

氏名：

主任歴：年目 当園での主任歴：年目

主任としての評価受審回数：回
※当園に限らない

4 職員の状況

1 前年度3月当園からの異動・退職、今年度4月当園への赴任

	計	常勤	非常勤
異動・退職			
赴任			

2 常勤職員の平均年齢 歳

3 常勤職員の現在の園での平均在職年数 年 ※今年度からの方は「1年」とする

5 利用者の状況（保護者アンケート配布時点現在）

在園児の人数 人 世帯数 世帯

6 最寄りの駅： 駅からの所要時間：

事業プロフィールⅡ

1 理念・方針 ※報告書と共にインターネット上に公表されます※

→別紙

2 サービス提供の考え方について記述

日々の業務の考え方、利用者ニーズに合わせた事業者独自の取組、利用者や家族との関係、地域との関係を含む

3 期待する職員像（関連 カテゴリー5職員と組織の能力向上） ※報告書と共にインターネット上に公表されます※

→別紙（シート②）にて記入

4 現在のサービス提供能力と利用者数 （一つに○）

- 1） サービスを希望しながら待っている人（事業所に登録している待機者）がかなりいる
- 2） ほぼサービス提供能力に見合った利用者数で、待機者はほとんどいない
（ほぼ定員を満たしている）
- 3） サービス提供能力に余力があり、希望者があれば受け入れたい

5 3年後の見通し （一つに○）

- 1） 施設規模の拡大または新たなサービス提供を行う計画がある
- 2） 現在の施設規模、サービス提供能力を維持する方向で考えている
- 3） 現在のサービス提供能力を維持するのは、経営改善・サービス改善をしていかないとかなり
難しい情勢になっているのではないと思う
- 4） その他（ ）

6-1 人的サービス面で、力を入れて取り組んでいる点

1)	
2)	
3)	

6-2 設備・環境面で、力を入れて取り組んでいる点

1)	
2)	
3)	

7 当該事業の開始時から現在までの重要な変遷（制度改正に基づくもの含む）

1)開始時期 年 月

2)重要な変遷

8 経営に影響を与えていると考えている事業環境の変化を記述（制度改正を含む）

- 9 評価対象としているサービス事業を維持・向上させていくためにこれから何をしていかなければならないかについて、重要な順に3つ以内で記述

1)

2)

3)

- 10 ○第三者評価を受けることや評価機関について
今回受けるにあたり、期待したいこと。

- 11 評価を実施するにあたり、評価機関に知っていて欲しいこと（経営層が考えていること、利用者の状況、職員の状況など）

※公表されます

入力の際は、文字の大きさやフォントは変更しないでください。

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） （1）職員に求めている人材像や役割
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）

事業プロフィールⅠ（7 定員及び現在の利用者 内訳） 認可保育所 版

7 定員及び現在の利用者

※下記の利用者の状況が分かる表を添付するか、下の空白部分に書き込んでください。

(1) 一般保育

	定員（人）	利用者児（人）	利用者アンケート配布数	
0歳児				
1歳児				
2歳児				部
3歳児				
4歳児				
5歳児				
計	0	0		

(2) 多様な保育サービス

	定員（人）	利用者児（人）	料金（円）	備 考
産休明け保育				
延長保育事業				() 時間延長
病児・病後児保育事業				
休日保育				
一時預かり事業				
障害児保育事業				
分園設置				
アレルギー児対応				
夜間保育				
育児困難家庭への支援				
外国人児童受入れ				
年末年始保育				
子育て広場※1				事業内容番号
在宅子育て支援※2				事業内容番号
その他（ ）				
計	0	0		

※1 子育て広場には、つどいの広場を含む。

※2 「在宅子育て支援」欄は、在宅子育て家庭を対象とした子育て支援事業を実施している場合に、備考欄に下記の事業内容番号を記入すること。

- ①育児相談 ②育児講座 ③保育所体験 ④出産を迎える親の体験学習
 ⑤子育てサークル支援 ⑥子育て情報誌の発行 ⑦家庭訪問 ⑧出前保育

使用帳票2 組織マネジメント分析シート

組織マネジメント分析シート

【経営層合議用】

・記入手順

・カテゴリー

1.リーダーシップと意思決定

2.事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行

3. 経営における社会的責任

4.リスクマネジメント

5.職員と組織の能力向上

7.事業所の重要課題に対する組織的な活動

作成日 (完成日)	令和 年 月 日		
事業所名			
	(役職)	(氏名)	

記入手順

1 「評価項目」に対する事業所の取り組み状況を確認するために、「標準項目」の実施状況をチェックします。「標準項目」にはどんな事象が該当するのか、「評価項目」の〔ねらい〕を確認のうえ「カテゴリー」及び「サブカテゴリー」の趣旨から外れないように合議します。

2 「標準項目」に該当するあなたの事業所における実践例を「実践例」欄に、その取り組みの記録等にあたるものを「記録」欄にそれぞれ記入します。記録と実践例が同じである場合、「記録」欄は省略できます。

3 「標準項目」ができていると確認するための要件は、次の1、2、3をすべてを満たした場合です。

1. 事業者が当該事項を実施していること
2. その実施が継続的（必要性を認識し、計画的）であること
⇒「実践例」欄に記入する内容です。
3. その根拠が示せること
⇒「記録」欄に記入する内容です。

4 標準項目について確認した後、サブカテゴリーごとに「良い点」「改善点・課題点」を記述します。

5. カテゴリー7においては、前年度に行った、事業所の重要課題（サービス提供のプロセスに関するものも含む）に対する組織的な活動を記載します。

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題についての、前年度の目標設定、目標に対する取り組み、取り組みの結果を踏まえた今年度の事業活動への反映事項を記入します。

そして、前年度に事業所の重要課題に対する活動がPDCAサイクルに基づいて行われたかどうか、評価機関が客観的に判断し、①目標の設定と取り組み、②取り組みの検証、③検証結果の反映を評語を用いて評価します。

カテゴリー１ リーダーシップと意思決定

サブカテゴリー１ 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている

評価項目 １－１－１

事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している

[ねらい]

- ・理念・ビジョン、基本方針を達成するためにそれを職員や利用者等の関係者がわかるように周知しているか
- ・それを職員の日頃の行動に結びつけるための取り組みを行っているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている 1		
事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている 2		

評価項目 １－１－２

経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている

[ねらい]

- ・経営層は、理念等を実現するため、自らの役割と責任を職員にわかりやすく伝えているか
- ・経営層は、理念等を実現するために、方向性を示しリーダーシップを発揮しているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている 1		
経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している 2		

評価項目 1-1-3

重要な案件について、経営層（運営管理者含む）は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

[ねらい]・重要な案件については、組織として決定する手順をあらかじめ定めているか
・職員や利用者等に意思決定過程の透明性を図っているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている		
2 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している		
3 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている		

カテゴリー1 について リーダーシップと意思決定

【良い点】 重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと	【改善点・課題点】 今後力を入れて取り組んでいきたいこと

カテゴリー 2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行

サブカテゴリー1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

評価項目 2-1-1

事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

[ねらい]

・利用者や職員の意向、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向、事業所の経営状況などを、様々な機会をとらえて積極的に把握・検討し、対応すべき課題を抽出しているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している		
2 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している		
3 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している		
4 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している		
5 事業所の経営状況を把握・検討している		
6 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している		

サブカテゴリー2 実践的な計画策定に取り組んでいる

評価項目 2-2-1

事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している

[ねらい]

- ・事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた事業計画や予算が策定されているか
- ・その計画や予算は現場や利用者の意向、地域福祉のニーズや事業所の課題等を踏まえたものとなっているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している		
2 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している		
3 策定している計画に合わせた予算編成を行っている		

評価項目 2-2-2

着実な計画の実行に取り組んでいる

[ねらい]

・策定した計画に基づいて、進捗状況に応じ見直しを行いながら、目標達成に向けて取り組んでいるか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している		
2 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる		

カテゴリ-2 について 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行

【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと	【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと

カテゴリー3 経営における社会的責任

サブカテゴリー1 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

評価項目 3-1-1

社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる

[ねらい]

・事業所が社会的な役割を果たすために、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを、職員に対して周知・徹底しているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		
2 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している		

サブカテゴリー2 利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている

評価項目 3-2-1

利用者の意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている

[ねらい]

・事業所内外の苦情解決制度や相談窓口を機能させるとともに、様々な機会をとらえて利用者の意向を把握し、組織全体で迅速に対応する体制を整えているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		
2 利用者の意向（意見・要望・苦情）に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		

評価項目 3-2-2

虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている

[ねらい]・虐待の防止と早期発見、早期対応を行う体制を、組織として整えているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		
2 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		

サブカテゴリー3 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

評価項目 3-3-1

透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

[ねらい]・地域社会への情報開示などにより透明性を高め、地域社会に開かれた組織となつて、地域との関係づくりに取り組んでいるか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		
2 ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		

評価項目 3-3-2

地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

[ねらい]・事業所が有している機能や福祉の専門性を活かしながら、関係機関と連携して地域の一員としての役割を果たすための取り組みを行っているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		
2 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		
3 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		

カテゴリー3 について 経営における社会的責任

【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと	【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと

カテゴリー 4 リスクマネジメント

サブカテゴリー1 リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる

評価項目 4-1-1

事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる

[ねらい]

・事業所が目指していることの実現を阻害するリスクを洗い出し、必要なリスクマネジメントの対策をとっているか

	標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1	事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている		
2	優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている		
3	災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している		
4	リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる		
5	事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる		

サブカテゴリー2 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

評価項目 4-2-1

事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

[ねらい]

- ・事業所に必要な情報を適切に収集、整理した上で、組織的に管理・保護し、活用を図っているか
- ・事業所で扱っている個人情報の取り扱いについて、規程・体制を整備し、必要な対策を講じているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている		
2 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している		
3 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている		
4 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している		

カテゴリー4 について リスクマネジメント

【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと	【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと

カテゴリー 5 職員と組織の能力向上

サブカテゴリー1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる

評価項目 5-1-1

事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている

[ねらい]・理念・ビジョン、基本方針の実現に必要な人材確保や配置を行っているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		
2 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		

評価項目 5-1-2

事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している

[ねらい]

- ・事業所として求める人材像を具体的に定め、それに基づくキャリアパスを職員へ周知しているか
- ・事業所のキャリアパスと事業所の人材育成計画が整合しており、職員のキャリアアップを支援しているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		
2 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		

評価項目 5-1-3

事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる

[ねらい]

- ・事業所が目指していることの実現に適した人材の育成に向けて、個人の意向、理解度、到達状況、就業状況に合わせ、きめ細かい指導を行っているか
- ・指導者の支援に取り組んでいるか

	標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1	勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		
2	職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		
3	職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		
4	指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		

評価項目 5-1-4

職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる

[ねらい]・職員の定着により組織力を発揮するために、事業所として職員の意識を把握して、意欲向上に向けた働きかけを行っているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		
2 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		
3 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		
4 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		

サブカテゴリー2 組織力の向上に取り組んでいる

評価項目 5-2-1

組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

[ねらい]・組織力の向上に向け、職員一人ひとりの学びや気づきの共有化を図るなど、チーム力を発揮できるようどのように取り組んでいるか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		
2 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		
3 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		

カテゴリー5 について 職員と組織の能力向上

【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと	【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと

カテゴリ7 事業所の重要課題に対する組織的な活動 ※前年度の取り組みについて記述する
①前年度の事業計画における目標設定、②前年度の取り組み、③前年度の取り組みの総括（前年度の事業報告）、④今年度の事業計画への反映

サブカテゴリ1 事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目 1

・事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、**前年度**具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その1）

【課題・目標】

事業所の理念・基本方針の実現を図るための**重要課題**（事業計画に掲げた事項等）、そしてその**課題**に対して**前年度**に設定した**目標**を記載します。（重要課題の中で、**前年度中**に達成すべきとしていた短期的な目標を記載する。）

①

○上記の課題を抽出した理由・背景

【取り組み】

上記の目標を達成するために、**前年度**に行った具体的な取り組み（体制・期間・内容等）を記載します。

②

【取り組みの結果】

前年度末までの取り組みの状況や目標達成の度合いを具体的に記載します。

③

【振り返り(検証)・今後の方向性】

【取り組みの結果】について検証した内容と、どのように**今年度**の目標設定や取り組みに反映したかを記載します。

④

評価項目 2

・事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、**前年度**具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その2）

【課題・目標】

事業所の理念・基本方針の実現を図るための**重要課題**（事業計画に掲げた事項等）、そしてその**課題**に対して**前年度**に設定した**目標**を記載します。（重要課題の中で、**前年度中に**達成すべきとしていた短期的な目標を記載する。）

①

○上記の課題を抽出した理由・背景

【取り組み】

上記の目標を達成するために、**前年度**に行った具体的な取り組み（体制・期間・内容等）を記載します。

②

【取り組みの結果】

前年度末までの取り組みの状況や目標達成の度合いを具体的に記載します。

③

【振り返り(検証)・今後の方向性】

【取り組みの結果】について検証した内容と、どのように**今年度**の目標設定や取り組みに反映したかを記載します。

④

○【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと①

○【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと②

●【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと①

●【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと②

使用帳票3 サービス分析シート

サ ー ビ ス 分 析 シ ー ト
 (6. サービス提供のプロセス)
 ―認可保育所―
 【経営層合議用】

・記入手順

・カテゴリー

6. サービス提供のプロセス

サブカテゴリー1 サービス情報の提供

サブカテゴリー2 サービスの開始・終了時の対応

サブカテゴリー3 個別状況に応じた計画策定・記録

サブカテゴリー4 サービスの実施

サブカテゴリー5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

サブカテゴリー6 事業所業務の標準化

総括

作成日 (完成日)	令和 年 月 日		
事業所名			
	(役職)	(氏名)	

記入手順

1 評価項目に対する事業所の取り組み状況を確認するために、「標準項目」の実施状況をチェックします。「標準項目」にはどんな事象が該当するのか、「評価項目」の〔ねらい〕を確認のうえ「カテゴリー」及び「サブカテゴリー」の趣旨から外れないように合議します。

2 「標準項目」に該当するあなたの事業所における実践例を「実践例」欄に、その取り組みの記録等にあたるものを「記録」欄にそれぞれ記入します。記録と実践例が同じである場合、「記録」欄は省略できます。

※実践例が思い当たらない場合（取り組みが行われていないと思う場合）、
「今後どのようにしたいか」を記入します。

3 「標準項目」ができていると確認するための要件は、次の1、2、3をすべてを満たした場合です。

1. 事業者が当該事項を実施していること
2. その実施が継続的（必要性を認識し、計画的）であること
⇒「実践例」欄に記入する内容です。
3. その根拠が示せること
⇒「記録」欄に記入する内容です。

4 標準項目について確認した後、サブカテゴリーごとに「良い点」「改善したい点」を記述します。

※サブカテゴリー4「サービスの実施」は、評価項目ごとに記述します。

⇒「良い点」

重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと など

⇒「改善点・課題点」

今後力を入れて取り組んでいきたいこと など

5 最後に、全体の総括を記入します。

ここに記述された良い点や課題点、訪問調査での成果が、報告書に記載される「良い点」「改善点」の参考情報となります。

カテゴリー6 サービス提供のプロセス

サブカテゴリー1 サービス情報の提供

※在園時保護者ではなく、潜在的な利用者に向けた情報提供

評価項目 6-1-1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		
[ねらい] ・サービスを選択するための情報が、利用者に届くように工夫して提供しているか ・パンフレットやホームページ等の存在のみを評価するものではない		
標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		
2 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている		
3 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		
4 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		

サブカテゴリー1 サービス情報の提供 について

【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと	【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと

サブカテゴリー2 サービスの開始・終了時の対応

評価項目 6-2-1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている [ねらい] ・サービス開始時に、保護者の状況に応じたサービス内容の説明をしているか ・十分な説明をしたうえで、保護者の意向を確認し、納得を得ているか		
標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		
2 サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		
3 サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		

評価項目 6-2-2

サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている

- [ねらい] ・サービス開始時の環境変化による影響を緩和する取り組みをしているか
・子どもがサービスを終了する場合、子どもや保護者の不安を軽減するための取り組みをしているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		
2 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		
3 サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		

サブカテゴリ2 サービスの開始・終了時の対応 について

【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと	【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと

サブカテゴリー3 個別状況の記録と計画策定

評価項目 6-3-1		
定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		
[ねらい] ・保育をするうえで必要な子ども個人の情報をどのように把握しているか ・子どもの状況に応じたアセスメントの手順や改訂基準が確立しているか		
標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している		
2 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		
3 アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている		

評価項目 6-3-2

全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

[ねらい]

- ・全体的な計画や子どもの実態、子どもを取り巻く状況(保護者の意向を含む)をどのように取り入れ、指導計画を作成しているか
- ・個別的な計画を作成するしくみがあり、子どもの状況に応じて作成、見直しをしているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している		
2 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている		
3 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている		
4 指導計画を保護者にわかりやすく説明している		
5 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている		

評価項目 6-3-3

子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

- [ねらい] ・職員が、子どもの状況の変化等をどのように記録しているか
・具体的な保育内容や子どもの変化等が適切に記録されているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
¹ 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載する しくみがある		
² 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果 子どもの状態がどのように推移したのかについて 具体的に記録している		

評価項目 6-3-4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

- [ねらい] ・子どもに関わる情報を職員間でどのように共有化しているか
・日々の子どもの変化等をどのような方策で共有化しているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している		
2 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている		
3 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている		

サブカテゴリー3 個別状況の記録と計画策定 について

【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと

【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと

サブカテゴリー4 サービスの実施

評価項目 6-4-1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている [ねらい] ・一人ひとりの子どもの発達の過程をどのように把握しているか ・集団での生活の中で子ども一人ひとりを尊重した援助をしているか		
標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		
2 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している		
3 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		
4 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		

5	発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつきの等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		
6	【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している		

評価項目 6-4-1 について

【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと	【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと

評価項目 6-4-2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

- [ねらい] ・子どもの生活の連続性に配慮した保育を行っているか
・子どもの状態を保護者と保育所で共有することができているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		
2 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している		
3 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		
4 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		

評価項目 6-4-2 について

【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと	【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと

評価項目 6-4-3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

- [ねらい] ・子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう、環境や取り組みにどのような工夫をしているか
・教育の5領域に即した取り組みを、子どもの年齢や発達の状態に応じて行っているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている		
2 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している		
3 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉（発声や喃語を含む）や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している		
4 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている		

5	戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている		
6	生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している		

評価項目 6-4-3 について

【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと	【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと

評価項目 6-4-4

日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

[ねらい] ・子どもが興味を持ち、協力して進められる行事をどのように実施しているか
・行事の実施に対する保育所の考え・目的は何か

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		
2 みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		
3 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		

評価項目 6-4-4 について

【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと	【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと

評価項目 6-4-5

保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

〔ねらい〕・保育時間の長い子どもがくつろげるような工夫をしているか

・保育時間が長くなることにより保育形態や担当職員が変わっても、子どもが楽しく過ごせるようにしているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		
2 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		

評価項目 6-4-5 について

【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと

【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと

評価項目 6-4-6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

[ねらい] ・年齢等にあった調理方法や食習慣に応じた食事を提供しているか
・食育の推進にむけた取り組みを行っているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		
2 メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		
3 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		
4 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		
5 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている		

評価項目 6-4-6 について

【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと

【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと

評価項目 6-4-7

子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

- [ねらい] ・子どもを病気や怪我から守る取り組みを行っているか
・専門機関や保護者との連携をどのように行っているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している		
2 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている		
3 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている		

評価項目 6-4-7 について

【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと

【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと

評価項目 6-4-8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

- [ねらい] ・保護者の個々の事情に応じた子育て支援を行っているか
・園で実施する保育活動に対し、保護者の理解や参加を促しているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		
2 保護者同士が交流できる機会を設けている		
3 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		
4 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		
5 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		

評価項目 6-4-8 について

【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと

【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと

評価項目 6-4-9

地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

- [ねらい] ・子どもの生活の幅を広げる視点から、地域とのかかわりをどのように考えているか
・子どもが地域とかかわる機会をどのように設けているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		
2 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		

評価項目 6-4-9 について

【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと	【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと

サブカテゴリー5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

評価項目 6-5-1 子どものプライバシー保護を徹底している		
[ねらい] ・日常の中で、どのように子どものプライバシーの保護をしているのか ・組織としての規定やしぐみに則って行動しており、属人的な対応になっていないか		
標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする 必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている		
2 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		

評価項目 6-5-2

サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

- [ねらい] ・サービス提供の中で、子どもの権利を擁護し、意思を尊重しているか
・子どもと保護者の価値観等を考慮し、その人らしい生活を尊重しているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		
2 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		
3 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		

サブカテゴリ5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重 について

【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと	【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと

サブカテゴリー6 事業所業務の標準化

評価項目 6-6-1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている [ねらい] ・業務の一定水準を確保するための手引書等を整備し、実施しているか ・業務の標準化は、対人援助の単純化や画一化をめざすものではない		
標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		
2 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		
3 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		

評価項目 6-6-2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

- [ねらい] ・業務の標準レベルを見直す仕組みを確立しているか
 ・よりよいサービスをめざし、職員や保護者等の意見を反映して見直しを行っているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている		
2 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		

サブカテゴリー6 事業所業務の標準化 について

【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと	【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと

良い点・課題点について

①事業所の良い点や課題点について、最大3点まで記述する。

②ここに記述された良い点や課題点、訪問調査での成果が、報告書に記載される「良い点」「改善点」の参考情報となる。

保育面から見た、事業所の

○【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと①

○【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと②

○【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと③

●【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと①

●【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと②

●【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと③

使用帳票4 職員アンケート

カテゴリー1 リーダーシップと意思決定

サブカテゴリー1 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている

1-1-1 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を周知している

ア	①事業所は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	そう思う	そう思わない	分からない
イ	②私は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を理解できている	そう思う	そう思わない	分からない
ウ	事業所は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	そう思う	そう思わない	分からない

1-1-2 経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている

ア	①事業所では、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、経営層が自らの役割と責任を職員に伝えている	そう思う	そう思わない	分からない
イ	②私は、経営層の役割と責任を理解できている	そう思う	そう思わない	分からない
ウ	事業所では、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、経営層が自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	そう思う	そう思わない	分からない

1-1-3 重要な案件について、経営層（運営管理者含む）は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

ア	事業所では、重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	そう思う	そう思わない	分からない
イ	①事業所では、経営層が重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	そう思う	そう思わない	分からない
ウ	②私は、経営層から、重要な意思決定に関して、その内容と決定経緯を知らされている	そう思う	そう思わない	分からない
エ	事業所では、利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	そう思う	そう思わない	分からない

カテゴリー2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行

サブカテゴリー1

事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

2-1-1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

ア	事業所は、利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	そう思う	そう思わない	分からない
イ	事業所は、事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	そう思う	そう思わない	分からない
ウ	事業所は、地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	そう思う	そう思わない	分からない
エ	事業所は、福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）について情報を収集し、課題やニーズを把握している	そう思う	そう思わない	分からない
オ	事業所は、事業所の経営状況を把握・検討している	そう思う	そう思わない	分からない
カ	事業所は、把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	そう思う	そう思わない	分からない

サブカテゴリー2 実践的な計画策定に取り組んでいる

2-2-1 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している

ア	事業所は、課題をふまえ、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画を策定している	そう思う	そう思わない	分からない
イ	事業所は、中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	そう思う	そう思わない	分からない
ウ	事業所は、策定している計画に合わせた予算編成を行っている	そう思う	そう思わない	分からない

2-2-2 着実な計画の実行に取り組んでいる

ア	事業所は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた、計画の推進方法（体制、職員の役割や活動内容など）、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	そう思う	そう思わない	分からない
イ	事業所は、計画推進にあたり、進捗状況を確認し（半期・月単位など）、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	そう思う	そう思わない	分からない

カテゴリー3 経営における社会的責任

サブカテゴリー1

社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

3-1-1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる

ア	①事業所は、全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	そう思う	そう思わない	分からない
イ	②私は、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などを理解できている	そう思う	そう思わない	分からない
ウ	①事業所は、全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している	そう思う	そう思わない	分からない
エ	②私は、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などを遵守している	そう思う	そう思わない	分からない

サブカテゴリー2

利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている

3-2-1 利用者の意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている

ア	事業所は、苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	そう思う	そう思わない	分からない
イ	事業所には、利用者の意向（意見・要望・苦情）に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	そう思う	そう思わない	分からない

3-2-2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている

ア	事業所は、利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	そう思う	そう思わない	分からない
イ	事業所は、虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	そう思う	そう思わない	分からない

サブカテゴリー3 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

3-3-1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

ア	事業所は、透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	そう思う	そう思わない	分からない
イ	事業所は、ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	そう思う	そう思わない	分からない

3-3-2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

ア	事業所は、地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	そう思う	そう思わない	分からない
イ	事業所は、事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク（事業者連絡会、施設長会など）に参画している	そう思う	そう思わない	分からない
ウ	事業所は、地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	そう思う	そう思わない	分からない

カテゴリー4 リスクマネジメント

サブカテゴリー1 リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる

4-1-1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる

ア	事業所は、事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク（事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など）を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	そう思う	そう思わない	分からない
イ	事業所は、優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	そう思う	そう思わない	分からない
ウ	事業所は、災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画（BCP）を策定している	そう思う	そう思わない	分からない
エ	①事業所は、リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	そう思う	そう思わない	分からない
オ	②私は、リスクに対する必要な対策や事業継続計画について理解できており、自分の役割に応じて対応できる	そう思う	そう思わない	分からない
カ	事業所は、事故、感染症、侵入、災害などが発生した時は、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	そう思う	そう思わない	分からない

4-1-2 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

ア	①事業所は、情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員（実習生やボランティアを含む）が理解し遵守するための取り組みを行っている	そう思う	そう思わない	分からない
イ	②私は、情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを理解し遵守している	そう思う	そう思わない	分からない
ウ	事業所は、収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	そう思う	そう思わない	分からない
エ	事業所は、情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	そう思う	そう思わない	分からない
オ	事業所は、事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	そう思う	そう思わない	分からない

カテゴリー5 職員と組織の能力向上

サブカテゴリー1

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる

5-1-1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている

ア	事業所は、事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	そう思う	そう思わない	分からない
イ	事業所は、事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	そう思う	そう思わない	分からない

5-1-2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している

ア	①事業所では、事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）が職員に分かりやすく周知されている	そう思う	そう思わない	分からない
イ	②私は、事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）を理解できている	そう思う	そう思わない	分からない
ウ	事業所は、事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）と連動した事業所の人材育成計画を策定している	そう思う	そう思わない	分からない

5-1-3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる

ア	①事業所は、勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	そう思う	そう思わない	分からない
イ	②私には、事業所から様々な研修等の機会が与えられている	そう思う	そう思わない	分からない
ウ	①事業所は、職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している	そう思う	そう思わない	分からない
エ	②私の育成（研修）計画は、私の意向や経験等に基づいて策定されている	そう思う	そう思わない	分からない
オ	①事業所は、職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成（研修）計画へ反映している	そう思う	そう思わない	分からない
カ	②私の育成（研修）計画には、事業所が私の育成の成果を確認した内容が反映されている	そう思う	そう思わない	分からない

キ	事業所では、指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	そう思う	そう思わない	分からない

5-1-4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる

ア	事業所は、事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇（賃金、昇進・昇格等）・称賛などを連動させている	そう思う	そう思わない	分からない
イ	事業所は、就業状況（勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど）を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	そう思う	そう思わない	分からない
ウ	①事業所は、職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	そう思う	そう思わない	分からない
エ	②私はこの事業所の仕事について、意欲と働きがいを持つことができる	そう思う	そう思わない	分からない
オ	①事業所は、職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	そう思う	そう思わない	分からない
カ	②私の職場では、良好な人間関係が構築されている	そう思う	そう思わない	分からない

サブカテゴリー2 組織力の向上に取り組んでいる

5-2-1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

ア	①事業所は、職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	そう思う	そう思わない	分からない
イ	②私が学んだ研修内容は、レポートや発表等で報告し、職員間で共有化している	そう思う	そう思わない	分からない
ウ	①事業所は、職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	そう思う	そう思わない	分からない
エ	②私の日頃の気づきや工夫について、他の職員と互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす機会がある	そう思う	そう思わない	分からない
オ	事業所は、目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	そう思う	そう思わない	分からない

サブカテゴリー 1 サービス情報の提供

6-1-1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している

ア	利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	そう思う	そう思わない	分からない
イ	利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	そう思う	そう思わない	分からない
ウ	事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	そう思う	そう思わない	分からない
エ	利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	そう思う	そう思わない	分からない

サブカテゴリー 2 サービスの開始・終了時の対応

6-2-1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている

ア	サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	そう思う	そう思わない	わからない
イ	サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	そう思う	そう思わない	わからない
ウ	サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	そう思う	そう思わない	わからない

6-2-2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている

ア	サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	そう思う	そう思わない	わからない
イ	利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	そう思う	そう思わない	わからない
ウ	サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	そう思う	そう思わない	わからない

サブカテゴリー 3 個別状況に応じた計画策定・記録

6-3-1 定められた手順に従ってアセスメント（情報収集、分析および課題設定）を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

ア	子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	そう思う	そう思わない	わからない
イ	子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	そう思う	そう思わない	わからない
ウ	アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	そう思う	そう思わない	わからない

6-3-2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

ア	指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護（生命の保持・情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の各領域を考慮して作成している	そう思う	そう思わない	わからない
イ	指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	そう思う	そう思わない	わからない
ウ	個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況（年齢・発達の状況など）に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	そう思う	そう思わない	わからない
エ	指導計画を保護者にわかりやすく説明している	そう思う	そう思わない	わからない
オ	指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	そう思う	そう思わない	わからない

6-3-3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

ア	子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	そう思う	そう思わない	わからない
イ	指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	そう思う	そう思わない	わからない

6-3-4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

ア	指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	そう思う	そう思わない	わからない
イ	申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	そう思う	そう思わない	わからない
ウ	子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	そう思う	そう思わない	わからない

サブカテゴリー４ サービスの実施

6-4-1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている

ア	発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	そう思う	そう思わない	わからない
イ	子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	そう思う	そう思わない	わからない
ウ	子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	そう思う	そう思わない	わからない
エ	特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	そう思う	そう思わない	わからない
オ	発達の過程で生じる子ども同士のトラブル（けんか・かみつきの等）に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	そう思う	そう思わない	わからない
カ	【５歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	そう思う	そう思わない	わからない

6-4-2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

ア	登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	そう思う	そう思わない	わからない
イ	発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	そう思う	そう思わない	わからない
ウ	休息（昼寝を含む）の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	そう思う	そう思わない	わからない
エ	降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	そう思う	そう思わない	わからない

6-4-3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

ア	子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	そう思う	そう思わない	わからない
イ	子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	そう思う	そう思わない	わからない
ウ	子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	そう思う	そう思わない	わからない
エ	子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	そう思う	そう思わない	わからない
オ	戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	そう思う	そう思わない	わからない
カ	生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	そう思う	そう思わない	わからない

6-4-4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

ア	行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	そう思う	そう思わない	わからない
イ	みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	そう思う	そう思わない	わからない
ウ	子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	そう思う	そう思わない	わからない

6-4-5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

ア	保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	そう思う	そう思わない	わからない
イ	保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	そう思う	そう思わない	わからない

6-4-6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

ア	子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	そう思う	そう思わない	わからない
イ	メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	そう思う	そう思わない	わからない
ウ	子どもの体調（食物アレルギーを含む）や文化の違いに応じた食事を提供している	そう思う	そう思わない	わからない
エ	食についての関心を深めるための取り組み（食材の栽培や子どもの調理活動等）を行っている	そう思う	そう思わない	わからない
オ	保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	そう思う	そう思わない	わからない

6-4-7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

ア	子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	そう思う	そう思わない	わからない
イ	医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	そう思う	そう思わない	わからない
ウ	保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み（乳幼児突然死症候群の予防を含む）を行っている	そう思う	そう思わない	わからない

6-4-8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

ア	保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	そう思う	そう思わない	わからない
イ	保護者同士が交流できる機会を設けている	そう思う	そう思わない	わからない
ウ	保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	そう思う	そう思わない	わからない
エ	子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	そう思う	そう思わない	わからない
オ	保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	そう思う	そう思わない	わからない

6-4-9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

ア	地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	そう思う	そう思わない	わからない
イ	園の行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	そう思う	そう思わない	わからない

サブカテゴリー5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

6-5-1 子どものプライバシー保護を徹底している

ア	子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	そう思う	そう思わない	わからない
イ	子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	そう思う	そう思わない	わからない

6-5-2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

ア	日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	そう思う	そう思わない	わからない
イ	子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	そう思う	そう思わない	わからない
ウ	虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	そう思う	そう思わない	わからない

サブカテゴリー6 事業所業務の標準化

6-6-1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

ア	手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	そう思う	そう思わない	わからない
イ	提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	そう思う	そう思わない	わからない
ウ	職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	そう思う	そう思わない	わからない

6-6-2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

ア	提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	そう思う	そう思わない	わからない
イ	提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	そう思う	そう思わない	わからない

○あなたの働く事業所が行った前年度の取り組みにより、良くなったと思う点は、どんなことがありますか。

1

○良い点・強み（これまでの取り組みを振り返ってみて）
あなたの働く事業所の良い点は、どんなところですか。

2

・【良い点・強み】組織の理念や方針、運営や人材育成の仕組みなどの運営面

3

・【良い点・強み】現場での援助・教育・保育の面

4

・【良い点・強み】地域との関係面

5

・【良い点・強み】働く場として

○今後に向けた取り組み

①【課題点】より良い事業所にしていくために、組織の一員として、あなたが
できること、やるべきだと思うこと、やりたいと思うことは、どんな
ことですか。

6

②【課題点】より良い事業所にしていくために、組織（法人・事業所）と
してできること、組織（法人・事業所）としてやってほしいことは、どん
なことですか。

7

事業所名：

使用帳票5 利用者調査

以下、皆さんのお気持ちに最も近い選択肢を1つだけ選び、○印をお付けください。質問事項に対してご意見などがある場合は、（自由意見）欄にご記入ください。

※ 複数のお子さんがいらっしゃる場合は、一番年齢の低いお子さんの例でご回答下さい。

<サービスの提供について>

問1.	園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っている	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当
(自由意見)					
問2.	園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっている	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当
(自由意見)					
問3.	園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっている	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当
(自由意見)					
問4.	戸外遊びや行事などにより、お子さんが自然や社会と関わる機会は十分確保されている	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当
(自由意見)					
問5.	急な残業などであらかじめ取り決めた利用時間を変更する必要がある場合、柔軟に対応してくれている	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当
(自由意見)					
問6.	安全対策が十分取られている	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当
(自由意見)					
問7.	行事の日程は参加しやすいように十分な配慮がされている	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当
(自由意見)					
問8.	お子さんの気持ちや様子・子育てなどについて、職員と話したり相談することができるような信頼関係がある	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当
(自由意見)					

<安心・快適性について>

問9.	園内は清潔で整理された空間になっている	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当
(自由意見)					
問10.	職員の言葉遣いや態度、服装などは適切である	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当
(自由意見)					
問11.	お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの、職員の対応は信頼できる	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当
(自由意見)					

＜利用者個人の尊重について＞

問12.	子ども同士のいさかいやいじめ等があった場合の職員の対応は信頼できる	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当
(自由意見)					
問13.	職員はお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれている	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当
(自由意見)					
問14.	あなたやお子さんのプライバシー（他の人に見られたくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこと）を職員は守ってくれている	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当
(自由意見)					
問15.	お子さんの保育内容に関する園による説明は、わかりやすい	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当
(自由意見)					

＜不満・要望への対応について＞

問16.	不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員は、きちんと対応してくれている	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当
(自由意見)					
問17.	困ったときに役所や第三者委員などにも相談できることを、職員はわかりやすく伝えてくれた（入園時の説明など）	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当
(自由意見)					
問18.	当園を総合的にみて、どのように感じていらっしゃいますか。（1つに○）				
1.満足 ・ 2. まあまあ満足 ・ 3. どちらともいえない 4. やや不満 ・ 5. 不満					
問19.	【良い点について】当園で良かったと思える点、嬉しかった出来事などについて、ご自由にお書き下さい				
問20.	【ご期待・ご要望について】今後も当園を利用するにあたり、期待したいことなどについて、ご自由にお書き下さい				
問21.	今回の調査についてお気づきになった点など、ご自由にお書き下さい				

ご協力ありがとうございました。

令和7年度 保育園サービス第三者評価事
業報告書

登録印刷物番号

07-0069

編集・発行

杉並区子ども家庭部保育課
〒166-8570
東京都杉並区阿佐谷南1丁目15番1号
電話:03-3312-2111(代表)

調査・評価機関 株式会社にはんの福祉ネット
(東京都福祉サービス第三者評価機関 認証番号06-168)
〒156-0043
東京都世田谷区松原3丁目38番16-107号
電話:03-6379-5156

☆杉並区のホームページでご覧になれます。 <https://www.city.suginami.tokyo.jp>